東大阪市立弥生給食センター建設事業に伴う

鬼虎川遺跡第55次発掘調査報告

2004. 3

東大阪市教育委員会

正　誤　表

訂　正　箇　所	誤	正
2頁　　22行目	長原色土器	長原式土器
2頁　　24行目	方形集溝墓	方形周溝墓
2頁　　34行目	山麗部	山麓部

東大阪市立弥生給食センター建設事業に伴う

鬼虎川遺跡第55次発掘調査報告

2004. 3

東大阪市教育委員会

はしがき

国道308号線の拡幅、近鉄東大阪線・阪神高速道路東大阪線・第二阪奈有料道路の開通など東西交通網の整備は、今回の調査地を含む周辺地域の開発を誘導し、それまでの田園風景を一変させ、住宅・工場・会社などが建ち並ぶ都市化へと変容させました。

鬼虎川遺跡は、これまでの発掘調査によって弥生時代中期の代表的な拠点集落としてよく知られています。しかし、本遺跡は後期旧石器時代以降現在に至るまで、食物の獲得地・集落・生産域などとして、ほとんど人跡の途絶えたことはありません。今回の調査においては、とくに弥生時代の集落状況の一端を窺うことができました。本書の内容は地域史解明の一助になるものと思っています。

現地調査および遺物整理・報告書作成にあたってご協力・ご教示を賜った関係諸機関・諸氏に感謝するとともに、今後一層のご指導・ご鞭撻をお願い申し上げます。

平成16年３月

東大阪市教育委員会

例　　言

1．本書は、東大阪市立弥生学校給食センター建設工事に伴う鬼虎川遺跡第55次発掘調査の概要報告書である。

2．調査は東大阪市教育委員会学校給食課の依頼を受けて、同文化財課が実施した。

3．調査にかかる費用は、全額東大阪市教育委員会学校給食課が負担・用意した。

4．発掘調査は平成14年12月２日～平成15年２月13日まで実施した。ただし、平成14年10月９日から11月29日までの間、機械掘削と支保工の架設工事を行なった。

5．現地調査は若松博恵が担当し、吉田綾子・松田留美の協力を得た。遺物整理は才原金弘・釜田有里恵が担当した。

6．動物遺体の同定については大阪市立大学医学研究科分子生体医学大講座器完構築形態学の安部みき子氏に依頼し、報文を賜った。

7．基本杭・調査杭の打設は株式会社昭和設計コンサルタント、写真測量は株式会社アコード、遺物写真はＧＦプロに委託して実施した。

8．本書はⅠ～Ⅲ－１～３およびⅤを若松、Ⅲ－４を才原、Ⅳを安部が執筆し、若松が編集した。

9．現地の土色および土器等の色調は農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人色彩研究所色票監修『新版　標準土色帖』（2000年版）に準拠し、記号表記もこれに従った。

10. 調査及び報告書作成にあたっては下記の方々にご協力・ご教示を賜った。記して謝意を表します（敬称略・順不同）。

東大阪市教育委員会学校給食課、東大阪市下水道部設計課、株式会社タナカコンストラクション、安西工業株式会社。

11. 現地調査及び遺物整理・報告書作成には下記の方々の参加を得た。

内田真吾、岩本圭祐、辰巳友邦、平田ジュニオル、荻野結実、西村優、利田恵美、西村慶子、川田純子、八田美代子、北口泰子、中野智香

本　文　目　次

Ⅰ．調査に至る経過……1
Ⅱ．位置と環境……2
Ⅲ．調査の概要……5
　1．調査の方法……5
　2．層位と機械掘削層の概要……5
　3．遺構……10
　4．遺物……33
Ⅳ．動物遺体……66
Ⅴ．まとめ……68

挿　図　目　次

第１図　調査地点およびトレンチ位置図……1
第２図　遺跡周辺図……3
第３図　各次数調査地位置図……4
第４図　調査地地区割図……5
第５図　西壁断面図１……6
第６図　西壁断面図２……7
第７図　第14層上面遺構平面図（折り込み）……11・12
第８図　第14層上面遺構平面図－大土坑部分－……13
第９図　第14層上面柱・杭断ち割り断面図－主要形態－……14
第10図　第13上層・下層上面遺構平面図（折り込み）……17・18
第11図　第13下層上面遺構平面図－部分－……19
第12図　第13下層遺構断面・断ち割り断面図……20
第13図　炉ピット断面図……20
第14図　自然流路２・流路内足跡平面実測図……21
第15図　第９下層上面遺構・溝４・自然流路１平面実測図（折り込み）……23・24
第16図　大土坑出土土器実測図……34
第17図　大土坑出土土器実測図……35
第18図　土坑４・５・６・10・16・17・18出土土器実測図……36
第19図　大溝１出土土器実測図……38
第20図　大溝２、溝３・６・Ｂ・Ｃ・Ｄ、自然流路出土土器実測図……40
第21図　落ち込み出土土器実測図……42
第22図　落ち込み出土土器実測図……43
第23図　第13層出土土器実測図……44

第24図　第13層出土土器実測図 ……45
第25図　第13層出土土器実測図 ……46
第26図　第13層出土土器実測図 ……47
第27図　第13層出土土器実測図 ……49
第28図　第13層出土土器実測図 ……50
第29図　第13層出土土器実測図 ……51
第30図　第13層出土土器実測図 ……52
第31図　第13層出土土器実測図 ……53
第32図　第13層出土土器実測図 ……54
第33図　第13層出土土器実測図 ……55
第34図　第13・14層出土土器実測図 ……57
第35図　第９層出土土器実測図 ……58
第36図　木製品実測図 ……59
第37図　木製品実測図 ……60
第38図　石器実測図 ……62
第39図　石器実測図 ……63
第40図　土製品・骨製品実測図 ……64

表　目　次

第１表　柱・杭一覧表 ……15
第２表　第９下・13下・14層上面遺構一覧表 ……25～32
第３表　出土動物遺体一覧表 ……66
第４表　出土イノシシ頻度表 ……67

図　版　目　次

図版１　遺構　1. 調査地航空写真（1984年撮影）
　　2. 調査トレンチ全景（南から）
図版２　遺構　1. 西壁断面－6地区付近－１
　　2. 西壁断面－6地区付近－２
　　3. 西壁断面－6地区付近－３
図版３　遺構　1. 第14層上面遺構－７地区から9地区－（北から）
　　2. 第14層上面遺構－７地区－（東から）
図版４　遺構　1. 第14層上面遺構－８地区－（東から）
　　2. 第14層上面遺構－９地区－（東から）
図版５　遺構　1. 第14層上面遺構－10地区から12地区－（北から）
　　2. 第14層上面遺構－10地区－（東から）
図版６　遺構　1. 第14層上面遺構－11地区－（東から）
　　2. 第14層上面遺構－12地区－（南から）
図版７　遺構　1. 大溝Ａ内木製品出土状況－２地区－（東から）
　　2. 大溝Ａ北肩付近－１～３地区－（北から）
図版８　遺構　1. ピットａ・ｂ断ち割り状況－11・12地区－（南から）
　　2. 各柱・杭断ち割り状況１
図版９　遺構　各柱・杭断ち割り状況１
図版10　遺構　1. 炉跡および焼土散乱状況－７・８地区－（東から）
　　2. 第13下層上面遺構－10～12地区－（北から）
図版11　遺構　1. 第13下層上面遺構－12地区－（東から）
　　2. 第13下層上面遺構－11地区－（東から）
図版12　遺構　1. 自然流路２南肩付近と同内足跡－３・４地区－（南から）
　　2. 自然流路１－２～３地区－（西から）
図版13　遺構　1. 溝４－１・２地区－（西から）
　　2. 第９層内石斧出土状況－８地区－（東から）
図版14　遺構　1. 第9層上面遺構－溝３－（東から）
　　2. 第9層上面遺構２－溝１・２－（北から）
図版15　遺物　大土坑・土坑５・16出土弥生土器　壷・甕・高坏・甕蓋
図版16　遺物　大溝１・溝13・落ち込み出土弥生土器　壷・甕・高坏・甕蓋
図版17　遺物　落ち込み・第13層出土弥生土器　壷・甕・高坏・壷蓋
図版18　遺物　第13層出土弥生土器　細頸壷・無頸壷・高坏・鉢
図版19　遺物　第13層出土弥生土器　高坏・甕・壷蓋
図版20　遺物　第13・14層出土弥生土器　壷・甕・台付無頸壷、第９層出土須恵器　坏・蓋坏
図版21　遺物　1. 大土坑出土弥生土器　壷・細頸壷
　　2. 大土坑出土弥生土器　壷・甕
図版22　遺物　1. 大土坑出土弥生土器　甕

2. 大土坑出土弥生土器　甕・鉢
図版23　遺物　1. 大土坑出土弥生土器　鉢・甕蓋
2. 土坑４・５・６出土弥生土器　壷・甕・高坏・鉢
図版24　遺物　1. 土坑10・16・17・18出土弥生土器　鉢・壷・甕
2. 土坑16出土弥生土器　鉢・甕
図版25　遺物　1. 大溝１出土弥生土器　甕
2. 大溝１出土弥生土器　甕
図版26　遺物　1. 大溝１出土弥生土器　甕・甕蓋・細頸壷
2. 大溝１出土弥生土器　壷・鉢
図版27　遺物　1. 溝２出土弥生土器　壷・細頸壷・鉢
2. 溝２・３・６出土弥生土器　壷・甕・鉢
図版28　遺物　1. 溝Ｂ・Ｃ・Ｄ出土弥生土器　壷・甕・甕蓋
2. 自然流路出土弥生土器　甕・高坏
図版29　遺物　1. 落ち込み出土弥生土器　壷
2. 落ち込み出土弥生土器　壷・甕蓋・壷蓋・高坏
図版30　遺物　1. 落ち込み出土弥生土器　鉢・甕
2. 落ち込み出土弥生土器　甕
図版31　遺物　1. 第13層出土弥生土器　壷
2. 第13層出土弥生土器　壷
図版32　遺物　1. 第13層出土弥生土器　壷
2. 第13層出土弥生土器　壷
図版33　遺物　1. 第13層出土弥生土器　壷
2. 第13層出土弥生土器　壷
図版34　遺物　1. 第13層出土弥生土器　壷
2. 第13層出土弥生土器　壷
図版35　遺物　1. 第13層出土弥生土器　壷
2. 第13層出土弥生土器　壷
図版36　遺物　1. 第13層出土弥生土器　壷・細頸壷
2. 第13層出土弥生土器　細頸壷・水差形土器
図版37　遺物　1. 第13層出土弥生土器　甕蓋・台付無頸壷・鉢
2. 第13層出土弥生土器　鉢
図版38　遺物　1. 第13層出土弥生土器　鉢
2. 第13層出土弥生土器　鉢
図版39　遺物　1. 第13層出土弥生土器　鉢・高坏
2. 第13層出土弥生土器　高坏
図版40　遺物　1. 第13層出土弥生土器　高坏
2. 第13層出土弥生土器　高坏
図版41　遺物　1. 第13層出土弥生土器　壷蓋
2. 第13層出土弥生土器　甕
図版42　遺物　1. 第13層出土弥生土器　甕

2. 第13層出土弥生土器　甕

図版43　遺物　1. 第13層出土弥生土器　甕

2. 第13層出土弥生土器　甕

図版44　遺物　1. 第13層出土弥生土器　甕

2. 第13層出土弥生土器　甕

図版45　遺物　1. 第13層出土弥生土器　甕

2. 第13層出土弥生土器　甕

図版46　遺物　1. 第13層出土弥生土器　甕

2. 第13層出土弥生土器　甕

図版47　遺物　1. 第14層出土弥生土器　壷・甕

2. 第14層出土弥生土器　壷・高坏・甕

図版48　遺物　1. 第14層出土弥生土器　壷・甕・高坏・甕蓋

2. 第９層出土弥生土器　壷・鉢、須恵器　坏・蓋坏、土師器　高坏

図版49　遺物　1. 石器（表）

2. 同上（裏）

図版50　遺物　1. 石器（表）

2. 同上（裏）

図版51　遺物　1. 石器（表）

2. 同上（裏）

図版52　遺物　1. 石器（表）

2. 同上（裏）

図版53　遺物　1. 土製品

2. 土製品・骨製品

図版54　遺物　木製品

図版55　遺物　木製品

図版56　遺物　木製品

図版57　遺物　動物遺体

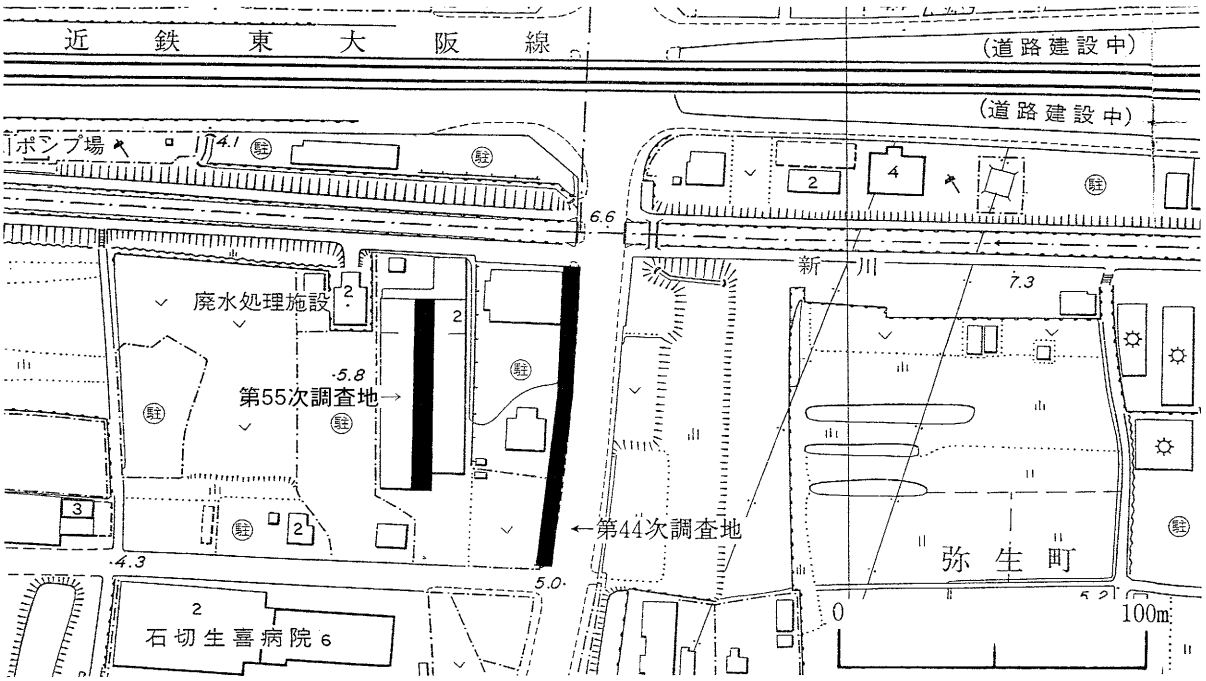
Ⅰ．調査に至る経過

東大阪市弥生町17番地にある東大阪市立弥生学校給食センターは、建物の老朽化に伴い全面的な建て替えを行なうことになった。当該地は弥生時代中期の拠点集落として周知されている鬼虎川遺跡の西北域に位置している。そのため建物解体直後の平成14年１月22日に試掘調査を実施し、地表下2.8ｍの床土内および5.4～5.9ｍの層から遺物を確認した。この試掘調査結果に基づき文化財課は学校給食課および下水道部設計課と協議を行ない、周辺建築物への影響、新川およびその南岸堤防状況（強度）などから残土の場外搬出は困難であり、調査範囲は建築予定建物の南北中央基礎杭列の約292㎡に限定し（大阪府教育委員会文化財保護課とも調整）、調査深度も６ｍまでと確定された。

鬼虎川遺跡は1975年以降、58次におよぶ発掘調査が行なわれている。これまでの調査で遺跡東北部（とくに国道308号線付近の調査）で縄文時代前期の縄文海進による海食崖を検出し、その付近から前期から中期の土器・石器とともに魚介類などの動物遺体が出土した。弥生時代は前期から後期までの遺構・遺物を確認している。前期は遺跡北西部(国道308号線付近)に長原式土器と前期土器を伴う貝塚、ほぼ中央部に前期土器を多量に含む大溝（第40・46・45次など）などが見られるが、集落状況は不明である。遺跡北側には（北端部付近は希薄）とくに中期の大溝、井戸などの土坑、柱穴などのピット群、貝塚、そして方形周溝墓・土坑墓・土器棺墓などの遺構と多量の弥生土器・石器・木製品などを検出しており、この時期には複数の大溝を伴う大集落（環濠集落）が形成されていた＝拠点集落。後期になると集落は縮小化し、古墳時代前期にはその中心は南部へ（36次など）、後期には東北部に移行したようである（23次など）。飛鳥時代以降の遺構・遺物は希薄で西部域を中心に生産域と化す。平安時代前半には条里制に伴う遺構が見られるようになり、中世にはその坪境などに溝が穿かれ、近世になると掘り上げ田に伴う井路が形成されていた。

今回の調査地は第４・５・7次調査の北、第14次調査の南東、第11・44次調査の西にあたり、試掘調査データーなどによっても弥生時代中期の遺構・遺物が検出されることが予想された。

平成14年10月９日から11月29日まで立会しながら機械掘削し、その間に３段目支保工までの架設工事を行ない、12月２日から平成15年２月13日まで人力掘削による調査を実施した。



第１図　調査地点およびトレンチ位置

Ⅱ．位置と環境

鬼虎川遺跡は生駒山の西麓、標高４～８ｍの扇状地末端部から沖積平野にかけて広がり、現在の東大阪市弥生町・西石切町・宝町・新町一帯に位置する旧石器時代から江戸時代にわたる複合遺跡である。北端中央部から南東部にかけて国道170号線（外環状線）がほぼ南北に走り、北部ではこれに直行するように東西方向の国道308号線が延びている。この中央分離帯域には近畿日本鉄道東大阪線および阪神高速道路東大阪線と第二阪奈有料道路連絡道が内包されている。西部には南から北方向に流れる恩智川があり、東からそれに注ぎ込む新川などの川がある。現在は住宅・工場・会社・病院などが建ち並び、水田・畑地はほとんど見ることはできない。しかし、４・50年前までは小集落が点在し、掘り上げ田などの田園が広がるのどかな地域であった。

本遺跡は弥生時代中期を中心とした大集落跡としてよく知られているが、人跡は後期旧石器時代にまで遡る。この時期の遺跡としては東接する西ノ辻遺跡をはじめ、千手寺山遺跡・正興寺山遺跡・山畑遺跡などがあり、ナイフ型石器・翼状剥片が出土している。

縄文時代の遺跡は山麓部から段丘・扇状地上に点在し、まずは有舌尖頭器が出土した草香山遺跡や貝花遺跡がある。早期には多くの押型文土器とともに石器・土偶と炉跡・集石遺構を検出した神並遺跡があり、この土器は西ノ辻・日下・山畑遺跡からも出土している。前期は温暖化がピークに達し（縄文海進）、本遺跡東部などからこの時期の海蝕崖が検出され、前期土器や魚介類などの動物遺体が出土さしている。中期の遺跡としては善根寺・縄手・馬場川遺跡があるが、それほど顕著ではない。しかし後期には、縄手遺跡から多くの土器・石器などとともに住居跡・配石遺構などがあり、日下・芝ヶ丘・神並・鬼塚・馬場川遺跡とともに本遺跡からもこの時期の土器が出土されている。そして晩期になると貝塚・墓地や多量の土器・石器を確認している日下遺跡をはじめ、鬼塚・馬場川・宮ノ下などの遺跡で集落が営まれていた。

弥生時代になると集落形成は平野部に移り、本遺跡の西端に長原色土器と前期土器を包含した貝塚があり、中央部や植附・中垣内・山賀遺跡などから前期土器が出土している。中期には本遺跡において数条の大溝を伴う大集落が営まれ、土器・石器・木製品などの大量の遺物と方形集溝墓や貝塚などを検出しており、これに近い状況は本市中央部の瓜生堂遺跡でも見られる。やや遅れて中期後半から後期前半には西ノ辻遺跡でも大集落が形成された。後期になると集落はやや小規模化するものの、本遺跡や段上・上六万寺・北鳥池遺跡などの平野部の集落と、山畑・岩滝山遺跡などで高地性集落が営まれた。

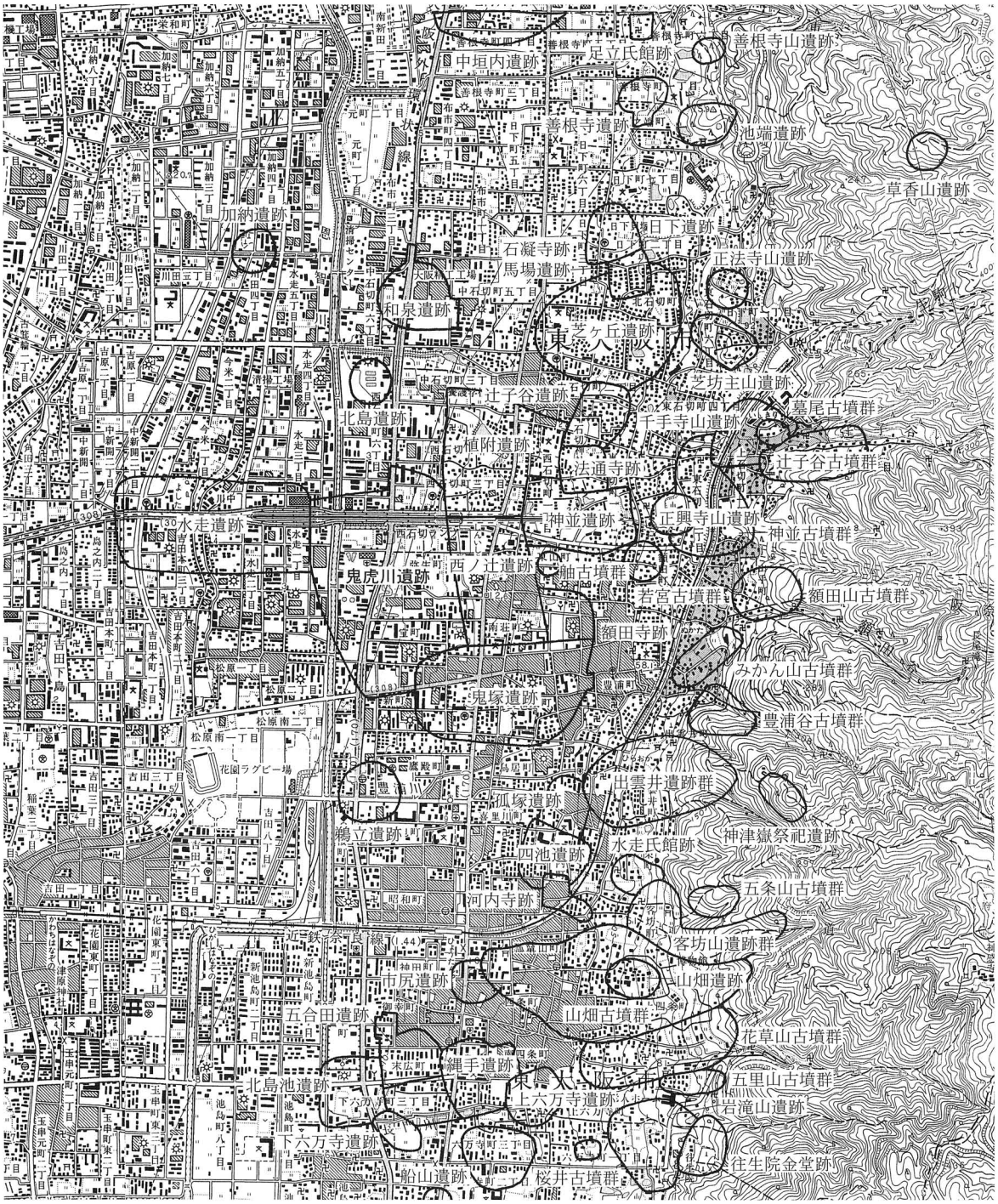
古墳時代前期に本遺跡南部および五合田・西岩田遺跡などから多くの土師器が出土し、集落が点在して形成されていた。中・後期になると植附・芝ヶ丘・神並・西ノ辻・山畑・市尻などとともに本遺跡北部でも集落が営まれていたが、いずれもそれほど大きくない。本市には前期の大型古墳は見られないが、塚山・えの木塚・客坊山１号墳など中期以降古墳は築かれるようになり、山畑古墳群・花草山古墳群・客坊山古墳群・神並古墳群・出雲井古墳群などの群集墳、植附・段上・巨摩廃寺などに小型低丘墳と、小規模ではあるが後期古墳が山麗部を中心に数多く築造された。

飛鳥から平安時代後半には仏教の受容を反映するかのように若江寺・河内寺・法通寺・石凝寺、やや後出する客坊廃寺などの寺院が建立された。本遺跡や西ノ辻・神並・鬼塚遺跡などからは掘立柱建物・井戸・溝、須恵器・土師器や墨書土器などが出土し、この時期の集落・耕作関連の遺構を検出している。

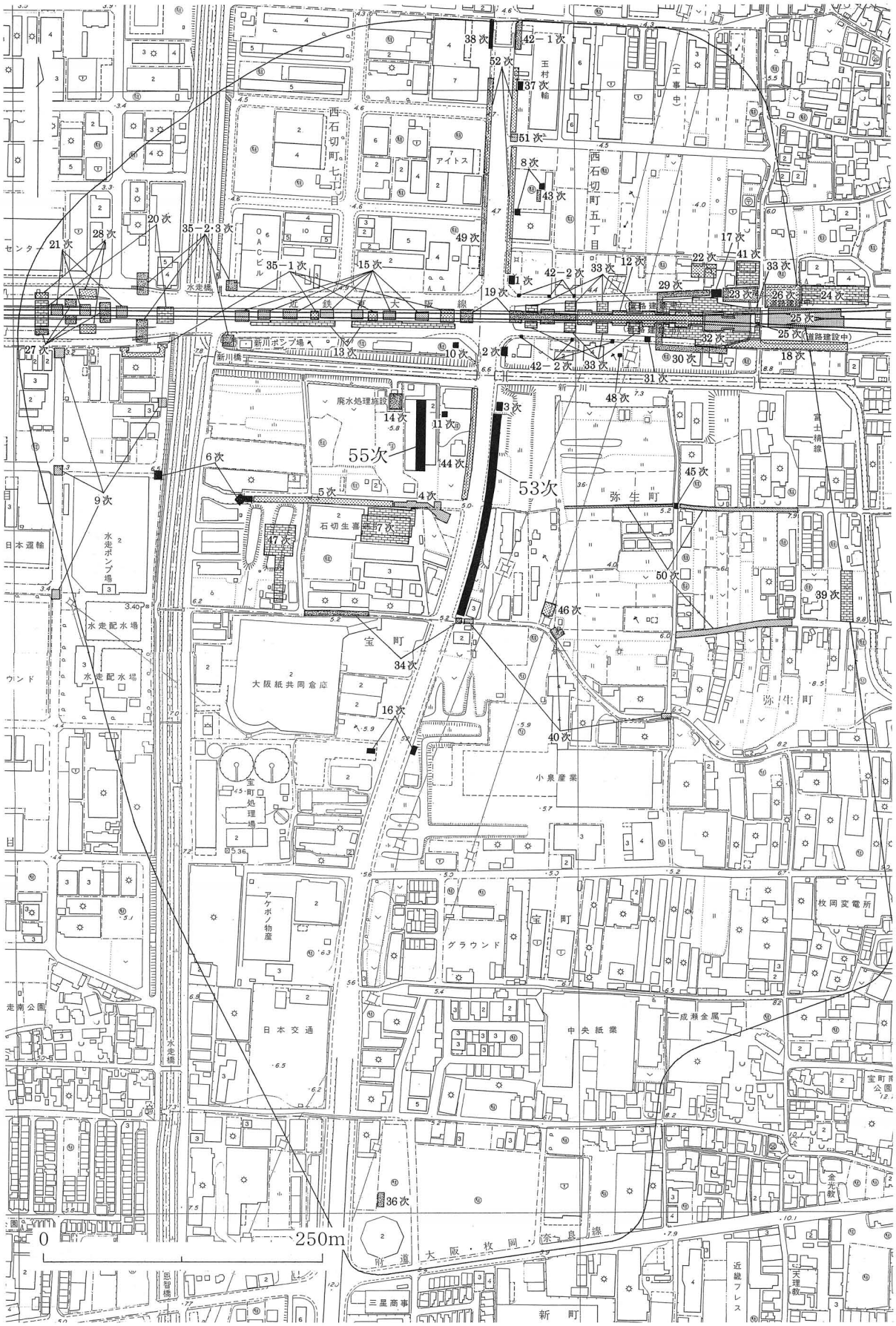
平安時代後期から鎌倉時代にかけては広い範囲にわたり整地活動がみられ、西ノ辻・神並などの遺

跡から掘立柱建物跡などの集落遺構とともに客土層や耕作跡を検出している。また、西接する水走遺跡ではこの時期に堰・堤防を設けるなど大掛かりな開発を行なうとともに、大溝を伴う集落も形成された。南北朝期を含む室町時代には西ノ辻遺跡をはじめ、のちの暗峠越奈良街道・東高野街道などの道路沿いに数多く村落が営まれ、その状況はほとんど江戸時代以降まで存続していた。またこの時期、平野部の若江城を中心として客坊城・往生院城などの城が戦乱期に数多く築造されたが、安土・桃山時代までに廃絶または城としての機能をなくしてしまった。

江戸時代になると大和川の付け替え工事が行なわれ、平野部における生産域の状態を一変させた。旧の河川・池は埋め立てられてその周辺を含め田畑が整備され、本遺跡西部域ではいわゆる掘り上げ田が形成された。



第２図　遺跡周辺図（1/25000）



第３図　各次数調査地位置図

Ⅲ. 調査の概要

1. 調査方法

試掘調査結果と協議によって、調査範囲は東西５m、南北58.4mの約292㎡、調査深度は６mまでと確定され、上部2.8mまでの機械掘削、2.8mから0.3mの人力掘削、3.1～5.4mまでの機械掘削、以下0.6mの人力掘削と、機械・人力併用の調査とされた。

現地調査の開始にあたり、調査は協議に基づく方法で実施するものの、床土付近からは西壁の断面調査＝写真および図作成＝を行なうことを前提とした。また、土留めの東西支保工（梁）により12に区分された区画を利用し、北から１・２～12地区として遺物の取り上げなどを行ない、遺構・断面図の製作にあたっても国家座標値と併行して用いた（第４図参照）。

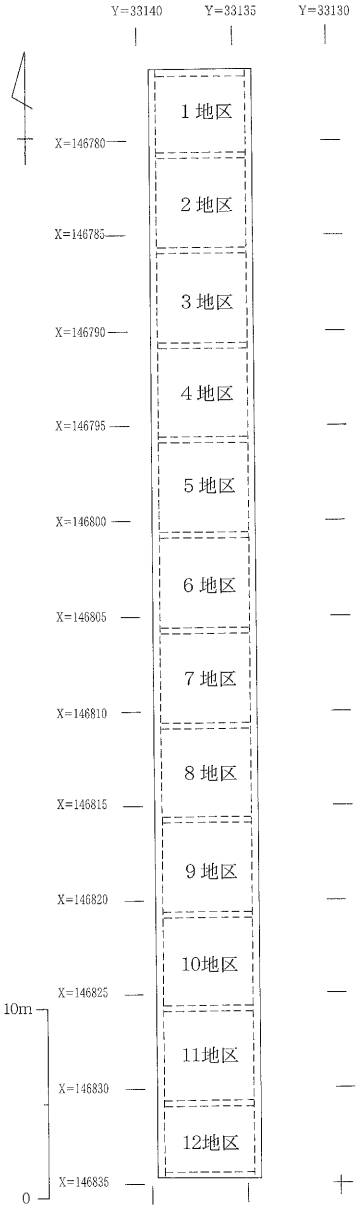
調査は地表下約2.9mまで機械掘削し、遺物包含層とされる人力掘削の対象になっていた床土層を確認したところ、若干の土師器・須恵器の小細片とともに陶磁器片を検出し、近世後半ないし・近代の床土であることがわかった。このことから、この床土層を機械で掘削することにし、その人力掘削0.3m分は下部へ送ることとした。すなわち、地表下5.1mまでを機械掘削し、以下0.9m分を人力掘削する結果になった。

2. 層位と機械掘削層の概要

地表下5.1mまで－機械掘削分－の状況（第５・６図参照）現況面（GL）から－2.35～2.50mは現代の盛土である。

旧耕土（第１層）は約50cmを測り、近代から現代にわたる３～４面が見られた。土師器・磁器などの小細片が少量出土した。

その下には近世後半ないし近代前半の２～３層に分層できる床土（第２層）がほぼ全域に広がり、若干の須恵器・土師器などの小細片とともに陶磁器片が出土した。

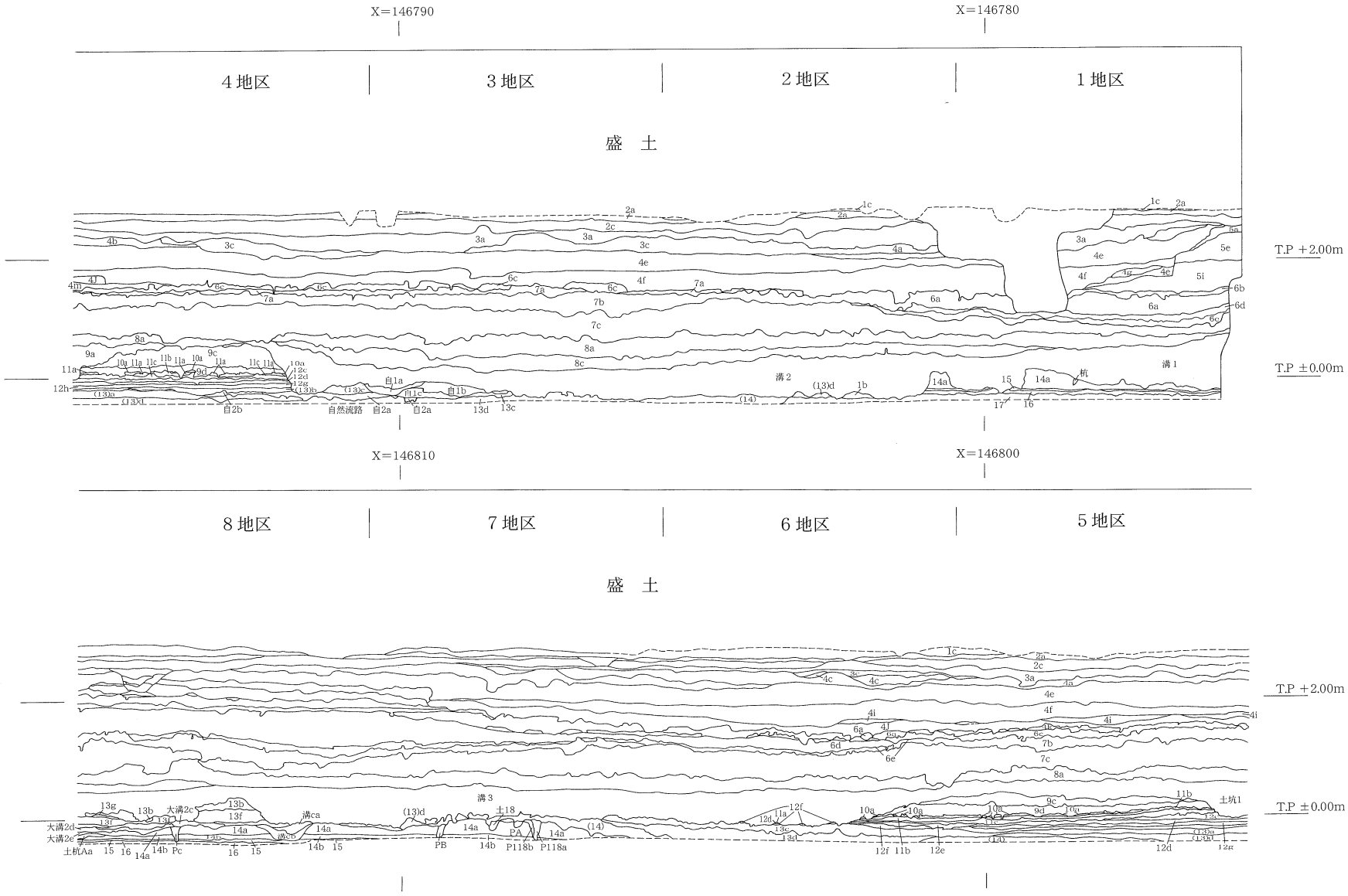


第４図　調査地地区割図

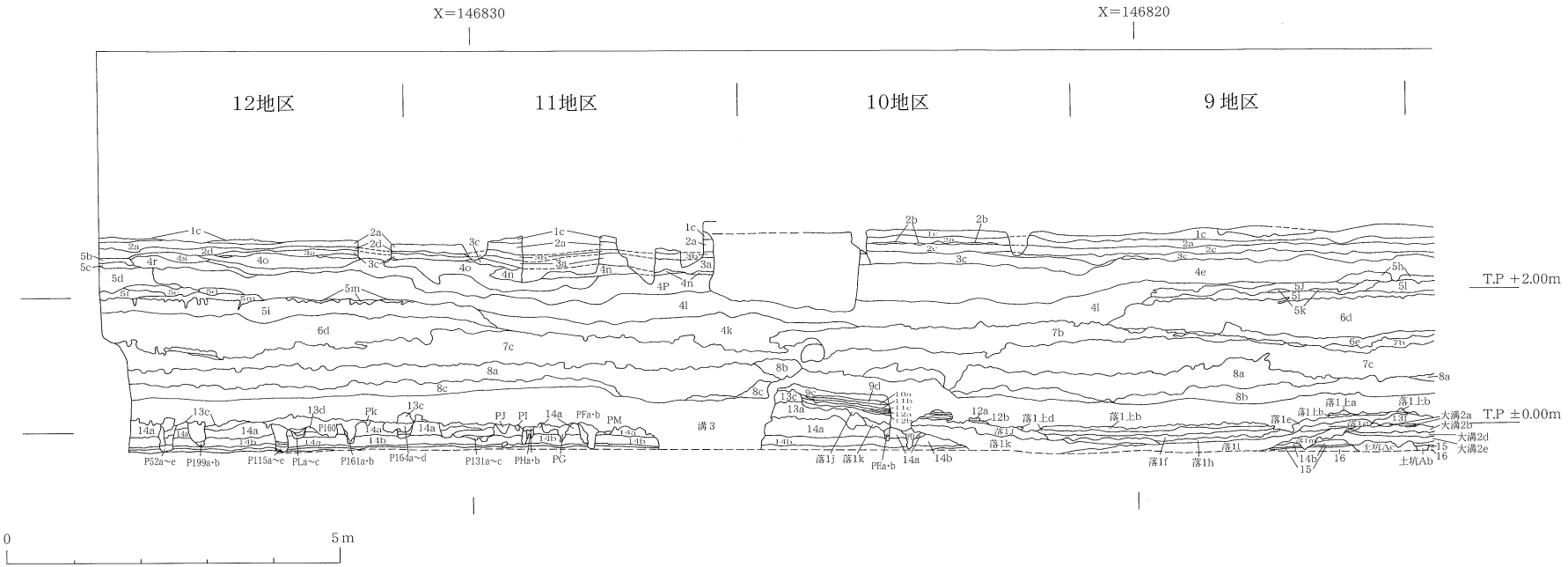
第３層は２～３層に分層される整地土で、弥生土器・須恵器・埴輪・瓦質土器・土師器・瓦器・磁器などの小・細片を包含しており、中世後半から近世前半にかけて客土である。８地区でほぼ東西方向に延びる断面逆台形状の溝（溝Ａ）を１条確認した。溝は幅1.1m、深さ0.4を測り、下層は灰色粘土質シルトと暗緑灰色シルト質砂の混じる活用時の堆積層、上部の３層に分かれる砂層で埋没層、最上部は緑灰色砂混じりシルト質土の埋土であった。遺物は検出できなかったが江戸時代前半ごろのものと思われる。

第４層は自然流路Ａの堆積砂・シルトなどである。流路は南端部および北端部に第5層が残存し、この層を切り込むように調査地内の大半の地域に広がり、東南東から西北西に向けて延びていた。南方部の方が流れは強く瀬であったようであり、中層から下は中央部付近（７～９地区）で二股に分かれていた。堆積砂内からは、少量であるが摩滅した弥生土器・須恵器などとともに土師器・瓦器片などが出土し、鎌倉時代後半以降のものと考えられる。

第５層は第６層（自然流路B）上面に形成された整地土である。13層に細分され、層内からは弥生


X=146790
X=146780
4地区
3地区
2地区
1地区
盛　土
T.P +2.00m
T.P ±0.00m
溝2
溝1
杭
自1a
自1b
自1c
自2a
自2b
自然流路
X=146810
X=146800
8地区
7地区
6地区
5地区
盛　土
T.P +2.00m
T.P ±0.00m
溝3
土18
PA
PB
P118b
P118a
大溝2c
大溝2d
溝ca
溝cb
土杭Aa
Pc
土坑1

第５図　西壁断面図１



1ａ．旧耕土
1ｂ．旧耕土
1ｃ．旧耕土　暗緑灰色(7.5GY)中・細粒砂混じりシルト質粘土
2ａ．床土１　にぶい橙色（7.5YR6/4）極細粒砂・シルト混じり、オリーブ灰色（10YR5/2）中・細粒砂混じり粘土質シルト
2ｂ．(溝？)灰オリーブ色(7.5Y6/2)粗・中粒砂混シルト質とにぶい黄橙色(10YR6/4)砂粒含む
2ｃ．床土２　明黄褐色(2.5Y6/6)極細粒砂・シルト混、灰オリーブ色(7.5Y1/2)粗～細粒砂混じりシルト質土
2ｄ．灰色(7.5Y6/1)細・中粒砂混じりシルト質極細粒砂、明黄橙色(10YR7/6)砂粒含む
3ａ．緑灰色(5GY6/1)粗～細粒砂混じりシルト質土、オリーブ灰色(2.5GY5/1)シルト質粘土塊、粗・中粒砂塊含む
3ｂ．緑灰色(5G5/1)細礫～砂混じり土
3ｃ．オリーブ灰色(5GY5/1)細～極細粒砂、灰白(7.5Y7/1)粗～細粒砂　ラミナ状又はブロック状に混じる
3ｄ．緑灰色(5G5/1)中・細粒砂混じりシルト質土
4ａ．灰白色(10Y8/1)粗・中粒砂
4ｂ．灰白色(10Y8/1)粗・中粒砂、灰色(5Y5/1)細・中粒砂混
4ｃ．灰白色(5Y7/2)粗・中粒砂、灰色(7.5Y5/1)シルト質細・粗粒砂
4ｄ．灰色(10Y4/1)シルト質細・極細粒砂、所々に粗・中粒砂混じる
4ｅ．灰色(5Y5/1)極細粒砂、緑灰色(10Y6/1)砂質シルト、オリーブ灰色(2.5GY6/1)～灰白色(10Y8/1)粗～細粒砂、ラミナ、ブロック状に混入
4ｆ．上・間に灰白色(12Y8/1)～オリーブ灰色(5Y6/4)粗・中粒砂、灰色(7.5Y5/1)～オリーブ灰色(2.5GY5/1)砂質シルト～細粒砂
4ｇ．暗緑灰色(10GY5/1)シルト質粘土
4ｈ．緑灰色(10G5/1)粗～極細粒砂、シルト
4ｉ．緑灰色(10G5/1)粘土質シルト塊、オリーブ灰色(2.5GY6/1)明オリーブ灰色(5GY7/1)粗・中粒砂混
4ｊ．青灰色(5BG5/1)粘土質シルト、灰オリーブ色(7.5Y6/2)細粒砂、灰白色(5Y7/2)粗・中粒砂混(５ｉなどをまきあげ)
4ｋ．上部に５ｊ・５ｍが流れ込んでいる、灰オリーブ色(7.5Y6/2)粗・中粒砂
4ｌ．灰色(10Y4/1)シルト～細粒砂
4ｍ．暗オリーブ色(5GY4/1)シルト質、細・極細粒砂
4ｎ．(2.5Y4/3)粗～中粒砂
4ｏ．オリーブ灰色(2.5GY5/1)シルト質砂、灰オリーブ色(5Y4/2)シルト砂、小礫～砂混層
4ｐ．緑灰色(10G6/1)細・極細粒砂(斜面に粗・中粒砂あり)
4ｑ．5ｂ・ｃを引き込んでいる
4ｒ．5ｂを引き込んでいる
5ａ．暗緑灰色(7.5GY4/1)砂質シルト
5ｂ．緑(5G5/1)細粒砂混じりシルト質粘土
5ｃ．緑灰色(5G5/1)粗・細粒砂混じり粘質土（シルト質）
5ｄ．暗緑灰色(7.5GY4/1)砂質シルトと5ｅの混層
5ｅ．緑灰色(5G5/1)シルト質粘土

第６図　西壁断面図２

5 f．緑灰色(5G5/1)シルト質粘土、少し所々に細・極細粒砂混じる
5 g．緑灰色(7.5GY5/1)中・粗粒砂シルト質粘土
5 h．緑灰色(5G5/1)シルト質粘土、オリーブ灰色(2.5GY5/1)粗～細粒砂(混層)
5 i．暗緑灰色(10GY4/1)粘土(ややシルト質)
5 j．暗緑灰色(10G4/1)細～極細粒砂、所々粗・中粒砂混じる
5 k．青灰色(10BG5/1)粗～細粒砂混じりシルト質粘土
5 l．青灰色(10BG5/1)シルト質粘土、中・細粒砂混じる
5 m．青灰色(5BG5/1)シルト質粘土(ややシルト質)、粗～細粒砂混じる(混層)
6 a．オリーブ灰色(5GY5/1)粘土質シルトと灰白色(5Y7/2)細粒砂
6 b．灰色(7.5Y4/1)緑灰色シルト、上、下部は4h
6 c．灰色(10Y4/1)粘土質シルト、緑灰色(10G5/1)粘土ブロック状に混じる(1～3cm)
6 d．灰白色(7.5Y7/1)、灰色(10Y6/1)細粒砂と下部、粗・中粒砂、暗緑灰色(7.5GY4/1)シルト質粘土ブロック少し含む(1～5cm)
6 e．灰色(5Y4/1)・灰色(n5/1)粘土質シルト、部分的に灰白色(7.5Y7/1)細粒砂含む
7 a．緑灰色(5G5/1)シルト質粘土、青灰色(5BG6/1)シルトブロック含む
7 b．緑灰色(7.5GY5/1)シルト質粘土(ややシルト質)
7 c．暗青灰色(5B4/1)粗・細粒砂混じるシルト質粘土塊・暗オリーブ灰色(5GY4/1)シルト質粘土の混じる、オリーブ色(5Y5/4)シルト粒(1～3cm大)暗緑灰色(7.5GY3/1)シルト粒(1～3cm大)含む、植物遺体(種子を含む)
8 a．暗緑灰色(10GY4/1)シルト質粘土(粘質やや強)細礫～砂少し混じる、植物遺体少し含む
8 b．暗緑灰色(5G4/1)粗・中粒砂含む、シルト質粘土(シルト質やや強)植物遺体少し含む
8 c．暗青灰色(5BG4/1)砂質シルトと暗緑灰(5G4/1)シルト質粘土

9 a．暗緑灰色(10G4/1)中小礫～細粒砂混じりシルト質粘土(砂礫分多い)(中礫も少し混じる)植物遺体も少し含む
9 b．暗緑灰色(10G4/1)シルト質粘土
9 c．青灰色(10BG5/1)シルト質粘土、極細・細粒砂、植物遺体少し混じる
9 d．灰色(10Y4/1)シルト質粘土、植物遺体含む、10,11,12層(特に10層)まきあげ、下部に多い
10 a．暗緑灰色(10GY4/1)シルト質粘土(ややシルト質強)
10 b．黒色(2.5Y2/1)植物遺体層
11 a．暗緑灰色(10GY3/1)シルト質粘土(シルト質やや強)
11 b．黒褐色(2.5Y3/2)シルト質粘土、植物遺体ラミナ状に含む
11 c．灰オリーブ色(5Y6/2)灰(5Y5/1)粘土ややシルト質、植物遺体ラミナ状に含む
12 a．黒色(7.5Y2/1)粘土、植物遺体少し含む
12 b．同上で粘性強いか？
12 c．灰色(7.5Y5/1)シルト質粘土・植物遺体と互層
12 d．黄灰色(2.5Y4/1)シルト質粘土・植物遺体と互層
12 e．灰黄色(2.5Y6/2)粘土質シルト・植物遺体多く含む
12 f．灰黄褐色(6/2)粘土質シルト・植物遺体多く含む
12 g．暗灰黄色(2.5Y4/2)シルト質粘土、やや粘質強い、植物遺体と互層
12 h．灰色(5Y4/1)粘土ややシルト質、植物遺体と互層
13 a．オリーブ黒色(7.5Y3/2)砂混じりシルト質粘土、植物遺体・炭含む
13 b．灰色(5Y4/1)砂混じりシルト質土、炭、植物遺体含む、オリーブ灰色(2.5GY6/1)粘土質シルト、小塊・粒含む、明黄褐色(2.5Y6/6)シルト粒少し含む
13 c．オリーブ黒色(5Y3/2)砂混じりシルト質粘土（砂の混じり多い)、炭・植物遺体含む
13 d．黒褐色(2.5Y3/2)砂混じりシルト質粘土、植物遺体含む
13 e．オリーブ黒色(10Y3/2)砂混じり粘土（14上に細粒砂、シルト混)
13 f．黄灰色(2.5Y4/1)砂混じり粘土質シルト、植物遺体・炭含む
13 g．黒褐色(2.5Y4/1)シルト質粘土、黒色(10Y2/1)炭、にぶい黄色(2.5Y6/4)シルト粒混じる
13 h．黒色(N2/)炭と、オリーブ黒色(10Y3/1)シルト質粘土
(13) a．灰オリーブ色(5Y4/2)シルト質粘土、植物遺体含む、中～極細粒砂少し混じる
(13) b．灰黄褐色(10YR4/2)シルト質粘土、中～極細粒砂少し混じる
(13) c．にぶい黄橙色(10YR4/3)粗～細粒砂混じり粘土質シルト、植物遺体含む
(13) d．暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)粘土(ややシルト質)、植物遺体含む
(14). 灰色(7.5Y4/1)中～細粒砂混じりシルト質粘土　砂含有やや多い
14 a．黒色(7.5Y2/1)粘土、植物遺体含む
14 b．黒色(10Y2/1)粘土
15. 黒色(10Y2/1)粘土・緑灰色(7.5GY6/1)粘土上層に含む
16. 黒色(N2/)粘土、植物遺体含む
17. 緑灰色(5G5/1)シルト質粘土、植物遺体含む、暗オリーブ灰色(2.5GY3/1)粘土混じる

PA．灰色(5Y4/1)砂混じりシルト質粘土、植物遺体含む
PB．黒褐色(2.5Y3/1)砂混じりシルト質粘土、植物遺体含む
PC．オリーブ黒色(5Y3/1)砂混じりシルト質粘土、植物遺体含む
PD．灰色(10Y4/1)砂混じり粘土、木杭?片
PE．a．オリーブ黒色(7.5Y3/1)砂混じりシルト質粘土、植物遺体・炭含む
　b．黒褐色(2.5Y3/2)砂混じ粘土
PF．a．＝13
　b．オリーブ黒色(5Y3/1)シルト質粘土、炭含む
PG．＝13
PH．a＝13
　b．灰色(10Y4/1)シルト質粘土、炭含む
PI．＝13
PJ．a．＝13
　b．黒褐色(2.5Y3/1)砂混じり粘土
PK．＝13
PL．a．褐色(10YR4/4)木片
　b．オリーブ灰色(5Y3/2)粘土質シルト（やや粘質)
　c．オリーブ黒色(5Y3/1)シルト質粘土
PM．＝13
P52．a．＝13
　b．灰色(5Y4/1)砂混じり粘土質シルト、植物遺体含む
　c．黄灰色(2.5Y4/1)砂混じり粘土質シルト、植物遺体含む
　d．オリーブ黒色(5Y3/2)シルト質粘土、炭含む
　e．オリーブ黒色(7.5Y3/1)砂混じり粘土質シルト
P115．a．オリーブ黒色(5Y3/2)砂混じり粘土質シルト、炭、植物遺体含む
　b．褐色(10YR4/6)木片、黄灰色(2.5Y4/1)シルト質粘土
　c．オリーブ黒色(5Y3/2)シルト質粘土
　d．灰色(5Y4/1)シルト質粘土（やや粘質)
　e．黒色(7.5Y2/1)砂混じり粘土質シルト
P131．a＝13
　b．黒褐色(2.5Y3/2)砂混じり粘土質シルト
P160．＝13
P161．a＝13
　b．灰色(7.5Y4/1)シルト質土
P164．a．オリーブ黒色(5Y3/1)砂混じり粘土質シルト(やや粘質)
　b．灰色(7.5Y4/1)粘土、少し砂混じる
　c．黄灰色(2.5Y4/1)砂混じりシルト質粘土、黄褐色(10YR5/6)木片
　d．オリーブ黒色(5Y3/2)粘土、少し砂混じる
P185．c　黒色(5Y2/1)砂混じりシルト質粘土
P188．a．オリーブ黒色(5Y3/1)シルト質粘土
　b．オリーブ黒色(7.5Y3/1)粘土
P199．a．＝13
　b．木＝上部褐色(10YR4/4)と炭、黄褐色(10YR5/6)

溝1．オリーブ灰色(5GY5/1)砂混じりシルト質粘土、植物遺体含む下部に14層など巻き上げる
溝2．暗オリーブ灰色(5GY4/1)砂混じりシルト質粘土、10～14層巻き上げている
溝3．オリーブ灰色(5GY5/1)砂混じりシルト質粘土（粗～細粒砂)、

下部に10～14層など巻き上げて、各ブロックが散乱

溝ａ．A. 緑灰色(7.5GY5/1)粗～細粒砂混じりシルト質土(埋土)
B. 暗オリーブ灰色(5GY4/1)中・細粒砂混じりシルト質極細粒砂
C. 灰オリーブ色(5Y5/3)粗・中粒砂
D. 暗緑灰色(10G4/1)中・細粒砂混じり、極細粒砂シルト
E. 灰色(7.5Y4/1)粘土質シルト、暗緑灰色(7.5GY4/1)シルト質砂の混層

大溝2. ａ．灰色(5Y5/1)砂混じり粘土質シルト、植物遺体、炭含む、にぶい黄色(2.5Y6/3)焼灰多く、層をなす（14上層状面の整地土）
ｂ．黄灰色(2.5Y4/1)砂混じりシルト質粘土、植物遺体、炭含む
ｃ．灰色(7.5Y4/1)砂混じりシルト質粘土、植物遺体、炭含む
ｄ．黒褐色(10YR3/2)砂混じりシルト質粘土、植物遺体層
ｅ．黒褐色(2.5Y3/1)砂混じりシルト質粘土、植物遺体含む

溝Ｃ．ａ．灰色(5Y4/1)砂混じり粘土、炭・植物遺体少し含む
ｂ．オリーブ黒色(5Y3/2)砂混じりシルト質粘土、炭・植物遺体少し含む、灰色(10Y6/1)粘土混じる

自然流路１ａ．灰褐色(7.5YR4/2)砂混じり粘土質シルト
ｂ．にぶい黄色(2.5Y6/3)中・粗粒砂、褐灰色(10YR4/1)砂混じりシルト・植物遺体散乱
ｃ．灰色(5Y4/1)細～粗粒砂、シルト質砂

自然流路２ａ．灰色(7.5Y5/1)細粒砂と上部に灰オリーブ色(5Y6/2)中・粗粒砂
ｂ．灰色(5Y5/1)シルト質砂
ｃ．緑灰色(7.5GY6/1)シルト質粘土

落ち込み１上ａ．＝11ａ．黒褐色(10YR3/1)シルト質粘土、植物遺体、炭化物混じり、砂混じる
ｂ．＝12ａ．暗灰黄色(2.5Y5/2)粘土質シルト（平行堆積）、灰黄褐色(10YR4/2)植物遺体間層あり
ｃ．＝11ｃ．褐灰色(10YR4/1)砂混じりシルト質粘土、植物遺体、炭化物混じる
ｄ＝12ｂ．上部＝ｂ、下部＝やや植物遺体多く含む

落ち込み1.（本来13ｃからの切り込み）
ｅ．灰色(19Y4/1)砂混じりシルト質粘土、植物遺体、炭やや多く混じる、灰オリーブ色(5Y6/2)シルト粒混じる
ｆ．灰色(19Y4/1)砂混じりシルト質粘土、植物遺体、炭やや少なめ
ｇ．オリーブ黒色(7.5Y3/1)シルト質粘土、オリーブ黄色(5Y6/3)シルト粒混じる
ｈ．（＝13ｃ相当）オリーブ黒色(7.5Y3/1)砂混じりシルト質粘土、植物遺体、灰含む
ｉ．暗灰黄色(2.5Y5/2)砂混じり粘土質シルト、植物遺体、炭含む
ｊ．オリーブ褐色(2.5Y4/3)砂混じりシルト質粘土、植物遺体、炭やや多く含む
ｋ．オリーブ黒色(5Y3/2)砂混じりシルト質粘土、植物遺体、炭多く含む
ｌ．＝(13ｄ相当)オリーブ黒色(5Y3/1)砂混じりシルト質粘土、やや粘質強い、植物遺体、炭含む
m. ＝（13ｅ相当）オリーブ黒(7.5Y2/2)砂混じり粘土質シルト、植物遺体含む

落ち込み2. 灰黄褐色(10YR4/2)砂混じりシルト質粘土、植物遺体多く含む

土坑Ａ.（14ｂ上面）
ａ．黒褐色(10YR3/1)シルト質粘土、植物遺体含む
ｂ．黒色(2.5GY2/1)シルト質粘土、やや粘質、植物遺体含む
ｃ．黒色(10Y2/1)粘土と緑灰色(7.5GY6/1)粘土の混層

土器・土師器・瓦器の小細片が出土し、平安時代後半から鎌倉時代前半にかけての客土層と考えられる。

第６層は、南側の一部で上層の自然流路Ａ（第4層）によって削平されていたところもあるが、10・11地区を除く調査地全域をほぼ覆う、東南東から西北西方向に流れていた自然流路Bの堆積層（主に砂およびシルト）である。堆積層は５層に分かれ、摩滅した弥生土器・須恵器と動物遺体－ウシ（資料番号７）－、土師器、黒色土器が出土した。平安時代中ごろの流路と思われる。

第７層は、第８層の砂層の上に形成された調査地全域に広がる整地層で、弥生土器・土師器・須恵器・サヌカイトの小・細片および動物遺体－大型哺乳類（資料番号８）・種実などが出土した。平安時代中ごろのものと思われる。

第８層は、調査地全域に広がる自然流路の堆積層などでシルト・砂・シルト質粘土の３層に分かれ、土師器・須恵器の小・細片などが出土した。平安時代前半ごろの流路と思われる。

第９層の下層は奈良時代相当期の整地土で4層に分かれ、とくに下層部（ｃ・ｄ）は第10～13層を掘り上げて形成し、須恵器片とともに弥生土器・石器・サヌカイト片などの弥生時代の遺物を包含していた。上層（ａ・ｂ）は暗緑灰色シルト質粘土で、上面から溝・土坑・ピットなどを検出した。

第10層は弥生時代後期相当期の植物遺体層。無遺物層。

第11層は３層に分かれる植物遺体を含む自然堆積のシルト質粘土層。無遺物層。

第12層は粘土およびシルト質粘土の８層に分かれた自然堆積層。弥生土器片少量出土。

第13層は、弥生時代中期中半の整地土でほぼ3層に分かれ、上層は灰色粘土質シルトの盛土で８地区から12地区で確認した。中層上面では炭ピット、落ち込み、大溝などを検出した。下層上面からは柱・杭ピット、土坑、井戸、落ち込み、大溝などの遺構を検出した。層内は多くの弥生土器をはじめ石器、土製品、角製品、動物遺体、サヌカイト片などを包含していた。

第13相当層は下記の第14層遺構および第13層各時期形成期に存した大溝Ａ内の堆積層。ａ・ｂ層は第13上・中層遺構期の堆積層。ｃ層は第13下層遺構期の堆積層。ｄ層は第14層遺構期の堆積層と考えられる。層内からは弥生土器・石器・木製品・動物遺体－シカの角と肩甲骨・イノシシ下顎骨－などが出土した。

第14層は２層に分かれる黒色粘土層で、若干弥生土器片を包含。中期前半の遺構面。

第15層は上部に緑灰色粘土を含む黒色粘土層。

第16層は植物遺体を若干含む黒色粘土層。

第17層は暗オリーブ灰色粘土の混じる緑灰色シルト質粘土。

第15層以下は無遺物層。

3. 遺構

弥生時代

この時代の遺構は第14層上面、第13下層上面、第13上層上面、第13相当層上面で検出した。

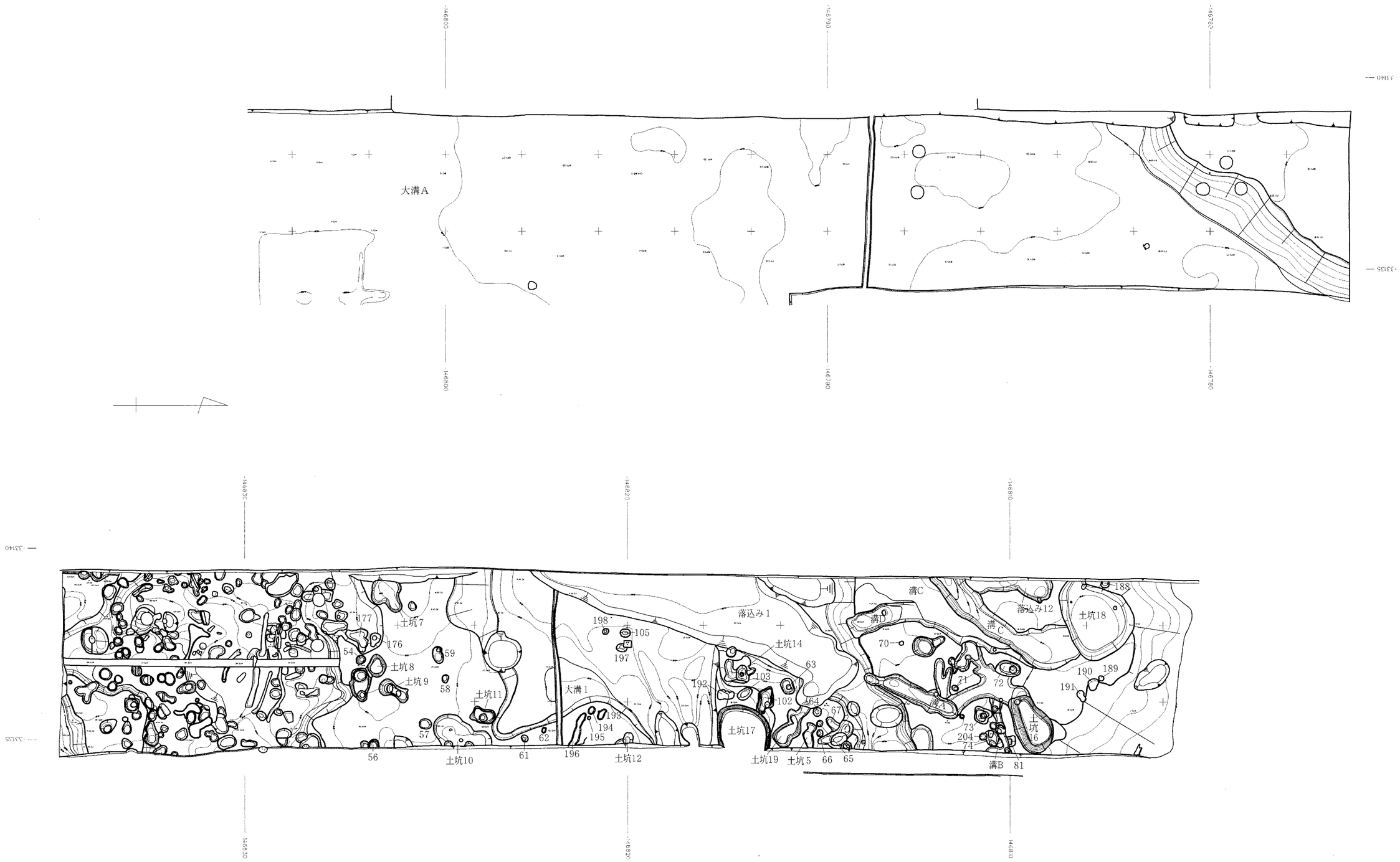
第14層上面遺構（第７・８図　図版３～９）

調査地南から中央部にかけて多量のピット（柱穴－柱根残存のものあり－など）と大土坑および12基の土坑（土坑６～12・14～18)、溝６条（大溝１・２、溝Ａ～Ｄ)、と中央部から北にかけての大溝Ａなどを検出した。

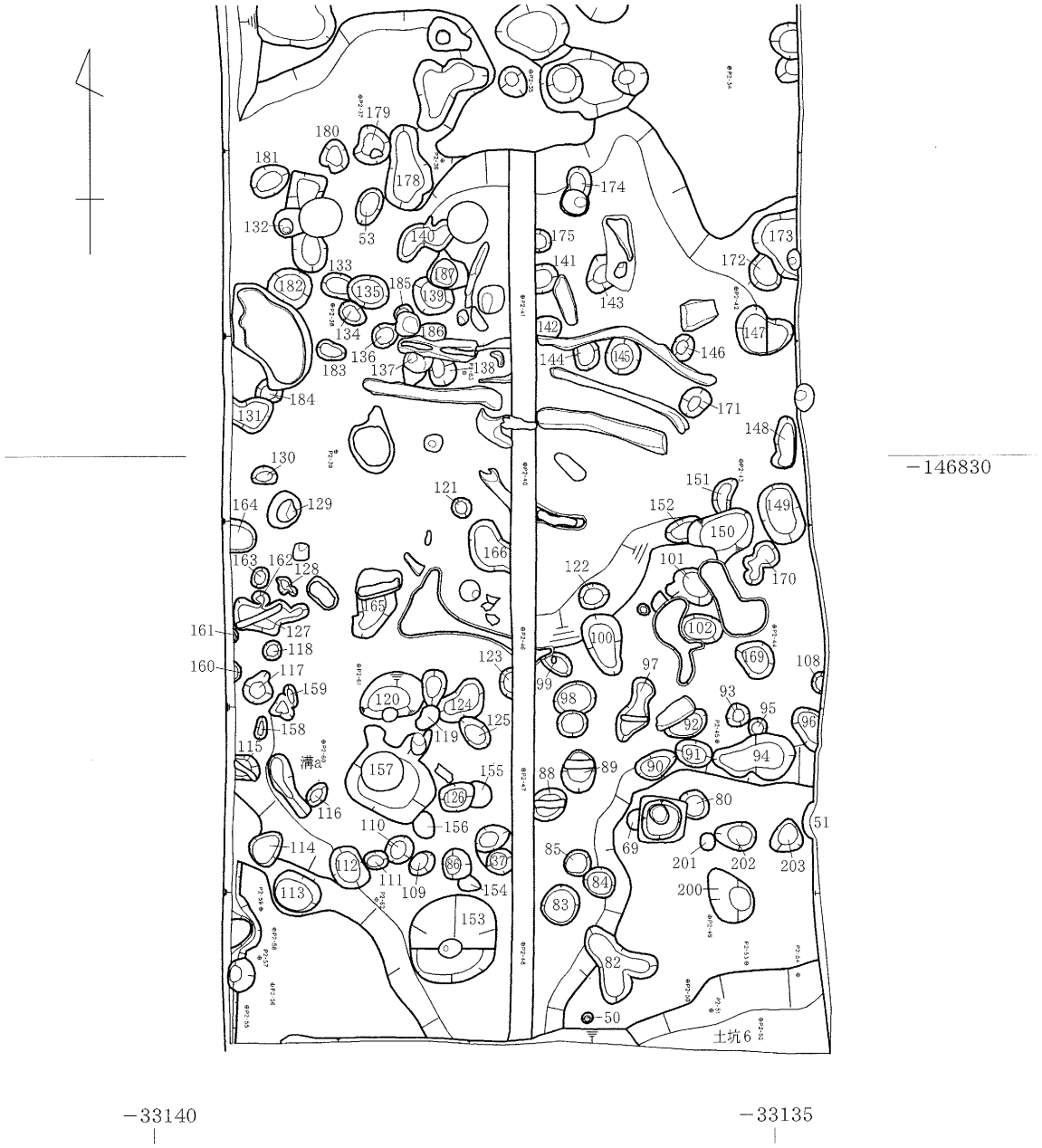
大土坑は11・12地区に存し、調査地内で東西５ｍ以上、南北７ｍ以上の平面形変形の帆立貝状を呈し、底面は西側へ上がっており深さは0.2～0.5ｍを測った。埋土は焼土塊・植物遺体を含む黒褐色（10ＹＲ3/1）砂混じりシルト質粘土で、多くの弥生土器とともに石器、木製品、動物遺体、自然木、サヌカイト片などを包含していた。焼土塊はとくに西側に多く見られ、ほぼ中央からは東西には横たえたように伐採された径７～10cm長さ1.5～2.5ｍの自然木が４～５本出土した。弥生土器は壷（１～11・13・14)・細頸壷（12)・甕（13～24)・鉢（25～31)・甕蓋（32・33）などがあり、石器は局部磨製石斧（430）石剣（431）石庖丁（444）などの磨製石器と砥石（446)、木製品は握手付容器（411）など、動物遺体はイノシシの前頭骨・側頭骨・上顎骨・下顎骨・胸椎・仙椎・肋骨・寛骨・大腿骨などと大型哺乳類の骨（資料番号２～５）であった。土器はⅡ様式のものが大半をしめていた。

大土坑底・側面および周辺には柱・杭状根が残存するピット110以上と10本以上の杭が見られた（第８図)。ピットを穿って立てられた柱状木製品－第９図のｗ45・49・87・104・ａ・ｂ－と直接打ち込んだ杭状のものとがあった。ｗ45・49・87は穿ったピット底におがくずまたは樹皮を敷きつめたり、柱設置後の詰め物として同物を使用していた。ｗ104は先端部両側にくさび状に円錐状の木を噛ましてあった。また、深皿状に穿ったピットの底に立ててさらに押し込んだと思われるｗａのようなものも見られ、その他ピット底に細目の丸太木または板状の木を横たえていたものもあった。

大土坑外に７基の土坑を検出した。南東部に土坑６、北に土坑７・８・９・10・11・12である。各遺構については第１表に譲り、主要なものを記述しておく。土坑６は北肩付近のみを検出し、埋土は炭・焼土塊・植物遺体を含む黒色シルト質粘土で、鉢（40)・甕（41）などの弥生土器を包含していた。土坑10は東側溝などにより東側欠損。埋土は炭・植物遺体を含むオリーブ黒色砂混じりシルト質粘土で、鉢（42)・甕（43）などの弥生土器と石錐（459）が出土した。また、底面から杭を２本（ｗ61・62）を検出した。



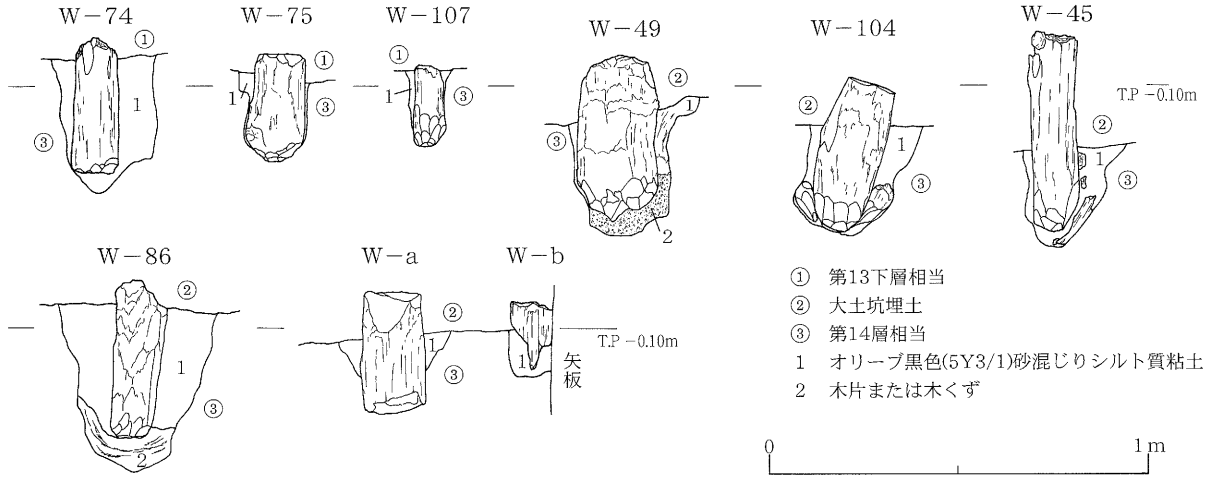
第７図　第14層上面遺構平面図



第８図　第14層上面遺構平面図－大土坑部分－

大溝１は９から10地区にかけて検出し、北肩はほぼ東西方向に走るが南肩は西南方向に走り、東から西南方向に延びる溝であるが、東南側は落ち込み１によって切断されていた。幅２～５m、深さ0.25mを測る。埋土は植物遺体・炭を含む灰色砂混じりシルト質粘土で、弥生土器・石器・木製品・サヌカイト片などが出土した。弥生土器には甕（56～71）・壷（72～76）・細頸壷（77）・高坏（78）・甕蓋（79～81）・鉢（82）などで、石器には打製の削器や砥石・石皿状のものなど、木製品には板状木製品（420・423）・角材（421）などがあった。また、溝内から３ピットを検出し、ｐ105からは杭が出土した。

大溝２は８地区付近で検出した東から西南西方向に延びる溝であるが、南西側は落ち込み１によって切断されていた。幅1.6～1.1m、深さ0.35mを測る。埋土は植物遺体・炭・焼土を含む灰色砂混じりシルト質粘土で、弥生土器・石器・木製品・サヌカイト片などが出土した。弥生土器には壷（83～85）・細頸壷（86）甕（87）・鉢（88）など、石器には打製石器の石鏃（454）などがあった。また、



第９図　第14層上面柱・杭断ち割り断面図－主要形態－

底面西側で土坑Ａを検出した。

土坑Ａは下部が黒色・緑灰色の粘土の混層、中・上部も植物遺体を多く含む黒色または黒褐色のシルト質粘土で溜り状を呈していた。植物以外の遺物は出土していない。

大溝１と大溝２の間で土坑4基とピット10を検出した。土坑17はほぼ円形を呈していたと考えられる。埋土はオリーブ黒色砂・炭混じりシルト質粘土で、鉢（53）と壷（54）などの弥生土器、軽石、動物遺体小片などが出土した。また、ピットのうちの６つには柱根が残存し、打設された杭も２本検出した。

大溝２の東には４条の溝（溝Ａ～Ｄ）と土坑３基（土坑16・18・Ａ）、落ち込み1基（落ち込み３）と11のピットを検出した。

溝Ａは西へ派生する溝を有する南北方向に延びる溝で、南は落ち込み１によって切断されていた。埋土は灰色砂混じりシルト質粘土で、弥生土器片などが出土し、底・側部などから打設された杭５本を検出した。溝Ｂはほぼ東西方方向に延び、西側は溝Ａによって切断されていたが、溝のほぼ中央からは据えられたと思われる甕（94）を検出した。埋土は灰オリーブ色シルト粒・暗緑灰色粘土粒・炭・植物遺体などを含む灰色砂混じりシルト質粘土で甕（92・93）などの弥生土器が出土し、底面から打設された杭１本を検出した。溝Ｃは弧状を呈し、埋土は上部が炭・植物遺体を含む灰色砂混じりシルト質粘土、下部が砂を多く含む灰色シルト質粘土で甕蓋（95）・壷（96）などの弥生土器が出土し、底面から打設された杭２本を検出した。溝Ｄはやや弧状を呈して南北方向に延びる溝で、東は溝Ｃ、西は落ち込み１によって切断されていた。埋土は上部が炭を含むオリーブ黒色砂混じりシルト質土、下部が砂をやや多く含む灰色シルト質粘土で甕（97）などの弥生土器が出土し、東部で打設された杭１本を検出した。

土坑16は南西－北東を長軸とする平面長楕円形を呈する。埋土は炭・植物遺体を含むオリーブ黒色砂混じりシルト質粘土で甕（44～50）・壷（51）・鉢（52）などの弥生土器が出土し、南西側部に打設された杭１本を検出した。土坑18は浅いすり鉢状を呈し、埋土は上部が明オリーブ灰色砂・土を含む灰色シルト質粘土、下部が灰色シルト質砂まじり粘土で甕（55）などの弥生土器が出土し、底部から打設された杭３本を検出した。土坑Ａは落ち込み１の東北部の底部付近で検出した。埋土は3層に分かれ、柱材と思われる加工木が出土した。

落ち込み３は西壁に沿って東側のみを検出したが、南側は溝Ｃにより切断されていた。埋土は植物遺体をやや多く含む灰黄褐色砂混じりシルト質粘土で、東側部付近から打設された杭２本を検出した。

第1表　柱・杭一覧表

第13下層上面

W番号	地区名	遺　構	名称	残　長 (長さ×幅cm)
11	12	P-21	柱	0.63×0.13
25	12	P-47	柱	0.24×0.13
37	11	P-40	柱	0.38×0.17
47	11	P-46	柱	0.30×0.15

第14層上面

W番号	地区名	遺　構	名称	残　長 (長さ×幅cm)
1	12	P-199	柱	0.29×0.12
2	12	P-113	杭	0.26×0.11
3	12	—	?	—
4	12	—	柱	0.27×0.11
5	12	P-153	柱	0.25×0.19
6	12	P-156	?	—
7	12	P-157	柱	0.12×0.15
8	12	—	木	0.16×0.06
9	12	P-125	?	—
10	12	P-157	柱	0.37×0.14
12	12	P-115	杭	0.34×0.05
13	12	P-117	杭	0.20×0.06
14	12	P-127	杭	0.40×0.05
15	11・12	—	柱	0.36×0.10
16	11	P-129	柱	0.60×0.14
17	11・12	—	杭 ? 杭	0.17×0.08 0.19×0.07 0.37×0.08
18	11・12	—	柱 ?	0.50×0.12 0.15×0.06
19	11・12	—	?(柱)	0.33×0.11
20	12	—	?	—
21	12	P-99	柱	0.33×0.11
22	12	P-97	杭	0.23×0.04
23	12	—	柱 ? ?	0.35×0.13 0.22×0.07 0.15×0.08
24	12	P-94	杭?	0.40×0.09
26	12	P-89	?	—
27	12	P-88	?	0.31×0.07
28	11	—	?	—
29	11	—	?	—
30	11	—	?	—
31	11	—	?	—
32	11	—	?	—
33	11	—	?	—
34	11	—	杭?	0.71×0.08
35	11	—	杭 杭 ?	0.31×0.07 0.11×0.05 0.33×0.07
36	11	P-174	柱	0.33×0.13
38	11	P-173	柱	0.13×0.13
39	11	—	柱	0.26×0.11
40	11	—	柱	0.58×0.16 0.92×0.17
41	11	—	?	—
42	11	—	?	一　括
43	11	—	?(柱)	0.27×0.17
44	11	—	?(柱)	0.35×0.15
45	11	—	柱	0.39×0.10
46	11	—	杭(7分割)	0.23×0.07 0.14×0.07 0.16×0.07
48	11	P-187	柱	0.22×0.18
49	11	—	柱	0.40×0.20
50	11	—	柱	0.28×0.13
51	11	P-184?	?	—
52	11	P-134	?	—
53	11	P-176	柱	0.35×0.12
54	11	土坑8	柱	0.52×0.25
55	11	土坑9	柱	0.44×0.14
56		—	杭	0.29×0.12
57	欠番			
58	欠番			
59	欠番			
60	10	P-59	柱	0.21×0.10
61	10	土坑10	柱	—
62	10	土坑10	?	—
63	10	—	?(柱)	—
64	9	P-102	柱	0.32×0.11
65	9	P-63	柱	0.33×0.13
66	8	土坑15	杭	0.20×0.06
67	8	?	杭	0.34×0.06
68	8	?	柱	0.27×0.13
69	8	—	?(杭)	0.53×0.10
70	8	溝A	杭	分割
71	8	—	柱	0.23×0.13
72	8	溝A	柱	0.38×0.16
73	7	溝C	柱	0.31×0.09
74	7	溝A	柱	0.30×0.13
75	7	土坑16	柱	0.27×0.15
76	7・8	P-74	柱	0.41×0.13
77	7	—	柱	0.23×0.10
78	7	落ち込み2(北)	杭	0.24×0.08
79	7	土坑18	杭?	0.43×0.09
80	7	土坑18	杭	0.36×0.08
81	7	土坑18	杭	0.09×0.04
82	12	—	柱	0.16×0.15
83	12	—	杭	0.10×0.05
84	11	—	柱? 杭	0.30×0.13 0.07×0.07
85	11	—	?	—
86	11	P-132	柱	0.40×0.16
87	11	—	柱	一　括
88	11	—	杭	0.10×0.10
89	7・8	落ち込み2	柱?	0.15×0.18
90	8・9	土坑19	柱	0.17×0.11
91	9	—	?	—
92	8	?	柱	0.40×0.14
93	7	溝B(溝b)	?	—
94	7	溝C	?	—
95	8	溝A	杭?	0.11×0.07
96	9	—	?	—
97	10	—	柱	0.35×0.16
98	10	—	柱	0.30×0.12
99	7・8	溝A	杭	0.25×0.07
100	8	—	杭	0.20×0.07
101	11	—	?	—
102	10	—	柱	0.23×0.13
103	10	大溝1	柱	0.24×0.15
104	11	—	柱	0.37×0.20
105	11	—	柱	0.39×0.12
106	11	—	?	—
107	7	—	杭?	0.16×0.06
108	12	—	柱	0.36×0.10
109	12	—	柱	一　括
110	6	—	柱	0.24×0.12

調査地の１・２地区から７地区にかけて大溝Ａを検出した。南肩は７地区北よりに弧状を呈して東西方向にのび、ゆるやかに傾斜していた。これに対し北肩は北東から南西方向に走り南側へ傾斜していた。このことから調査地内での幅は西側で約25m、東側で約34m、深さは上述したように底部を確認することができなかったが調査深度内で0.6mを測った。堆積層は第13相当層のｄ層＝植物遺体を含む暗オリーブ褐色粘土＝が対応し、弥生土器片などが出土した。しかし、ほとんど掘削することができなかったため詳細は不明。

第13層は、弥生時代中期中半の整地土で大きくは３層に分かれる。上層は灰色粘土質シルト（ａ層）の盛土で８地区から12地区で確認。中層（ｂ・ｃ層）は焼土が多く散乱し、上面で炭ピット、落ち込み、大溝などを検出した。下層（ｄ・ｅ・ｆ・ｇ・ｈ層）上面からはピット、土坑、井戸、落ち込み、大溝などを検出した。層内は多くの弥生土器をはじめ石器、土製品、角製品、動物遺体、サヌカイト片などを包含していた。弥生土器は壷・高坏・鉢・甕・水差形土器・壷蓋・甕蓋など（142～383）。石器は柱状片刃石斧（425・428）・扁平片刃石斧（429）・石庖丁（432～438・440～443）などの磨製石器と石槍（448～452）・石鏃（453・455～457）・石小刀（458）・削器などの打製石器および砥石（445・447）。土製品は円板形土製品（464～480）・ミニチュア土器（481・482）、角製品は円孔を有する板状品－破片－（483）。動物遺体はイノシシ・シカと大型哺乳類（資料番号11～20）などであった。

13下層上面遺構（第10・11・12図　図版７～11）

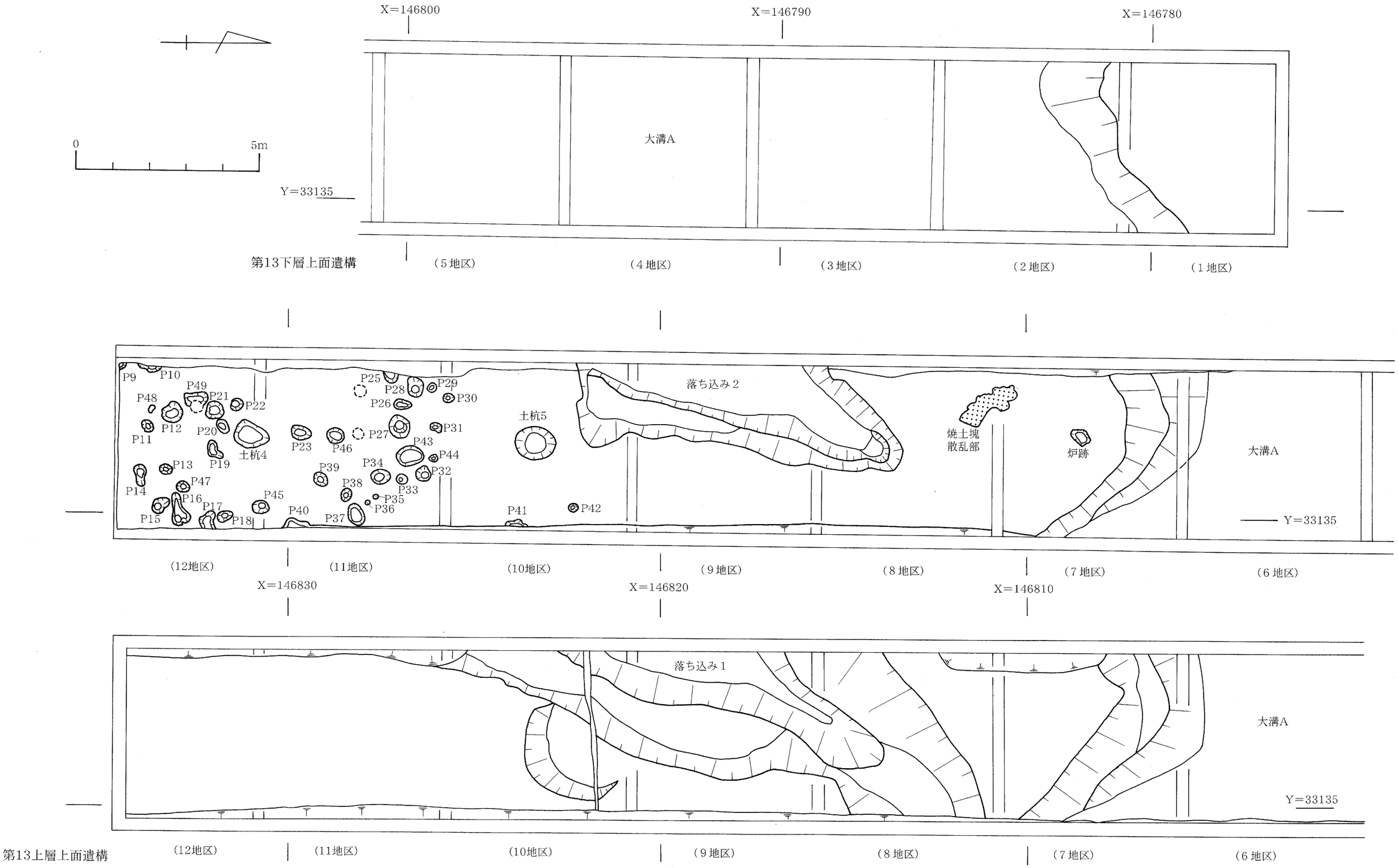
調査地の１・２地区から７地区にかけての大溝Ａ、７・８地区で炉跡＝炭ピット、焼土塊集散部、８～10地区で落ち込み（落ち込み２）、10～12地区で土坑２基（土坑４・５）とピット41個（Ｐ９～49）を検出した。

ピットのうちＰ11・Ｐ21・Ｐ35・Ｐ40・Ｐ45・Ｐ46・Ｐ47の７つには柱根が残存していた。柱根はＰ21・40・41のようにほぼ直立していたのものと、Ｐ11・46のように斜め方向に設置されたものがあった。また、Ｐ21の柱根には横に丸木材がそえられてあった。Ｐ32などのように抜き取られたものがあったが、残存していた柱材は樹立した状態のままで切断されていた。

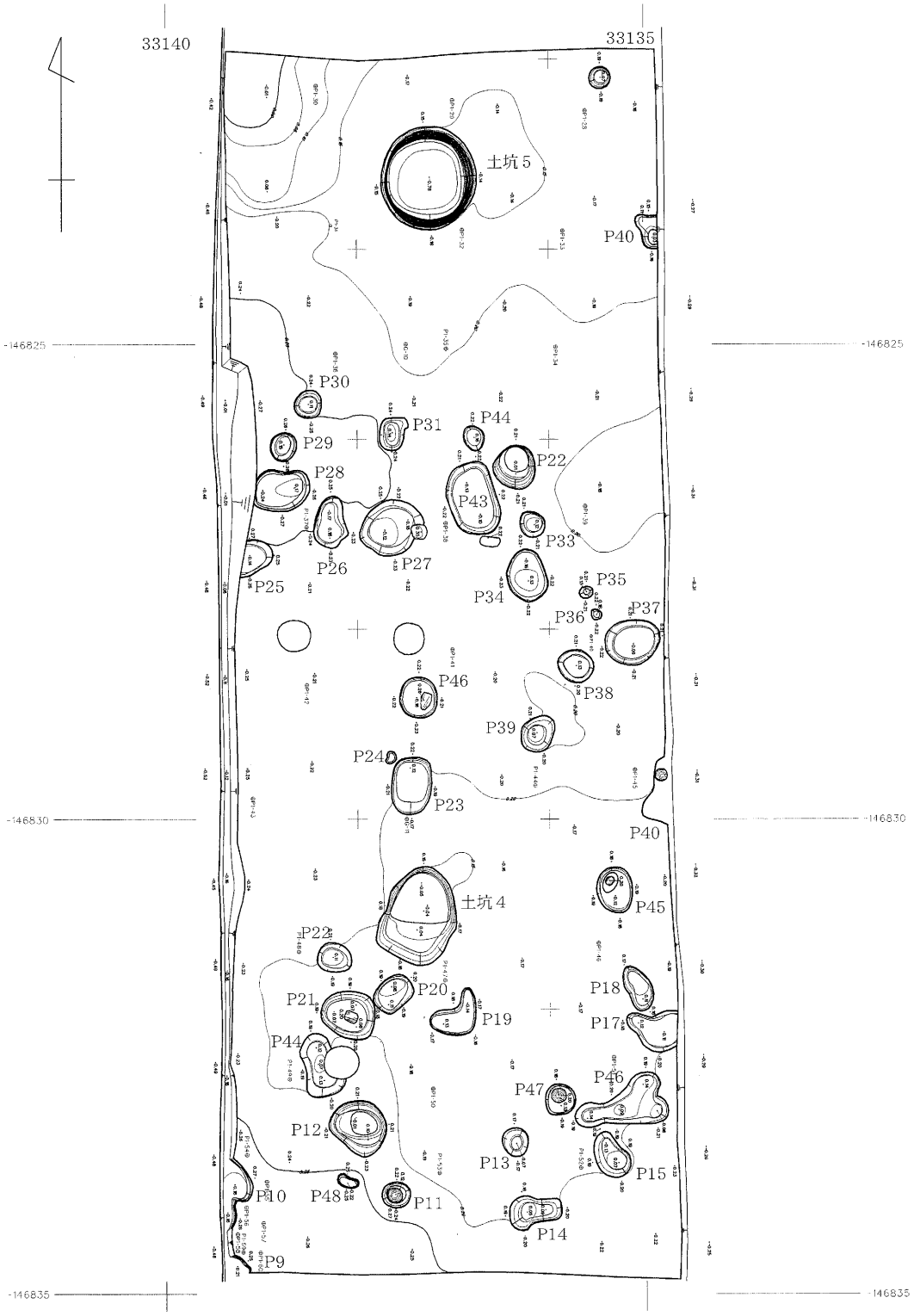
土坑４は長辺１m・短辺0.75m、深さ0.15mの平面・隅丸の変形砲弾状で、断面は逆台形を呈する。埋土は植物遺体を多量に含む黒褐色砂混じりシルト質粘土で、甕（34）・高坏（35）などの弥生土器と焼土塊・粒を包含していた。

土坑５は径0.95m、深さ0.7m以上を測り、井戸と考えられる。深度約0.5m付近で径はほぼ半分の0.45mとなって段をなしていた。（第12図）埋土内からは弥生土器・サヌカイト片などが出土した。弥生土器には壷（36～38）・高坏（39）と甕などがあった。

落ち込み１は８～10地区の西側で検出した。上の一部は溝３によって攪乱されていた。西部は調査地外となり、形は不明。南北8.9m、東西2.8m、深さ0.6m以上を測り、東側は2段に落ちで一部には段を有する。落ち込み内は下部が植物遺体・炭を含むオリーブ黒色の砂混じり粘土質シルトまたはシルト質粘土（ｋ・ｌ・ｍ）、中部がオリーブ褐色・暗灰黄色の砂混じり粘土質シルトまたはシルト質粘土（ｉ・ｊ）、上部はオリーブ黒色・灰色の砂混じりシルト質粘土（ｆ・ｇ・ｈ）で９層に分かれ、底部には径約12cm、長さ約1.2mの樹皮の残存した木幹が横たわっていた。埋土内からは壷（103～116）、高坏（117～121）、鉢（126～128）、甕（129～141）壷蓋（122・123）、甕蓋（124・125）など多くの弥生土器、削器などの石器、円板状土製品、板状（418）や棒状などの木製品、サヌカイト片などが出土した。

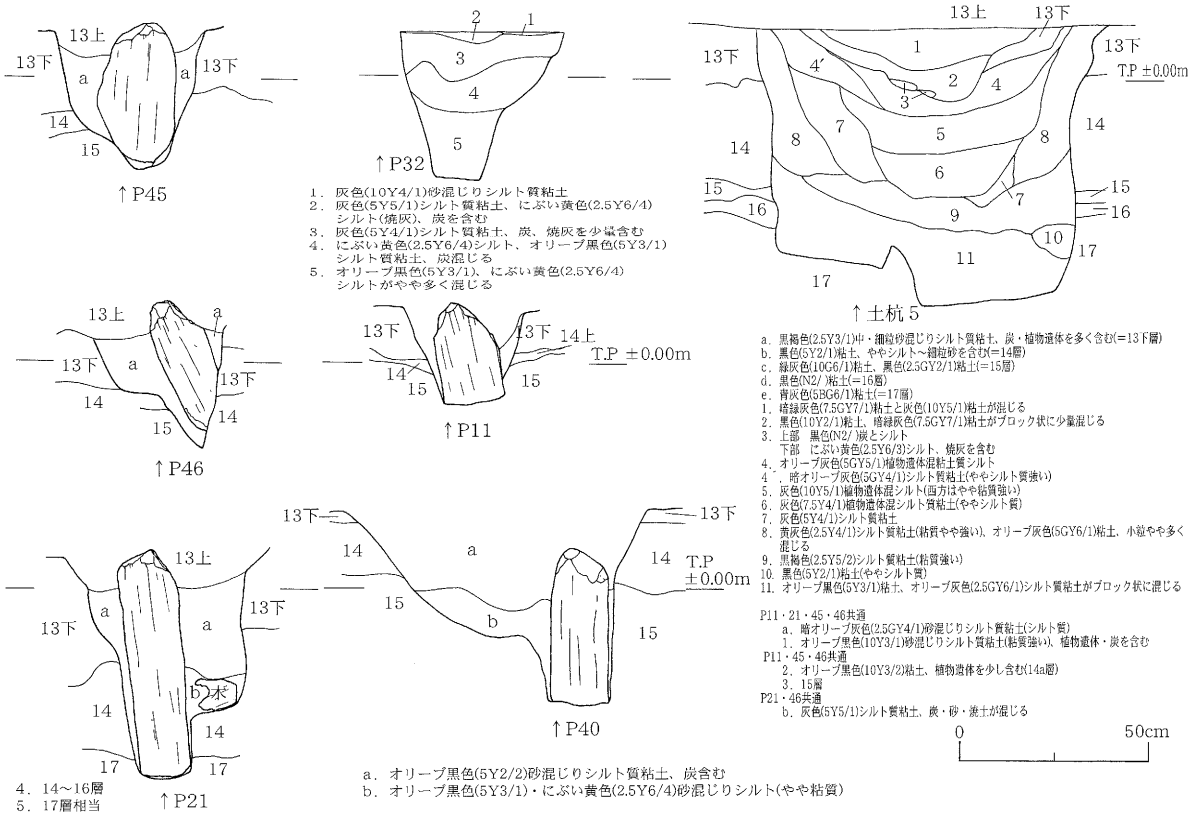


第10図　第13上層・下層上面遺構平面図



第11図　第13下層上面遺構平面図－部分－

落ち込み１と後述する大溝Ａの間の７・８地区からは炉状のピットと焼土が集散した場所を検出した。炉状ピットは0.5×0.35m、深さ0.04mを測る浅いすり鉢状を呈していた。底・側面には焼土面が部分的に残存し、下部の一部に炭混じり黒褐色砂混じりシルト、下・中部は焼土・灰混じりの灰色粘土や灰白色シルト・灰オリーブ色粘土質シルト、上部は緑黒色・緑灰色シルト質粘土で埋まっていた。中からは弥生土器やサヌカイトの小細片が出土した。この炉状ピットの南からは焼土塊・粒が多量に



第12図　第13下層遺構断面・断ち割り断面図

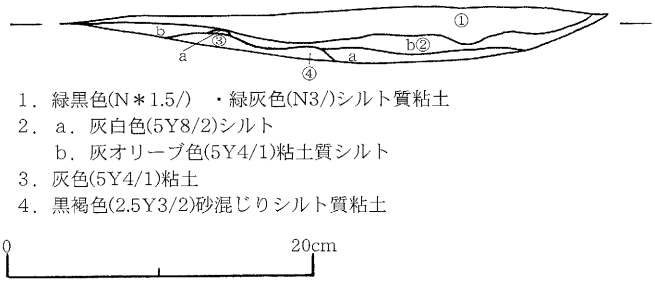
集散した状態で検出した。

大溝Aはこの時期、調査地内で東に「ハ」の字状に開き、幅26.5～31m、深さ0.4m以上を測る。埋土は上部が植物遺体を含むにぶい黄橙色砂混じり粘土質シルト、下部がやや多くの植物遺体を含む暗オリーブ褐色粘土で、壷・高坏・鉢・甕などの弥生土器、高坏（410）・小型臼（412）・手斧の柄（413）・先尖棒（414・415）・有孔板（416・417）・抉り入り板（424）・角材（422）と板状または棒状などの木製品、石庖丁などの磨製石器、削器などの打製石器、円板状土製品、サヌカイト片、シカの角・肩甲骨、イノシシ下顎骨（資料番号21～23）などの動物遺体が出土した。

調査域で見る限り、この時期、南部域はピット群が土坑４を中心に外径約9.5mの円形状を呈し、その北端に井戸を配する住居域で、落ち込みと屋外炉（一時的なもの）があって、北は大溝Aによってこの住居域を画していたものと思われる。

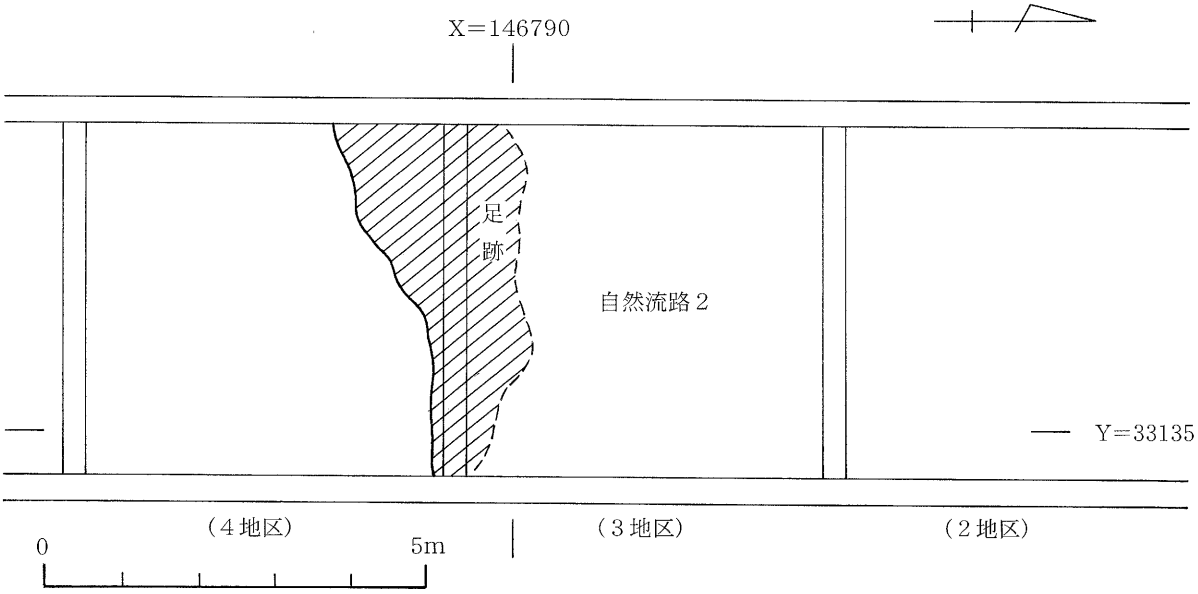
第13上層上面遺構（第10・13図　図版10）

この時期、第13上相当層は７地区あたりから北に広がっていた。南方部はやや高く盛土をした整地層＝第13上層があり、７地区で北側への落ち込み（埋土は第13上相当層）の肩、８～11地区で落ち込み１（上層部）とこれと連結していた溝（溝５）を検出した。



第13図　炉ピット断面図

落ち込み１は８から11地区にかけて検出し、西側の一部は溝３によって切断されていた。落ち込み部はすでに第13下層時期に形成されていたものであるが（前述）、この時期にも活用しており、東北東方向からの溝５を有していた。南側部が段を有す



る浅い鉢状を呈し、溜り状態であったと思われる。埋土は暗灰黄色粘土質シルト褐灰色および黒褐色シルト質粘土などの４層に分かれていたが、植物遺体・炭化物などの混じる自然堆積層で、遺物は出土しなかった。

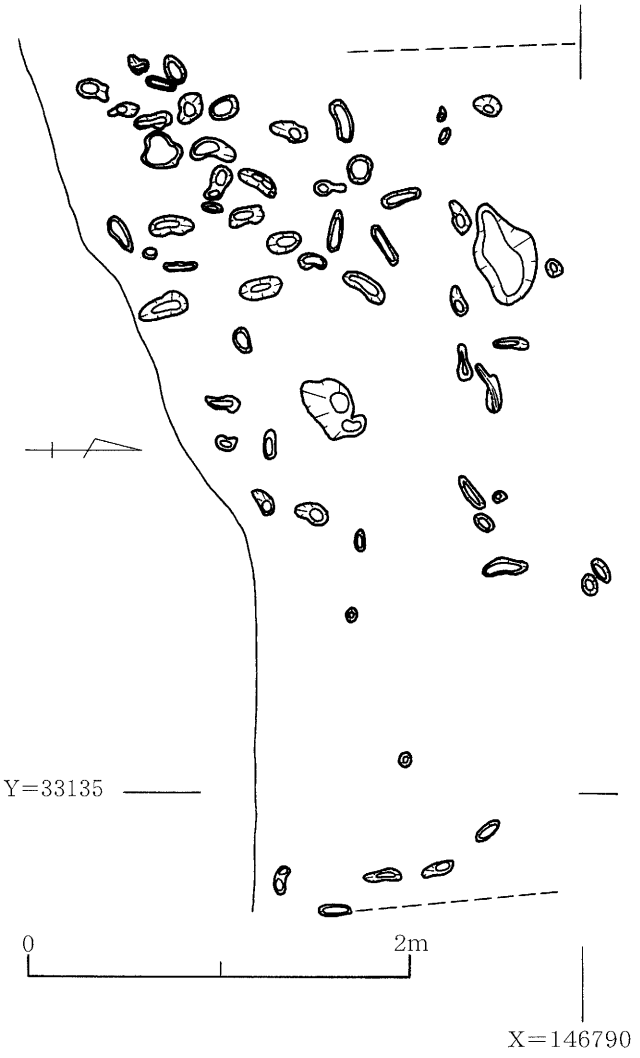
溝５は幅3.5m、深さ0.2mを測り、西南西部で落ち込み１に流れ込んでいたと思われる。埋土は植物遺体を含む黒褐色砂混じりシルト質粘土であったが、遺物は出土しなかった。

１～７地区にかけて存した大溝Ａは、南肩部の一部を溝２によって切断されていたが、段を有する浅い落ち込みの状況となっていた。北肩は第13下層期とほとんど変わらず、南北26～31m、深さ0.2mを測った。埋土は植物遺体を含む砂混じりの灰オリーブ色シルト質粘土で、少量の弥生土器・サヌカイトの小・細片が出土しただけであった。

第13相当上層上面遺構－１－

（第14図　図版12）

第12最下層掘削ののち、４・３地区にかけての自然流路１下層付近で自然流路２の南肩などを検出した。北側は自然流路１によって削られていたため不明。検出の幅4.9～２m、深さ0.3mを測り、灰オリーブ・灰色の中・粗粒砂、灰色シルト質砂、緑灰色シルト質粘土などが堆積し、弥生土器・植物遺体などが出



第14図　自然流路２・流路内足跡平面実測図

土した。ほぼ東から西方向に流れていたと考えられ、南斜面および底面の一部から人などの足跡を検出した（第14図）。弥生土器には甕（98・99）と高坏（100～102）などがあった。弥生時代中期後半。

第13相当上層上面遺構－２－（第15図　図版12）

調査地北よりの1～４地区で溝４および自然流路１を検出した。

自然流路１は２～４地区で検出し、幅９～７m、深さ0.265mを測る。中央で二股に分かれ、東端部で南流路および北流路の幅は2.95mを測る。流路内は灰褐色砂混じりシルト、砂混じりシルトを含むにぶい黄色中・粗粒砂、灰色細～粗粒砂・シルト砂が堆積し、種実など植物遺体・弥生土器片・サヌカイト片、モモの種などが出土した。東北東から西南西方向に流れていたと考えられる。弥生時代中期末期。

溝４は第13上相当´層および自然流路１上面で検出した。ゆるやかなに屈曲するＹ字状を呈し、中央部付近で二股に分かれ、北北東から北西または西へ延びていた。幅0.5～0.1m、深さは部分的に深みをなすところもあり0.1～0.04mを測った。溝内は暗灰黄色（2.5Ｙ5/2）砂混じり粘土質シルトで弥生土器小・細片が少量出土した。自然流路１よりも後に掘削されており、中期最末期。

奈良時代

第９層は奈良時代相当層で２層に大別され、上層は植物遺体を若干含む青灰色シルト質粘土・極細・細粒砂の混層で、下層は植物遺体を含む灰色シルト質粘土で第10～13層を掘り上げて形成された整地土である。層内からは弥生土器・石器・須恵器・土師器・サヌカイト片などが出土した。石器には柱状片刃石斧（426・427）－出土状況・図版13－、があり、弥生土器には壷（402・403）・鉢（404）、古墳時代の須恵器（405～407）および奈良時代の須恵器（408）と土師器（409）があった。

第９層上面遺構（第15図　図版14）

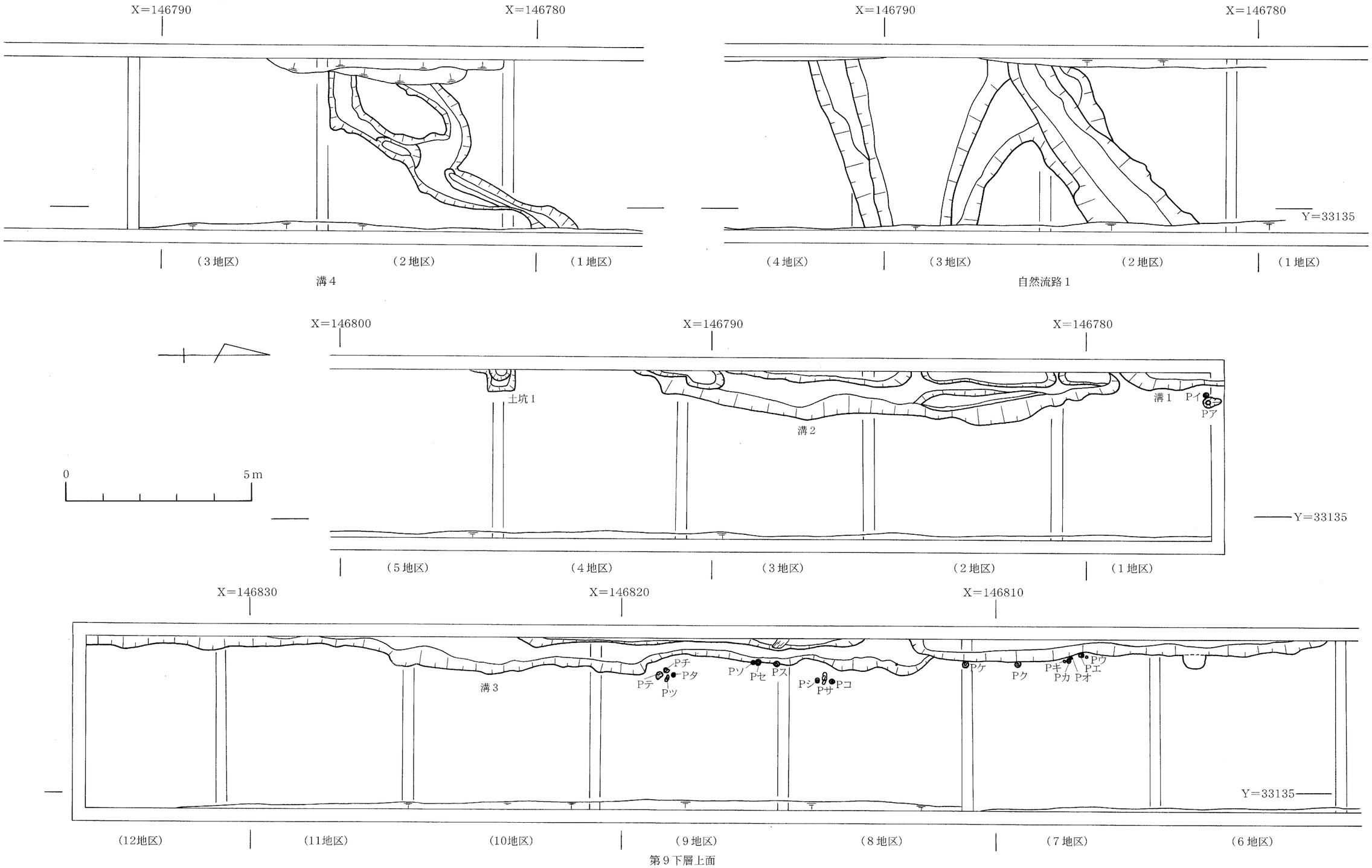
西壁側において、溝３条（溝１～３）、土坑１基（土坑１）と各溝の東肩付近できわめて小さいピットを19個（Pア～テ）検出した。３条の溝および土坑はいずれも西側は調査地区外で、明確な東西幅は不明である。

溝１・２は検出東肩部に凹凸があって西壁際での平面上は別であったが一連のものである。検出の幅0.4～1.4m、長さ15.4m、最深0.8mを測る。底部はところどころに土坑状の掘り込み部があった。溝内はオリーブ灰色ないし暗オリーブ灰色の砂混じりシルト質粘土で植物遺体を含み、とくに下部は第10～14層が混ざっていた。土師器片、弥生土器片、石庖丁（439）・柱材の一部などが出土した。

溝３は検出の最大幅0.63m、長さ33.5m、最深0.7mを測る。溝内は植物遺体を含むオリーブ灰色砂混じりシルト質粘土で土師器片、弥生土器片、板状木製品などが出土した。やや離れているが溝１・２と同一の性格のものである。

土坑１は角丸の凸状を呈するが西側は不明。検出幅0.8×0.6m、深さ0.3mを測る。溝内は２段に落ち、埋土はオリーブ灰色砂混じりシルト質粘土で上記の各溝同じ埋で、一連のものの出っ張り部とも考えられる。

これらの溝・土坑は東側部分を検出したのみで用途は不明。弥生時代の植物遺体層（第10層）・遺物包含層＝整地層（第13層）および遺構をも穿っていたことから、各埋土内には植物遺体とともに弥生土器・サヌカイトの小細片や小型の砲弾状石製品などを包含していたが、形成時期は奈良時代以降のものである。



第9下層上面

第15図　第9下層上面遺構・溝4・自然流路1平面実測図

第２表　第９下・13下・14層上面遺構一覧表

第９下層上面

ピット

番号	地区名	形　状	規模(cm)	深(cm)	土　　色	遺　　物
ア	1	円	20	5.0	緑灰色(7.5Y6/1)砂・細礫混じりシルト質粘土、オリーブ黒色(10Y3/1)粘土粒含む	
イ	1	円	10	4.0	緑灰色(7.5Y6/1)砂・細礫混じりシルト質粘土、オリーブ黒色(10Y3/1)粘土粒含む	
ウ	7	円	7	4.0	緑灰色(7.5GY6/1)砂・極小礫混じり粘土質シルト	
エ	7	円	15	5.0	緑灰色(7.5Y6/1)砂・細礫混じりシルト質粘土、オリーブ黒色(10Y3/1)粘土粒含む（オリーブ黒やや多い）	
オ	7	円	7	9.0	緑灰色(7.5Y6/1)砂・細礫混じりシルト質粘土、オリーブ黒色(10Y3/1)粘土粒含む（オリーブ黒やや多い）	
カ	7	円	6	3.0	緑灰色(7.5Y6/1)砂・細礫混じりシルト質粘土、オリーブ黒色(10Y3/1)粘土粒含む（オリーブ黒やや多い）	
キ	7	円	6	3.0	緑灰色(7.5GY6/1)砂・極小礫混じり粘土質シルト	
ク	7	円	10	4.0	緑灰色(7.5GY6/1)砂・極小礫混じり粘土質シルト	
ケ	7・8	円	12	4.0	緑灰色(7.5GY6/1)砂・極小礫混じり粘土質シルト	弥生土器
コ	8	不定形	12×8	4.0	緑灰色(7.5GY6/1)砂・極小礫混じり粘土質シルト	
サ	8	楕円	20×8	5.0	緑灰色(7.5GY6/1)砂・極小礫混じり粘土質シルト	
シ	8	円	10	4.0	緑灰色(7.5GY6/1)砂・極小礫混じり粘土質シルト	
ス	9	円	11	4.0	緑灰色(7.5GY6/1)砂・極小礫混じり粘土質シルト	
セ	9	円	13	5.0	緑灰色(7.5GY6/1)砂・極小礫混じり粘土質シルト	
ソ	9	円	8	3.0	緑灰色(7.5GY6/1)砂・極小礫混じり粘土質シルト	
タ	9	円	7	3.0	浅黄色(2.5Y7/4)粗粒砂	
チ	9	不定形	12×10	4.0	オリーブ灰色(5GY6/1)細粒砂	
ツ	9	楕円	12×7	4.0	オリーブ灰色(5GY6/1)細粒砂	
テ	9	円	15	5.0	浅黄色(2.5Y7/4)粗粒砂	

土坑

番号	地区名	形　状	規模(cm)	深(cm)	土　　色	遺　　物
1	4・5	方形	80×60	30.0	オリーブ灰色(5GY5/1)砂混じりシルト質粘土（粗～細粒）	

溝

番号	地区名	幅(cm)	長(cm)	深(cm)	土　　色	遺　　物
1	1	50	290	60.0	オリーブ灰色(5GY5/1)砂混じりシルト質粘土（植物遺体含む、下部に14層など巻き上げる）	弥生土器
2	1～4	1.4	1,250	80.0	暗オリーブ灰色(5GY4/1)砂混じりシルト質粘土（10～14層巻き上げている）	弥生土器、石包丁、円板型土製品
3	6～12	63	3,350	70.0	オリーブ灰色(5G5/1)砂混じりシルト質粘土（粗～細粒、下部に10～14層巻き上げて、各ブロックが散乱）	弥生土器、土師器、柱抗、球状石製品、須恵器、杭

第13下層上面

ピット

番号	地区名	形　状	規模(cm)	深(cm)	土　　色	遺　　物
9	12	—	17×16	3.6	黒褐色(2.5Y3/1)砂混じりシルト質粘土	
10	12	—	73×17	12.0	黒色(10Y2/1)砂混じりシルト質粘土（砂少量）	
11	12	円	27×30	12.2	a. 暗オリーブ灰色(2.5GY4/1)砂混じりシルト質粘土（シルト質） 1. オリーブ黒色(10Y3/1)砂混じりシルト質粘土（粘質強い、植物遺体・炭を含む） 2. オリーブ黒色(10Y3/2)粘土(植物遺体を少し含む) 3. 黒色(7.5Y2/1)粘土(植物遺体含む)	
12	12	不定形	56×57	西 23.2 東 32.5	黒色(5Y2/1)シルト質粘土（焼、植物遺体、炭、砂少量含む）	弥生土器
13	12	円	28×30	10.0	オリーブ黒色(5Y2/2)砂混じりシルト質粘土（炭含む）	弥生土器
14	12	楕円	37×55	西 15.0 東 10.0	オリーブ黒色(5Y2/2)砂混じりシルト質粘土（炭含む）	弥生土器
15	12	楕円	48×34	北 8.0 南 12.0	黒褐色(2.5Y3/1)砂混じりシルト質粘土（焼土含む）	弥生土器、杭

番号	地区名	形　状	規模(cm)	深(cm)	土　　色	遺　　物
16	12	不定形	54×95	A 5.5 B 12.0 C 6.0 D 14.9	黒褐色(2.5Y3/1)砂混じりシルト質粘土（焼土含む）	弥生土器
17	12	不定形(欠)	41×(49)	70.0	オリーブ黒色(5Y3/1)砂混じりシルト質粘土（炭、植物遺体含む）	弥生土器
18	12	楕円	48×25	北 19.3 南 7.0	オリーブ黒色(5Y3/1)砂混じりシルト質粘土（炭、植物遺体含む）	
19	12	不定形	5 ×45	35.0	黒褐色(2.5Y3/2)シルト質粘土（黒色N2/炭）	弥生土器、柱片(?)焼
20	12	楕円	46×38	10.8	オリーブ黒色(5Y3/2)砂混じりシルト質粘土（炭、植物遺体含む）	弥生土器
21	12	楕円	47×53	12.0	a. 暗オリーブ灰色(2.5GY4/1)砂混じりシルト質粘土（シルト質） b. 灰色(5Y5/1)シルト質粘土(炭・砂・焼土混じる) 1. オリーブ黒色(5Y3/2)砂混じりシルト質粘土（粘質強い、炭・植物遺体含む） 2. 14～16層 3. 17層相当	弥生土器、W-11
22	12	円	36×31	10.0	オリーブ黒色(5Y3/2)砂混じりシルト質粘土（炭、植物遺体含む）	弥生土器
23	11	楕円	58×42	北 8.5 南22.0	黒色(N2/)炭	弥生土器、サヌカイト
24	11	不定形	9 ×14	10.5	黒色(N2/)炭	
25	11	不定形(欠)	39×(31)	12.0	オリーブ黒色(10Y3/1)砂混じりシルト質粘土（炭、植物遺体含む）	弥生土器、サヌカイト、焼土塊
26	11	不定形	54×36	8.8	オリーブ黒色(10Y3/1)砂混じりシルト質粘土（炭、植物遺体含む）	弥生土器
27	11	円	58×68	7.6	オリーブ黒色(10Y3/1)砂混じりシルト質粘土（炭、植物遺体含む）	弥生土器
28	11	楕円(欠)	43×(58)	7.6	オリーブ黒色(10Y3/1)砂混じりシルト質粘土（炭、植物遺体含む）	弥生土器、焼土塊、サヌカイト
29	11	円	29×28	11.2	オリーブ黒色(10Y3/1)砂混じりシルト質粘土（炭、植物遺体含む）	弥生土器
30	10・11	円	23×28	12.9	オリーブ黒色(10Y3/1)砂混じりシルト質粘土（炭、植物遺体含む）	弥生土器
31	10・11	不定形	35×26	10.3	オリーブ黒色(10Y3/1)砂混じりシルト質粘土（炭、植物含む）	弥生土器、焼土塊
32	11	円	46×46	44.4	1. 灰色(10Y4/1)砂混じりシルト質粘土 2. 灰色(5Y5/1)シルト質粘土、にぶい黄色(2.5Y6/4)シルト(焼灰、炭を含む) 3. 灰色(5Y4/1)シルト質粘土(炭・焼灰を含む) 4. にぶい黄色(2.5Y6/4)シルト、オリーブ黒色(5Y3/1)シルト質粘土(炭混じる) 5. オリーブ黒色(5Y3/1)、にぶい黄色(2.5Y6/4)シルトがやや多く混じる	弥生土器
33	11	円	26×27	北 6.4 南 8.7	オリーブ黒色(7.5Y3/1)砂混じりシルト質粘土（炭含む）	弥生土器
34	11	楕円	54×42	8.2	オリーブ黒色(7.5Y3/1)砂混じりシルト質粘土（炭含む）	弥生土器、焼土塊
35	11	円	14×12	11.4	オリーブ黒色(10Y3/1)シルト質粘土（杭あり）	
36	11	円	11×11	4.5	オリーブ黒色(5Y2/2)砂混じりシルト質粘土	
37	11	円	48×58	11.5	オリーブ黒色(5Y2/2)砂混じりシルト質粘土	弥生土器
38	11	円	34×36	7.9	オリーブ黒色(5Y2/2)砂混じりシルト質粘土	弥生土器
39	11	円	41×31	15.0	オリーブ黒色(10Y3/1)砂混じりシルト質粘土（炭、植物遺体含む）	弥生土器
40	11	不定形(欠)	68×(25)	36.4	1. オリーブ黒色(5Y2/2)砂混じりシルト質粘土（炭、植物遺体含む） 2. オリーブ黒色(5Y3/1)・にぶい黄色(2.5Y6/4)砂混じりシルト(やや粘質)	弥生土器、サヌカイト、W-37
41	10		35×(21)	北 6.2 南 13.0	黒色(10Y2/1)炭、にぶい黄色6/3シルト	弥生土器
42	10	円	22×22	12.0	灰色(5Y4/1)砂混じりシルト質粘土、オリーブ灰色(2.5GY6/1)シルト質粘土（ブロック、炭含む）	弥生土器
43	11		76×50	8.0	オリーブ黒色(5Y3/1)砂混じりシルト質粘土（灰混じる）	弥生土器、サヌカイト
44	11		25×21	6.4	オリーブ黒色(5Y3/1)砂混じりシルト質粘土（灰混じる）	弥生土器

番号	地区名	形　状	規模(cm)	深(cm)	土　　色	遺　　物
45	11・12	楕円	48×36	6.9	a.暗オリーブ灰色(2.5GY4/1)砂混じりシルト質粘土(シルト質) 1.オリーブ黒色(10Y3/1)砂混じりシルト質粘土(粘質強い、植物遺体・炭を含む) 2.オリーブ黒色(10Y3/2)粘土(植物遺体を少し含む) 3.オリーブ黒色(7.5Y3/2)砂混じりシルト質粘土	弥生土器
46	11	円	44×40	6.3	a.暗オリーブ灰色(2.5GY4/1)砂混じりシルト質粘土(シルト質) b.灰色(5Y5/1)シルト質粘土(炭・砂・焼土混じる) 1.オリーブ黒色(10Y3/1)砂混じりシルト質粘土(粘質強い、植物遺体・炭を含む) 2.オリーブ黒色(10Y3/2)粘土(植物遺体を少し含む) 3.オリーブ黒色(7.5Y3/2)砂混じりシルト質粘土	弥生土器、サヌカイト、W-47
47	12	円	31×31	—	黒褐色(2.5Y3/1)砂混じりシルト質粘土（植物遺体、炭混じる）	弥生土器、サヌカイト、W-25
48	12	楕円	11×22	5.0	オリーブ黒色(5Y2/2)砂混じりシルト質粘土（炭含む）	
49	12	楕円(欠)	65×38	15.0	オリーブ黒色(7.5Y3/1)砂混じりシルト質粘土、緑灰色(5G6/1)（粘土含む）	弥生土器、柱

土坑

番号	地区名	形　状	規模(cm)	深(cm)	土　　色	遺　　物
4	11・12	不定形	100×78	15.0	黒褐色(2.5Y3/1)砂混じりシルト質粘土（植物多量）	弥生土器、焼土塊
5	10	円	108	63.0	a. 黒褐色(2.5Y3/1)中・細粒砂混じりシルト質粘土、炭・植物遺体を多く含む(=13下層) b. 黒色(5Y2/1)粘土、ややシルト～細粒砂を含む(=14層) c. 緑灰色(10G6/1)粘土、黒色(2.5GY2/1)粘土(=15層) d. 黒色(N2/)粘土(=16層) e. 青灰色(5BG6/1)粘土(=17層) 1. 暗緑灰色(7.5GY7/1)粘土と灰色(10Y5/1)粘土が混じる 2. 黒色(10Y2/1)粘土、暗緑灰色(7.5GY7/1)粘土がブロック状に少量混じる 3. 上部：黒色(N2/)炭とシルト 下部：にぶい黄色(2.5Y6/3)シルト、焼灰を含む 4. オリーブ灰色(5GY5/1)植物遺体混粘土質シルト 4´. 暗オリーブ灰色(5GY4/1)シルト質粘土(ややシルト質強い) 5. 灰色(10Y5/1)植物遺体混シルト(西方はやや粘質強い) 6. 灰色(7.5Y4/1)植物遺体混シルト質粘土(ややシルト質) 7. 灰色(5Y4/1)シルト質粘土 8. 黄灰色(2.5Y4/1)シルト質粘土(粘質やや強い)、オリーブ灰色(5GY6/1)粘土、小粒やや多く混じる 9. 黒褐色(2.5Y5/2)シルト質粘土(粘質強い) 10. 黒色(5Y2/1)粘土(ややシルト質) 11. オリーブ黒色(5Y3/1)粘土、オリーブ灰色(2.5GY6/1)シルト質粘土がブロック状に混じる	弥生土器、焼土塊

第14層上面

ピット

番号	地区名	形　状	規模(cm)	深(cm)	土　　色	遺　　物
50	12	円	8	7.0	オリーブ黒色(7.5Y3/1)砂混じりシルト質粘土（炭、植物遺体含む）	
51	12	楕円(欠)	30×(10)	12.0	黒色(10Y2/1)粘土質シルト（炭、植物遺体含む）	
52	12	円(欠)	25×(11)	9.0	a. オリーブ黒色(7.5Y3/2)砂混じりシルト質粘土 b. 灰色(5Y4/1)砂混じり粘土質シルト（植物遺体含む） c. 黄灰色(2.5Y4/1)砂混じり粘土質シルト(植物遺体含む) d. オリーブ黒色(5Y3/2)シルト質粘土（炭混じる） e. オリーブ黒(7.5Y3/1)砂混じり粘土質シルト	弥生土器
53	11	円	40	10.0	オリーブ黒色(5Y3/1)砂混じりシルト質粘土（植物遺体、焼土含む）	弥生土器、サヌカイト
54	11	円	24×22	13.0	オリーブ黒色(10Y3/1)シルト質粘土（植物遺体、焼土含む）	弥生土器
55	11	不定楕円	50×40	13.0	オリーブ黒色(5Y2/1)砂混じりシルト質粘土	
56	11	瓢形	45×(23)	12.0	オリーブ黒色(10Y3/1)砂混じりシルト質粘土（植物遺体、焼土含む）	弥生土器

番号	地区名	形　状	規模(cm)	深(cm)	土　　色	遺　　物
57	10・11	楕円	32×25	10.0	オリーブ黒色(7.5Y3/1)砂混じりシルト質粘土（炭、植物遺体含む）	弥生土器
58	10	楕円	16×22	9.0	オリーブ黒色(7.5Y3/1)砂混じりシルト質粘土（植物遺体含む）	
59	10	楕円	27×46	11.0	オリーブ黒色(7.5Y3/1)砂混じりシルト質粘土（炭、植物遺体含む）	W-60
60	欠番					
61	10	円	17×18	43.0	黒色(7.5Y2/1)粘土質シルト（植物遺体、炭多く含む）	弥生土器
62	10	楕円	10×15	4.0	黒色(2Y2/1)シルト質粘土（炭、植物遺体含む）	
63	9	楕円	43×31	11.0	オリーブ黒色(7.5Y3/1)砂混じりシルト質粘土（炭、植物遺体含む）	弥生土器、W-65
64	8	円	20×23	3.0	黒色(5Y2/1)シルト質粘土（焼土、炭含む）	弥生土器
65	8	円	16×17	4.0	黒色(7.5Y2/1)シルト質粘土（炭、焼土、植物遺体含む）	
66	8	円	16×17	11.0	黒色(10Y2/1)シルト質粘土（黒色＊1.5/炭含む）	炭
67	8	楕円(欠)	21×(40)	9.0	オリーブ黒色(5Y3/1)シルト質粘土（植物遺体、炭、焼土含む）。灰色(10Y5/1)粘土塊粒混じる。	
68	8	円(欠)		5.0	オリーブ黒色(10Y3/2)砂混じりシルト質粘土（炭、焼土、植物含遺体む）	W-67・68・92
69	12	円(欠)	15×(10)	6.0	？	
70	8	円		22.0	オリーブ黒色(10Y3/1)砂混じりシルト質粘土（炭、植物遺体含む）	弥生土器
71	8	円	18×14	17.0	オリーブ黒色(10Y3/1)シルト質粘土(植物遺体、炭、焼土含む)	
72	7・8	楕円	65×38	13.0	×	
73	7・8	不定楕円	48×38	10.0	灰色(7.5Y4/1)砂混じりシルト質粘土（炭混じる）、灰オリーブ色(5Y6/2)シルト粒混じる	
74	7・8	楕円(欠)	36×44	11.0	暗オリーブ灰色(2.5GY4/1)砂混じりシルト質粘土	弥生土器、焼土塊、W-76
75	7	楕円	20.5×14	2.0	オリーブ黒色(10Y3/1)砂混じりシルト質粘土（炭、植物遺体含む）	
76	7	隅丸方形	29×29	6.5	オリーブ黒色(10Y3/1)砂混じりシルト質粘土（炭、植物遺体含む）	弥生土器
77	7	円	9×2	4.0	オリーブ黒色(7.5Y3/1)シルト質粘土（炭含む）	
77´	7	円	8×9	3.0	オリーブ黒色(10Y3/2)砂混じりシルト質粘土	弥生土器
78	7	楕円	11.5×15	3.0	オリーブ黒色(5Y3/2)砂混じりシルト質粘土（炭含む）	
79	7	隅丸方形	35×36	11.0	黒色(2.5GY2/1)砂混じりシルト質粘土（炭、焼土、植物遺体含む）	弥生土器
79´	7	円	15×15	10.0		弥生土器
80	12	円(欠)	23×24	11.0	黒色(2.5GY2/1)粘土質シルト（植物遺体、焼土、炭含む）	
81	7	不定形(欠)	26×(20)	4.0	オリーブ黒色(10Y3/1)砂混じりシルト質粘土（植物遺体、炭含む）	弥生土器
82	12	不定形	52×53	11.7	黒色(7.5Y2/1)砂混じりシルト質粘土、緑灰色(10GY6/1)粘土粒（炭、植物遺体含む）	
83	12	円	30×33	9.5	暗オリーブ灰色(5GY4/1)砂混じり粘土質シルト（植物遺体多く含む）	
84	12	円	24×26	4.4	灰色(7.5Y4/1)砂混じりシルト質粘土（底面に植物遺体）	
85	12	円	22×21	9.0	暗オリーブ灰色(5GY4/1)砂混じりシルト質粘土（炭、植物遺体含む）	
86	12	円	25×23	22.0	オリーブ黒色(5Y3/2)砂混じりシルト質粘土（炭、植物遺体含む）	弥生土器、焼土塊
87	12	楕円 円(欠)	19×30 21×(21)	7.0	オリーブ黒色(7.5Y3/1)砂混じりシルト質粘土（炭、植物遺体含む、中央に植物遺体粉あり）	弥生土器
88	12	円(欠)	26×(26)	17.0	暗オリーブ灰色(5GY4/1)砂混じり粘土質シルト（炭、植物遺体含む）	弥生土器、W-27
89	12	楕円	35×27	18.9	暗オリーブ灰色(2.5GY3/1)砂混じりシルト質粘土（炭、植物遺体含む）	W-26
90	12	楕円	21×35	16.0	オリーブ黒色(10Y3/1)砂混じりシルト質粘土（炭、植物遺体含む）	弥生土器
91	12	楕円	22×30	7.0	オリーブ黒色(10Y3/1)砂混じりシルト質粘土（炭、植物遺体含む）	弥生土器
92	12	楕円(欠)	(14)×36	11.8	黒色(2.5GY2/1)砂混じりシルト質粘土（炭、植物遺体含む）	
93	12	円	19×17	8.0	オリーブ黒色(10Y3/2)砂混じり粘土質シルト（植物遺体含む）	弥生土器

番号	地区名	形　状	規模(cm)	深(cm)	土　　色	遺　　物
94	12	不定形	38×66	13.0	オリーブ黒色(10Y3/1)砂混じりシルト質粘土（炭、植物遺体含む）	弥生土器、W-24
95	12	円(欠)	15×(13)	4.2	オリーブ黒色(10Y3/2)砂混じり粘土質シルト（植物遺体含む）	
96	12	楕円(欠)	33×(21)	8.5	暗オリーブ灰色(2.5GY4/1)砂混じりシルト質粘土（炭、植物遺体含む、褐色10YR4/4植物粉あり）	
97	12	不定形	56×14 56×	北 8.3 南 10.0	オリーブ黒色(7.5Y3/1)砂混じりシルト質粘土（炭、植物遺体含む）	弥生土器、W-22
98	12	円 円(欠)	34×23 24×22	北 11.0 南 22.0	オリーブ黒色(7.5Y3/1)砂混じりシルト質粘土（炭、植物遺体含む）	弥生土器
99	12	楕円(欠)	17×(24)	9.0	オリーブ黒色(7.5Y3/2)砂混じりシルト質粘土（炭、植物遺体含む）	W-21
100	12	楕円	102×32	20.0	オリーブ黒色(7.5Y3/2)砂混じりシルト質粘土（炭、植物遺体含む）	弥生土器
101	12	不定形(欠)	28×(32)	10.0	オリーブ黒色(7.5Y3/1)砂混じりシルト質粘土（炭、植物遺体含む）	弥生土器
102	9	楕円	32×24	9.0	オリーブ黒色(7.5Y3/1)砂混じりシルト質粘土（炭、植物遺体含む）	弥生土器、W-64
103	9	楕円	42×26	10.0	オリーブ黒色(7.5Y3/2)砂混じりシルト質粘土（炭、植物遺体含む）	
104	9	円	12×10	6.0	オリーブ黒色(10Y3/2)砂混じりシルト質粘土	
105	9	楕円	26×21	5.0	灰色(7.5Y4/1)砂混じりシルト質粘土（植物遺体、動物遺体含む）	弥生土器、動物遺体
106	9	楕円	25×28	5.0	オリーブ黒色(5Y3/1)砂混じりシルト質粘土（植物遺体、炭含む）	弥生土器
107	9	楕円	27×21	—	灰色(3Y4/1)砂混じりシルト質粘土（炭、植物遺体含む）	
108	12	円(欠)	18×(10)	8.0	黒色(7.5Y2/1)砂混じりシルト質粘土（炭、植物遺体含む）	
109	12	楕円	24×17	5.0	暗オリーブ灰色(5GY4/1) 砂混じりシルト質粘土（炭、植物遺体含む）	
110	12	円	23×23	9.0	暗オリーブ灰色(5GY4/1)砂混じり粘土質シルト（植物遺体含む）	
111	12	楕円	15×20	6.0	灰色(7.5Y4/1) 砂混じりシルト質粘土（植物遺体含む）	
112	12	楕円	37×26	16.0	灰色(7.5Y3/1) 砂混じりシルト質粘土（炭、植物遺体含む）	
113	12	楕円	30×38	20.0	黒色(7.5Y2/1) 砂混じりシルト質粘土（炭、植物遺体含む）	弥生土器、W-3
114	12	不定形	30×25	7.0	暗オリーブ灰色(2.5GY3/1) 砂混じりシルト質粘土（炭、植物遺体含む）	
115	12	楕円(欠)	20×(20)	16.0	a. オリーブ黒色(5Y3/2) 砂混じり粘土質シルト(炭、植物遺体含む) b. 黄灰色(2.5Y4/1) シルト質粘土、褐色(10YR4/6)木片 c. オリーブ黒色(5Y3/2) シルト質粘土 d. 灰色(5Y4/1)シルト質粘土（やや粘質） e. 黒色(7.5Y2/1)砂混じり粘土質シルト	W-12
116	12	楕円(欠)	(20)×15	—	灰色(7.5Y4/1) 砂混じりシルト質粘土（植物遺体、炭含む）	
117	12	不定形	28×24	12.0	暗オリーブ灰色(2.5GY3/1) 砂混じりシルト質粘土（炭、植物遺体含む）	W-13
118	12	円	16×14	8.0	暗オリーブ灰色(5GY4/1) 砂混じりシルト質粘土（炭、植物遺体含む）	
119	12	楕円	22×14	13.0	オリーブ黒色(5Y3/2) 砂混じりシルト質粘土（炭、植物遺体含む）	
120	12	楕円(欠)	38×(50)	—	オリーブ黒色(5Y3/2) 砂混じりシルト質粘土（炭、植物遺体含む）	
121	11	円	16×16	—	灰色(7.5Y4/1) 砂混じりシルト質粘土（植物遺体含む）	
122	12	円	21×24	—	オリーブ黒色(5Y3/2) 砂混じりシルト質粘土(植物遺体含む)	
123	12	円(欠)	24×(10)	9.0	暗オリーブ灰色(5GY4/1) 砂混じり粘土質シルト（植物遺体含む）	
124	12	楕円(欠)	32×(40)	17.0	オリーブ黒色(5Y3/2) 砂混じりシルト質粘土	
125	12	楕円	30×20	21.0	暗オリーブ灰色(5GY4/1) 砂混じり粘土質シルト（植物遺体含む）	W-9
126	12	楕円	22×30	15.0	暗オリーブ灰色(5GY4/1) 砂混じり粘土質シルト（植物遺体含む）	
127	12	不定形	22×60	—	灰色(7.5Y4/1) 砂混じり粘土質シルト（植物含む）	W-14
128	12	不定形	14×20	8.0	暗オリーブ灰色(5GY4/1) 砂混じり粘土質シルト粘土（植物遺体、炭含む）	
129	11	楕円	30×25	12.0	暗オリーブ灰色(5GY4/1) 砂混じり粘土質シルト粘土（植物遺体、炭含む）	W-16
130	11	楕円	15×20	9.0	オリーブ黒色(5Y3/2) 砂混じりシルト質粘土(植物遺体含む)	

番号	地区名	形　状	規模(cm)	深(cm)	土　　色	遺　　物
131	11	不定形	(30)×26	6.0	a. オリーブ黒色(7.5Y3/2)砂混じりシルト質粘土 b. 黒褐色(2.5Y3/2)砂混じり粘土質シルト	
132	11	不定楕円	84×42	12.0	灰色(7.5Y4/1)砂混じりシルト質粘土（炭、植物遺体含む）	W-86
133	11	楕円(欠)	20×(22)	5.0	暗オリーブ灰色(5GY4/1)砂混じりシルト質粘土	
134	11	楕円	19×24	7.0	オリーブ黒色(5Y3/2)砂混じりシルト質粘土（炭、植物遺体含む）	W-52
135	11	楕円	34×26	11.0	暗オリーブ灰色(2.5GY4/1)粘土質シルト（炭、植物遺体含む）	
136	11	楕円(欠)	19×(20)	—	オリーブ黒色(5Y3/1)砂混じりシルト質粘土（植物遺体含む）	
137	11	不定形	(10)×16	12.0	オリーブ黒色(7.5Y3/1)砂混じりシルト質粘土（植物遺体含む）	W-43
138	11	円(欠)	20×23	7.0	灰色(5Y4/1)砂混じりシルト質粘土（植物遺体、炭含む）	
139	11	円(欠)	(25)×33	5.0	オリーブ黒色(7.5Y3/1)砂混じりシルト質粘土（炭、植物遺体含む）	
140	11	不定形(欠)	28×(46)	—	黒色(7.5Y2/1)砂混じりシルト質粘土（炭、植物遺体含む）	
141	11	円(欠)	24×(17)	7.0	灰色(5Y4/1)砂混じりシルト質粘土	
142	11	楕円(欠)	(13×20)	—	暗オリーブ灰色(5GY4/1)シルト質粘土（植物遺体含む）	
143	11	楕円(欠)	32×(16)	—	オリーブ黒色(5Y3/2)砂混じりシルト質粘土（炭、植物遺体含む）	W-34
144	11	円(欠)	(12)×21	6.0	暗オリーブ灰色(2.5Y3/1)砂混じりシルト質粘土（炭、植物遺体含む）	
145	11	円(欠)	(19)×29	8.0	暗オリーブ灰色(2.5Y4/1)砂混じりシルト質粘土（炭、植物遺体含む）	
146	11	円(欠)	18×(13)	—	オリーブ黒色(10Y2/1)砂混じりシルト質粘土（炭、植物遺体含む）	
147	11	楕円	40×46	5.0	オリーブ黒色(10Y2/1)砂混じりシルト質粘土（炭、植物遺体含む）	
148	11	楕円	43×17	6.0	暗オリーブ灰色(2.5GY4/1)砂混じりシルト質粘土(植物遺体含む)	
149	1112	楕円	49×32	16.0	オリーブ黒色(7.5Y3/1)砂混じりシルト質粘土（炭、植物遺体含む）	
150	11	不定形	27×14	—	灰色(10Y4/1)砂混じりシルト質粘土（炭、植物遺体含む）	
151	11	楕円	20×22	5.0	暗オリーブ灰色(2.5GY3/1)砂混じりシルト質粘土（植物遺体含む）	
152	11・12	楕円	29×18	—	灰色(10Y4/1)砂混じりシルト質粘土（植物遺体、炭含む）	
153	12	円	70×70	16.0	灰色(10Y4/1)砂混じりシルト質粘土（植物遺体、炭含む）	W-5
154	12	楕円(欠)	18×(11)	—	灰色(7.5Y4/1)砂混じりシルト質粘土（植物遺体含む）	
155	12	楕円(欠)	20×(14)	—	灰色(7.5Y4/1)砂混じりシルト質粘土（植物遺体含む）	
156	12	楕円	22×17	7.0	灰色(5Y4/1)砂混じりシルト質粘土（植物遺体、炭含む）	W-6
157	12	不定形	67×72	11.0	オリーブ黒色(7.5Y3/1)シルト質粘土（砂少し、植物遺体含む）	W-7・10
158	12	楕円	19×10	—	暗オリーブ灰色(5GY4/1)砂混じりシルト質粘土（植物遺体含む）	
159	12	不定形	28×19	—	暗オリーブ灰色(5GY4/1)砂混じりシルト質粘土（植物遺体、炭含む）	
160	12	円(欠)	(16×6)	8.0	オリーブ黒色(7.5Y3/2)砂混じりシルト質粘土	
161	12	円(欠)	(16×4)	8.0	a. オリーブ黒色(7.5Y3/2)砂混じりシルト質粘土 b. 灰色(7.5Y4/1)シルト質粘土	
162	12	円(欠)	(10)×14	—	暗オリーブ灰色(5GY4/1)砂混じりシルト質粘土（灰、植物遺体含む）	
163	12	円	16×14	—	灰色(5Y4/1)砂混じりシルト質粘土（植物遺体含む）	
164	11・12	楕円(欠)	22×(21)	13.0	a. オリーブ黒色(5Y3/1)砂混じり粘土質シルト(やや粘質) b. 灰色(7.5Y4/1)粘土（少し砂混じる） c. 黄灰色(2.5Y4/1)砂混じりシルト質粘土、黄褐色(10YR5/6) d. オリーブ黒色(5Y3/2)粘土（少し砂混じる）	木片
165	12	不定形(欠)	(27)×30	—	灰色(7.5Y3/1)砂混じりシルト質粘土（植物遺体含む）	
166	11・12	不定形(欠)	42×(32)	12.0	暗オリーブ灰色(5GY4/1)砂混じりシルト質粘土（植物遺体、炭含む）	
167	12	円	10×10	4.0	暗オリーブ灰色(5GY4/1)砂混じりシルト質粘土（植物遺体、炭含む）	

番号	地区名	形　状	規模(cm)	深(cm)	土　　色	遺　　物
168	12	不定形	17×11	6.0	黒色(2.5GY2/1)砂混じりシルト質粘土(植物遺体含む)	
169	欠番					
170	1112	不定形	38×28	12.0	暗オリーブ灰色(2.5GY3/1)砂混じりシルト質粘土（植物遺体、炭含む）	
171	11	楕円(欠)	20×20	8.0	オリーブ黒色(7.5GY3/1) 砂混じりシルト質粘土（植物遺体、炭含む）	
172	11	円(欠)	30×(24)	6.0	灰色(7.5Y3/1) 砂混じりシルト質粘土（植物遺体、炭含む）	
173	11	不定形(欠)	56×(36)	18.0	オリーブ黒色(7.5GY3/1) 砂混じりシルト質粘土（植物遺体、炭含む）	W-38
174	11	不定形	41×22	16.0	暗オリーブ灰色(2.5GY3/1) 砂混じりシルト質粘土	W-36
175	11	円(欠)	18×(13)	—	暗オリーブ灰色(5GY4/1) 砂混じりシルト質粘土（植物遺体含む）	
176	11	不定形	27×36	14.0	灰色(7.5Y4/1) 砂混じりシルト質粘土（炭、植物遺体含む）	W-53
177	11	不定形	56×61	8.0	オリーブ黒色(7.5GY3/1) 砂混じりシルト質粘土（植物遺体、炭含む）	
178	11	不定形	70×33	9.2	暗オリーブ灰色(2.5GY4/1) 砂混じりシルト質粘土（植物遺体含む）	
179	11	不定形	32×26	6.0	オリーブ黒色(7.5Y3/1) 砂混じりシルト質粘土（炭、植物遺体含む）	
180	11	不定形	28×24	—	暗オリーブ灰色(2.5GY4/1) 砂混じりシルト質粘土（植物遺体、炭含む）	
181	11	楕円(欠)	27×(18)	—	灰色(7.5Y4/1) 砂混じりシルト質粘土（植物遺体、炭含む）	
182	11	円(欠)	(25)×33	—	暗オリーブ灰色(5GY4/1) 砂混じりシルト質粘土（植物遺体含む）	
183	11	楕円(欠)	16×(20)	—	黒(7.5Y2/1) 砂混じりシルト質粘土（植物遺体、炭含む）	
184	11	円?(欠)	(2)×20	12.0	暗オリーブ灰色(2.5GY4/1) 砂混じりシルト質粘土（炭、植物遺体含む）	W-51
185	11	円	15×12	11.0	黒色(5Y2/1) 砂混じりシルト質粘土（炭、植物遺体含む）	W-44
186	11	楕円(欠)	(14×22)	4.0	暗オリーブ灰色(2.5GY4/1) 砂混じりシルト質粘土（炭、植物遺体含む）	
187	11	不定形	(32)×33	21.0	暗オリーブ灰色(2.5GY4/1) 砂混じりシルト質粘土（炭、植物遺体含む）	W-48
188	7	円(欠)	22×(16)	35.0	a. オリーブ黒色(5Y3/1)シルト質粘土 b. オリーブ黒色(7.5Y3/1)粘土	
189	7	円	13×14	8.0	灰色(7.5Y5/1)砂混じり粘土質シルト(植物遺体含む)	
190	7	不定形	27×30	5.0	灰オリーブ色(5Y5/2)砂混じり粘土質シルト（植物遺体、炭含む）	
191	7	楕円	19×30	5.0	灰色(7.5Y5/1)砂混じり粘土質シルト(植物遺体含む)	
192	9	不定形	44×23	6.0	オリーブ黒色(7.5Y3/1)砂混じりシルト質粘土（炭、植物遺体含む）	
193	9・10	不定形	17×32	8.0	黒色(7.5Y2/1)砂混じり粘土質シルト（炭、植物遺体含む）	
194	9・10	円	19×21	8.0	オリーブ黒色(7.5Y3/1)砂混じりシルト質粘土（植物遺体、炭含む）	
195	10	円	8×8	8.0	黒色(2Y2/1)砂混じりシルト質粘土（炭、植物遺体含む）	
196	10	楕円(欠)	19×90	4.0	灰色(7.5Y4/1)砂混じりシルト質粘土	溝状遺構
197	9	楕円(欠)	27×21	11.0	オリーブ黒色(7.5Y3/1)砂混じりシルト質粘土（植物遺体、炭含む）	
198	9・10	円	16×16	7.0	オリーブ黒色(7.5Y3/1)砂混じりシルト質粘土（植物遺体、炭含む）	
199	12	円(欠)	45×22	4.0	a. オリーブ黒色(7.5Y3/2)砂混じりシルト質粘土(植物遺体、炭含む) b. 木 上部:褐色(10YR4/4)とコゲ、下部:黄褐色(10YR5/6)	弥生土器、W-1
200	12	不定楕円	50×32	13.0	オリーブ黒色(7.5Y3/1)砂混じりシルト質粘土	
201	11・12	円	11×11	6.0	オリーブ黒色(10Y3/1)砂混じりシルト質粘土	
202	12	不定楕円	32×21	11.0	オリーブ黒色(7.5Y3/1)砂混じりシルト質粘土	
203	12	円	17×17	8.0	オリーブ黒色(10Y3/1)砂混じりシルト質粘土	
PA	7	—	15×—	11.5	灰色(5Y4/1)砂混じりシルト質粘土(植物遺体含む)	
PB	7	—	10×—	21.0	黒褐色(2.5Y3/1)砂混じりシルト質粘土(植物遺体含む)	
PC	8	—	18×—	27.0	オリーブ黒色(5Y3/1)砂混じりシルト質粘土(植物遺体含む)	
PD	10	—	32×—	29.5	灰色(10Y4/1)砂混じり粘土	杭?片
PE	10	—	9×—	17.5	a. オリーブ黒色(7.5Y3/1)砂混じりシルト質粘土（植物遺体含む） b. 黒褐色(2.5Y3/2)砂混じり粘土	

番号	地区名	形　状	規模(cm)	深(cm)	土　　色	遺　　物
PF	11	—	30×—	34.0	a. オリーブ黒色(7.5Y3/2)砂混じりシルト質粘土 b. オリーブ黒色(5Y3/1)シルト質粘土(炭混じる)	
PG	11	—	47×—	23.0	オリーブ黒色(7.5Y3/2)砂混じりシルト質粘土	
PH	11	—	16×—	27.5	a. オリーブ黒色(7.5Y3/2)砂混じりシルト質粘土 b. 灰色(10Y4/1)シルト質粘土(炭混じる)	
PI	11	—	7.5×—	8.5	オリーブ黒色(7.5Y3/2)砂混じりシルト質粘土	
PJ	11	—	21×—	12.0	a. オリーブ黒色(7.5Y3/2)砂混じりシルト質粘土 b. 黒褐色(2.5Y3/1)砂混じり粘土	
PK	12	—	7×—	10.0	オリーブ黒色(7.5Y3/2)砂混じりシルト質粘土	
PL	12	—	25×—	12.5	a. 褐色(10YR4/4)粘土質シルト b. オリーブ灰色(5Y3/2)粘土質シルト(やや粘質) c. オリーブ黒色(5Y3/1)シルト質粘土	木片
PM	11	—	10×—	5.0	オリーブ黒色(7.5Y3/2)砂混じりシルト質粘土	

土坑

番号	地区名	形　状	規模(cm)	深(cm)	土　　色	遺　　物
6	12	—	147×48	15.0	黒色(10Y2/1)シルト質粘土（炭、植物遺体含む）	弥生土器、焼土塊
7	11	不定形	77×(78)	14.0	オリーブ黒色(7.5Y3/1)砂混じりシルト質粘土（炭、植物遺体、焼土、緑灰色5G5/1粘土含む）	弥生土器、サヌカイト
8	11	楕円	53×47	18.0	オリーブ黒色(10Y3/1)シルト質粘土（植物遺体、炭含む）	弥生土器、削器、サヌカイト、W-54
9	11	楕円	79×41	18.0	オリーブ黒色(7.5Y3/1)砂混じりシルト質粘土（植物遺体、炭含む）	W-55
10	10	不定形	140×(83)	13.0	オリーブ黒色(5Y3/1)砂混じりシルト質粘土（炭、植物遺体多く含む）	弥生土器、石錘、W-61・62
11	10	楕円	66×34	34.0	黒色(7.5Y2/1)シルト質粘土（炭、植物遺体含む）	弥生土器
12	9	不定形	46×(37)	5.0	灰色(5Y4/1)砂混じりシルト質粘土（植物遺体、炭含む）	弥生土器
13	欠番					
14	9	不定方形	68×76	16.0	灰色(7.5Y4/1)砂混じりシルト質粘土（炭、植物遺体含む）	弥生土器
15	8	不定形	66×23	9.0	オリーブ黒色(7.5Y3/1)シルト質粘土（炭、植物遺体含む）	弥生土器、W-66
16	7	不定楕円	155×116	23.0	オリーブ黒色(5Y3/2)砂混じりシルト質粘土（炭、植物遺体含む）	弥生土器、W-75
17	8・9	円(欠)	137×(112)	35.0	オリーブ黒色(10Y3/1)砂・炭混じりシルト質粘土（焼土、灰少し含む）	弥生土器、軽石?、動物遺体
18	7	不定楕円	172×210	17.0	上：灰色(7.5Y5/1)砂混じりシルト質粘土 （明オリーブ灰色2.5GY7/1砂土ブロック含む） 下：灰色(7.5Y4/1)砂混じりシルト質粘土	弥生土器、W-79～81
19	8・9	長楕円	120×25	8.0	灰色(7.5Y4/1)砂混じりシルト質粘土	W-90
A	11	(楕円)	200×(80)	22.0	a. オリーブ黒色(7.5Y3/2)砂混じりシルト質粘土 b. 黒褐色(2.5Y3/2)砂混じり粘土質シルト c. 黒色(5Y2/1)砂混じり粘土質シルト	柱材等
大土坑	11・12	不定帆立形	500×700	20～50	黒褐色(10YR3/1)砂混じりシルト質粘土	弥生土器、石包丁、動物遺体、焼灰、焼土塊、石斧?、削器、磨製石器、サヌカイト

溝

番号	地区名	幅(cm)	長(cm)	深(cm)	土　　色	遺　　物
溝A	8	24～104	450～	—	灰色(7.5Y4/2)砂混じりシルト質粘土	弥生土器、W-70・72・74・95・99
溝B	7	16～68	145	7.0	灰色(10Y4/1)砂混じりシルト質粘土（植物遺体含む）、灰オリーブ(5Y6/2)シルト粒含む、暗緑灰色3/1粘土塊・粒含み、植物遺体、炭含む、上部に炭、植物遺体含む	弥生土器、W-93
溝C	7	33～105	410	23.0	上：灰色(7.5Y5/1)砂混じりシルト質粘土(炭、植物遺体含む) 下：灰色(10Y4/1)シルト質粘土（砂、植物遺体含む）	弥生土器、削木、W-73・94
溝D	7	50～70	525	10.0	上：オリーブ黒色(10Y3/1)砂、炭混じりシルト質土 （焼土、灰混じる） 下：灰色(7.5Y5/1)砂混じり粘土質シルト	弥生土器、削器、炭
大溝1	9・10	200～500	600～	25.0	灰色(5Y4/1)砂混じりシルト質粘土（植物遺体、炭混じる）	弥生土器、焼土塊、板状木製品、削器、サヌカイト、焼木、炭化物付着土器、木製把手付容器、石皿?、叩石?、杭、W-103
大溝2	8	1.60～110	520～	35.0	灰色(7.5Y4/1)砂混じり粘質シルト（植物遺体多く、炭混じる）	弥生土器、サヌカイト、炭、焼木、石鏃、板状木製品
大溝A	1～7	1,500～3,400	600～	60.0～	層位：(13)a・b・c、(14)	弥生土器、削器、木製品、円板状土製品、サヌカイト

4. 出土遺物

弥生時代～近世期の遺物が出土した。遺物は土器、木製品、石器、土製品、骨製品などがある。以下、各項目ごとに説明を記す。

1. 土器

各時代の遺構及び遺物包含層などに分けて記す。

1）弥生土器

弥生土器はⅠ～Ⅳ様式に分類する。Ⅲ様式とⅣ様式の土器は明確に分類できないのでⅢ～Ⅳ様式として扱う。Ⅱ～Ⅳ様式に分けられない土器は中期と記す。また、Ⅱ様式の中にはⅠ様式の可能性がある甕や鉢も含まれる。胎土中に石英・長石・角閃石・雲母を含むものを生駒西麓産とする。生駒西麓産の中には上記の鉱物が微粒や微量のものも含まれる。それ以外は非河内産で記す。色調は生駒西麓産が褐色～灰色、非河内産は乳白色～桃灰色が多い。また、本文中に調整法を記しているが、口縁部と裾端部のヨコナデ調整は普遍的なのであえて記さない。

遺構出土土器

大土坑（第16・17図1～33）

壷・細頸壷・甕・鉢・甕蓋の器種がある。

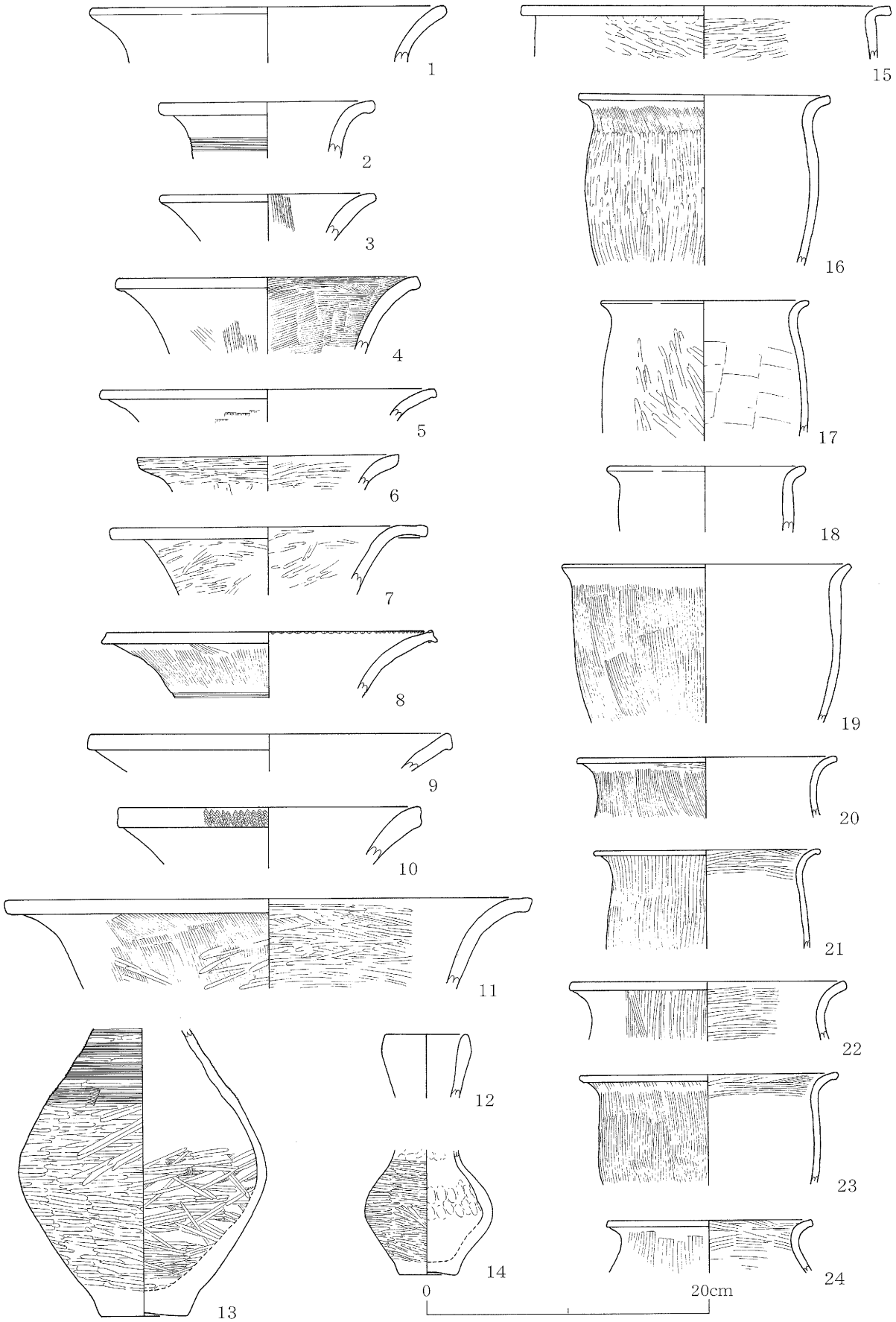
１～11・13・14は壷である。１～11は口頸部が大きく外上方に伸び、口縁端部が丸く終わるものと面を持つものがある。10は口縁端部に櫛描波状文、２・８は頸部に直線文を施す。また、８は口縁端部に刻み目を加える。３は口縁部内面に縦方向の直線文を施す。内外面はヘラミガキ調整やナデ調整が多い。13・14は壷の体部である。底部は平底である。13は体部上半に櫛描直線文を施す。Ⅱ様式。２・８は非河内産、他は生駒西麓産。

12は細頸壷である。口頸部が外上方に伸びた後、内湾する。口縁端部は丸く終わる。内外面はナデ調整する。中期。非河内産。

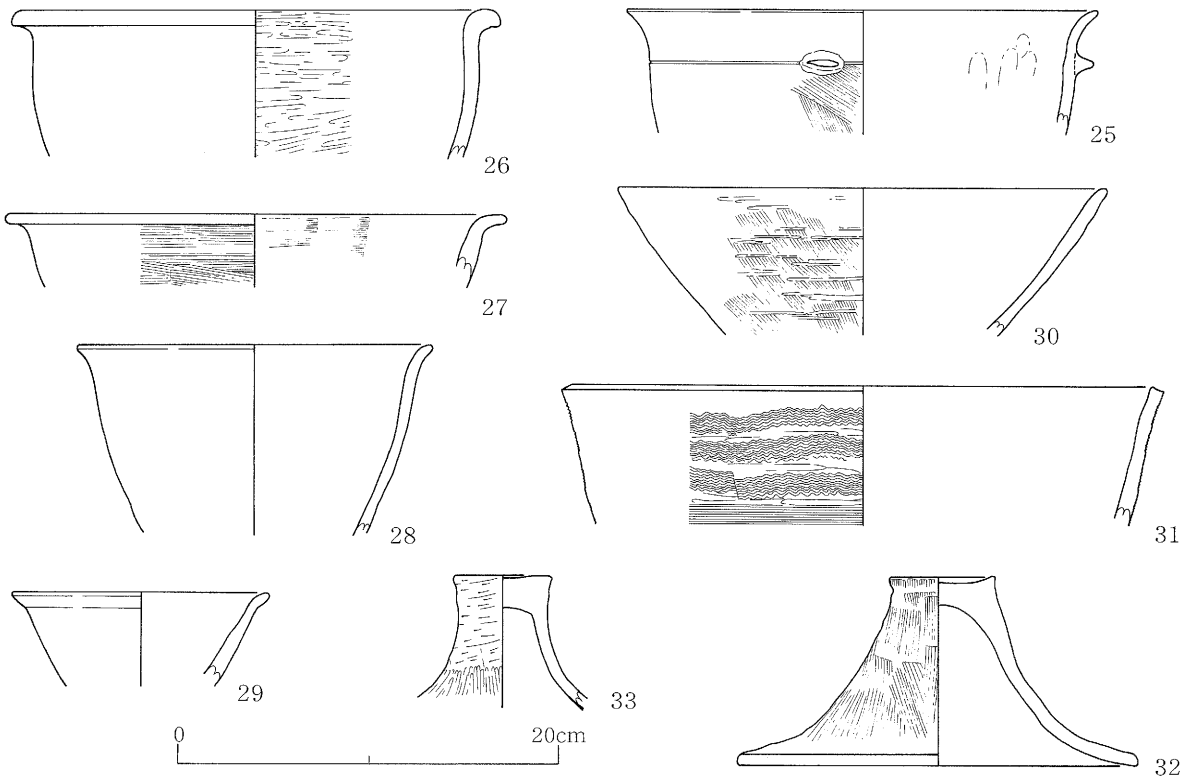
13～24は甕である。体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わるものとやや面を持つものがある。体部内外面はヘラミガキ調整やハケメ調整するものが多い。21～24は体部外面をハケメ調整、内面をナデ調整する。口縁部内面はヨコナデの後、横方向のハケメ調整する。Ⅱ様式。23は非河内産、他は生駒西麓産。

25～31は鉢である。25は体部の張りが少なく、口縁部が大きく外反する。口縁端部は丸く終わる。体部外面に１条のヘラ描沈線文を施した後、瘤上の握手を施す。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。25～29は体部の張りは少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部はやや面を持つものと丸く終わるものがある。体部内外面はナデ調整するものが多い。30・31は体部が外上方に伸び、口縁端部が丸く終わるものと面を持つものがある。所謂、直口の鉢である。30は体部外面をハケメの後ヘラミガキ調整、内面をナデ調整する。31は体部外面に櫛描波状文と直線文を施し、文様帯間を研磨する。体部内面はナデ調整する。25はⅠ様式、他はⅡ様式。生駒西麓産。

32・33は甕蓋である。32は体部の立ち上がりがゆるく、つまみ部に向かうにしたがい急になる。つまみ部は上面がやや凹む。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。口縁部内面にリング状の煤が付着する。33はつまみ部である。外面をヘラケズリの後ヘラミガキ調整、内面をナデ調整する。中期。32は非河内産、33は生駒西麓産。



第16図　大土坑出土土器実測図



第17図　大土坑出土土器実測図

土坑４（第18図34・35）

甕と高坏の器種がある。

34は甕である。体部の張りが少なく、口縁部が大きく外反する。口縁端部は外側へ巻き込み、丸く終わる。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。Ⅱ様式。非河内産。

35は高坏の脚部である。裾部の立ち上がりはゆるく、裾端部を上方は拡張する。内外面はハケメ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

土坑５（第18図36～39）

壷と高坏がある。

36～38は壷である。36・37は口頸部が大きく外反し、口縁端部を下方へ拡張する。口縁端部に櫛描波状文を施す。37は頸部に直線文を施す。36は外面をナデ調整、内面をハケメ調整する。38は内外面をヘラミガキ調整する。38は口頸部が大きく外反し、口縁端部を上下に大きく拡張する。幅広の面を持つ。口縁端部は櫛描簾状文を施した後、竹管文を加える。頸部にも簾状文を施す。内外面はナデ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。36は非河内産、他は生駒西麓産。

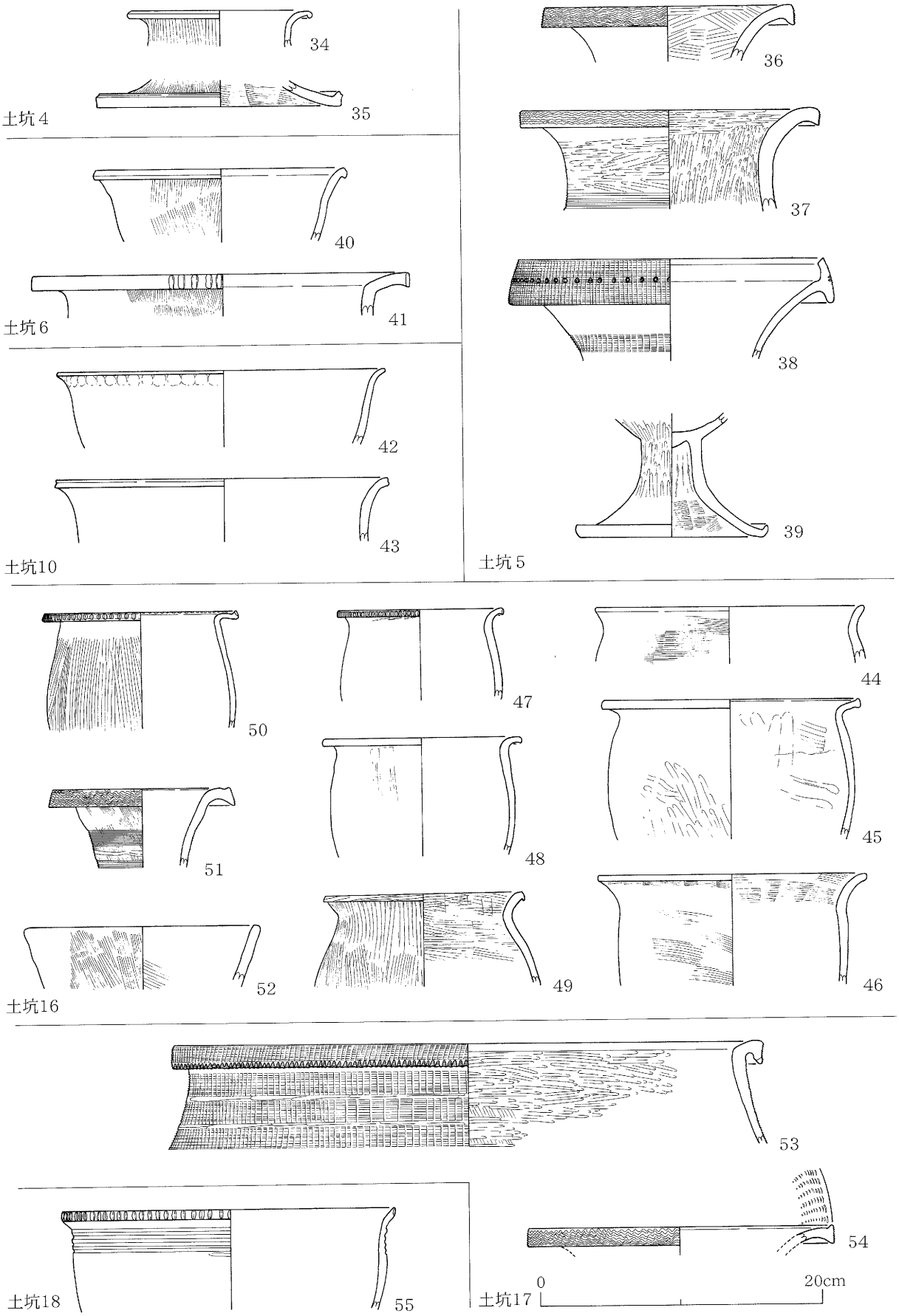
39は高坏の脚部である。裾部はゆるく立ち上がり、柱状部が中空で短い。裾端部は上方へ拡張する。外面は裾部がナデ調整、柱状部より上をヘラミガキ調整する。内面はハケメ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

土坑６（第18図40・41）

鉢と甕の器種がある。

40は鉢である。体部の張りが少なく、口縁部が短く外反する。口縁端部は丸く終わる。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。Ⅱ様式。生駒西麓産。

41は甕である。体部の張りが少なく、口縁部が大きく外反する。口縁端部は面を持つ。口縁端部に刻め目を施す。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。中期。生駒西麓産。



第18図　土坑4・5・6・10・16・17・18出土土器実測図

土坑10（第18図42・43）

鉢と甕がある。

42は鉢である。体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。体部外面はナデ調整する。口縁部と体部外面の境に指頭圧痕が残る。Ⅱ様式。生駒西麓産。

43は甕である。口縁部が大きく外反し、口縁端部が面を持つ。体部下半は欠損するが、紀伊型の甕の可能性がある。Ⅱ様式。非河内産。

土坑16（第18図44～52）

甕・壷・鉢の器種がある。

44～50は甕である。44～48は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わるものとやや面を持つものがある。47は口縁端部に刻み目を施す。49は体部の張りが大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つ。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。口縁部内面はヨコナデの後、横方向のハケメ調整する。50は体部がやや張り、口縁部が外折する。口縁端部は上方に摘み上げ気味に拡張する。口縁端部に刻み目を施す。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。44～48はⅡ様式、49は中期、50はⅢ～Ⅳ様式。47・48は非河内産、他は生駒西麓産。

51は壷である。頸部が大きく外上方に伸び、口縁部が強く外反する。口縁端部は下方へ拡張する。口縁端部に櫛描波状文、頸部に直線文を施す。文様帯間は研磨する。外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

52は鉢である。体部が外上方に伸び、口縁端部が丸く終わる。所謂、直口の鉢である。外面はハケメ調整、内面はハケメの後ナデ調整する。Ⅱ様式。生駒西麓産。

土坑17（第18図53・54）

鉢と壷の器種がある。

53は鉢である。体部が内傾する。口縁端部が下方へ折れ曲がる。口縁端部に刻み目と櫛描簾状文、体部に簾状文を施す。文様帯間は研磨する。内面はヘラミガキ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

54は壷である。口縁端部を上方に摘み上げ気味に拡張する。口縁端部に櫛描波状文、口縁部内面に扇形文を施す。Ⅲ～Ⅳ様式。非河内産。

土坑18（第18図55）

55は甕である。体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部はやや面を持つ。口縁端部に刻み目、体部に４条のヘラ描沈線文を施す。体部内外面はナデ調整する。Ⅰ様式。生駒西麓産。

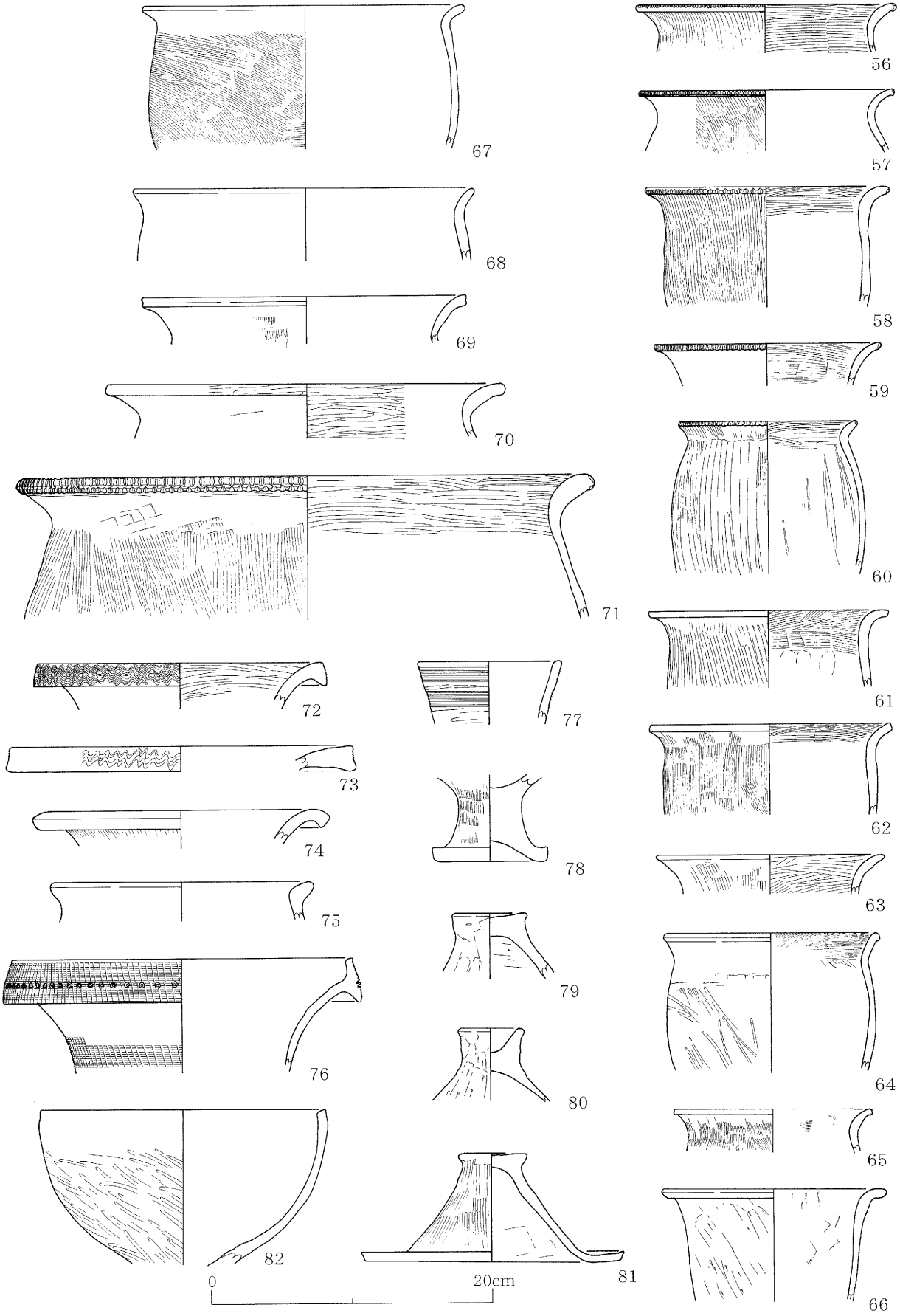
大溝１（第19図56～82）

甕・壷・細頸壷・高坏・甕蓋・鉢の器種がある。

56～71は甕である。56～63・71は体部の張りが少なく、口縁部が大きく外反する。口縁端部は丸く終わるものとやや面を持つものがある。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。口縁部内面はヨコナデの後、横方向のハケメ調整する。56～60・71は口縁端部に刻み目を施す。64～70は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わるものが多い。Ⅱ様式。56・58・61・71は非河内産、他は生駒西麓産。

72～76は壷である。72～74は口縁端部を下方へ拡張する。72・73は口縁端部に櫛描波状文を施す。75は口縁部が短く外反し、口縁端部が内側は肥厚して丸く終わる。76は口頸部が大きく外上方に伸び、口縁端部を上下に大きく拡張する。幅広の面を持つ。口縁端部に櫛描簾状文と竹管文、頸部に簾状文を施す。内外面はナデ調整する。75は中期、他はⅢ～Ⅳ様式。72・73は非河内産、他は生駒西麓産。

77は細頸壷である。口頸部が外上方に伸びる。口縁端部はやや丸く終わる。外面に櫛描直線文を施



第19図　大溝１出土土器実測図

す。文様帯間は研磨する。Ⅱ様式。生駒西麓産。

78は高坏で扱うが他の器種の可能性もある。裾部の立ち上がりはゆるく、内面がわずかに凹む。裾端部は面を持つ。外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。中期。生駒西麓産。

79～81は甕蓋である。79・80はつまみ部である。上面が凹む。81は口縁部が水平に伸びた後、急に立ち上がる。口縁端部は面を持つ。円形のつまみが付く。外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。口縁部内面にリング状の煤が付着する。中期。79は生駒西麓産、他は非河内産。

82は鉢である。体部が内湾気味に立ち上がり、口縁端部がやや面を持つ。所謂、直口の鉢である。体部外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。Ⅱ様式。生駒西麓産。

大溝２（第20図83～87）

壷・細頸壷・甕・鉢の器種がある。

83～85は壷である。口縁部が大きく外反し、口縁端部がやや面を持つ。内外面はヘラミガキ調整やナデ調整するものが多い。Ⅱ様式。84は生駒西麓産、他は非河内産。

86は細頸壷である。口頸部が内湾気味に立ち上がる。口縁端部は丸く終わる。内外面はヘラミガキ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

87は甕である。口縁部が強く外反し、口縁端部がやや面を持つ。口縁端部に刻み目を施す。中期。生駒西麓産。

88は鉢である。体部は内傾する。口縁端部は段を持つ。口縁端部と体部に櫛描簾状文を施す。文様帯間は研磨する。体部外面はヘラミガキ調整する。内面は上半をヘラミガキ調整、下半をハケメ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

溝３（第20図89・90）

鉢と甕がある。

89は鉢である。体部の張りが少なく、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つ。体部外面はハケメ調整、内面はハケメの後ナデ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

90は甕である。体部の張りが少なく、口縁部が短く外反する。口縁端部はやや面を持つ。体部外面はヘラミガキ調整、内面はハケメ調整する。Ⅱ様式。生駒西麓産。

溝６（第20図91）

91は甕である。体部の張りが大きく、口縁端部を下方へ拡張する。体部外面はヘラミガキ調整、内面はハケメの後ヘラミガキ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

溝Ｂ（第20図92～94）

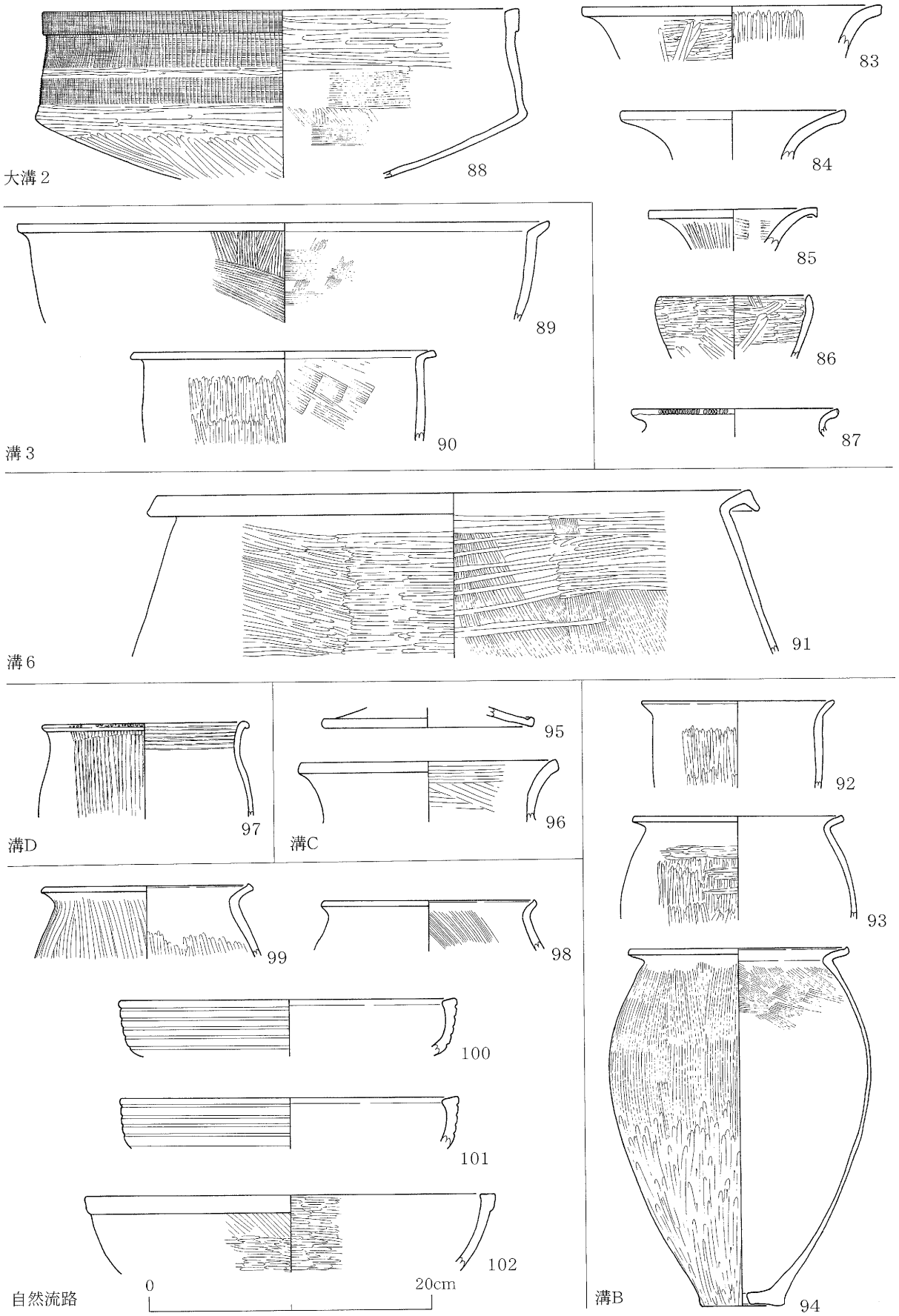
92～94は甕である。92は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。体部外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。93は体部の張りが大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つ。体部外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。94は平底の底部である。体部の張りが大きく、口縁部が外折する。口縁端部は上方に摘み上げ気味に拡張する。体部外面は上半をハケメ調整、下半をヘラミガキ調整する。内面は上半をハケメ調整、下半をナデ調整する。底部に小円孔を穿つ。92はⅡ様式、他はⅢ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

溝Ｃ（第20図95・96）

甕蓋と壷がある。

95は甕蓋である。体部の立ち上がりはゆるく、口縁端部はやや丸く終わる。調整法は不明。中期。生駒西麓産。

96は壷である。口縁部が大きく外反する。口縁端部はやや面を持つ。口縁部内面はハケメ調整する。



第20図　大溝2、溝3・6・B・C・D、自然流路出土土器実測図

Ⅱ様式。非河内産。

溝D（第20図97）

97は甕である。体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は外側へ巻き込み、丸く終わる。口縁端部に刻み目を施す。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。口縁部内面はヨコナデの後、横方向のハケメ調整する。Ⅱ様式。非河内産。

自然流路（第20図98～102）

甕と高坏がある。

98・99は甕である。体部の張りが大きく、口縁端部が強く外反する。口縁端部は面を持つ。98は体部外面をナデ調整、内面をハケメ調整する。99は体部外面をハケメ調整、内面をヘラミガキ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

100～102は高坏である。口縁部が内湾気味に立ち上がる。100・101は口縁端部が面を持ち、外面に凹線文を施す。内面はナデ調整する。102は口縁端部が段を持つ。外面はハケメの後ヘラミガキ調整、内面はヘラミガキ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。102は生駒西麓産、他は非河内産。

落ち込み（第21図103～141）

壷・高坏・壷蓋・甕蓋・鉢・甕の器種がある。

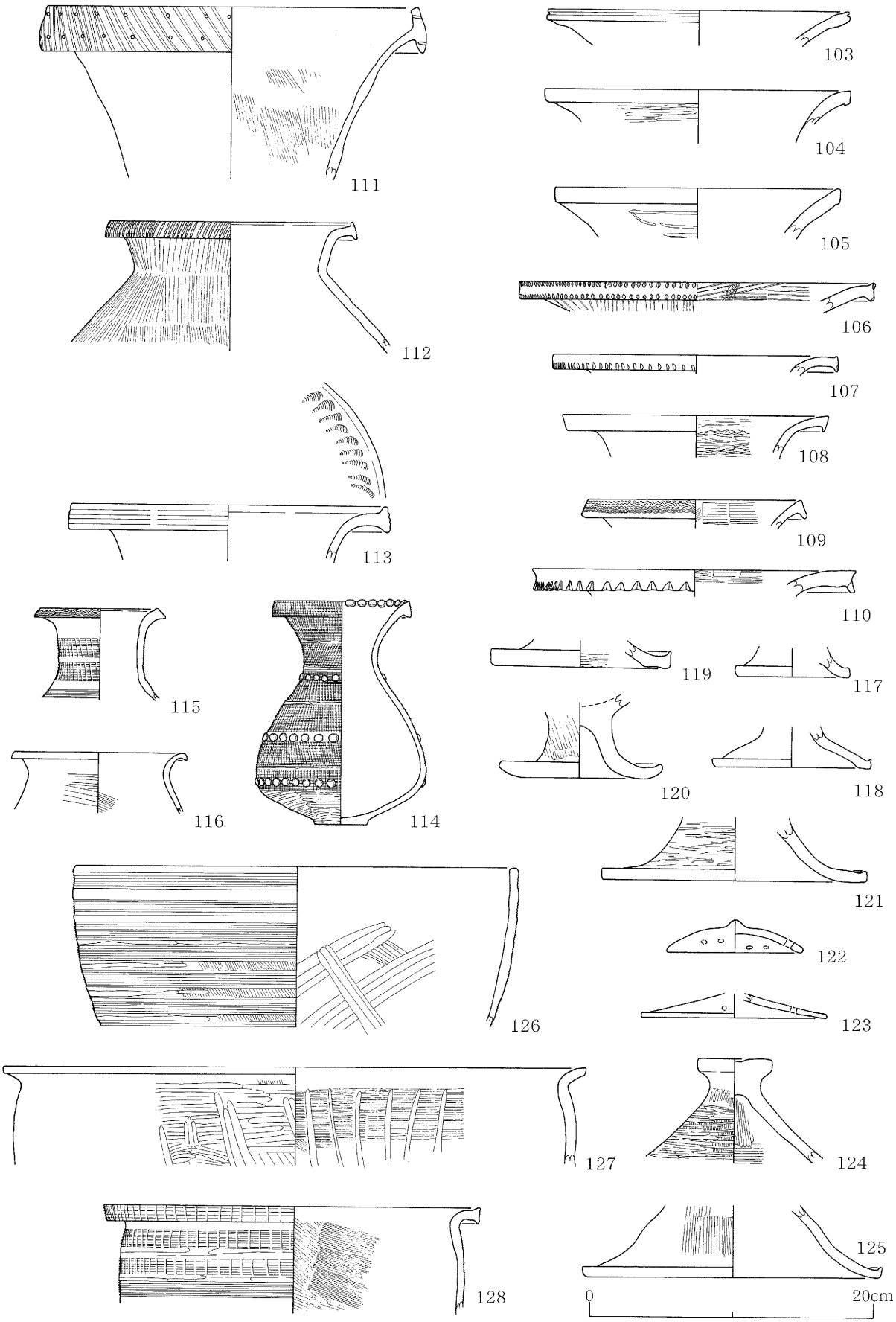
103～116は壷である。103は口縁部が大きく外上方に伸びる。口縁端部は面を持つ。口縁端部に1条のヘラ描沈線文を施す。104・105は口縁部が大きく外反し、口縁端部がやや面を持つ。外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。106・107・112・113は口縁部が大きく外反し、口縁端部を上方に摘み上げ気味に拡張する。口縁端部に刻み目、櫛描文様、凹線文などを施す。106は口縁部内面に縦方向の櫛描直線文、113は扇形文を施す。108～110・114・115は口縁端部を下方へ拡張する。口縁端部に刻み目や櫛描文様を施すものが多い。114は小形でほぼ完形の資料である。底部は平底を呈する。体部の張りは下位にあり、口頸部が大きく外反する。口縁端部と体部に櫛描簾状文を施した後、3帯の円形浮文を廻らす。口縁部内面にも1帯の円形浮文を施す。文様帯間は研磨する。体部外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。111は口頸部が大きく外上方に伸び、口縁端部を上下に大きく拡張する。幅広の面を持つ。口縁端部に原体数2本の櫛描直線文を縦方向に施した後、2列の円形刺突文を施す。口頸部外面はナデ調整、内面はハケメの後ナデ調整する。116は口頸部が短く、口縁端部を下方へ拡張する。無文の壷である。内外面はハケメ調整する。103はⅠ様式、104・105はⅡ様式、他はⅢ～Ⅳ様式。104・107・112・113は非河内産、他は生駒西麓産。

117～121は高坏の脚部である。120は他の器種の可能性もある。117～119は裾部がゆるく立ち上がり、裾端部が面を持つ。120は柱状部が短く、裾端部が丸く終わる。Ⅲ～Ⅳ様式。119は非河内産、他は生駒西麓産。

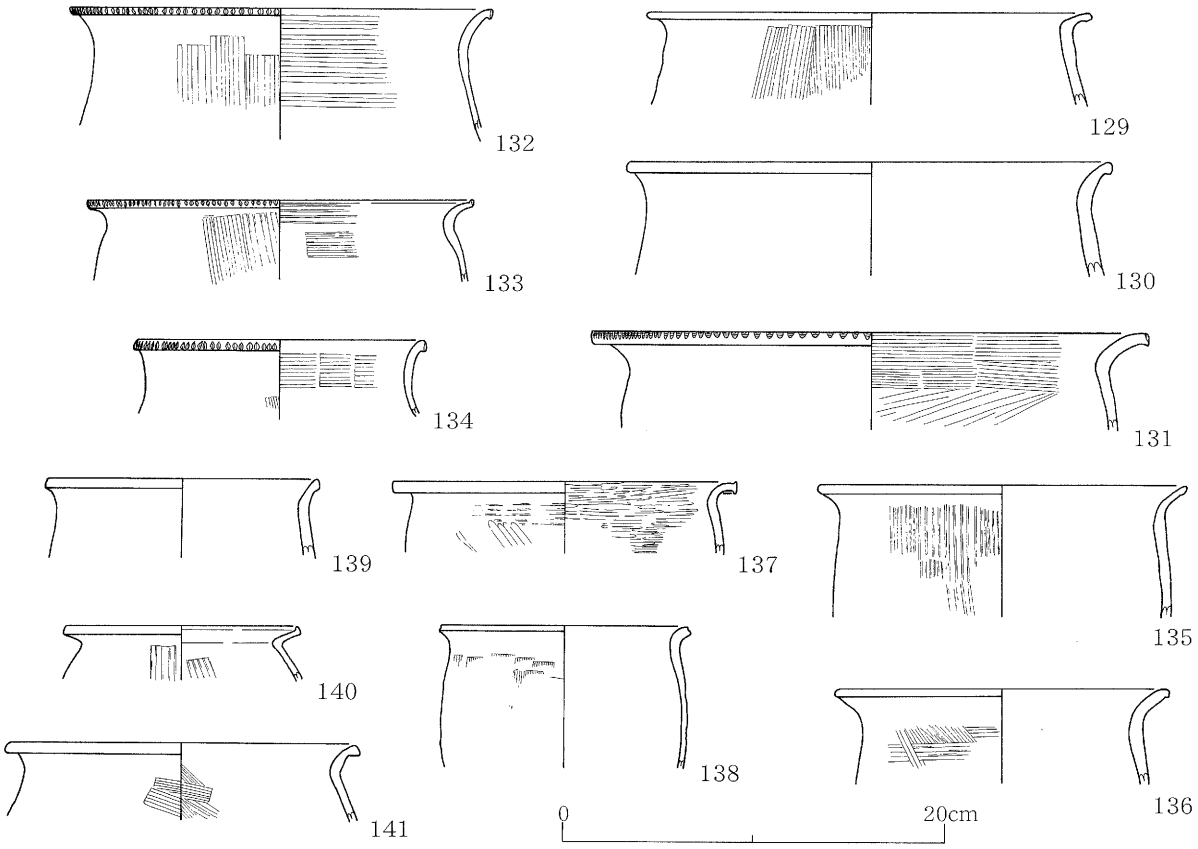
122・123は壷蓋である。122は体部が内湾気味に立ち上がる。口縁端部は丸く終わる。乳状のつまみが付く。2ヶ1対の小円孔を穿つ。内外面はナデ調整する。123は体部がゆるく立ち上がり、口縁端部が丸く終わる。調整法は不明。2ヶ1対の小円孔を穿つ。122は中期、123はⅢ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

124・125は甕蓋である。124はつまみ部である。円形を呈する。内外面はハケメ調整の後ヘラミガキ調整する。125は裾部の立ち上がりが急である。口縁端部は面を持つ。外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。中期。生駒西麓産。

126～128は鉢である。126は体部がやや内湾気味に立ち上がり、口縁端部が丸く終わる。所謂、直口の鉢である。体部に櫛描直線文を施す。文様帯間は研磨する。体部外面はハケメ調整、内面はハケ



第21図　落ち込み出土土器実測図



第22図　落ち込み出土土器実測図

メの後ヘラミガキ調整する。127は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。体部内外面はハケメの後ヘラミガキ調整する。128は体部がやや内湾気味に立ち上がり、口縁部が下方へ折れ曲がる。口縁端部と体部に櫛描簾状文を施す。文様帯間は研磨する。内面はハケメ調整する。128はⅢ～Ⅳ様式、他はⅡ様式。生駒西麓産。

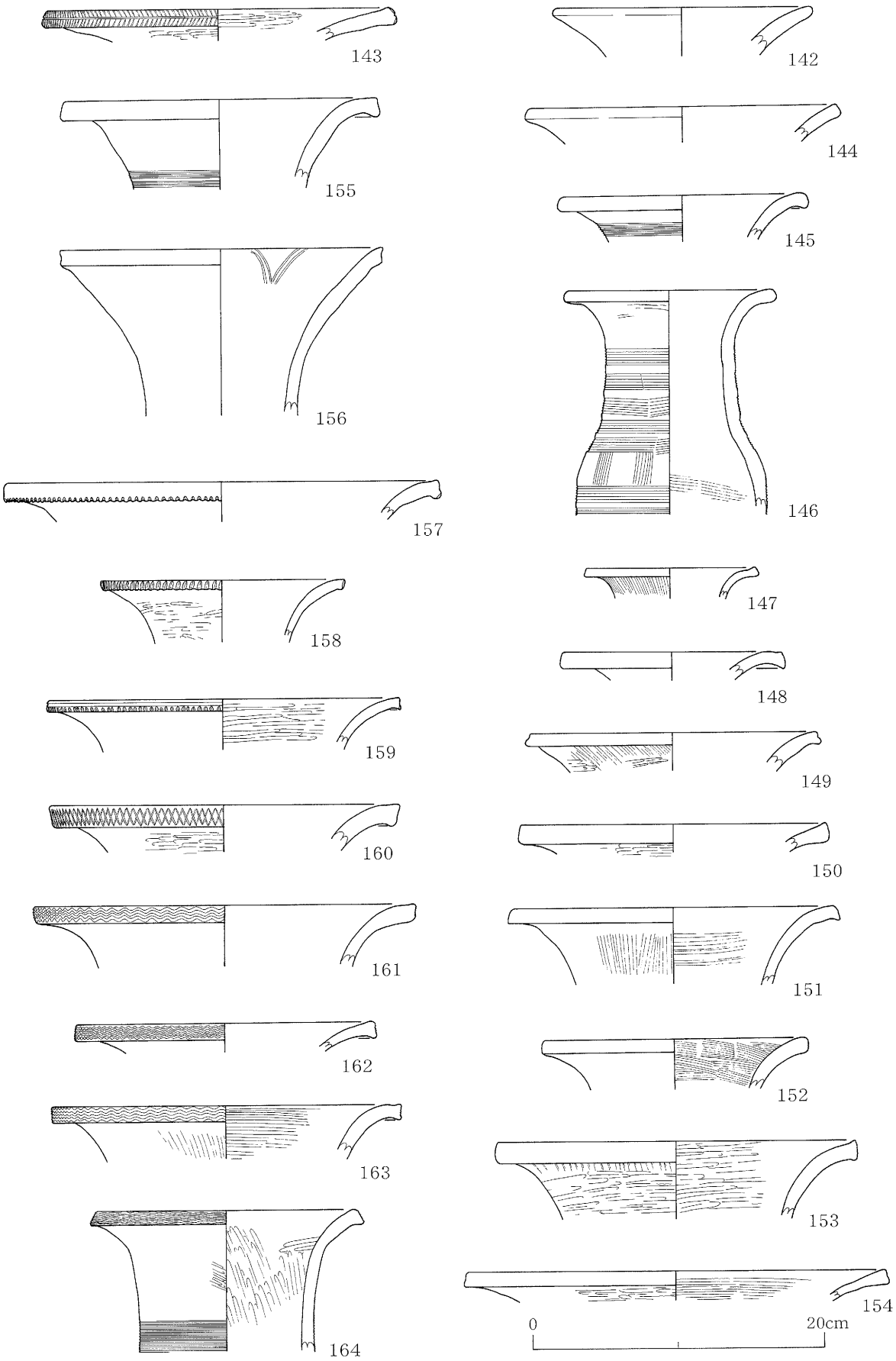
129～141は甕である。129・130・135～139は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わるものとやや面を持つものがある。131～134は体部の張りが少なく、口縁部が大きく外反する。口縁端部はやや面を持つ。口縁端部に刻み目を施す。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。口縁部内面はヨコナデの後、横方向のハケメ調整する。140は体部の張りが大きく、口縁部が外折する。口縁端部は上方へ摘み上げ気味に拡張する。体部内外面はハケメ調整する。141は体部の張りが大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つ。体部内外面はハケメの後ナデ調整する。140・141はⅢ～Ⅳ様式、他はⅡ様式。131～134・140は非河内産、他は生駒西麓産。

遺物包含層出土土器

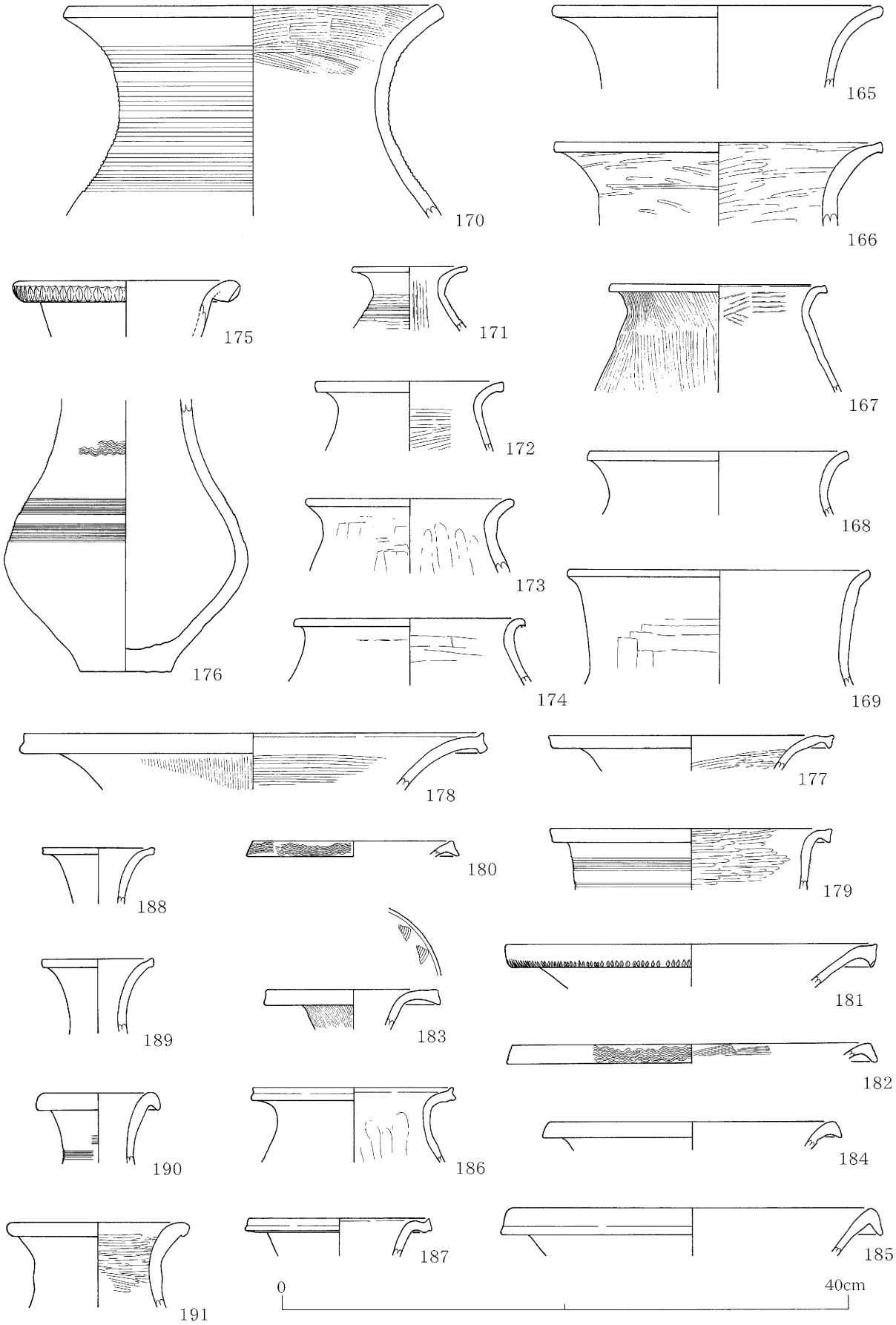
第13層（第23～33図142～383）

壷・無頸壷・細頸壷・水差形土器・甕蓋・脚部・鉢・高坏・壷蓋・甕がある。

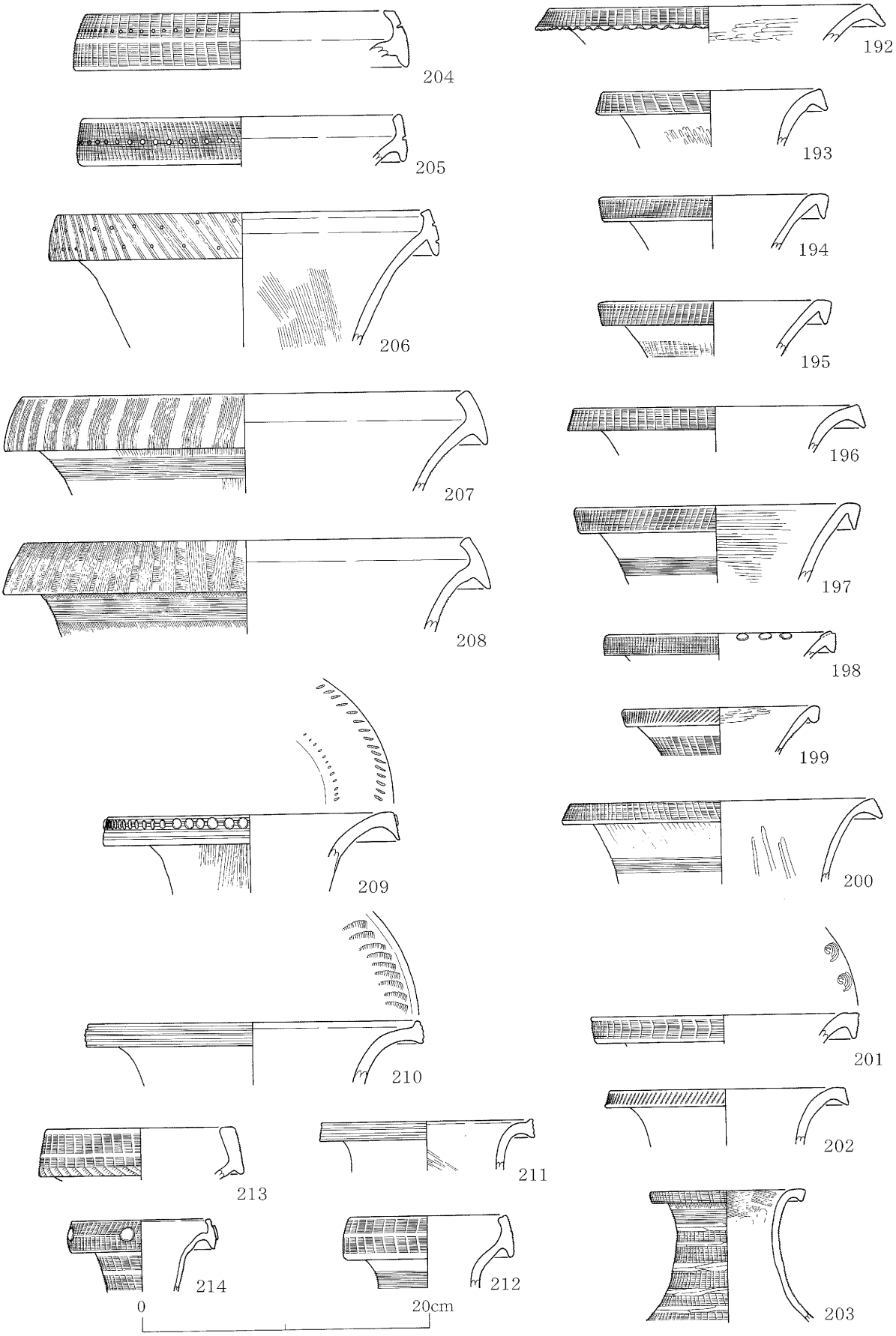
142～214は壷である。142・143は口縁部が大きく外上方に伸びる。口縁端部は丸く終わる。143は口縁端部にヘラ描綾杉文を施す。144～164・188・189は口頸部が大きく外反し、口縁端部が丸く終わるものとやや面を持つものがある。口縁端部は有文と無文のものがある。有文のものは刻み目、ヘラ描斜格子、櫛描波状文を施す。口頸部には櫛描直線文が多い。156は口縁部内面に縦方向の櫛描直線文を施す。188・189は小形の壷である。165～174は頸部が短く、口縁部が強く外反する。口縁



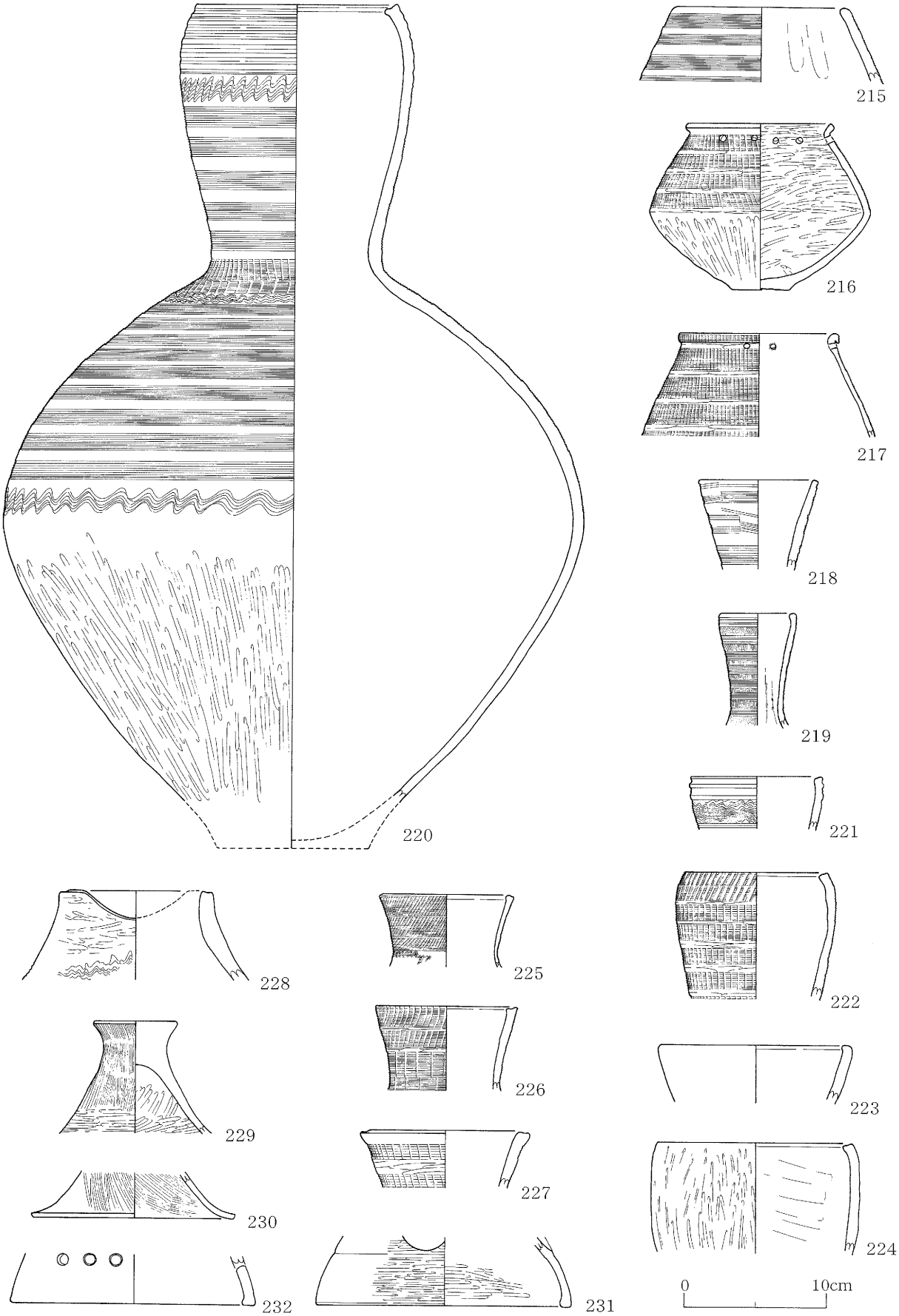
第23図　第13層出土土器実測図



第24図　第13層出土土器実測図



第25図　第13層出土土器実測図



第26図　第13層出土土器実測図

端部は丸く終わるものとやや面を持つものがある。無文のものが多いが、170・171は頸部から体部に櫛描直線文を施す。175は口縁部が外上方に伸び、口縁端部が外側へ大きく肥厚する。口縁端部に刻み目を施す。176は体部である。底部は平底を呈する。体部は中位でやや張る。頸部から体部に櫛描波状文と直線文を施す。外面の調整法は不明、内面はナデ調整する。177・179～185・190・191は口縁部が外上方に伸び、口縁端部を下方へやや拡張する。口縁端部は有文と無文がある。有文のものは刻み目や櫛描波状文を施す。179・190は頸部に櫛描直線文、183は口縁部内面に扇形文を施す。190・191は小形の壷である。178・186・187は口縁端部を上方へ摘み上げ気味に拡張する。無文である。192～203は口頸部が大きく外上方に伸び、口縁端部を下方へ拡張する。口縁端部と口頸部に櫛描文様を施す。簾状文が多い。198は口縁部内面に円形浮文、201は変形の扇形文を施す。204～208・212～214は口頸部が大きく外上方に伸び、口縁端部を上下に大きく拡張する。幅広の面を持つ。口縁端部と頸部に櫛描文様を施す。簾状文が多い。205は口縁端部に円形刺突文、214は円形浮文を加える。209は口縁部が大きく外反する。口縁端部は下方へ大きく拡張する。幅広の面を持つ。口縁端部は凹線文の上に円形浮文を貼り付ける。口縁部内面に２帯の櫛描列点文を施す。外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。210・211は口縁端部を上方へ摘み上げ気味に拡張する。口縁端部に凹線文を施す。210は口縁部内面にも櫛描扇形文を施す。142・143はⅠ様式、144～176はⅡ様式、他はⅢ～Ⅳ様式。146・152・153・163・172・178・181・183・209・210は非河内産、他は生駒西麓産。

215～217は無頸壷である。215は体部が内傾する。口縁端部は丸く終わる。体部外面に櫛描直線文を施す。体部内外面はナデ調整する。216は底部が平底である。体部は中位で張り、算盤球形を呈する。口縁部が強く外反し、口縁端部が面を持つ。口縁部直下に２ヶ１対の小円孔を穿つ。体部外面に４帯の櫛描簾状文を施す。文様帯間は研磨する。体部内外面はヘラミガキ調整する。217は体部が内傾する。口縁端部は段を持つ。口縁部直下に２ヶ１対の小円孔を穿つ。口縁端部と体部に櫛描簾状文を施す。文様帯間は研磨する。体部内面はナデ調整する。215はⅡ様式、他はⅢ～Ⅳ様式。215は非河内産、他は生駒西麓産。

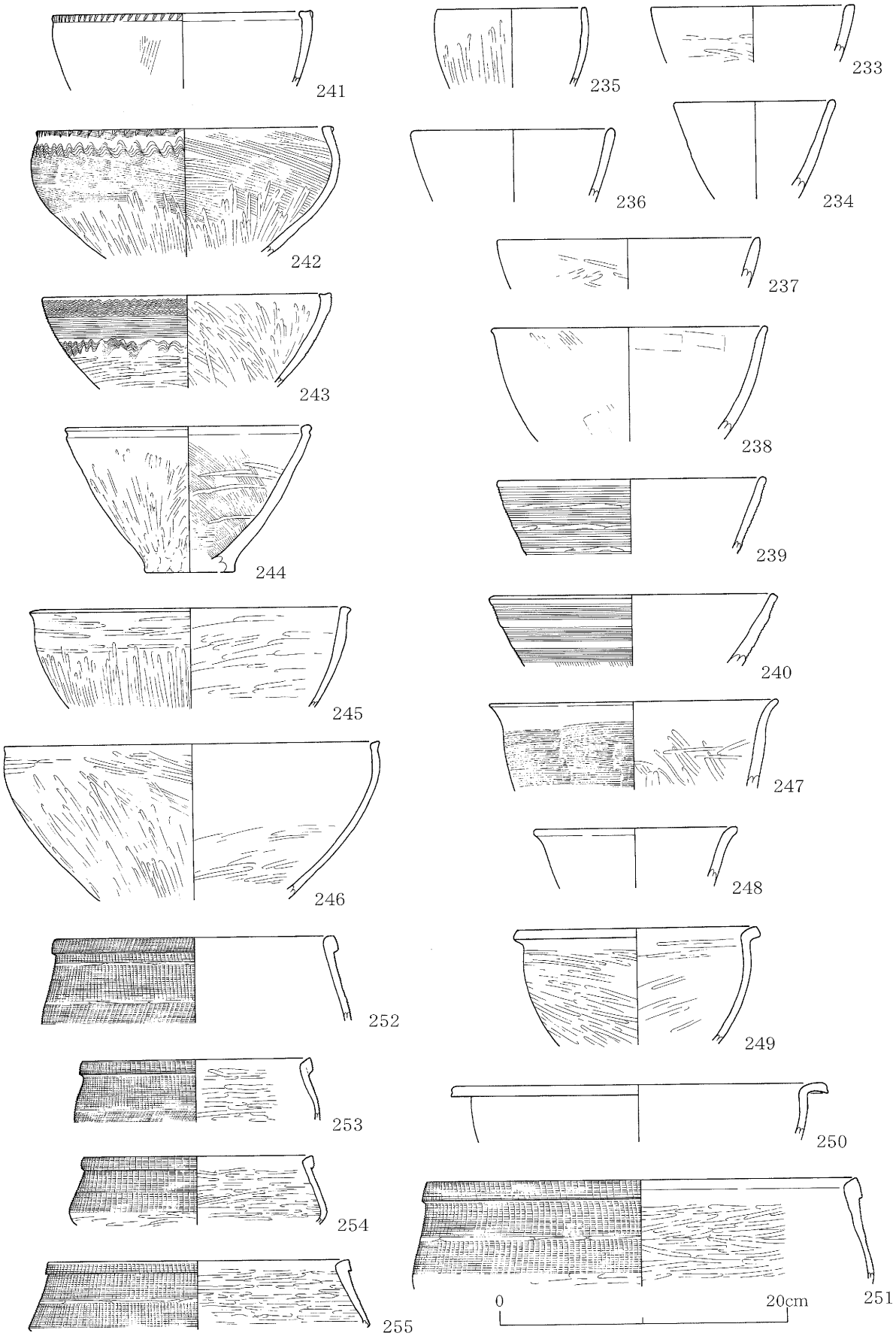
218～224は細頸壷である。218は口頸部が外上方に伸び、口縁端部が丸く終わる。外面に櫛描直線文を施す。内面はナデ調整する。219～220は口頸部が内湾気味に立ち上がり、口縁端部が丸く終わるものと面を持つものがある。218～222は外面に櫛描文様や凹線文を施す。220は底部を欠損するがほぼ形状が残る。体部はやや縦長の球形を呈する。外面に凹線文と櫛描波状文・直線文・簾状文を施す。体部外面の下半はヘラケズリの後ヘラミガキ調整する。223・224は無文の細頸壷である。218はⅡ様式、他はⅢ～Ⅳ様式。221・223は非河内産、他は生駒西麓産。

225～228は水差形土器である。225～227は口頸部が外上方に伸び、口縁端部が面を持つ。体部外面に櫛描文様を施す。228は口頸部が短く内傾する。口縁端部は面を持ち、半円形の切込みを入れる。外面に櫛描波状文を施す。Ⅲ～Ⅳ様式。228は非河内産、他は生駒西麓産。

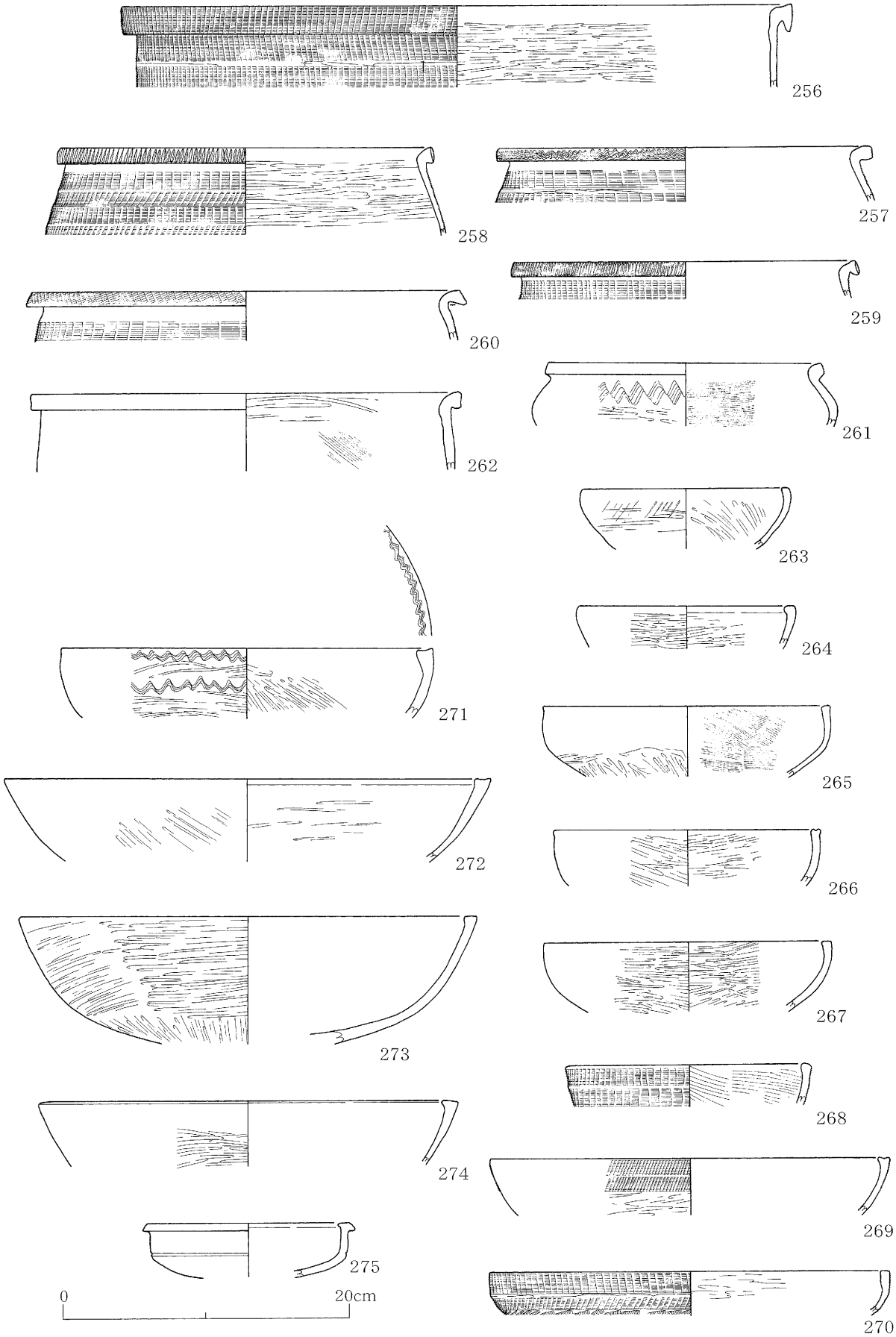
229・230は甕蓋である。229はつまみ部である。円形を呈する。外面はハケメの後ヘラミガキ調整、内面はヘラミガキ調整する。230は体部がやや急に立ち上がり、口縁端部が面を持つ。体部内外面はハケメ調整する。中期。生駒西麓産。

231・232は台付無頸壷か台付鉢の可能性が高い脚部である。裾部は内湾気味に立ち上がる。裾端部が面を持つ。231は大きな円孔を穿つ。内外面はヘラミガキ調整する。232は小円孔を穿つ。内外面はナデ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。231は生駒西麓産、232は非河内産。

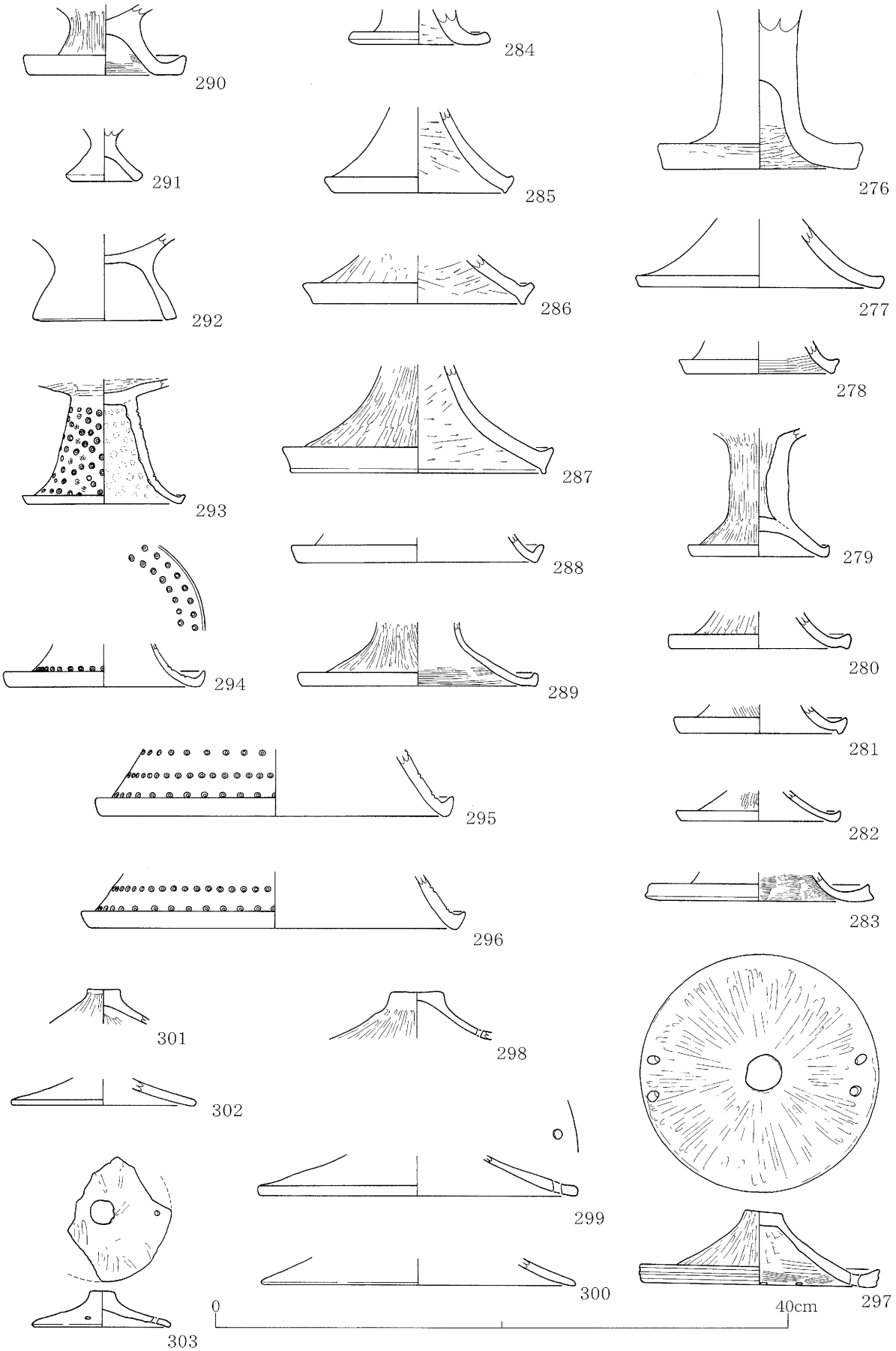
233～262は鉢である。233～240は体部が外上方に伸びるものとやや内湾するものがある。口縁端部は丸く終わるものが多い。所謂、直口の鉢である。239・240は体部に櫛描直線文を施す。他は無



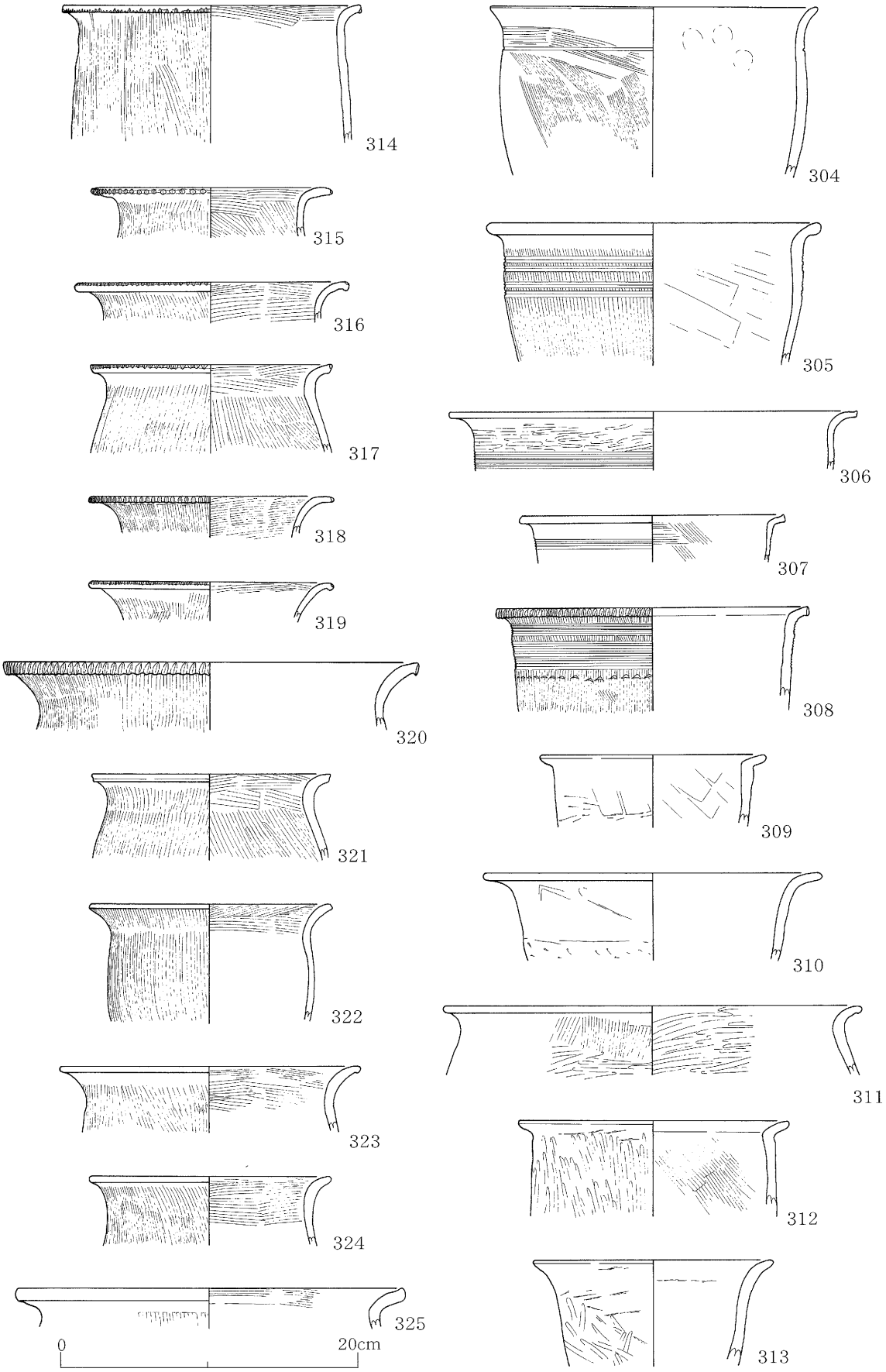
第27図　第13層出土土器実測図



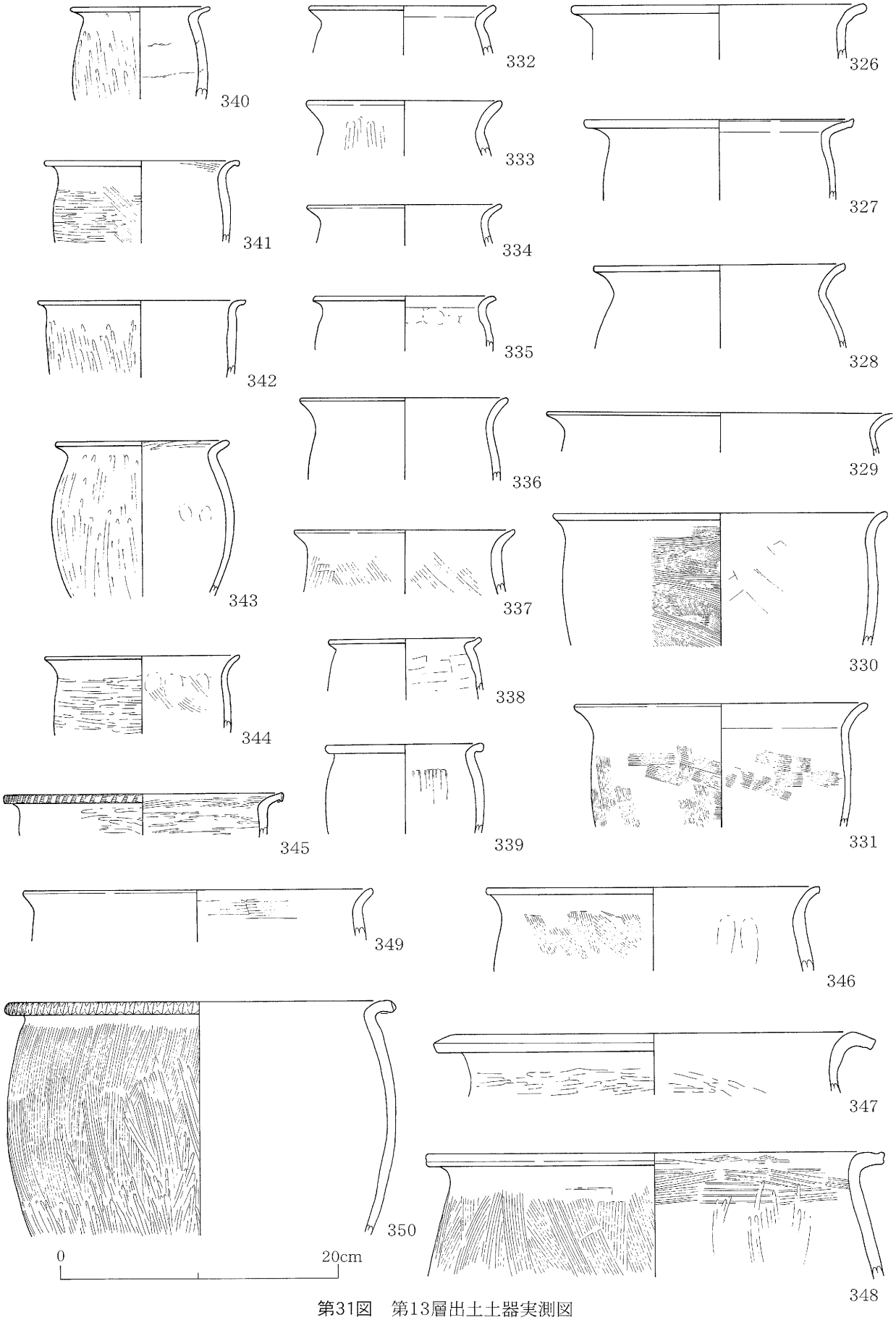
第28図　第13層出土土器実測図



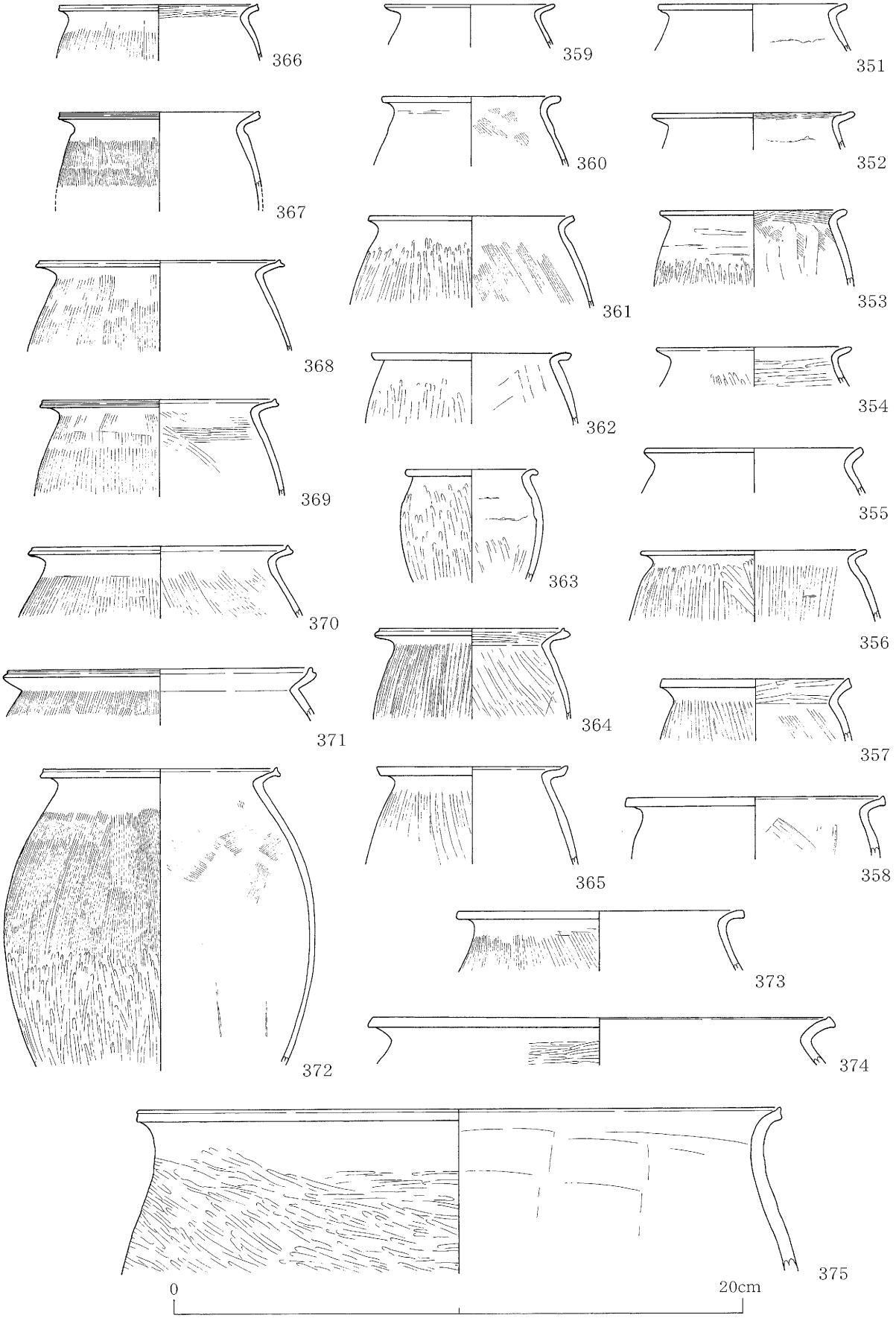
第29図　第13層出土土器実測図



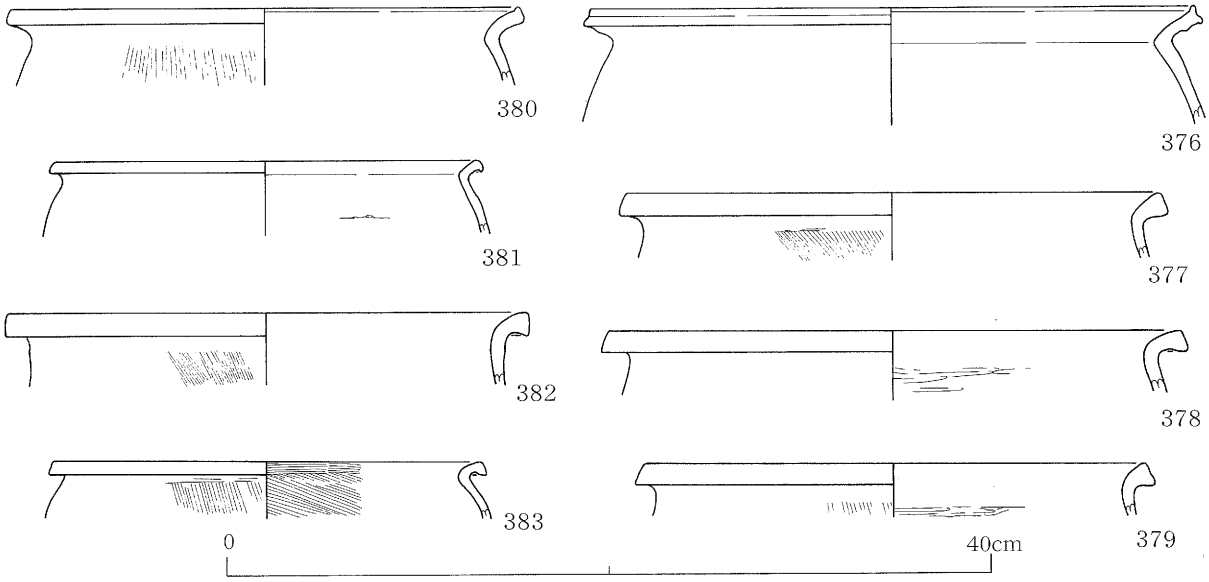
第30図　第13層出土土器実測図



第31図　第13層出土土器実測図



第32図　第13層出土土器実測図



第33図　第13層出土土器実測図

文である。241～246は体部が内湾気味に立ち上がり、口縁端部が面を持つ。所謂、直口の鉢である。241は口縁端部に刻み目、242は口縁端部に刻み目と体部に櫛描波状文、243は体部に波状文と直線文、244は体部に凹線文を施す。245・246は無文である。247・248は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。249・250は体部の張りがやや大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つ。251～255は体部が内傾する。口縁端部は段を持つ。口縁端部と体部に櫛描簾状文を施す。ヘラミガキ調整が多い。256～262は体部が内傾するか上方へ立ち上がる。口縁部は強く外反する。口縁端部は面を持つ。口縁端部と体部に櫛描簾状文を施すものが多い。262は無文である。233～240・247・248はⅡ様式、他はⅢ～Ⅳ様式。235・242・261は非河内産、他は生駒西麓産。

263～296は高坏である。263・264は体部が内湾気味に立ち上がり、口縁端部が丸く終わる。浅い椀状を呈する。265～274は体部が内湾気味に立ち上がり、口縁端部が面を持つ。浅い椀状を呈する。268～271は口縁端部と体部に櫛描文様を施す。他は無文の高坏である。275は口縁端部を内外に拡張する。体部に１条の凹線文を施す。内外面はナデ調整する。276～296は脚部である。284・290～296は他の器種の可能性もある。276は裾部がゆるく立ち上がり、柱状部が中空である。277～283・286～289・293～296は裾端部が面を持つか上方へ拡張するものが多い。284・290～292は柱状部が短い。293～296は外面に竹管文を施す。263・264・276はⅡ様式、他はⅢ～Ⅳ様式。266・267・272・280・285・290・291・292は非河内産、他は生駒西麓産。

297～303は壷蓋である。297は体部がゆるく立ち上がり、口縁端部が面を持つ。つまみ部は円形を呈する。２ヶ１対の小円孔を穿つ。口縁端部に２条の凹線文を施す。外面はヘラミガキ調整、内面はハケメ調整する。298・301はつまみ部である。円形を呈する。内外面はヘラミガキ調整する。299・300・302・303は体部がゆるく立ち上がる。口縁端部は丸く終わる。303は円形のつまみ部が残る。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

304～383は甕である。304は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。体部に１条のヘラ描沈線文を施す。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。305～308は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わるものと面を持つものがある。305～307は体部に櫛描直線文を施す。308は口縁端部に刻み目、体部に櫛描直線文と三角形の刺突文を施す。309～313・326～350は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終

わるものと面を持つものがある。345・350は口縁端部に刻み目を施す。314～325は体部の張りが少なく、口縁部が大きく外反する。口縁端部は丸く終わるものと面を持つものがある。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整かハケメ調整する。口縁部内面はヨコナデの後、横方向のハケメ調整する。314～320は口縁端部に刻み目を施す。351～363・373・374・380は体部の張りが大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部は丸く終わるものと面を持つものがある。364～372・375・376は体部の張りが大きく、口縁部が外折する。口縁端部は上方に摘み上げ気味に拡張する。377～379・381～383は口縁端部を下方へ拡張する。304はⅠ様式、305～350はⅡ様式、他はⅢ～Ⅳ様式。308・314～322・324・333・357・365・376は非河内産、他は生駒西麓産。

第14層（第34図384～393）

甕・壷・高坏の器種がある。

384～391は甕である。384・385・389・390は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。384・390は体部内外面をヘラミガキ調整する。385は体部外面をヘラミガキ調整、内面をナデ調整する。389は外面をハケメ調整する。386・391は体部の張りは少なく、口縁部が大きく外反する。口縁端部は386が丸く終わり、391が面を持つ。体部外面はハケメ調整する。口縁部内面はヨコナデの後、横方向のハケメ調整する。386は口縁端部に刻み目、391は斜格子文を施す。387・388は体部が大きく張り、口縁部が強く外反する。口縁端部は387が丸く終わり、388が面を持つ。体部内外面はナデ調整する。387は口縁部内面をヘラミガキ調整する。387・388はⅢ～Ⅳ様式、他はⅡ様式。387・388は非河内産、他は生駒西麓産。

392は壷である。口頸部が大きく外反し、口縁端部が丸く終わる。内外面はヘラミガキ調整する。Ⅱ様式。生駒西麓産。

393は高坏である。体部が内湾気味に立ち上がり、口縁端部が面を持つ。口縁端部に刻み目、体部に櫛描簾状文を施す。文様帯間は研磨する。内面はナデ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

第13・14層（第34図394～401）

壷・高坏・甕・脚部・甕蓋の器種がある。

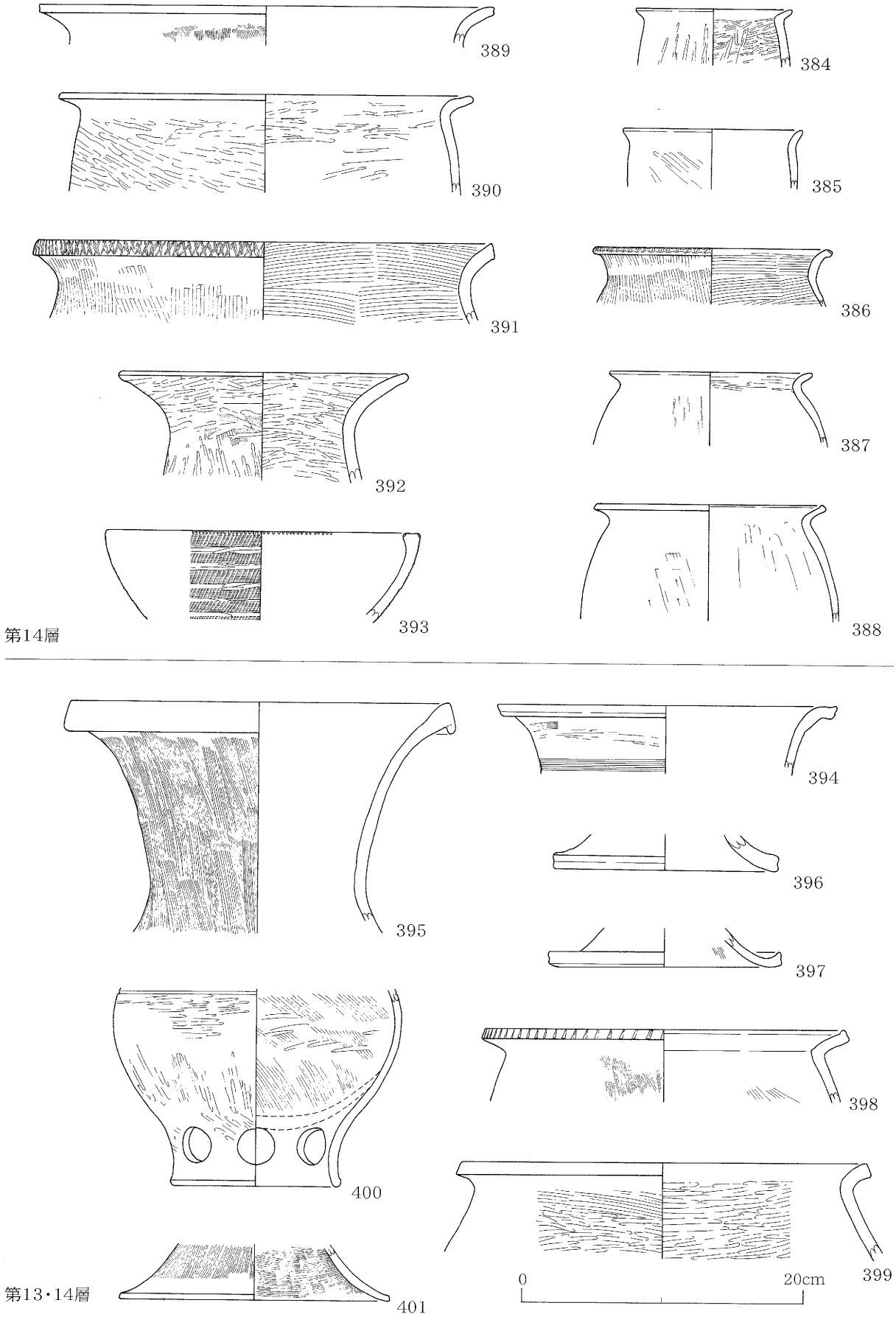
394・395は壷である。394は口縁部が大きく外反する。口縁端部はやや面を持つ。頸部に櫛描直線文を施す。外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。395は口頸部が大きく外上方に伸びる。口縁端部は下方へ拡張する。無文の壷である。外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。394はⅡ様式、395はⅢ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

396・397は高坏である。裾部がゆるく立ち上がり、裾端部が面を持つ。内外面はナデ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。396は非河内産、397は生駒西麓産。

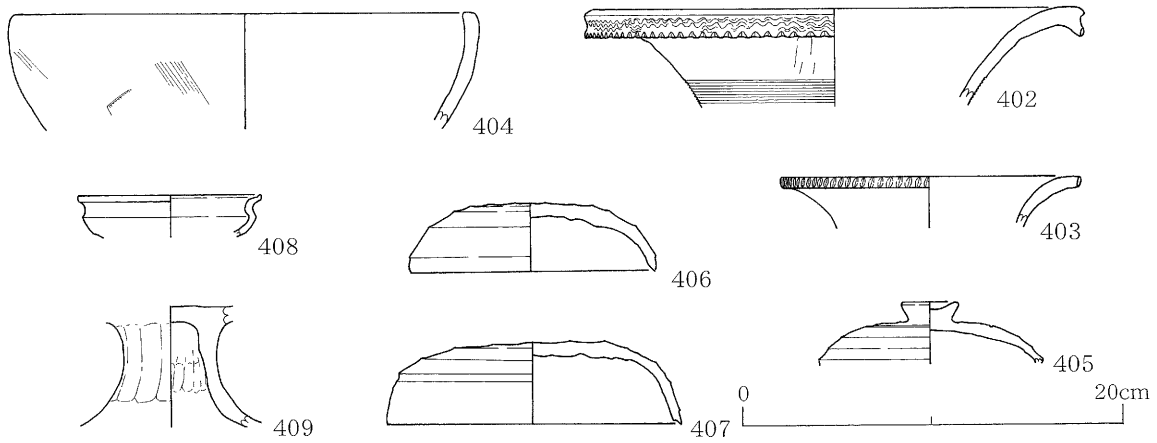
398・399は甕である。体部は大きく張り、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つ。398は口縁端部に刻み目を施す。体部外面はハケメ調整、内面はハケメの後ナデ調整する。399は体部内外面をヘラミガキ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。398は非河内産、399は生駒西麓産。

400は台付無頸壷か台付鉢の可能性が高い脚部である。脚部は上方に伸び、裾端部が丸く終わる。体部に１条の凹線文が残る。脚部に大きな円孔を穿つ。外面はヘラミガキ調整、内面はハケメの後ヘラミガキ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

401は甕蓋である。体部の立ち上がりがやや急であり、口縁端部は丸く終わる。内外面はハケメ調整する。中期。生駒西麓産。



第34図　第13・14層出土土器実測図



第35図　第９層出土土器実測図

２）古墳時代以降の土器

古墳～奈良時代の土器がある。

第９層（第35図402～409）

弥生土器・須恵器・土師器がある。

402～404は弥生土器である。混入品である。壷と鉢がある。402・403は壷である。口縁部が大きく外反し、口縁端部が面を持つ。402は口縁端部に刻み目と櫛描波状文、頸部に直線文を施す。403は口縁端部に刻み目を施す。404は鉢である。体部が内湾気味に立ち上がり、口縁端部がやや面を持つ。所謂、直口の鉢である。外面はハケメの後ナデ調整、内面はナデ調整する。402はⅢ～Ⅳ様式、403・404はⅡ様式。生駒西麓産。

403～408は須恵器である。蓋坏と椀がある。405～407は蓋坏である。405は円形のつまみが付く。406は口縁端部が丸く終わる。407は口縁端部がやや面を持つ。408は椀である。体部がやや扁球形であり、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つ。405～407は古墳時代、408は奈良時代。

409は土師器である。高坏の柱状部である。柱状部は短い。面取りをしており、12面である。奈良時代。

２．木製品（第36・37図410～424）

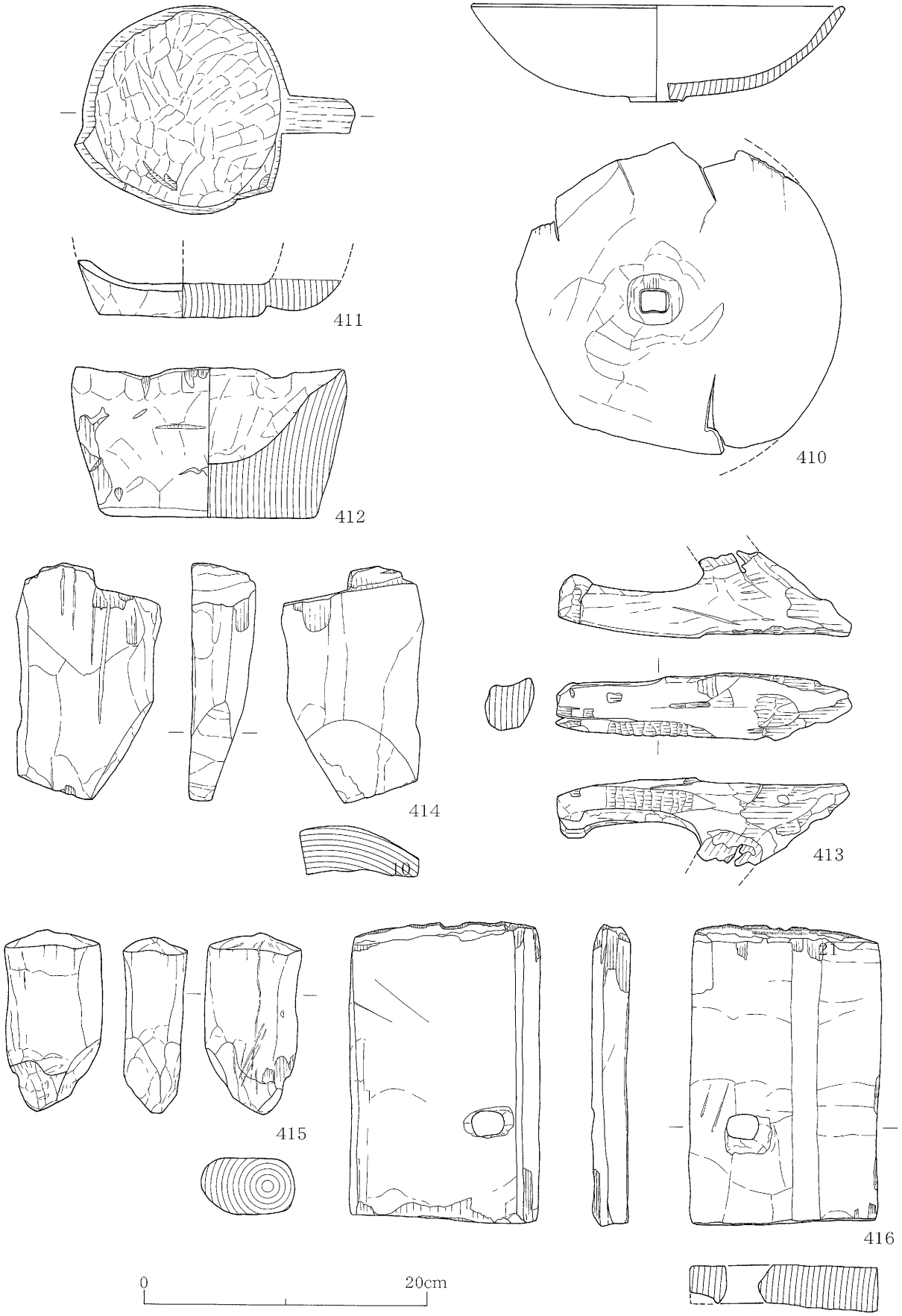
弥生時代の木製品が遺構と遺物包含層より出土した。文中に針葉樹と広葉樹を記すが、専門家による樹種同定ではなく、筆者の肉眼観察によるものである。横断面の弧は木取りを表す。

410は高坏である。浅い皿状を呈する坏部である。体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部が丸く終わる。中央部の外面に隆起帯を削り出し、方形の孔を穿つ。組合せ式の高坏である。作りは丁寧である。縦木取りである。材は広葉樹と考えられる。遺物包含層より出土。

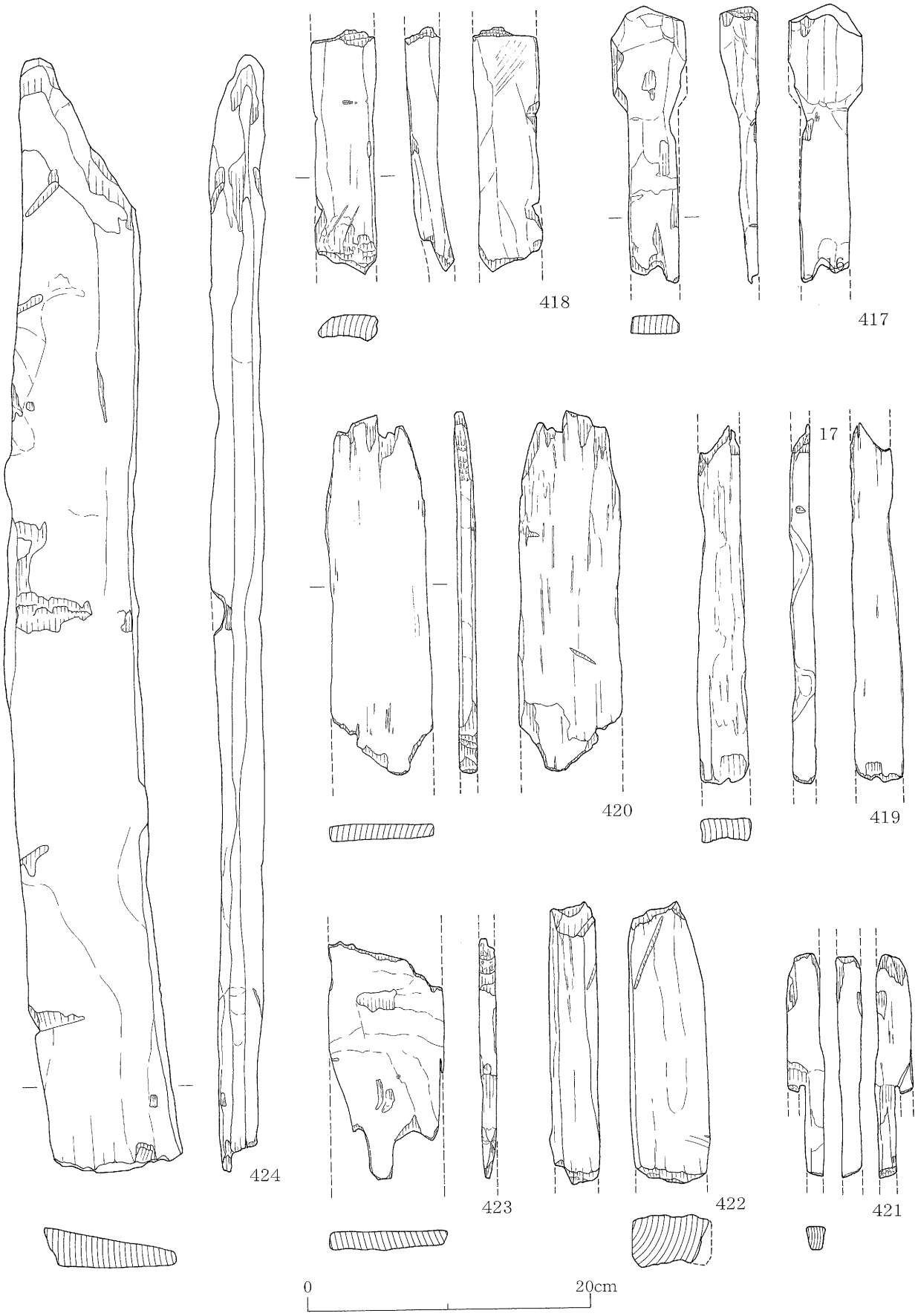
411は握手付容器である。体部上半を欠損する。円形を呈する平底の底部より、体部がやや外上方に伸びる。体部の１ヶ所に握手が付くが形状は不明である。作りは丁寧であるが底部内面には削り痕が残る。縦木取りである。材は広葉樹と考えられる。大土坑より出土。

412は小型臼である。約半分を欠損する。底部は厚い平底であり、円形を呈する。体部はやや外上方に伸びる。作りはやや荒い。縦木取りである。材は広葉樹と考えられる。遺物包含層より出土。

413は手斧の柄である。全面的な焼けと乾燥による変形がある。逆Ｌ字形を呈する。台部は半裁し平坦面を作る。台部先端は瘤上の隆起帯を施す。握り部は欠損のため不明である。芯持材を使用する。材は広葉樹と考えられる。遺物包含層より出土。



第36図　木製品実測図



第37図　木製品実測図

414は先尖棒である。棒材を半裁し、木口の一端を杭状に尖らせる。先端部には削り痕が明瞭に残る。芯持材を使用する。材は針葉樹と考えられる。溝２より出土。

415は先尖棒である。棒材の木口の一端を杭状に尖らせる。先端部には削り痕が明瞭に残る。芯持材を使用する。材は広葉樹と考えられる。遺物包含層より出土。

416は有孔板である。長方形を呈する板の側縁近くに孔を１孔穿つ。柾目材を使用する。材は針葉樹と考えられる。遺物包含層より出土。

417は有頭板である。長方形を呈する板の側縁に抉りを入れる。全面に焼けた痕跡が残る。柾目材を使用する。材は針葉樹と考えられる。遺物包含層より出土。

418～420・423は板である。長方形を呈する。420と423は焼けた痕跡が残る。柾目材を使用する。材は418が広葉樹、他が針葉樹と考えられる。418は落ち込み、他は大溝１より出土。

421・422は角材である。421は横断面形が台形、422は長方形を呈する。柾目材を使用する。材は針葉樹と考えられる。421はより大溝１、422は遺物包含層より出土。

424は抉り入り板である。長方形を呈する板の木口に抉りを入れる。他の木口は平行に終わる。柾目材を使用する。材は広葉樹と考えられる。遺物包含層より出土。

3. 石器（第38・39図425～459）

弥生時代の遺構や遺物包含層より出土した。磨製石器、自然石を利用した石器、打製石器がある。

1）磨製石器

柱状片刃石斧、扁平片刃石斧、局部磨製石斧、石剣、石庖丁がある。

425～428は柱状片刃石斧である。長方形を呈し、先端部に刃を施す。425・426は紐掛の抉りを入れる。遺物包含層より出土。

429は扁平片刃石斧である。刃部を欠損する。頭部は平坦である。作りは丁寧である。遺物包含層より出土。

430は局部磨製石斧である。幅広の打製石槍より転用したと考えられる。頭部は石槍の基部を利用している。部分的な研磨を加えて刃部などを整える。扁平片刃石斧として利用したと考えられる。大土坑より出土。

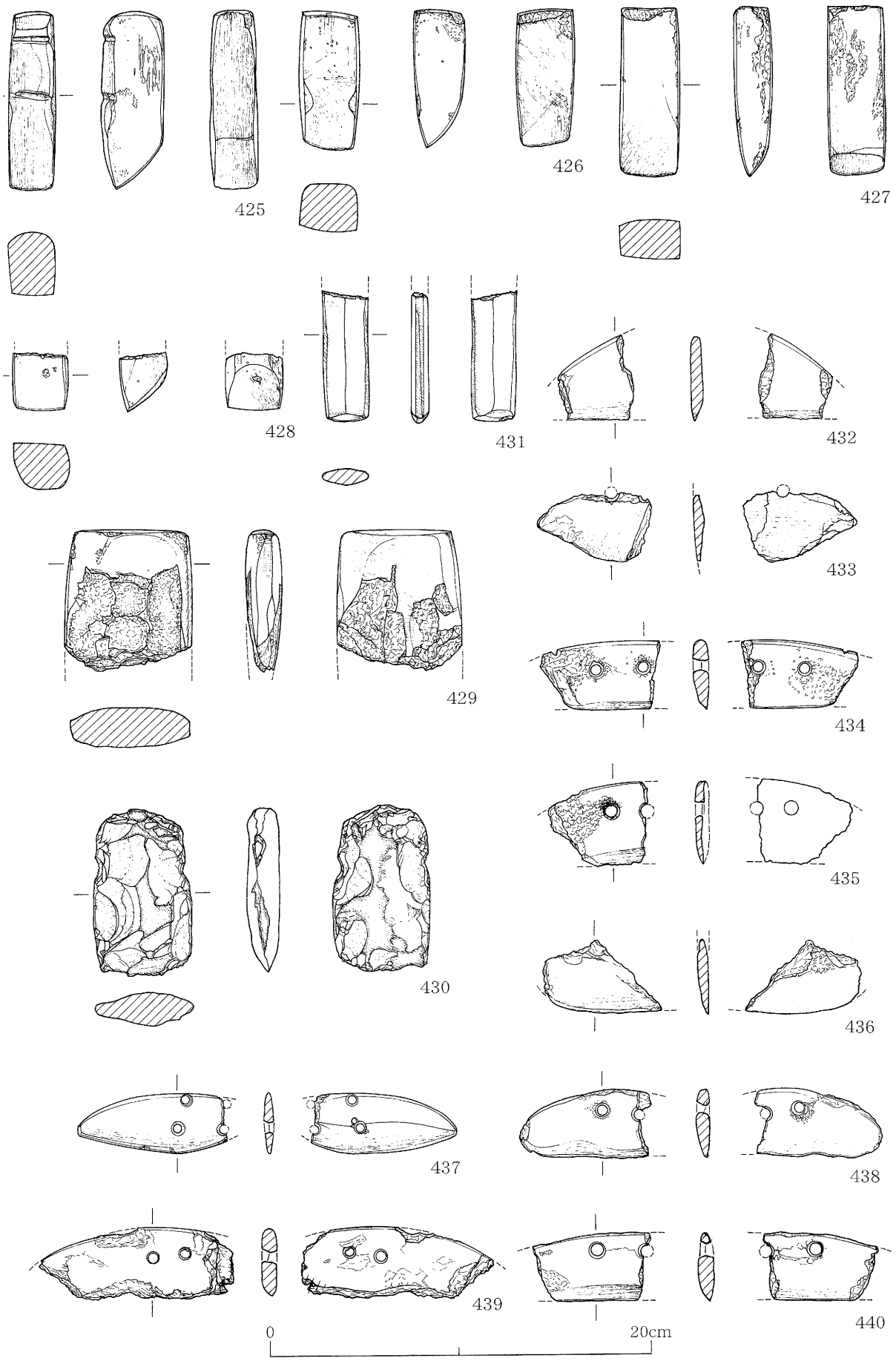
431は石剣である。先端部を欠損する。基部は平坦である。身の両面中央に稜を施す。横断面形が菱形を呈する。大土坑より出土。

432～444は石庖丁である。背は半月形で反対側に刃を施す。刃部は直線的な片刃で終わるものが多いが436・437・444は外湾する。437は使用による変形と考えられる。また、背の近くに２孔の紐穴を穿つ。本来の位置より移動して、追加された穴もある。また、製作時の敲打痕を残すものもある。444は大型石庖丁である。439は溝２、444は大土坑、他は遺物包含層より出土。

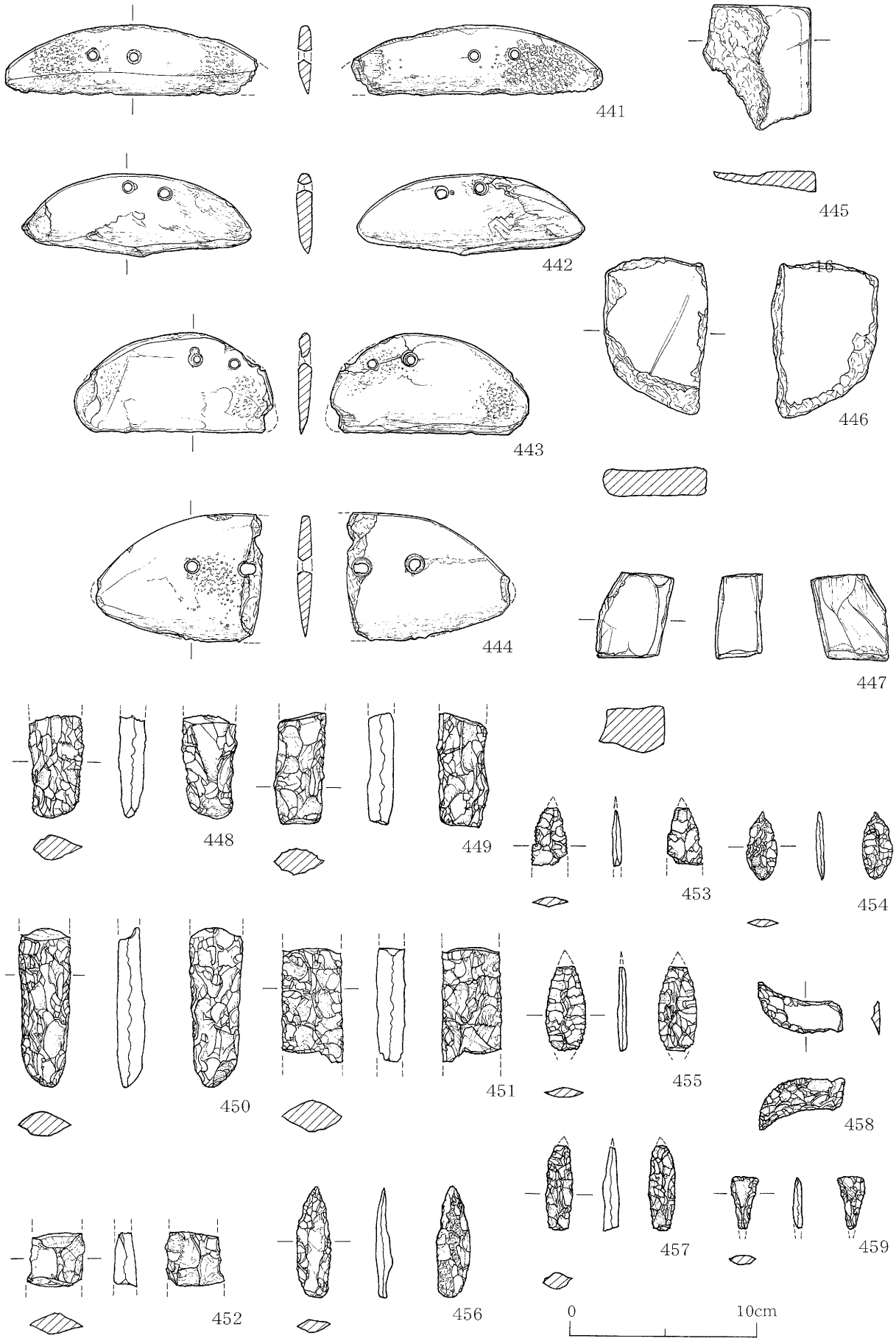
2）自然石を利用した石器

砥石がある。

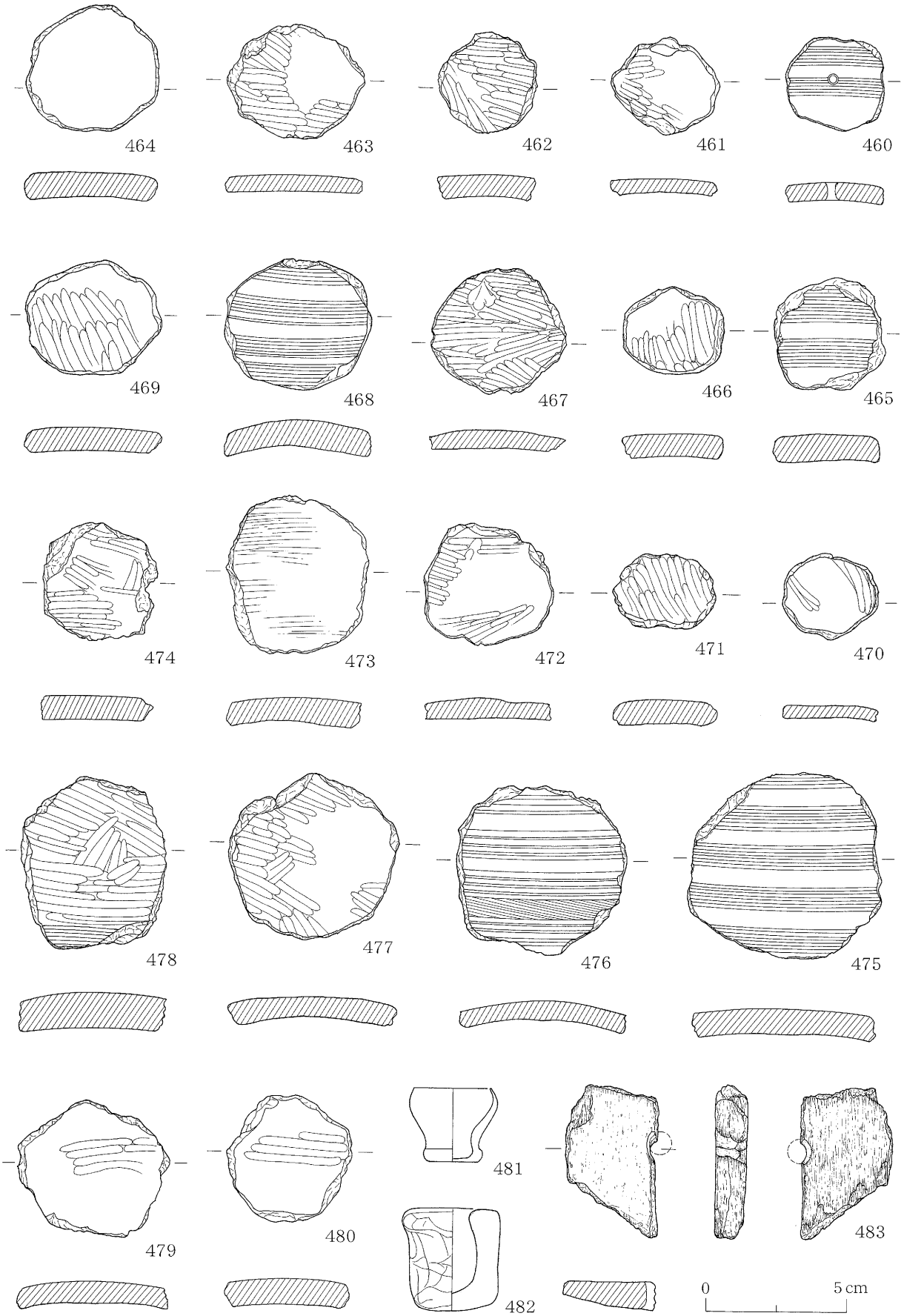
445～447は砥石である。扁平な板状を呈する自然石を利用して作られており、形態に企画性はない。使用による擦り減りが認められる。446は大土坑、他は遺物包含層より出土。


425
426
427
428
431
432
433
429
434
435
430
436
437
438
439
440
0
20cm

第38図　石器実測図


441
442
443
444
445
446
447
448
449
450
451
452
453
454
455
456
457
458
459
0
10cm

第39図　石器実測図



第40図　土製品・骨製品実測図

3）打製石器

石槍、石鏃、石小刀、石錐がある。

448～452は石槍である。近年、研究が進み石剣として扱われているものもあるが、石槍として記す。全形を知る資料はない。448～450は基部、451・452は身中央部である。原石面を残すものもある。押圧剥離で整えており、作りは丁寧である。遺物包含層より出土。

453～457は石鏃である。柳葉形であり、細部を押圧剥離で整える。454はやや全長が短い。454は大溝２、他は遺物包含層より出土。

458は石小刀である。Ｊ字形を呈する。一面に割面を残しており、細部調整はやや荒い。遺物包含層より出土。

459は石錐である。先端部は欠損する。基部の一面に割面を残しており、細部調整はやや荒い。土坑10より出土。

4. 土製品（第40図460～482）

弥生時代の遺構や遺物包含層より出土した。紡錘車、円板状土製品、ミニチュア土器がある。

460は紡錘車である。土器の体部を転用する。円周部を丸く打ち欠き、一部研磨する。中央部に小円孔を穿つ。遺物包含層より出土。

461～480は円板状土製品である。土器の体部を転用する。円周部を丸く打ち欠いて整える。一部はさらに研磨を加える。未掲載の資料も多量にある。

481・482はミニチュア土器である。器種は直口の鉢と考えられる。481は作りがやや丁寧である。器壁も薄い。482は作りが粗雑であり、器壁も厚い。遺物包含層より出土。

5. 骨製品（第40図483）

483は骨製品である。破片であり、全形は不明である。板状に骨を削り、円孔を穿つ。弥生時代の遺物包含層より出土。

Ⅳ. 動物遺体

第３表　出土動物遺体一覧表

資料番号	地区	層位・遺構	時期	種名	出土部位		詳　細	加工痕等	計測値
					左右	部位名			
20	12	13層	弥生時代中期	イノシシ	不明	上M1	破片		
23	6	13・14層相当	弥生時代中期	イノシシ	左	下顎骨	下M1～下顎枝の一部まで遺存、M3は未萠出、２才程度		
17	11	13層	弥生時代中期	シカ		角片	約2.5cm遺存	加工痕あり	
19	12	13層	弥生時代中期	シカ		角片	約4ｃｍ遺存　漆塗り?	加工品?	
12	10	13層	弥生時代中期	シカ	左	距骨	距骨頭のみ遺存	解体痕あり	
16	11	13層	弥生時代中期	シカ	右	舟状立方骨			矢状径　26.96 横径　30.62
10	8	13層	弥生時代中期	シカ	右	中足骨	近位端の前面のみ遺存、	切断痕あり	
11	10	13層	弥生時代中期	大型哺乳類		骨端片		切断痕あり	
15	11	13層	弥生時代中期	大型哺乳類		骨片	3		
13	11	13層	弥生時代中期	不明		骨端片	遊離骨端　若い		
14	11	13層	弥生時代中期	不明		骨片	2		
18	12	13層	弥生時代中期	不明			4		
20	12	13層	弥生時代中期	不明		骨片	2　焼けている		
22	7	13層相当	弥生時代中期	シカ	左	角	分枝の基部	加工痕あり	
21	6	13層相当	弥生時代中期	シカ	左	肩甲骨	内側1/3破損	卜骨？	
2	11	大土坑	弥生時代中期	イノシシ	右	前頭骨	縫合が未癒合(３歳程度の大きさ)、上顎骨と同一固体	加工痕あり	
3	11	大土坑	弥生時代中期	イノシシ	右	側頭骨～後頭骨		後頭骨に切断痕あり	
2	11	大土坑	弥生時代中期	イノシシ	右	上顎骨	M3歯槽部周辺遺存、M3は2/3まで萠出、前頭骨と同一固体		
5	12	大土坑	弥生時代中期	イノシシ	左右	下顎骨	下M3萠出の途中、左I3,右P1,2以外はすべて釘植、Cの形態よりメス、3才前後"	右関節突起は切断されそれ以外の傷は解体痕?	表４
5	12	大土坑	弥生時代中期	イノシシ	ー	第7？胸椎			
3	11	大土坑	弥生時代中期	イノシシ	ー	第１仙椎	未癒合		
5	12	大土坑	弥生時代中期	イノシシ	ー	第2,3仙椎	未癒合のため若い		
3	11	大土坑	弥生時代中期	イノシシ	左	肋骨	骨頭～体の1/2まで遺存、骨頭と結節は未癒合		
2	11	大土坑	弥生時代中期	イノシシ	左	寛骨	腸骨体～坐骨結節まで遺存		
5	12	大土坑	弥生時代中期	イノシシ	左	肋骨	肋骨頭～骨体1/2まで遺存	3	
5	12	大土坑	弥生時代中期	イノシシ	右	肋骨	肋骨頭～骨体1/2まで遺存	1	
5	12	大土坑	弥生時代中期	イノシシ	左	大腿骨	骨幹遠位～遠位端まで遺存		矢状径　50.27 横径　43.64
3	11	大土坑	弥生時代中期	イノシシ	左	第３中足骨	遠位端未癒合	加工痕あり	
3	11	大土坑	弥生時代中期	イノシシ	左	第４中足骨	遠位端未癒合	加工痕あり	
3	11	大土坑	弥生時代中期	イノシシ	不明	基節骨			
4	12	大土坑	弥生時代中期	大型哺乳類		不明	少し焼けている		
5	12	大土坑	弥生時代中期	不明		長骨片			
1	9	土坑17	弥生時代中期	イノシシ	右	下顎骨	新生児程度の大きさ		
6	9	ピット105	弥生時代中期	イノシシ	左	腸骨	耳状面と翼の一部が遺存、２才程度の大きさ		
6	9	ピット105	弥生時代中期	木					
6	9	ピット105	弥生時代中期	不明		骨片			
9	9	9・10層	奈良～古墳時代	土					
7	6	6層	中世	ウシ	不明	中手骨	骨幹のみ、非常に小さいため若い？		
8	3	7層	中世	大型哺乳類		長骨片			

第４表　出土イノシシ頻度表

種名	イノシシ	
資料番号	5	
左右	左	右
下顎骨全長（1） id － goc	205.75	－
下顎骨全長（2） id － Cm	233.60	－
下顎枝長　M 後縁より goc	63.04	－
goc より Pm２ 前縁まで	152.04	－
歯槽最大長　id － M 後縁	153.04	－
頬臼歯長（1） Pm１ － M 後縁	107.49	－
頬臼歯長（2） Pm２ － M 後縁	92.94	－
小臼歯長（1） Pm１ － Pm４	51.42	－
小臼歯長（2） Pm２ － Pm４	34.26	－
大臼歯長　M１ － M 後縁	59.35	56.89
顆高　gov － ４	97.07	－
下顎体高（1） M 後縁	43.52	－
下顎体高（2） M１ － Pm４	34.81	－
下顎体高（3） Pm２ の前	36.31	－
下顎体厚　M１ － M２	17.67	－
犬歯歯槽最大長	11.64	11.71
犬歯歯槽最大幅	7.41	8.84

弥生時代中期の包含層と土坑やピットから出土した動物遺体はシカとイノシシのみである。種と部位が同定できた総数は20点で、シカは５点とイノシシの1/4である。中世からはウシが１点出土している。

弥生時代

遺構ごとに出土動物の比較を行った。

シカは包含層(13層)のみ出土しイノシシより出土量は多いが、最小個体数はいずれも１である。最小個体数には数えなかったが、シカの角の破片が多数出土し、加工痕の見られるものが大半であった。出土骨から年齢が推定できたものは、イノシシの左下顎骨のみで、第３第臼歯が未萠出のため２歳前後である。

土坑とピットからはイノシシのみが出土し、そのうち大土坑からは３歳の現生標本の下顎骨と同程度のものが出土している。また、土坑には新生児程度の大きさの下顎骨が遺存している。

中世

６層からは若いと思われるウシの中手骨が出土しているが、両骨端が破損しているため詳細は不明である。

V．まとめ

今回の調査地は鬼虎川遺跡の北部の中央部西よりに位置する。このことは後述する弥生時代中期の本遺跡の状況を見る上で心得ておく必要がある。以下、調査の内容を簡単にまとめておく。

旧給食センターの建物が建っていた地盤は旧耕土面より2.35～2.5m近く盛り上げられていた。そのため、建造物による遺跡への影響は杭部分のみの最小限に止っていた。

ただし、この地域は古墳時代以降、住居などの集落が営まれた形跡はほとんどなく、川の流路や氾濫（自然流路とした）と整地のくり返しが行なわれていたようである。特に平安時代以降の明確な人的遺構は近世前半と考えられる東西方向の溝を１条確認したのみで、耕作地として利用したためと思われる整地層（中世末か近世前半、平安時代末から鎌倉時代前半、平安時代中ごろの３期）と平安時代前半、同後半、鎌倉時代後半以降の３時期の砂の堆積層を確認した。

奈良時代には、調査地全域にわたって整地土が見られ（弥生時代の遺物包含層や堆積層をも掘り起こしていたため、弥生土器などを包含していた)、西端上面で南北方向に延びる溝の東側部を検出した。溝の東肩は凹凸があり、その形態・用途については不明と言わざるを得ない。

古墳時代相当層は奈良時代の整地のために掘り返されたためか、奈良時代整地層などにこの時代の遺物は見られたが遺構は確認できなかった。

本遺跡は弥生時代中期の拠点集落として周知されているように、本調査地においてもこの時期の遺構、遺物を多量に検出した。中期末の溝・自然流路（２期）はあったが、中心をなしたのは中期初頭から後半にかけてである（前期の土器は見られるが)。中期初頭には南北約30mの大溝（大溝Ａ）を境として南部域と北部域で様相を異にしていた。すなわち、南部域は集落に伴う遺構（柱・杭の残存するものを含むピット群、井戸などの土坑群など）と遺物を数多く検出したのに対し、北部域は少量の弥生土器は出土したが、遺構は見つからなかった。この傾向は中期後半まで継続していたようである。

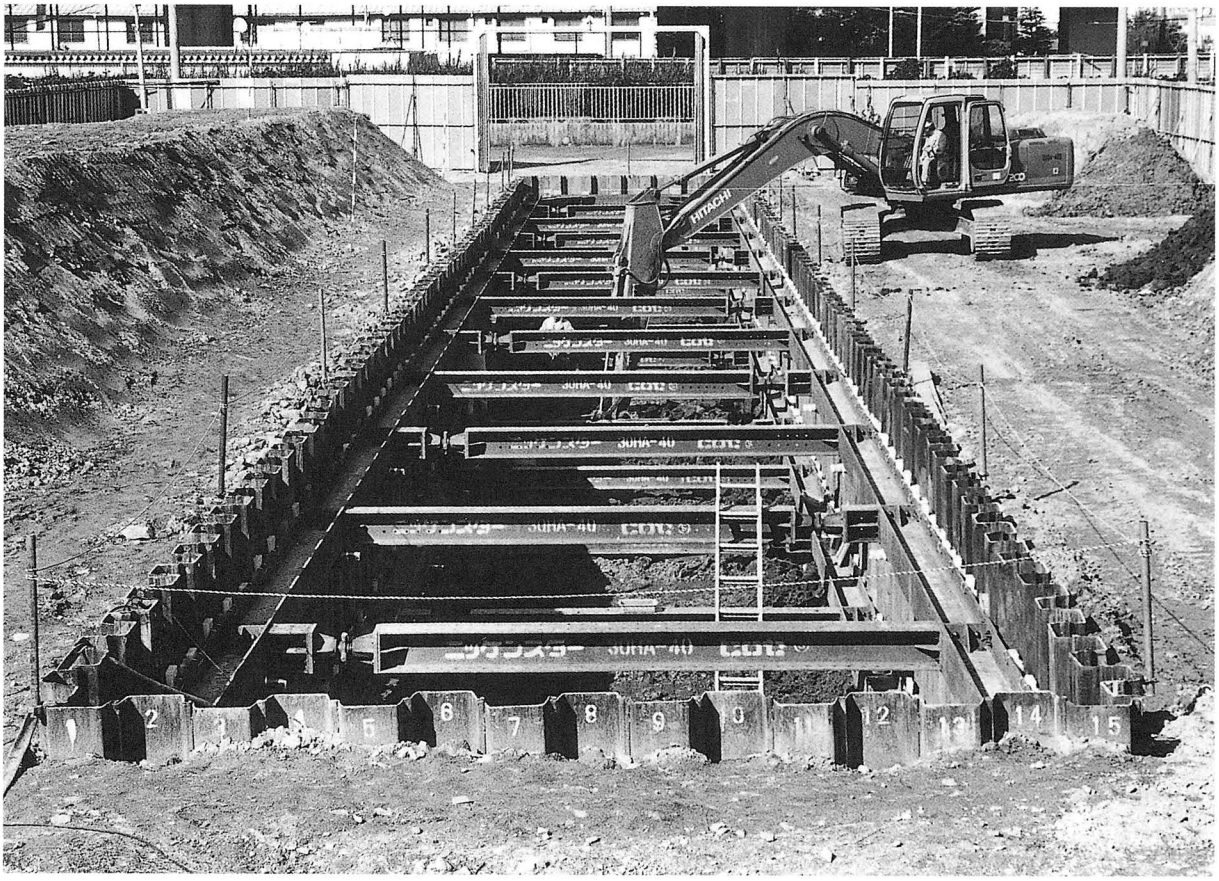
そこでこの時期の周辺の調査状況を概観しておくと（第３図参照)、東方の国道170号線西沿いの第44次調査で土坑墓など見られたが住居跡を思わせる遺構は見られていないのに対し、東沿いの第53次調査では多量のピット群、井戸などの土坑群を検出している。南方の第７次調査ではピット群などともに貝塚が検出されて多量の遺物が出土し、東西部の第47次調査からは集落の西端を画していたと思われる大溝が検出されている。また、北西方の第14次調査は遺物量は少なく、数条の溝が存していた。

このことから、本調査域は弥生時代の（環濠）集落北側西方の一部（出っ張り状況を呈していたのかも）をなしていたのではないかと思われる。

図　　版

図版1　遺構

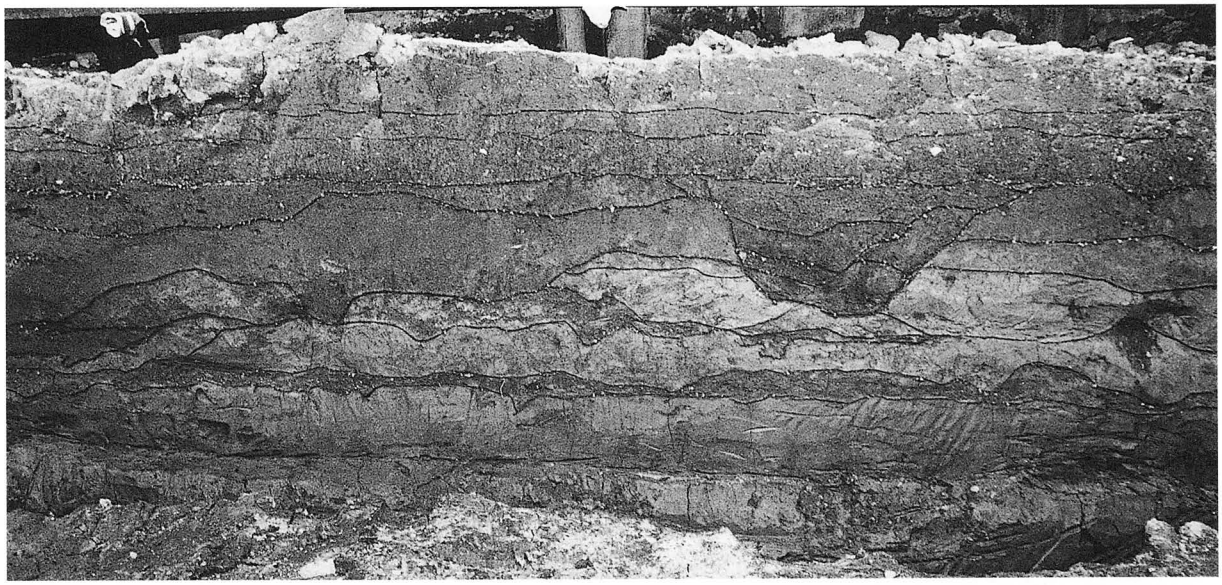
1. 調査地航空写真－白屋根が弥生給食センター－（1984年撮影）



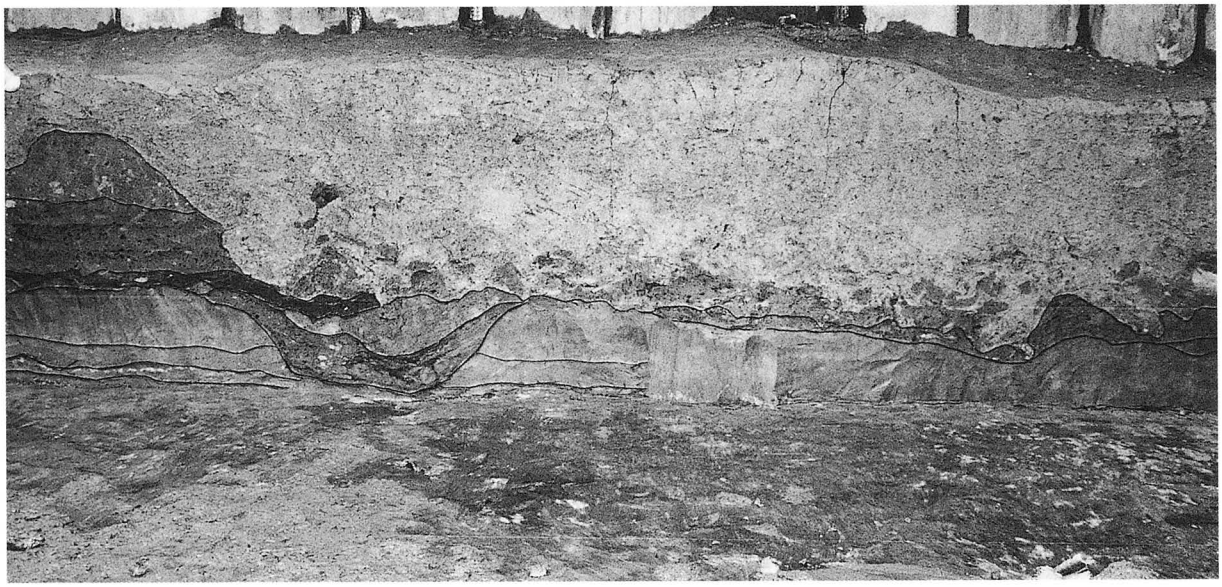
2. 調査トレンチ全景（南から）

図版2　遺構

1. 西壁断面－6地区付近－1

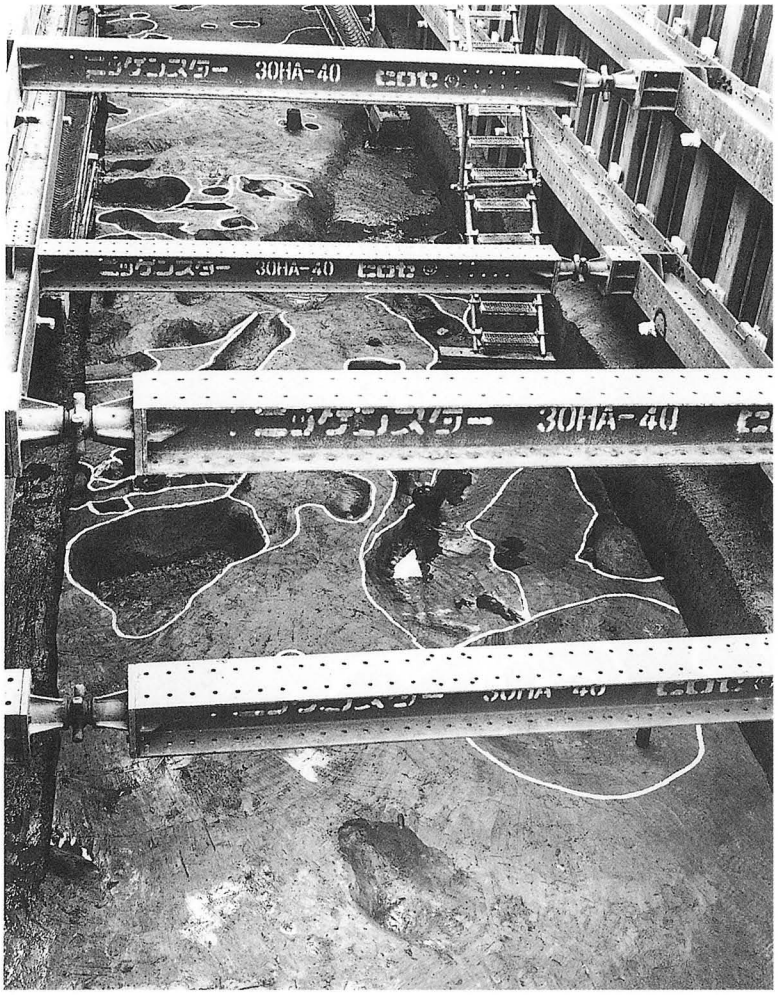


2. 西壁断面－6地区付近－2



3. 西壁断面－6地区付近－3

図版3　遺構



1. 第14層上面遺構
－７地区から９地区－（北から）

2. 第14層上面遺構－７地区－（東から）

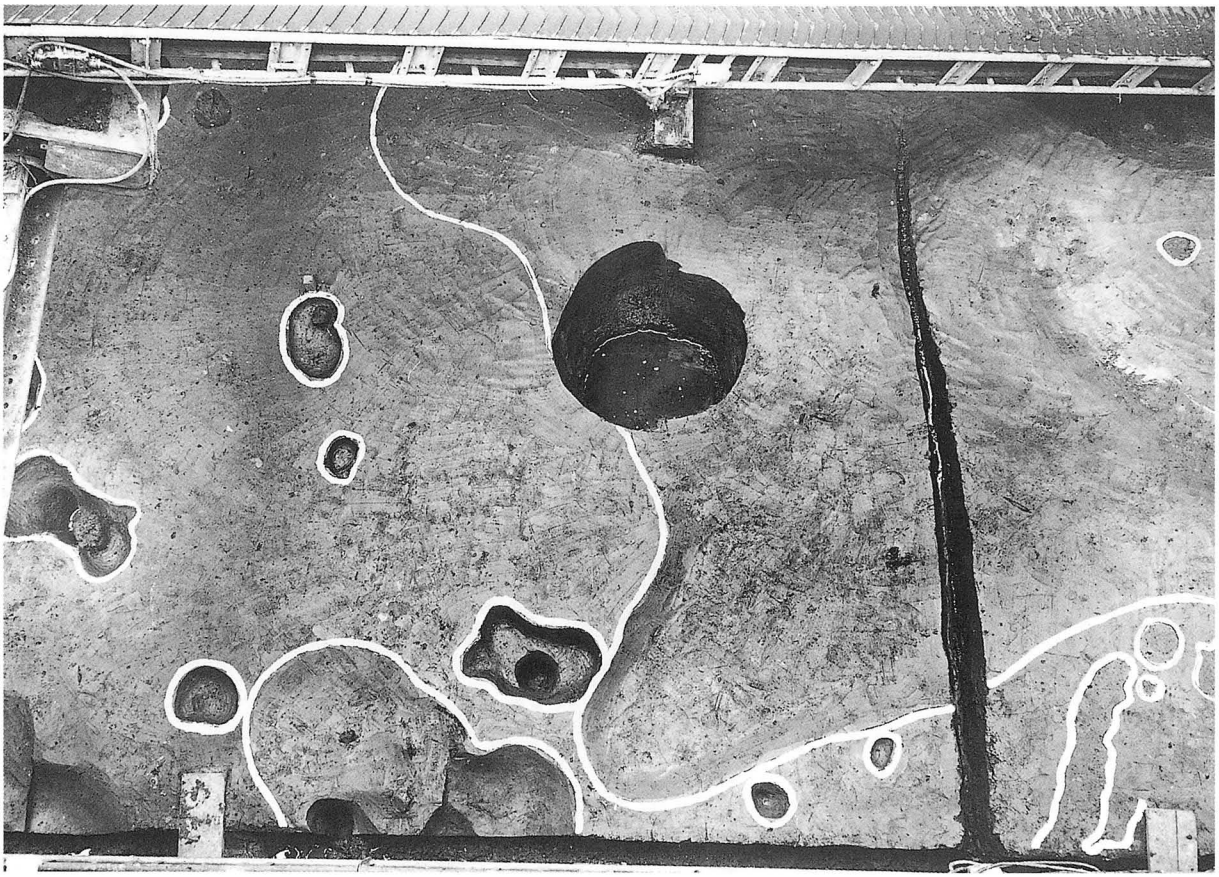
図版4　遺構

1. 第14層上面遺構－８地区－（東から）

2. 第14層上面遺構－９地区－（東から）

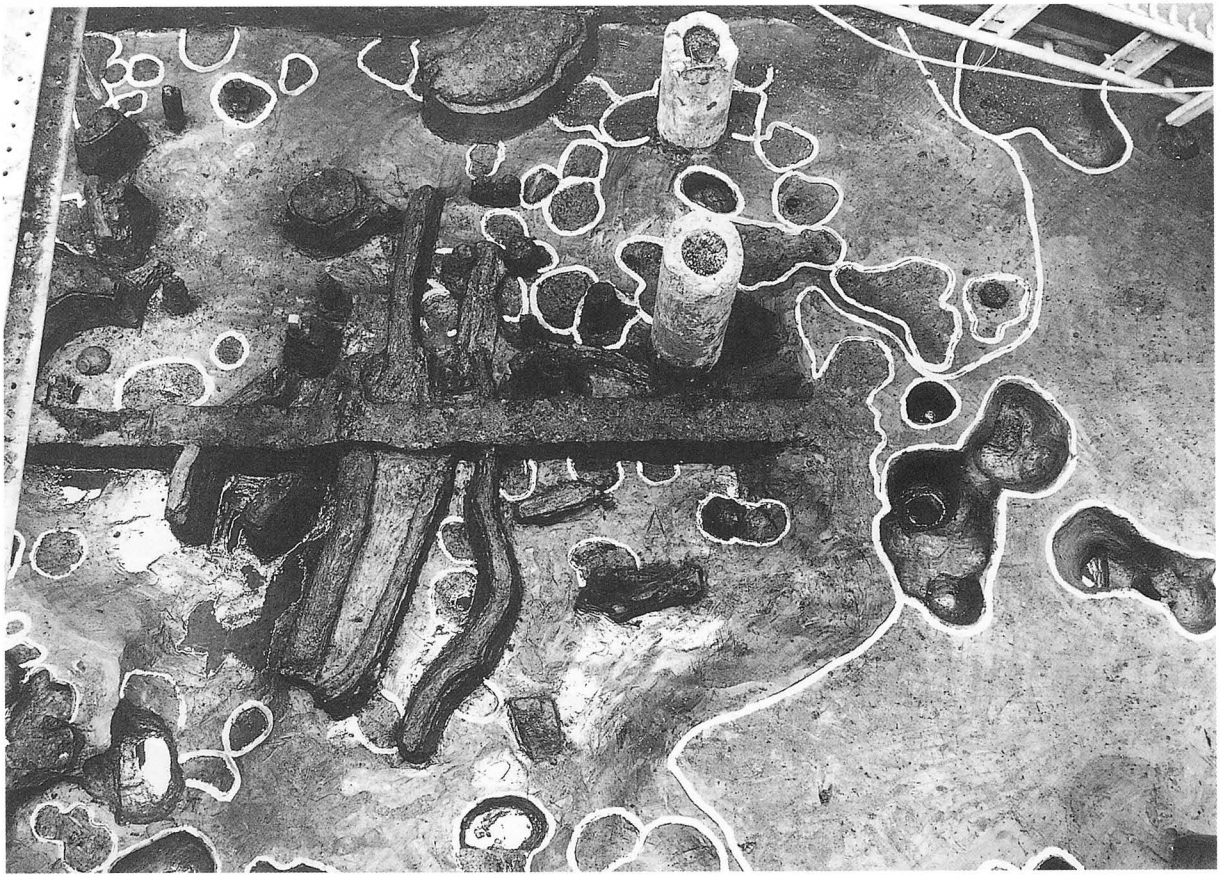
図版5　遺構

1. 第14層上面遺構－10地区から12地区－（北から）

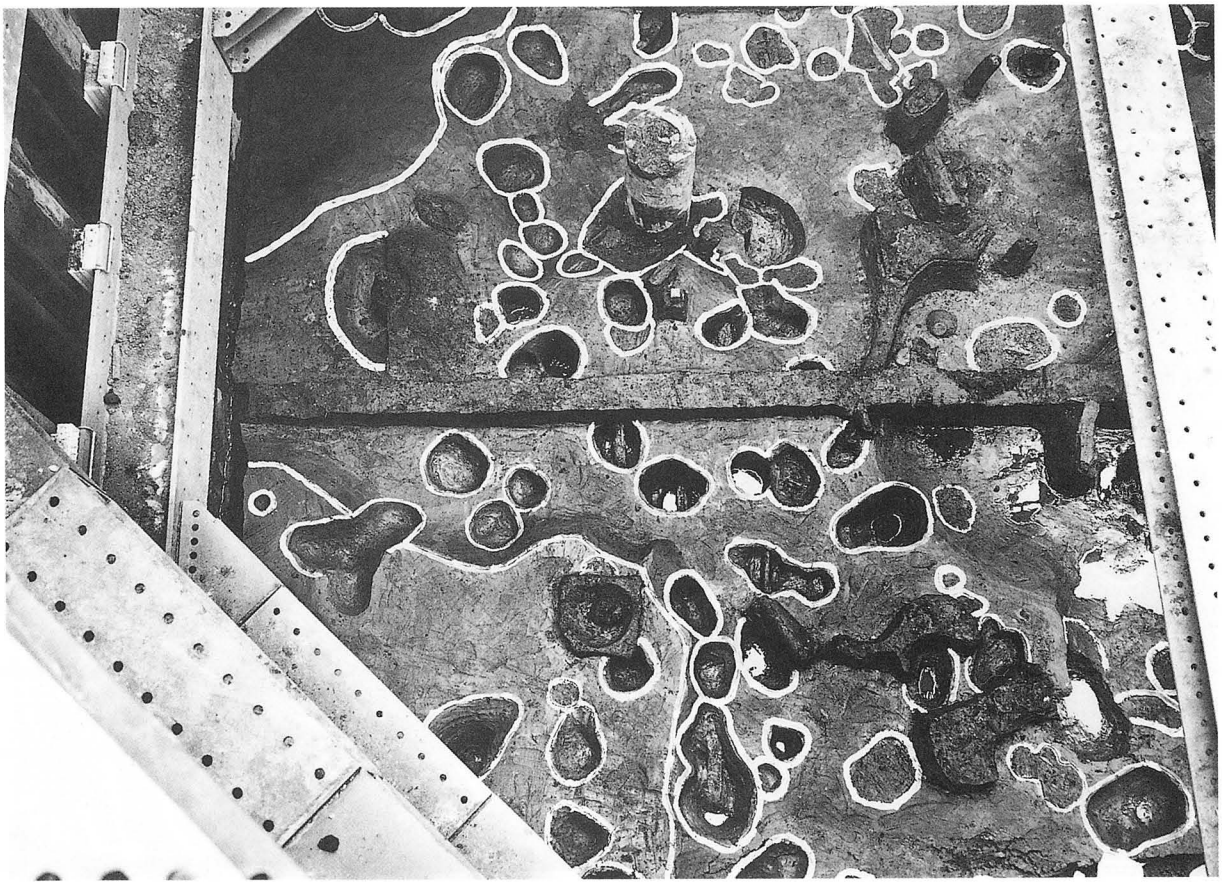


2. 第14層上面遺構－10地区－（東から）

図版6　遺構



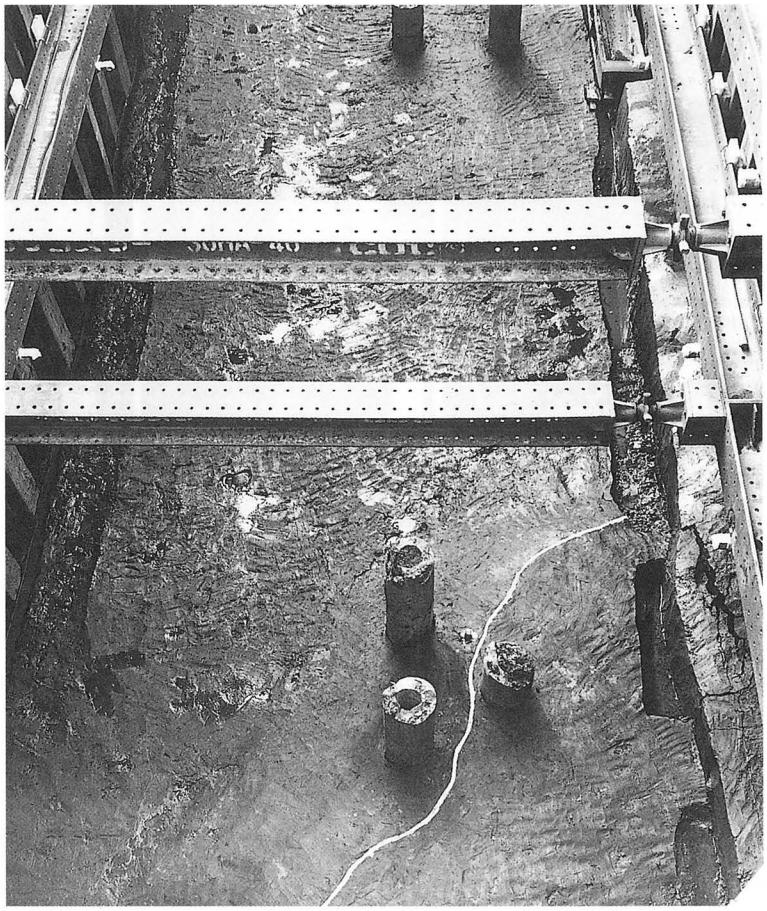
1. 第14層上面遺構－11地区－（東から）



2. 第14層上面遺構－12地区－（南から）

図版7　遺構

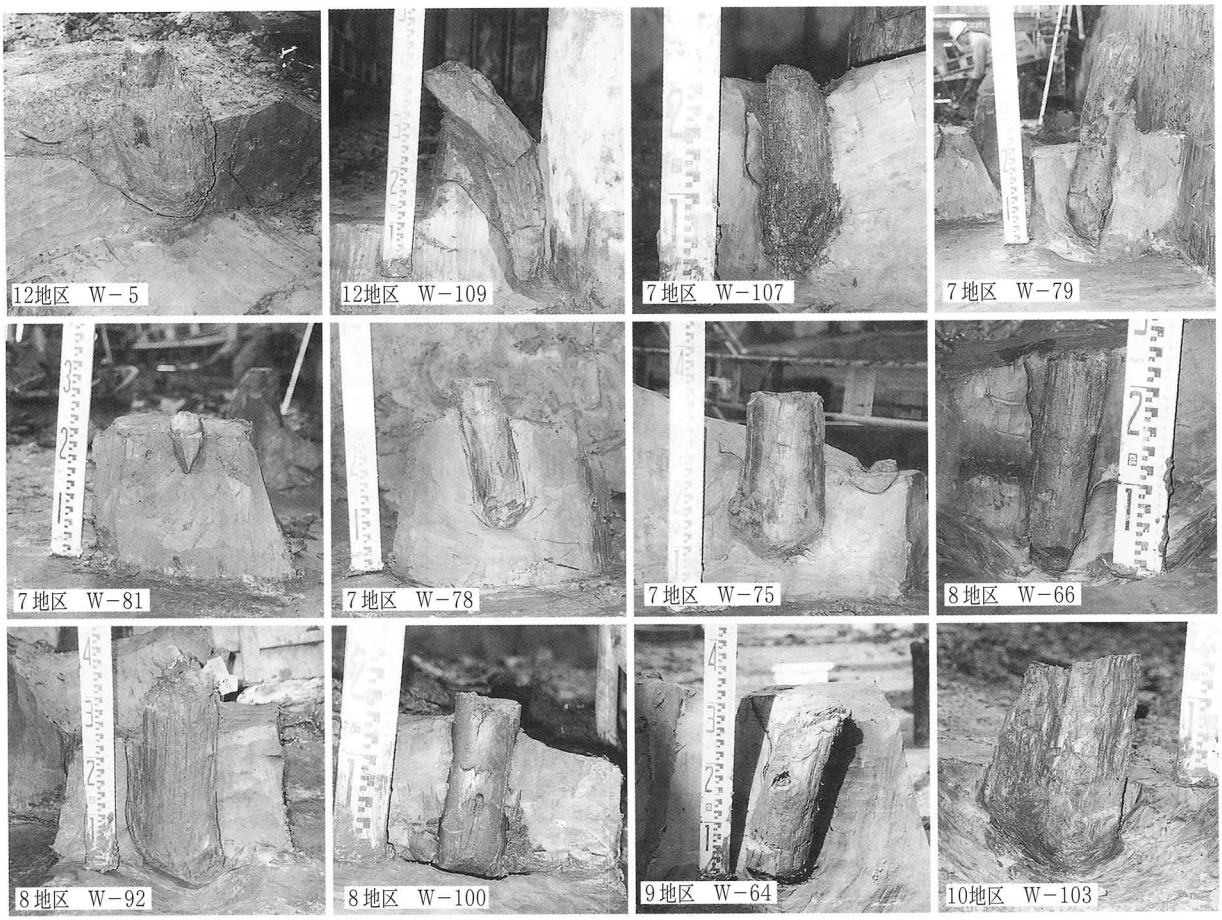
1. 大溝A内木製品出土状況
－２地区－（東から）



2. 大溝A北肩付近－１～３地区－
（北から）

図版8　遺構

1. ピットａ・ｂ断ち割り状況－11・12地区－（南から）

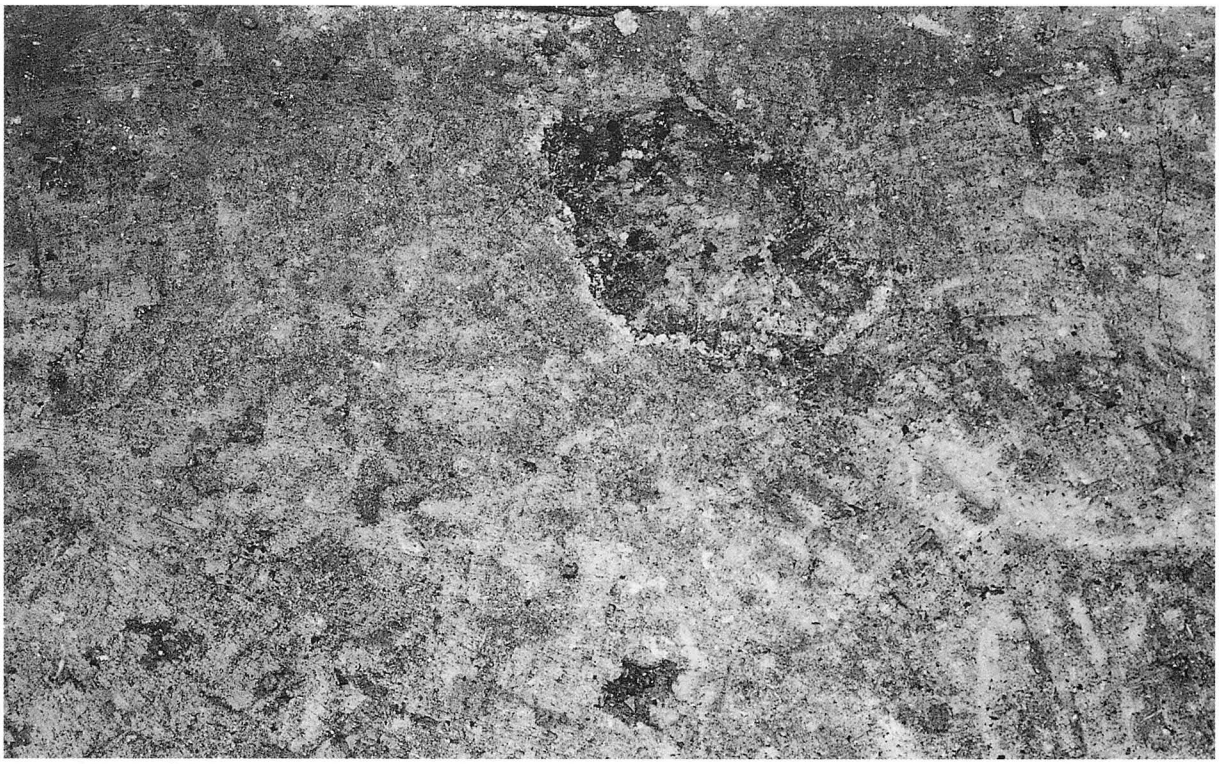


2. 各柱・杭断ち割り状況１

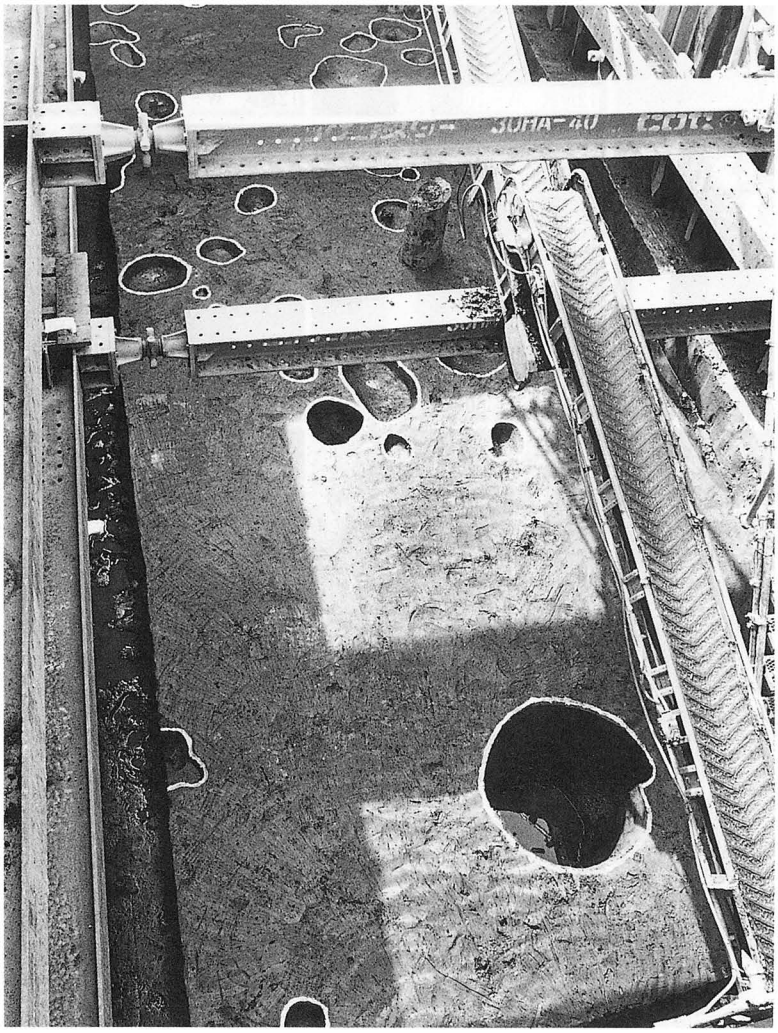
7地区　W−73
7地区　W−74
8地区　W−71
8地区　W−72
9地区　W−65
11地区　W−45・47
11地区　W−104
11地区　W−87
11地区　W−44
11地区　W−43
12地区　W−10
12地区　W−11
10地区　W−97
10地区　W−98
10地区　W−60
11地区　W−54
11地区　W−37
11地区　W−49・50
11地区　W−86
11・12地区　W−15
12地区　W−82
12地区　W−2
12地区　W−12
12地区　W−1

各柱・杭断ち割り状況１

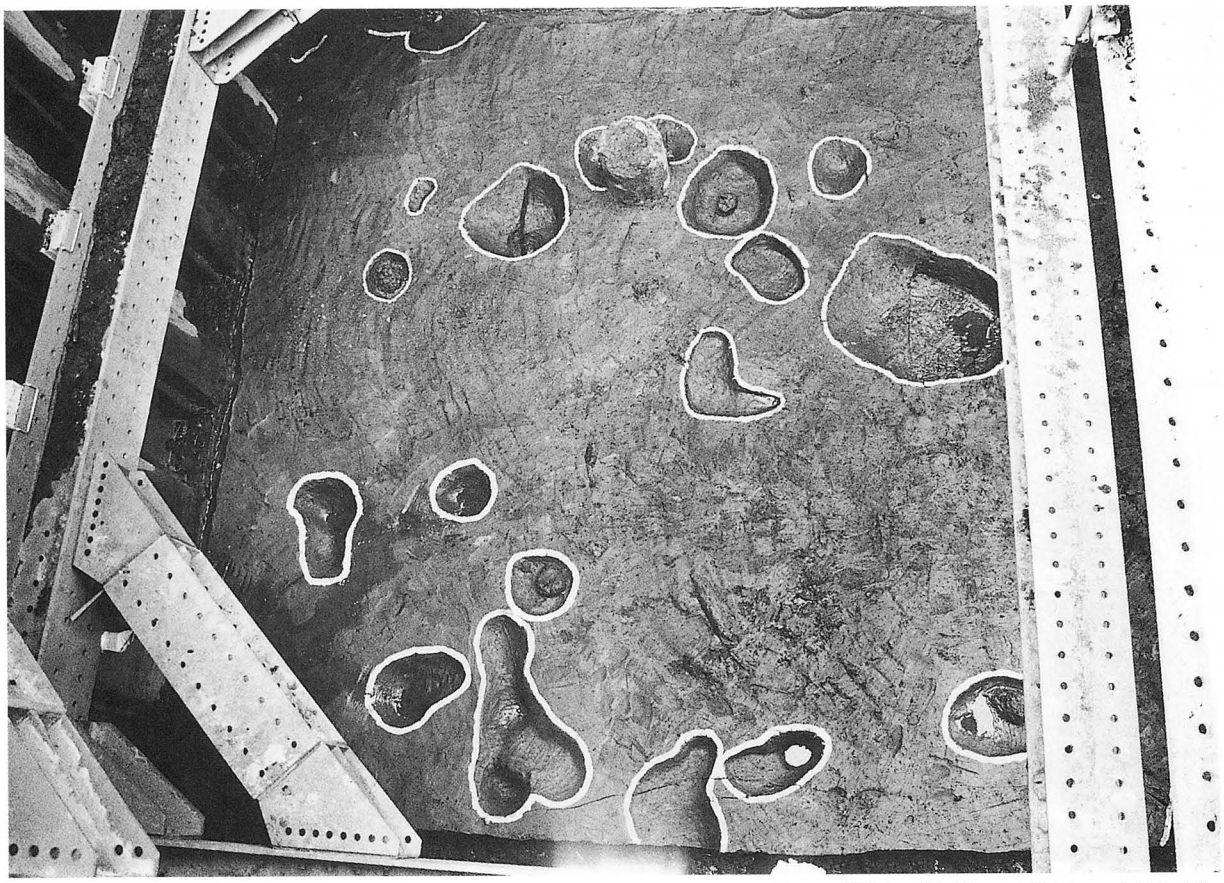
図版10　遺構



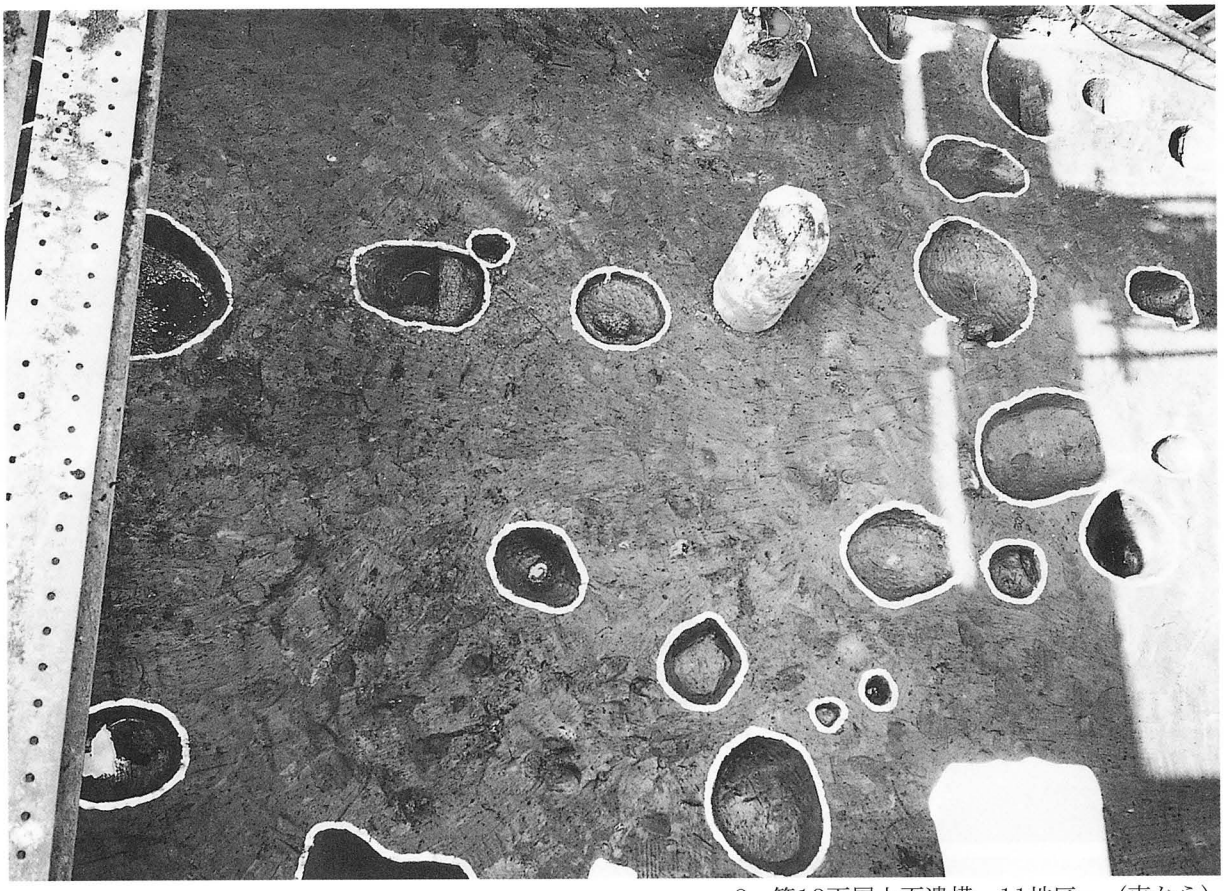
1. 炉跡および焼土散乱状況－７・８地区－（東から）



2. 第13下層上面遺構
－10～12地区－（北から）

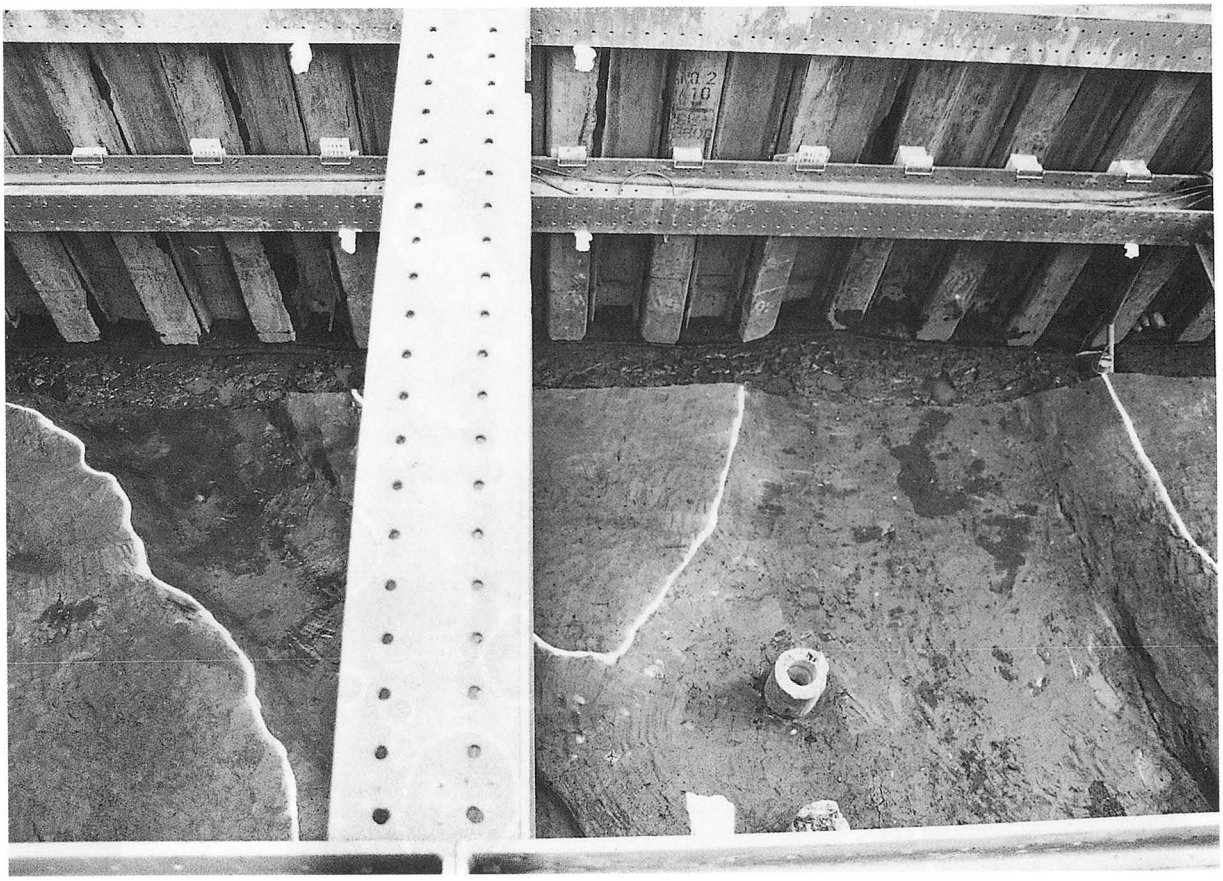


1. 第13下層上面遺構－12地区－（東から）

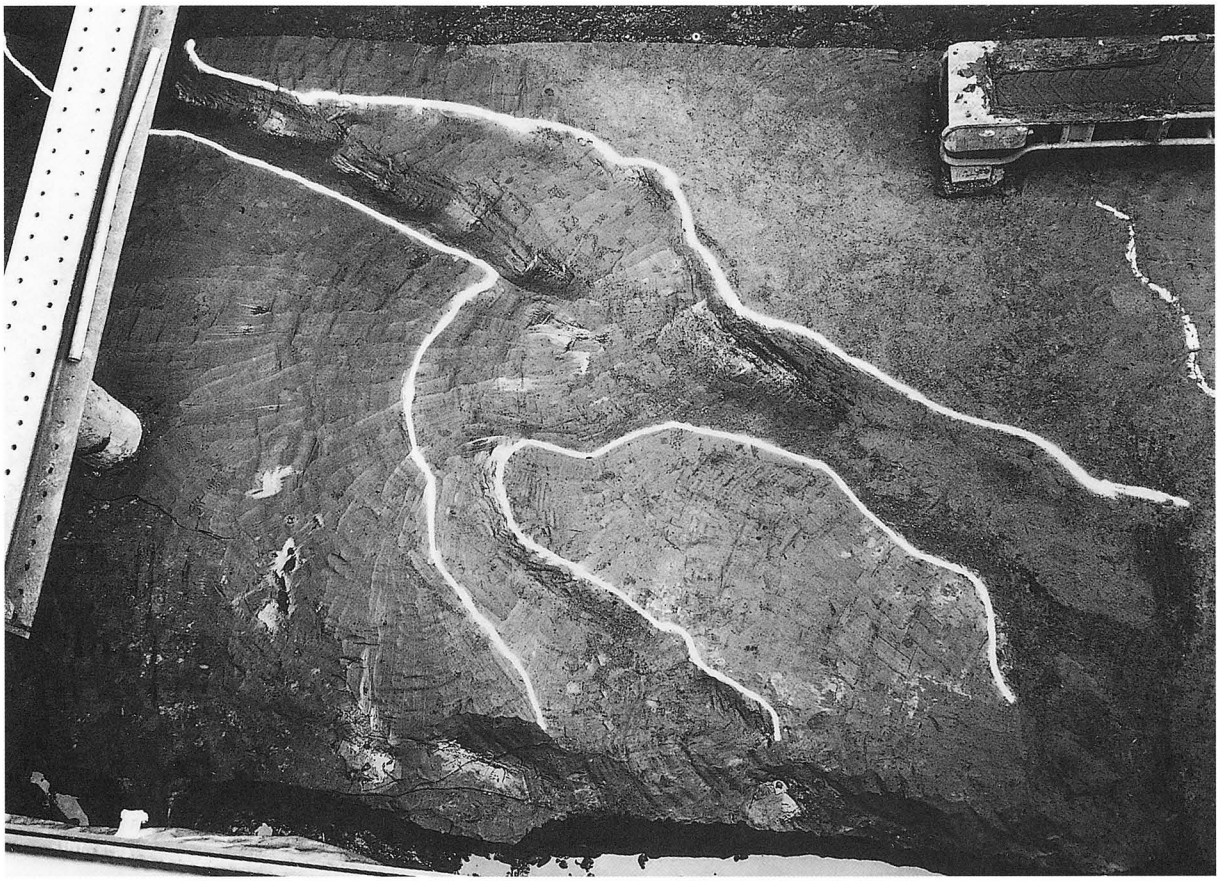


2. 第13下層上面遺構－11地区－（東から）

1. 自然流路２南肩付近と同内足跡－３・４地区－（南から）



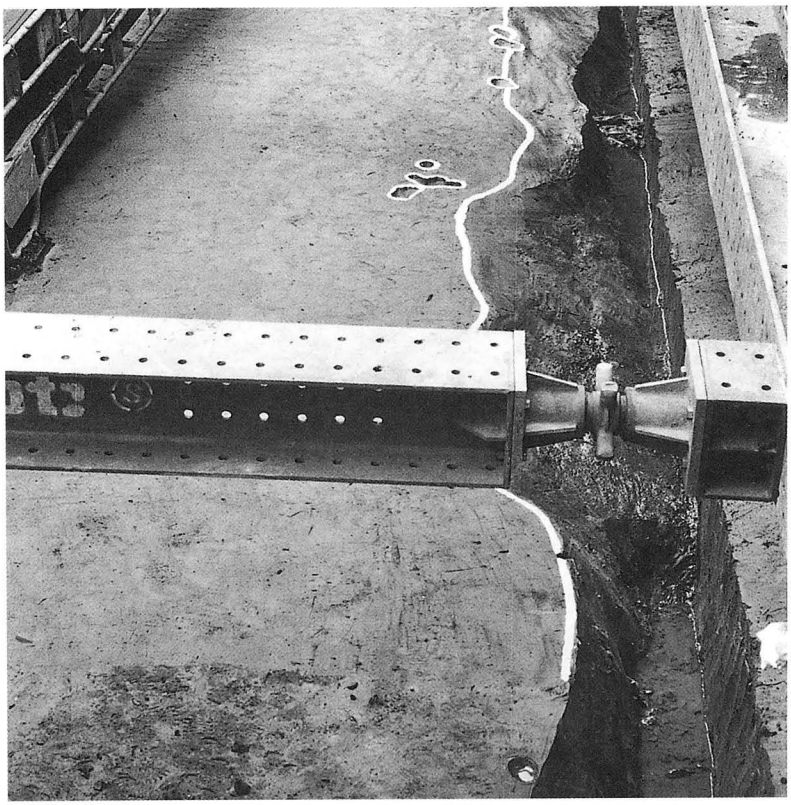
2. 自然流路１－２～３地区－（西から）



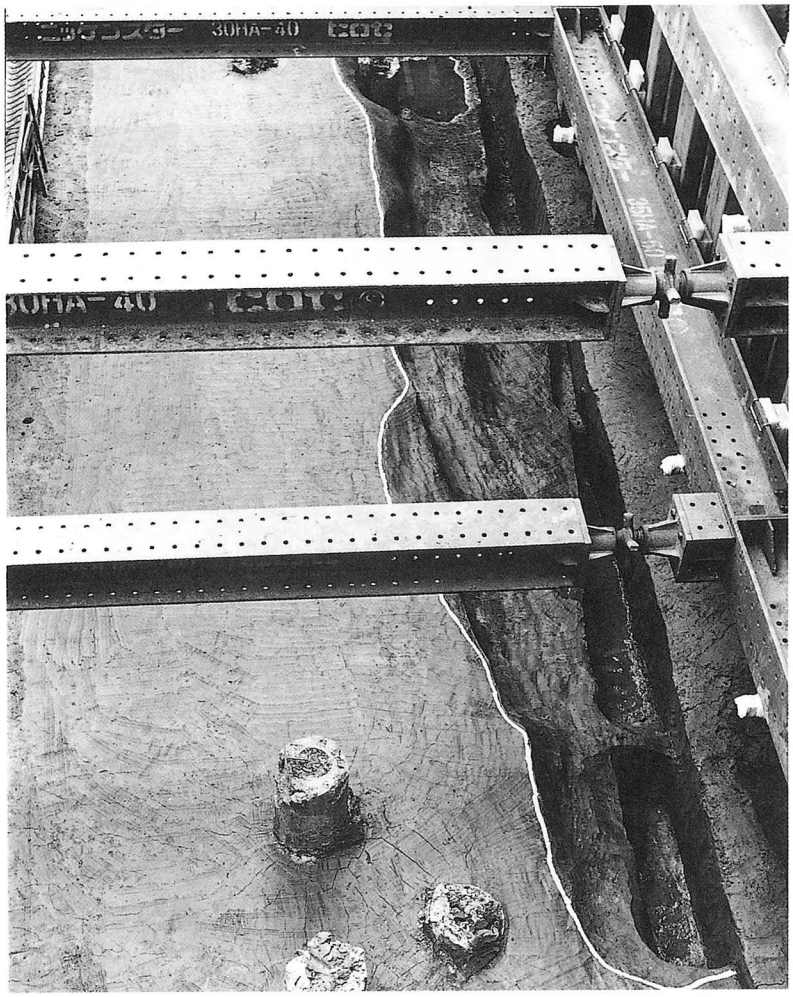
1. 溝４－１・２地区－（西から）

2. 第９層内石斧出土状況－８地区－（東から）

図版14　遺構



1. 第９層上面遺構－溝３－
（東から）



2. 第９層上面遺構２－溝１・２－
（北から）

32

14

39

13

51

49

16

大土坑・土坑５・16出土弥生土器　壷・甕・高坏・甕蓋

114

81

113

78

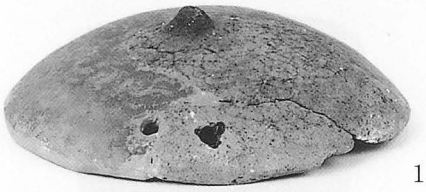
111

94

115

大溝１・溝13・落ち込み出土弥生土器　壷・甕・高坏・甕蓋

158


122′

214

122

203

120

121

176

138

落ち込み・第13層出土弥生土器　壷・甕・高坏・壷蓋

219

220

273

290

216

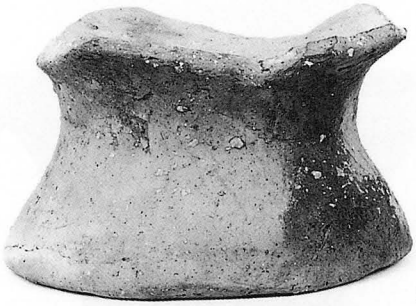
291

244

284

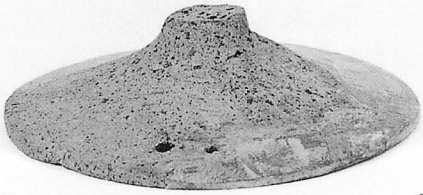
第13層出土弥生土器　細頸壷・無頸壷・高坏・鉢

297


292

297′

279


303

276

343

293

第13層出土弥生土器　高坏・甕・壷蓋

395

400

407

406

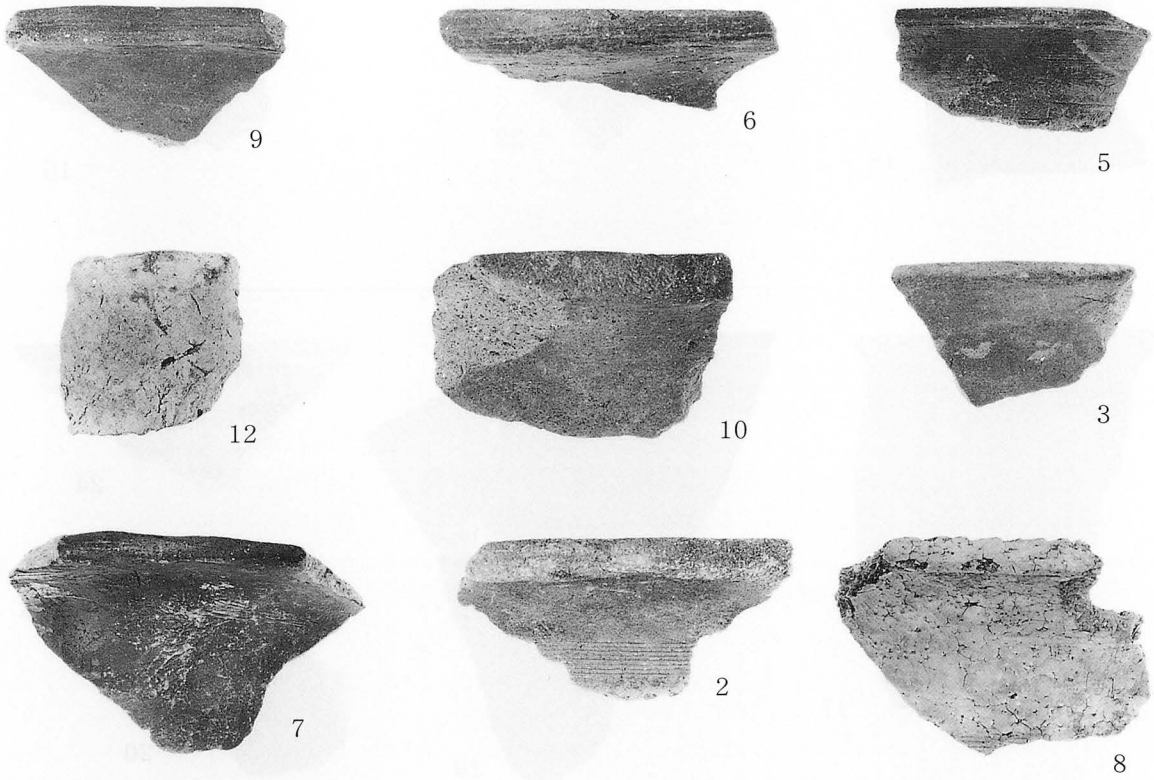
339

330

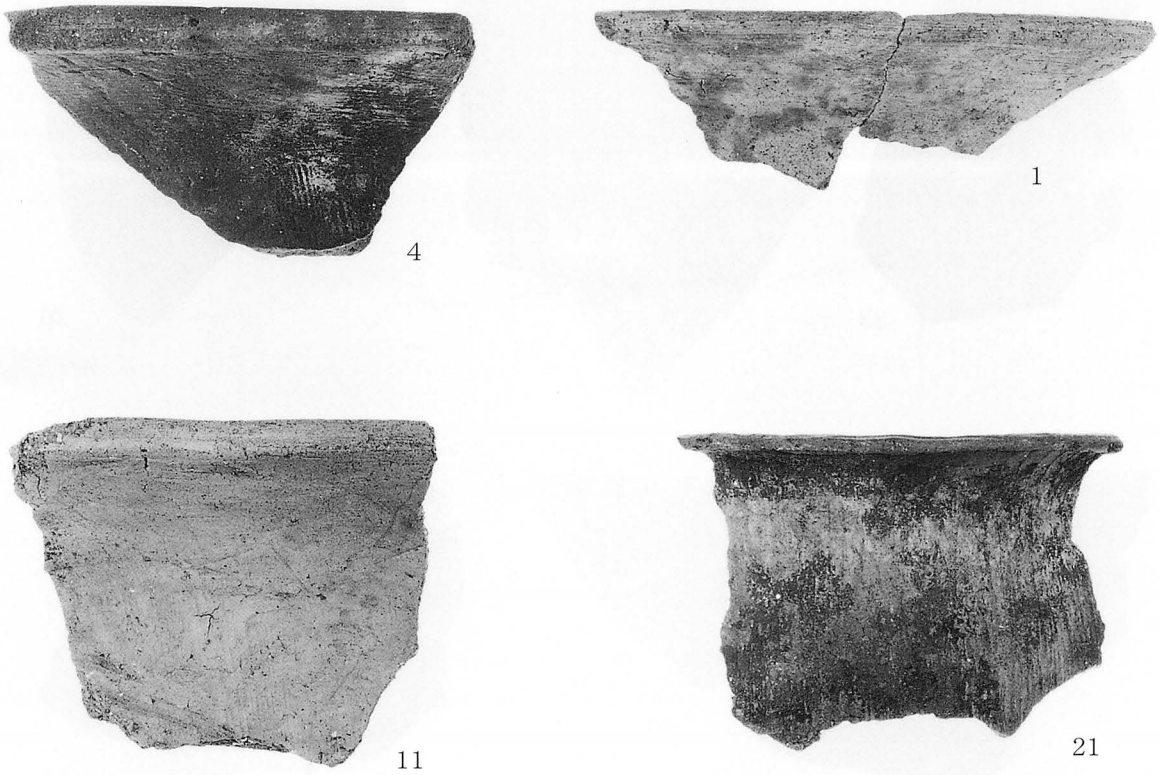
350

372

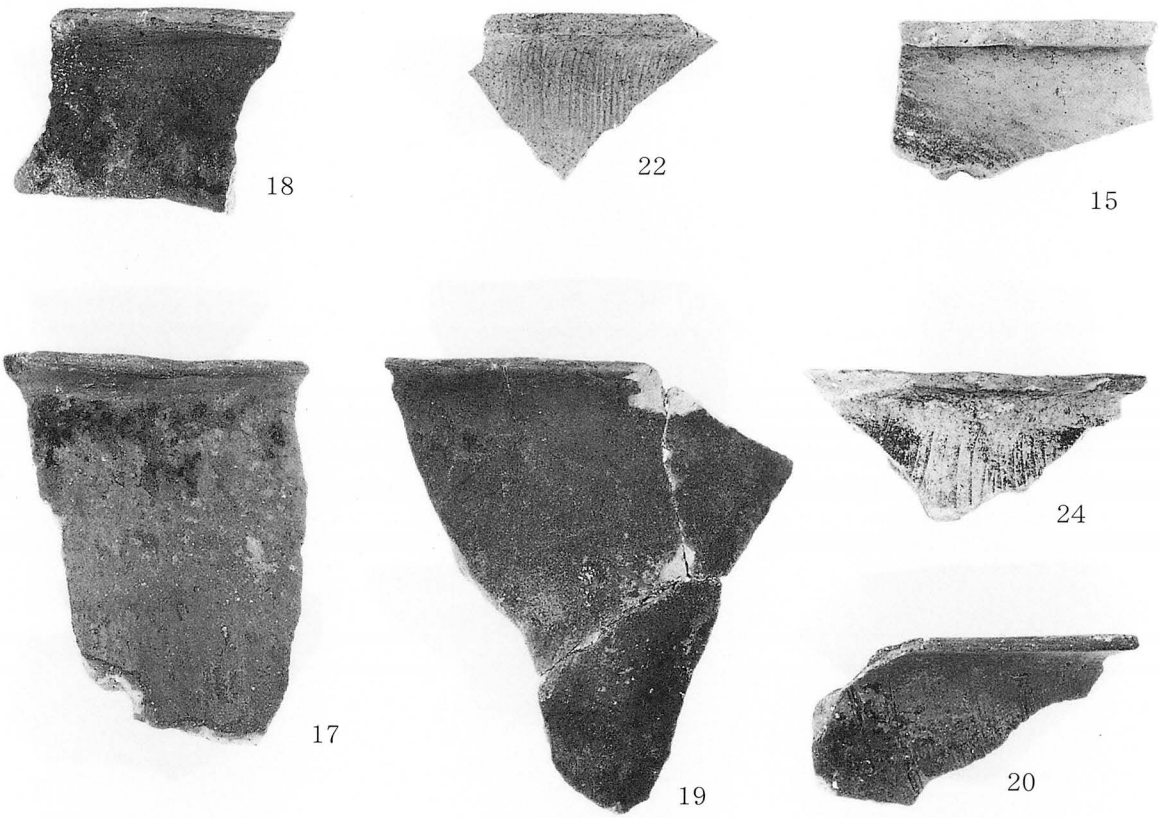
第13・14層出土弥生土器　壷・甕・台付無頸壷、第９層出土須恵器　坏・蓋坏



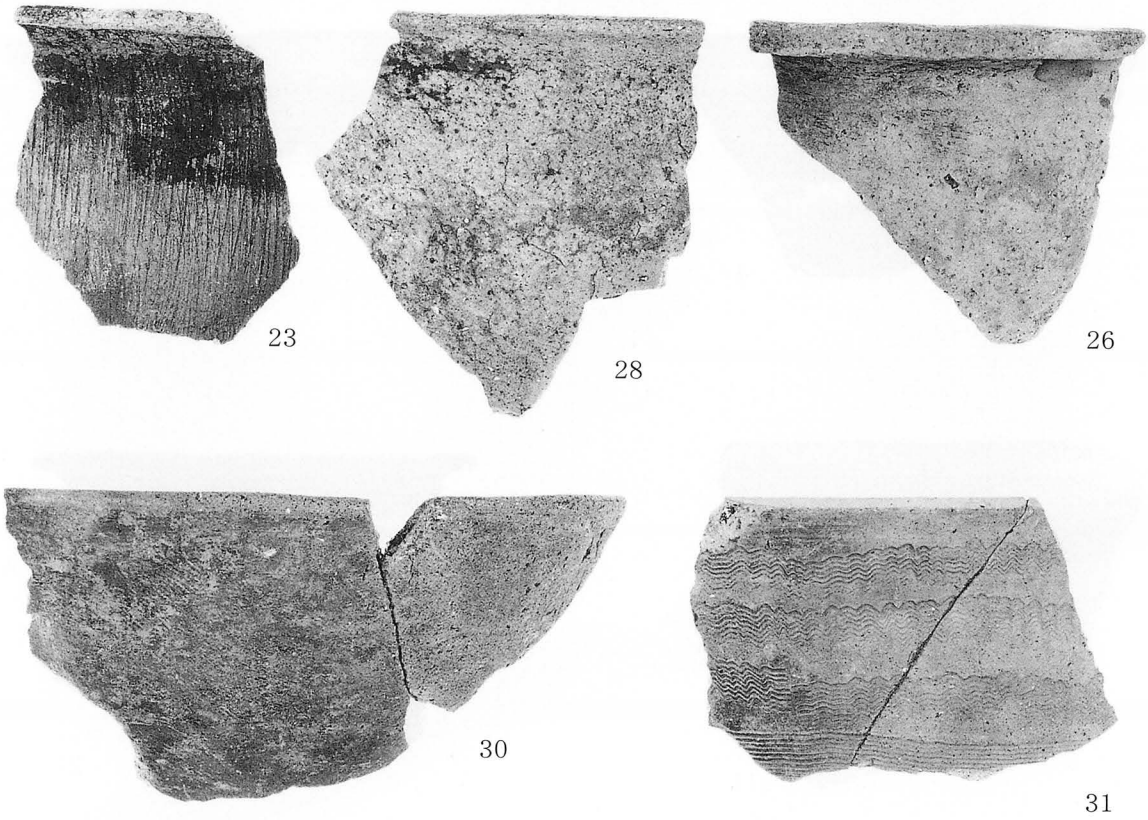
1. 大土坑出土弥生土器　壷・細頸壷



2. 大土坑出土弥生土器　壷・甕

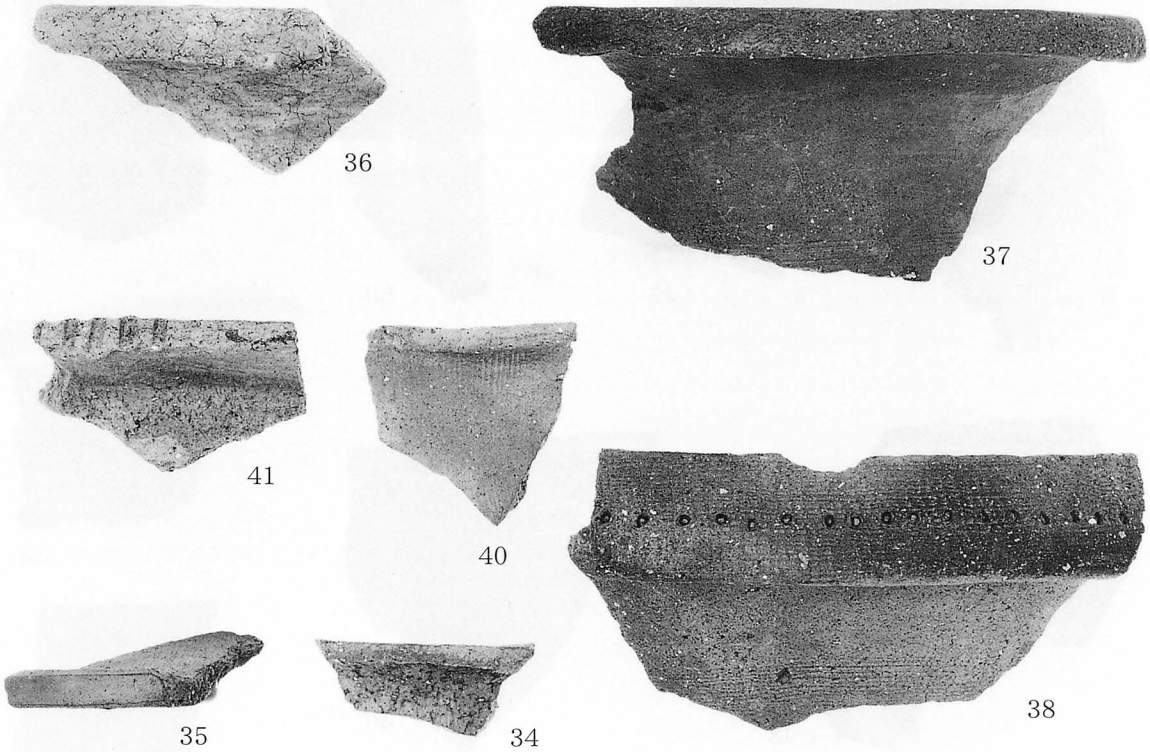


1. 大土坑出土弥生土器　甕

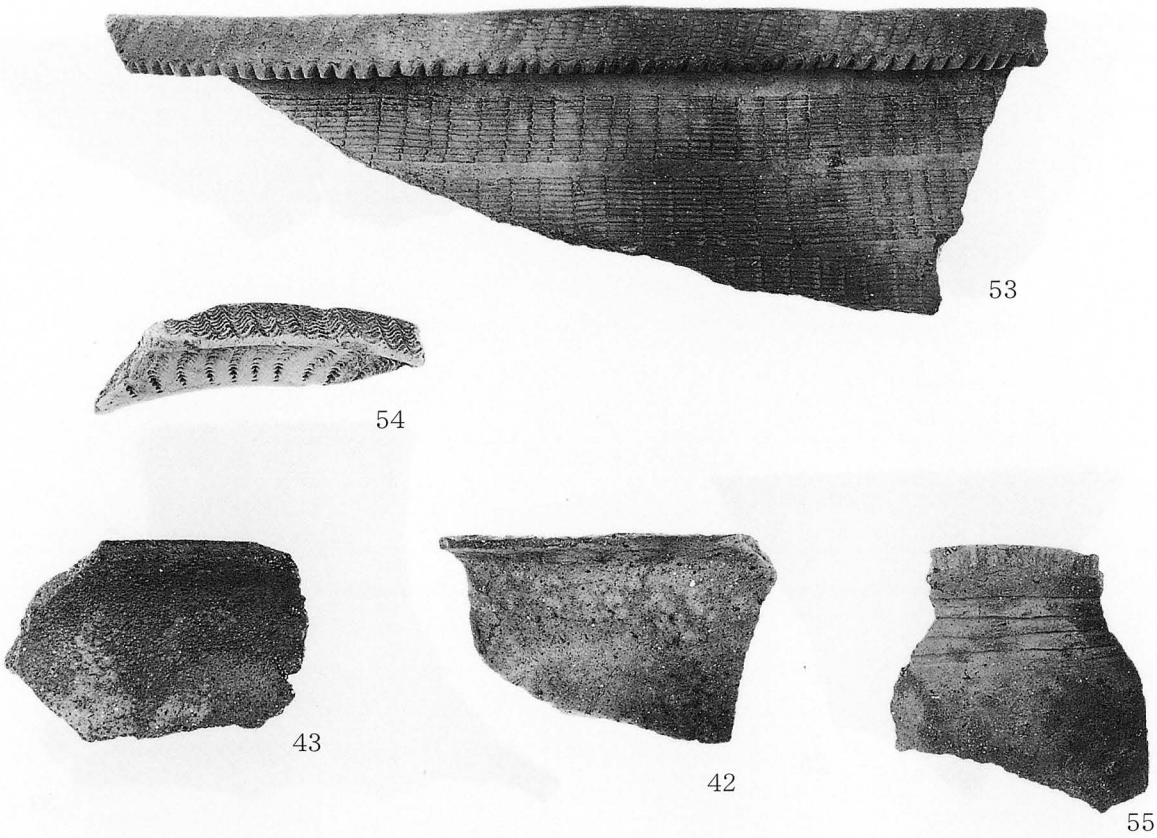


2. 大土坑出土弥生土器　甕・鉢

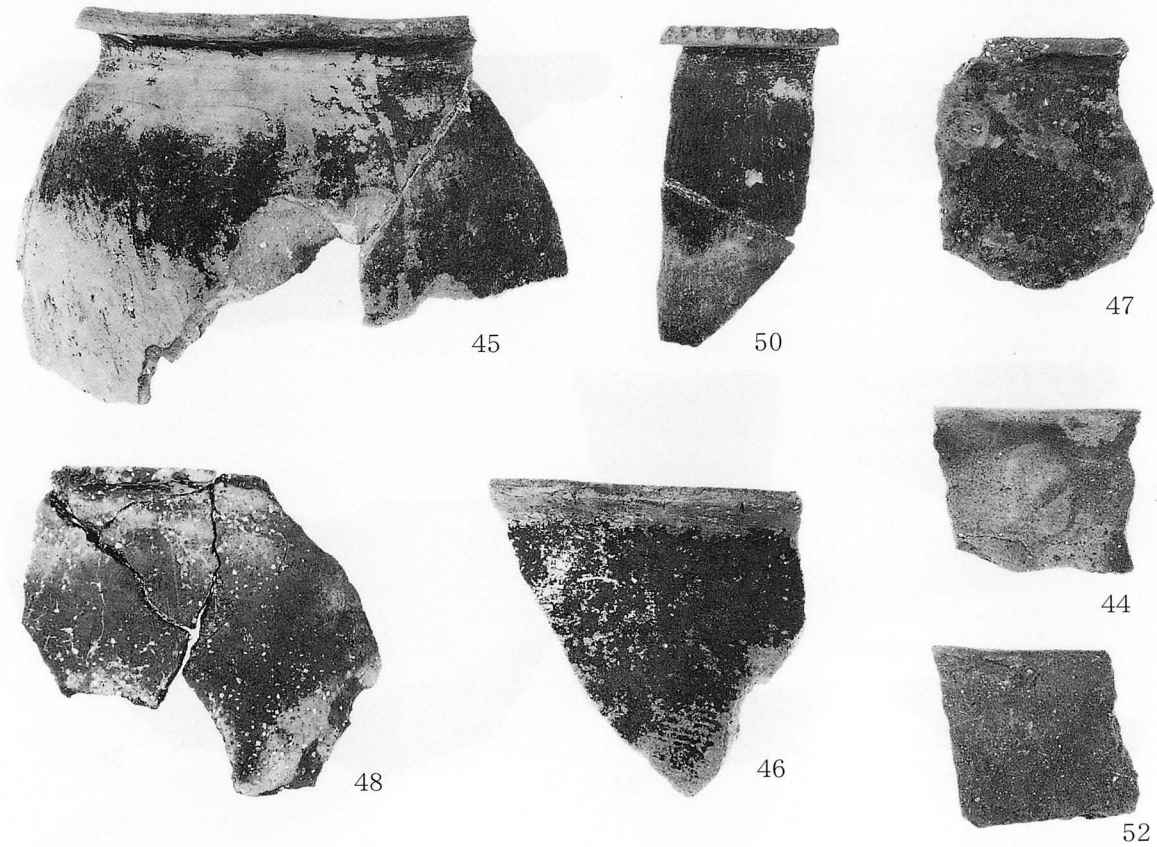
1. 大土坑出土弥生土器　鉢・甕蓋



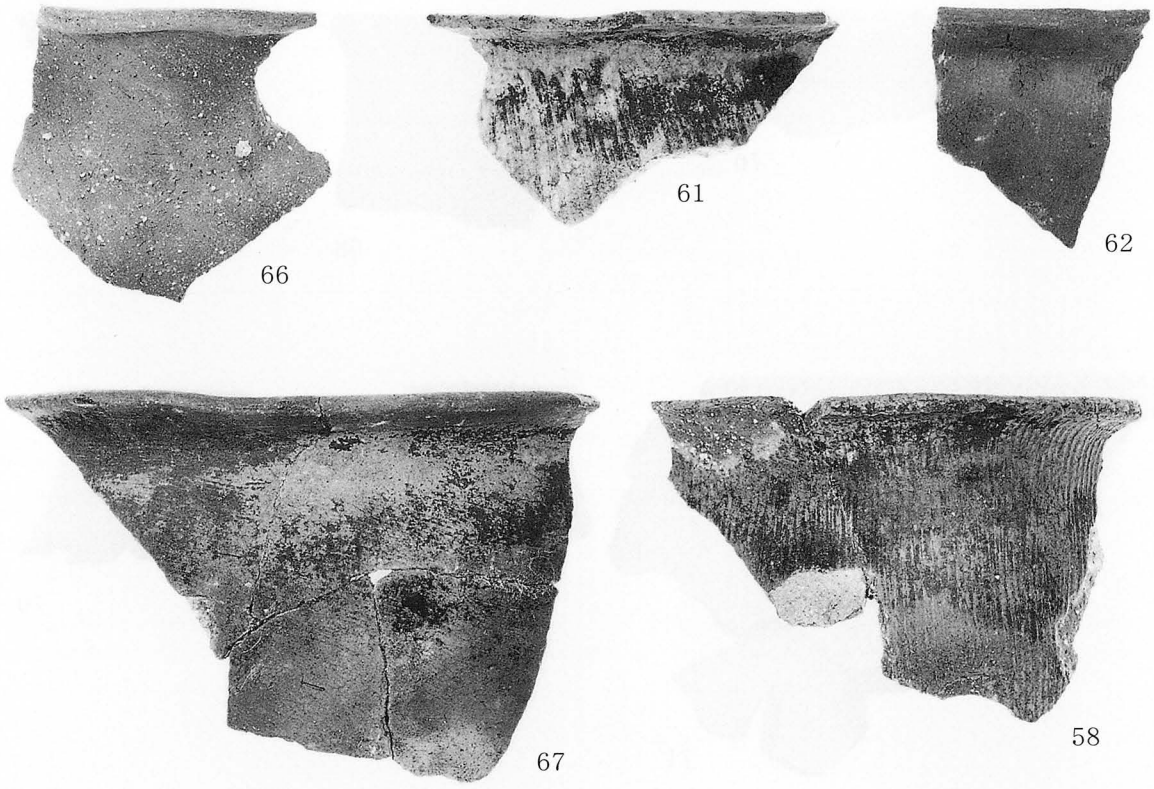
2. 土坑４・５・６出土弥生土器　壷・甕・高坏・鉢



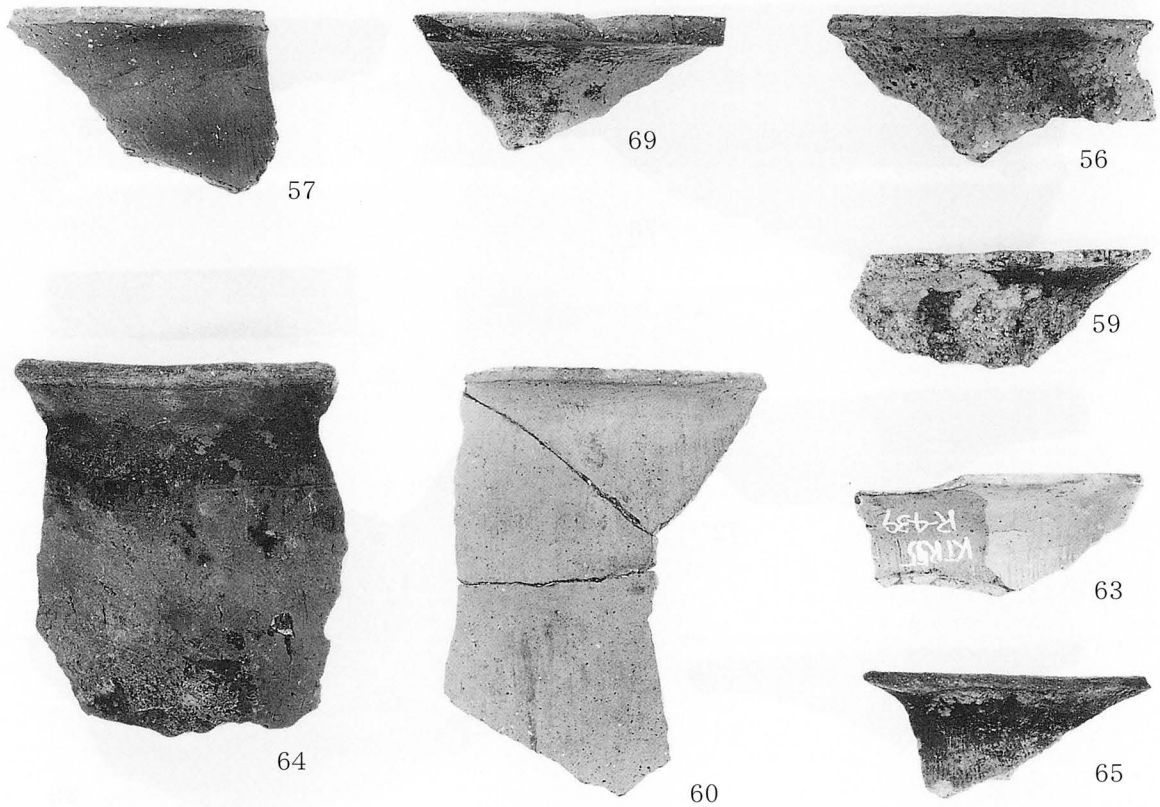
1. 土坑10・16・17・18出土弥生土器　鉢・壷・甕



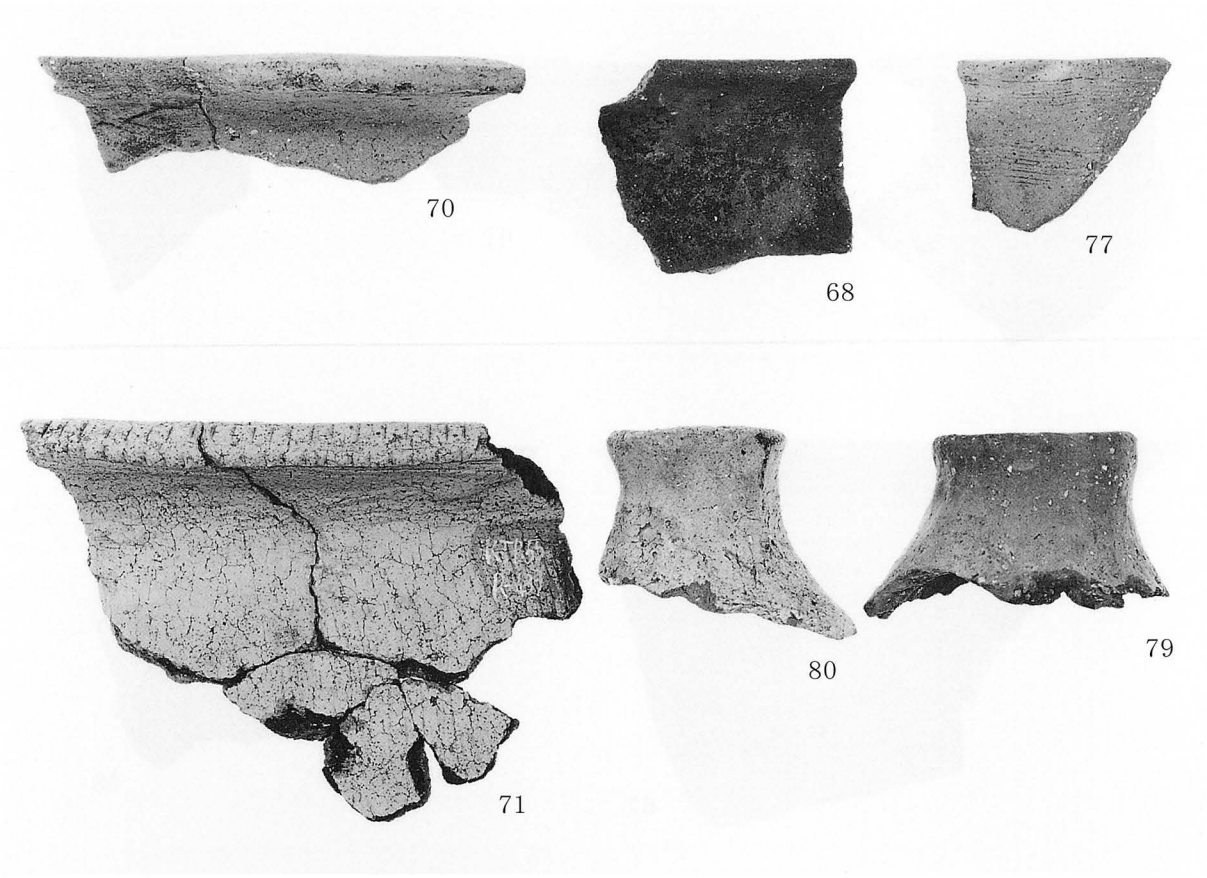
2. 土坑16出土弥生土器　鉢・甕



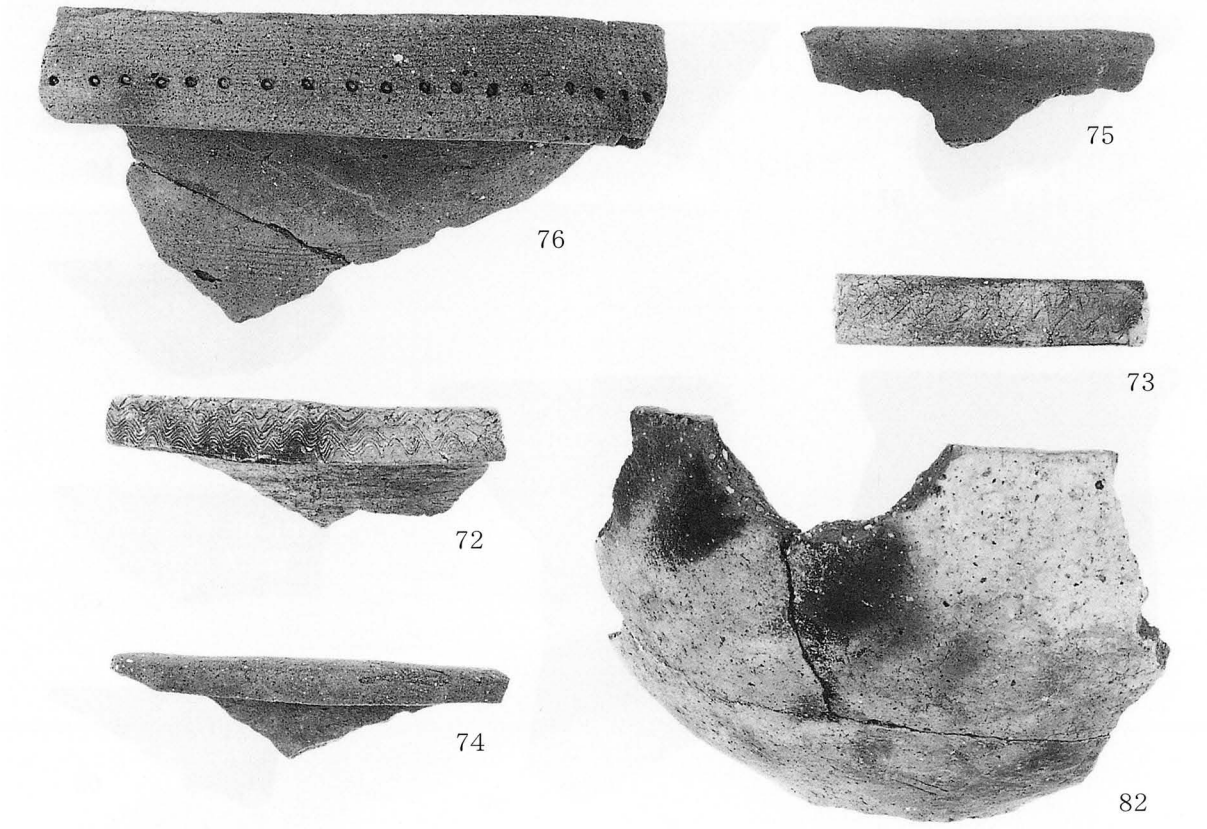
1. 大溝１出土弥生土器　甕



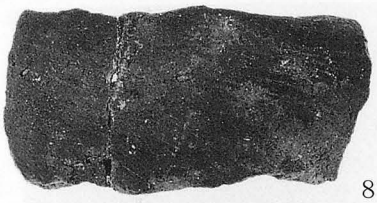
2. 大溝１出土弥生土器　甕

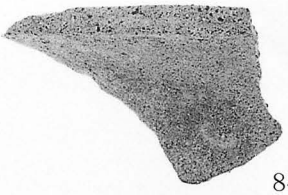


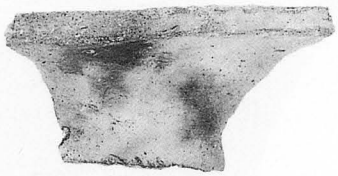
1. 大溝１出土弥生土器　甕・甕蓋・細頸壷

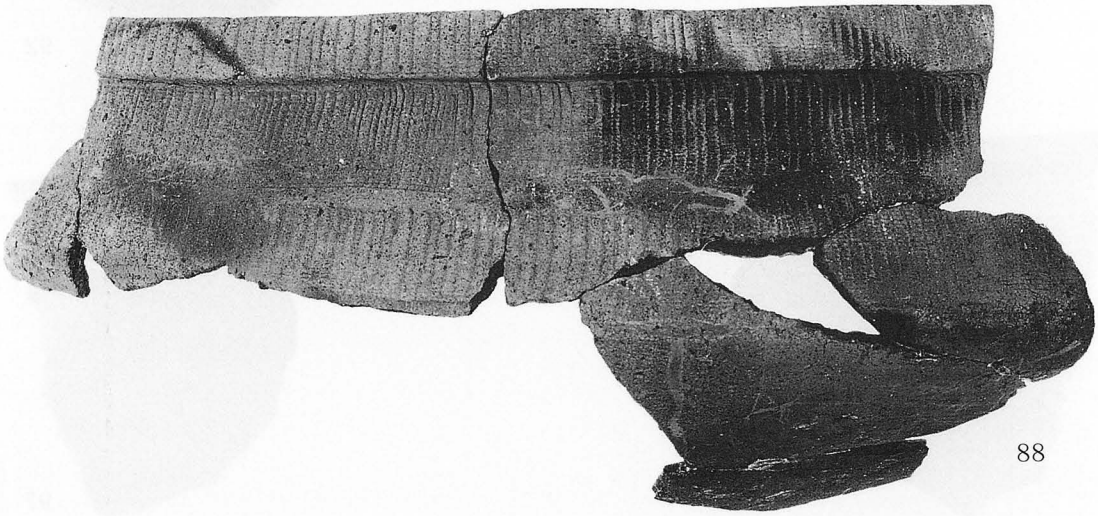


2. 大溝１出土弥生土器　壷・鉢


86


84


83

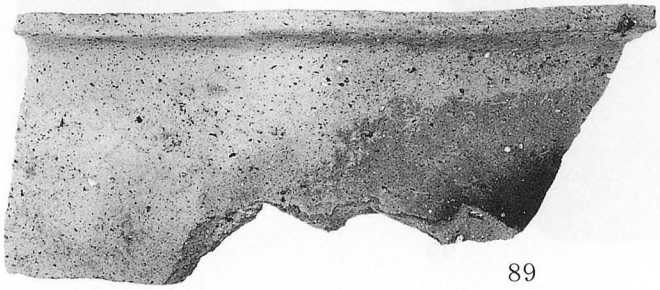

88

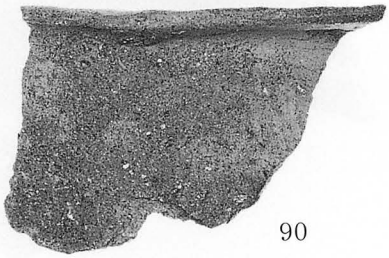
1. 溝２出土弥生土器　壷・細頸壷・鉢

91

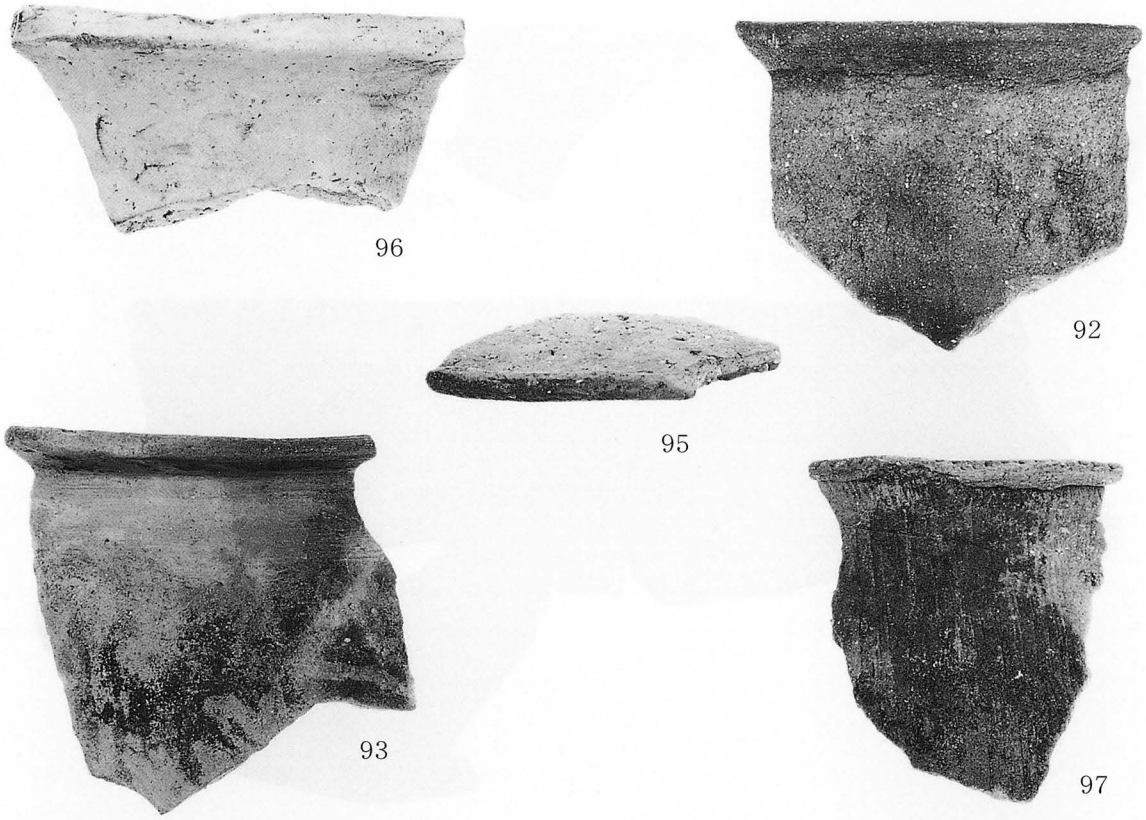
85

87

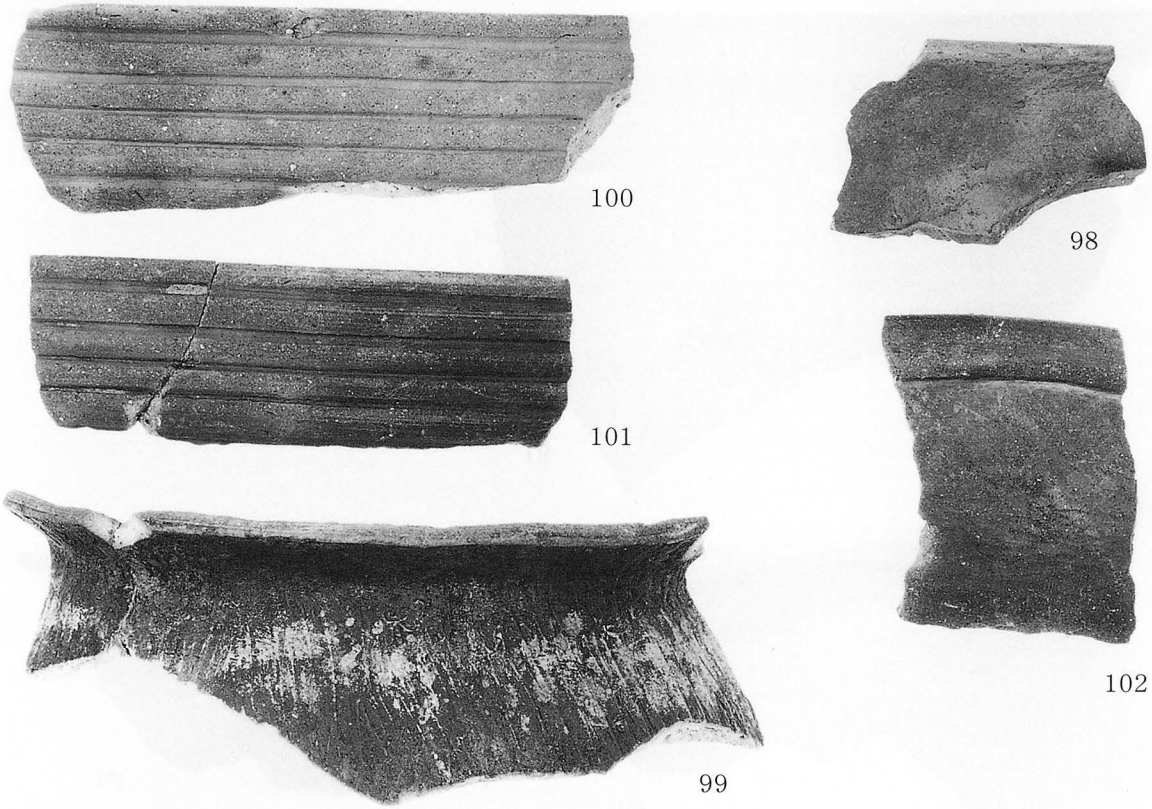

89


90

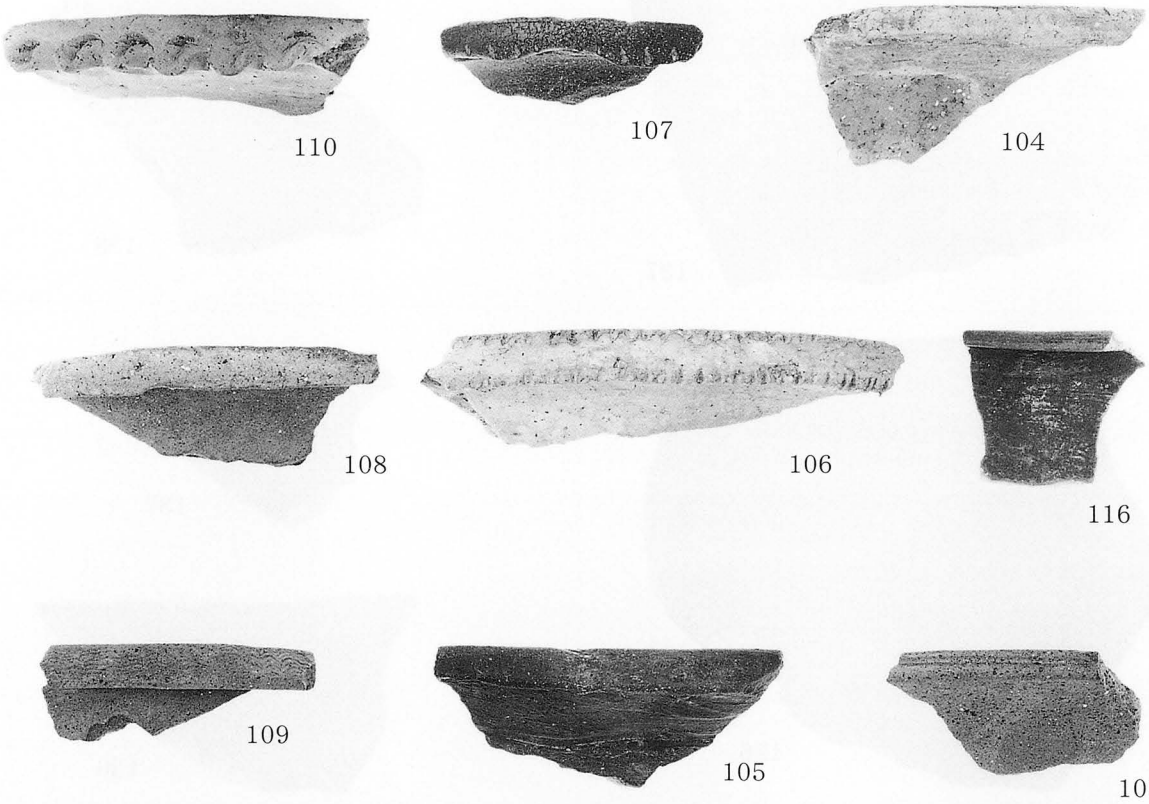
2. 溝２・３・６出土弥生土器　壷・甕・鉢



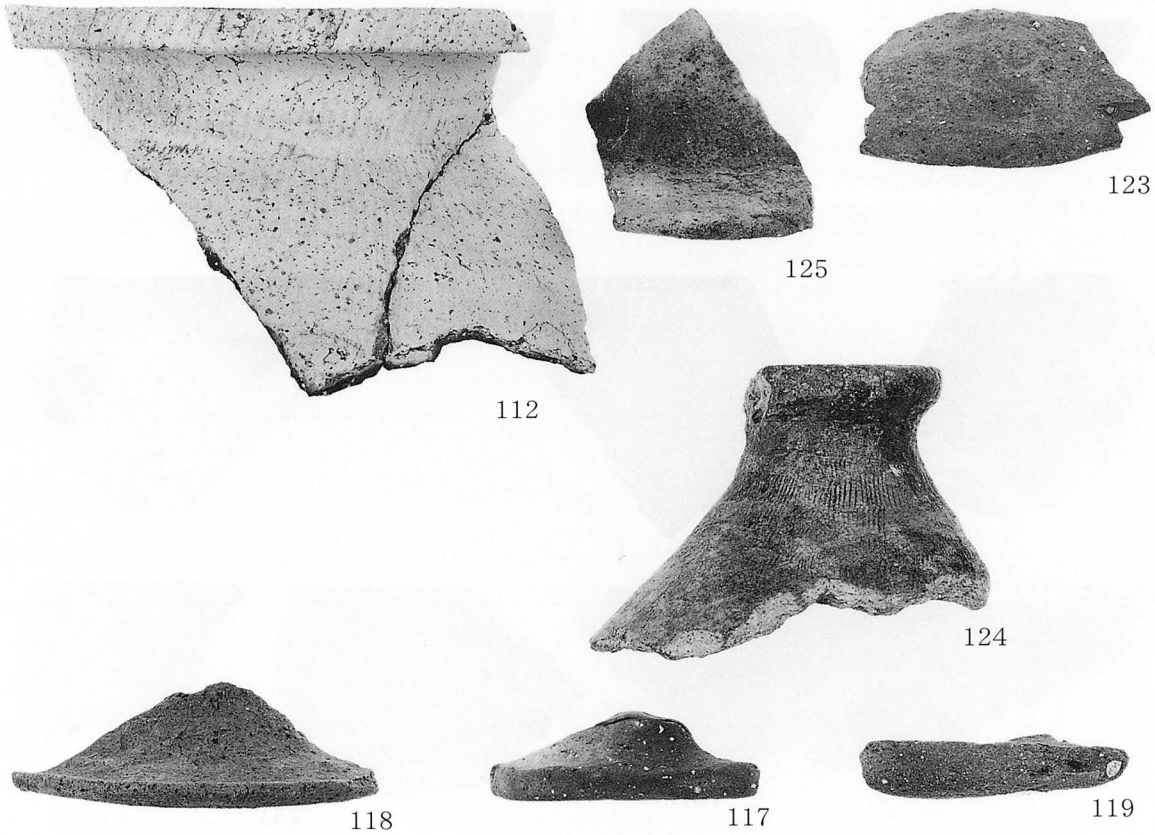
1. 溝B・C・D出土弥生土器　壷・甕・甕蓋



2. 自然流路出土弥生土器　甕・高坏

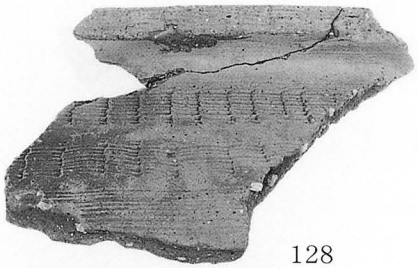


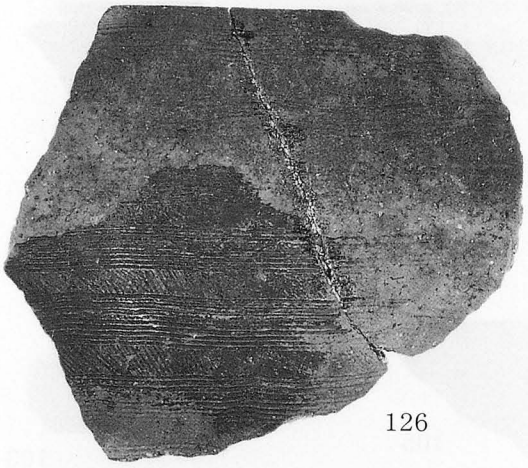
1. 落ち込み出土弥生土器　壷

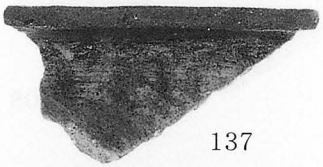


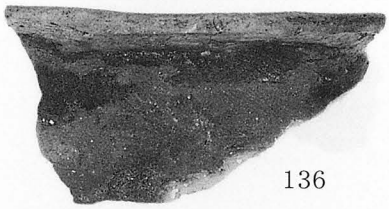
2. 落ち込み出土弥生土器　壷・甕蓋・壷蓋・高坏

127

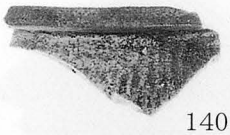

128

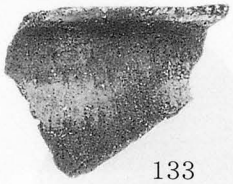

126


137

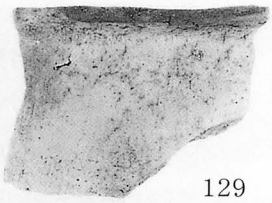

136

1. 落ち込み出土弥生土器　鉢・甕

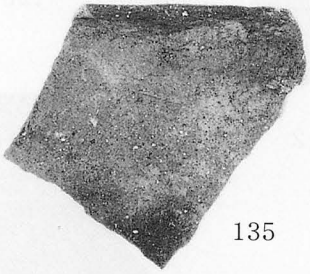

140

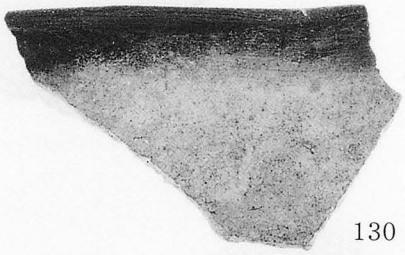

133

134


129

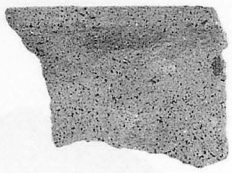
132


135

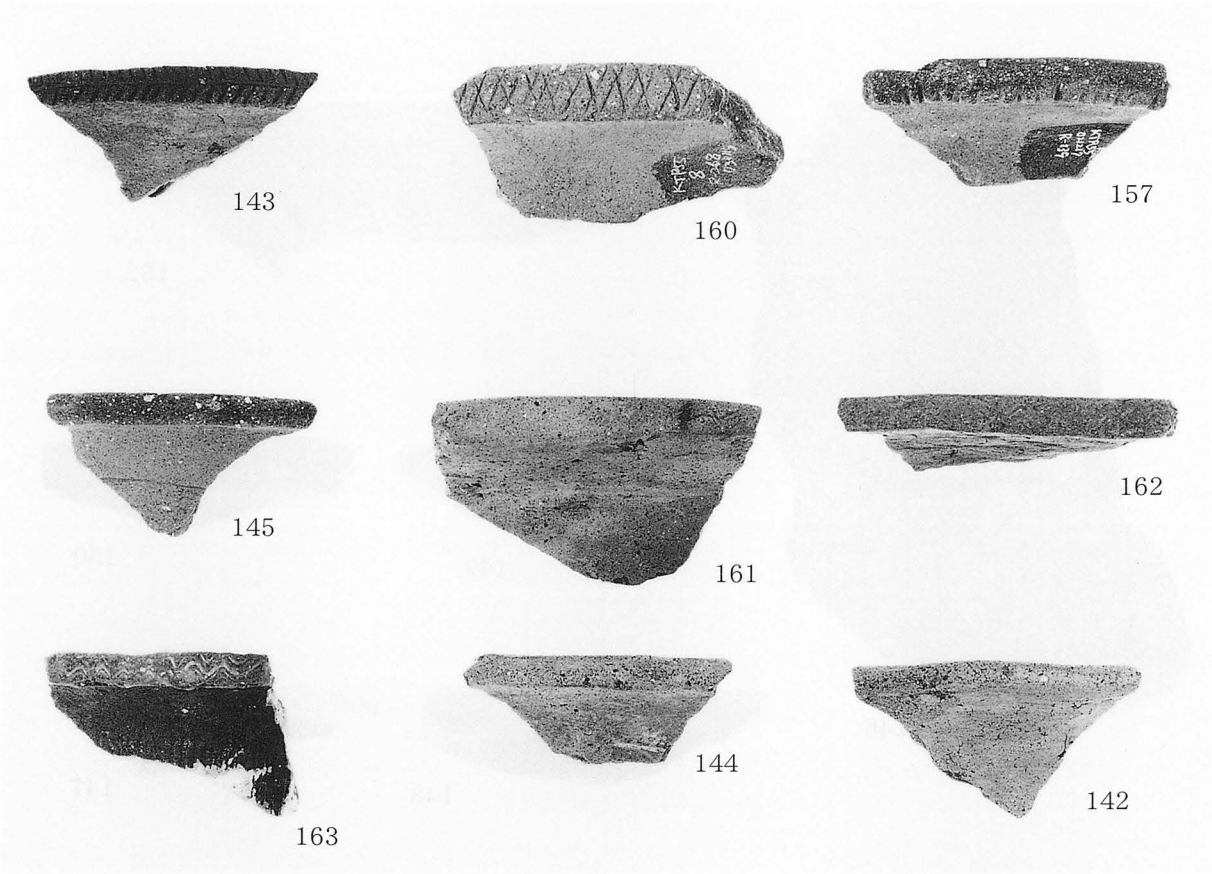

130

131

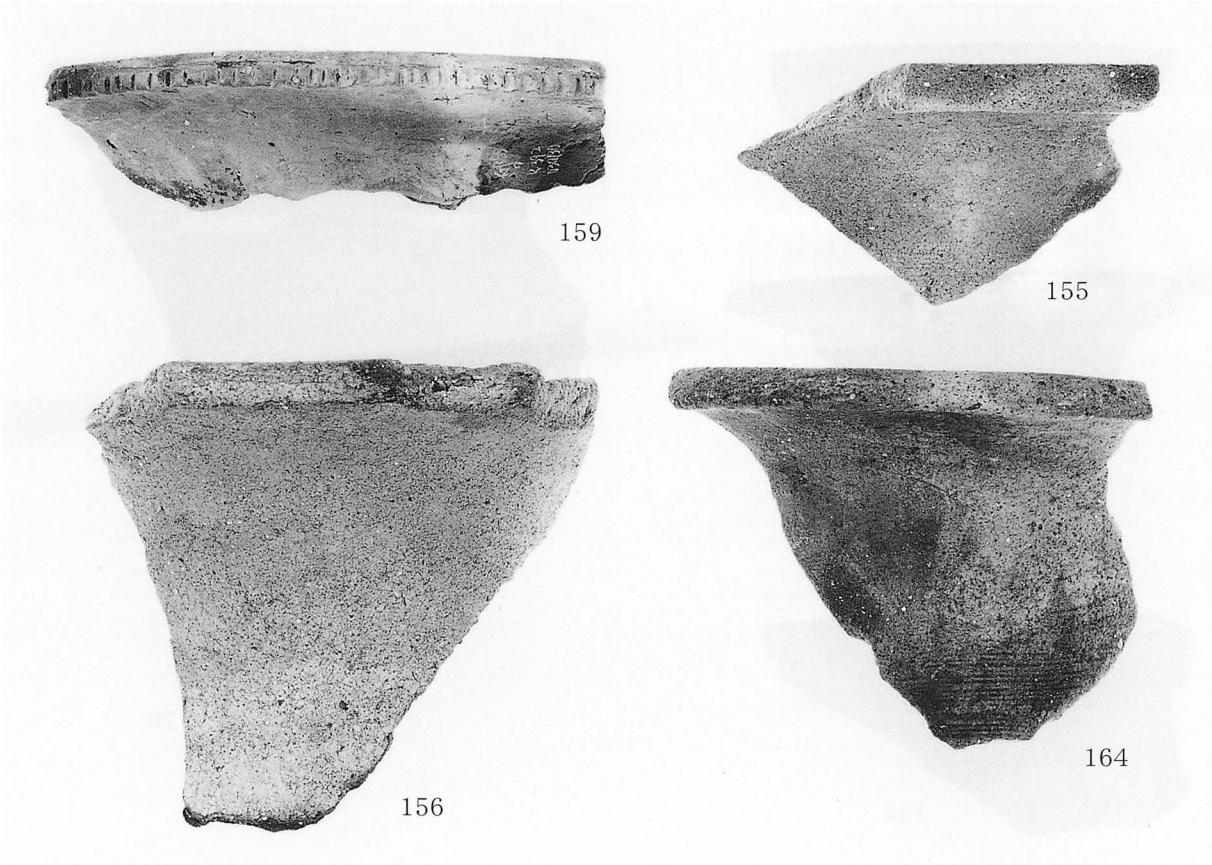
141


139

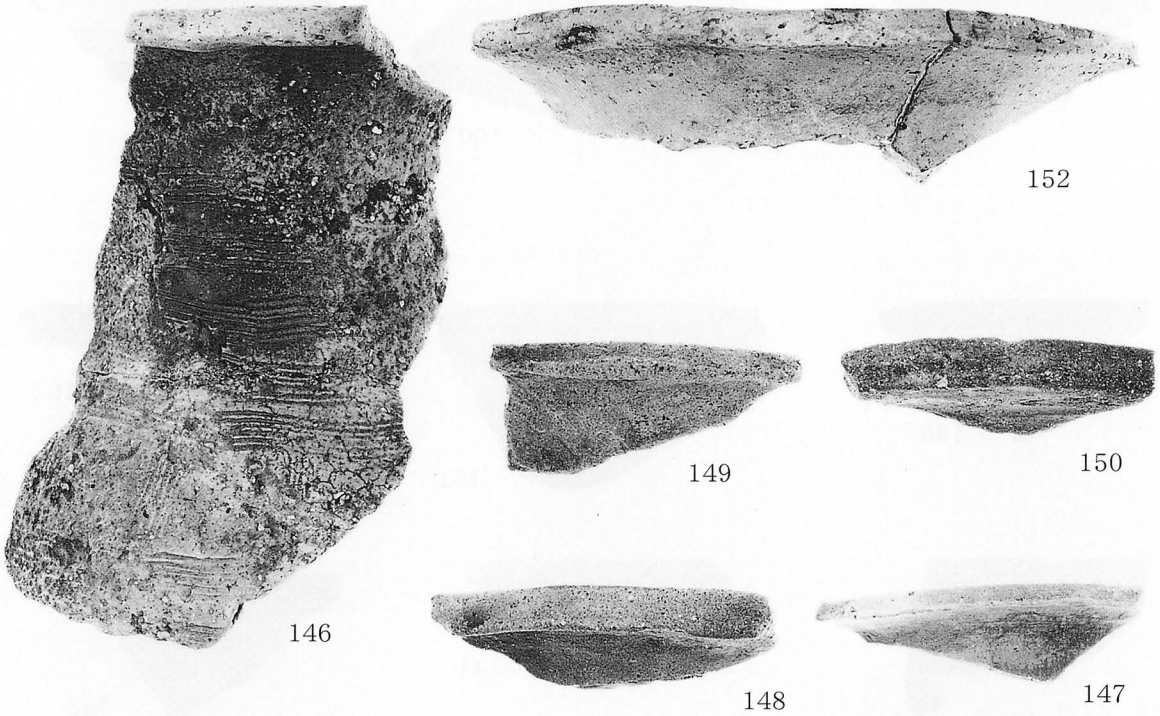
2. 落ち込み出土弥生土器　甕



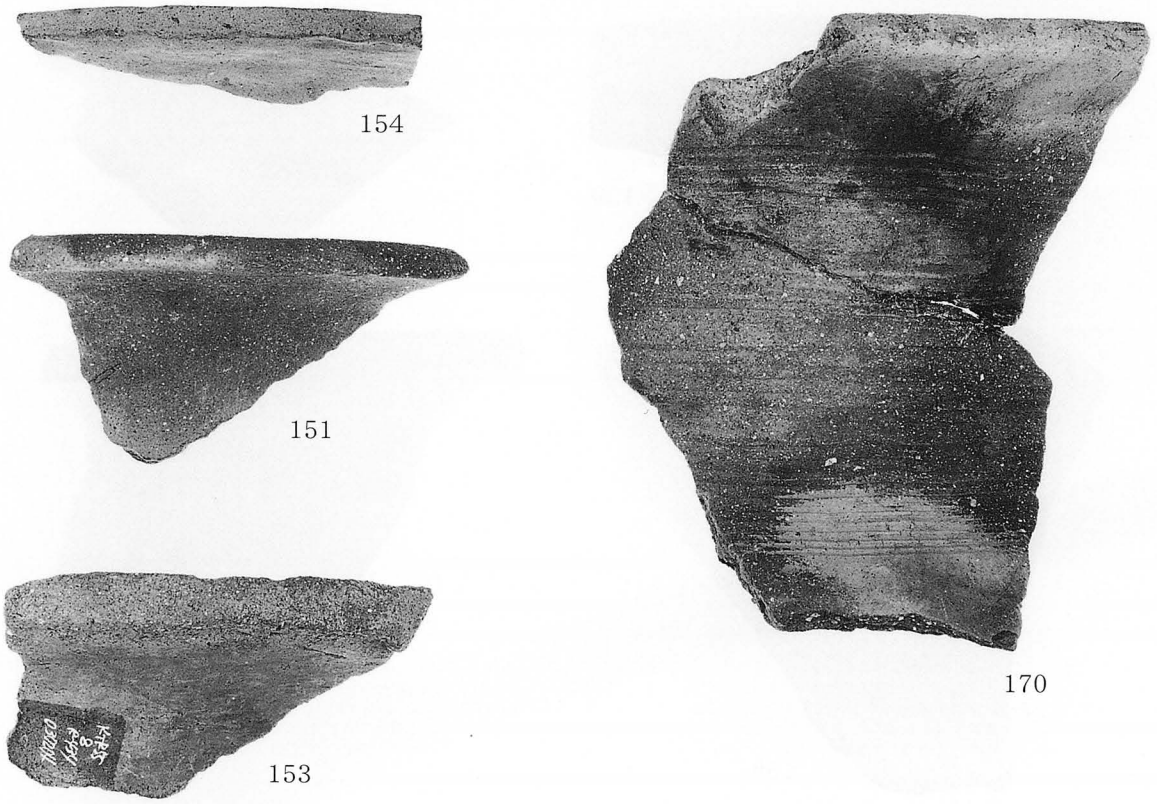
1. 第13層出土弥生土器　壷



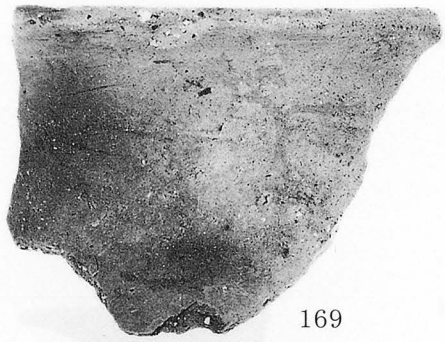
2. 第13層出土弥生土器　壷



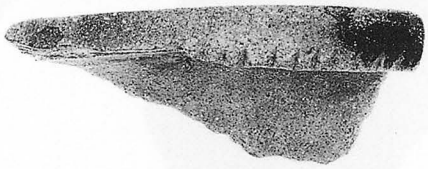
1. 第13層出土弥生土器　壷

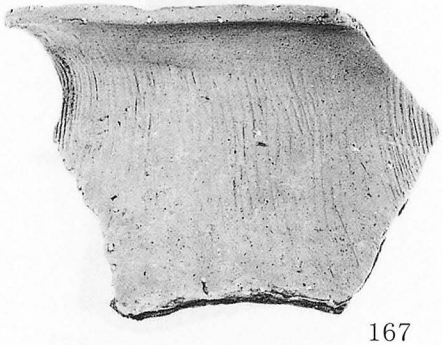


2. 第13層出土弥生土器　壷


169

168


181


167

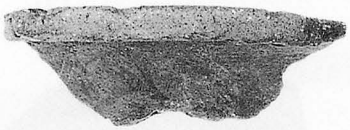
185

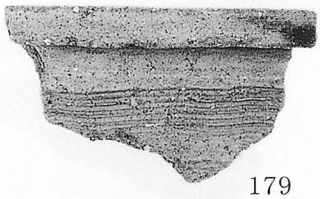
1. 第13層出土弥生土器　壷

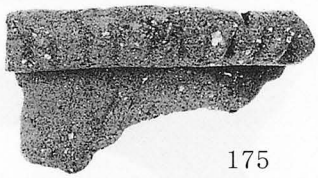
184

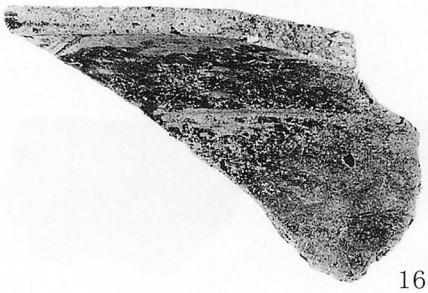
182

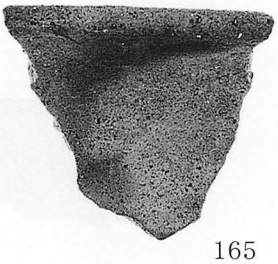
180

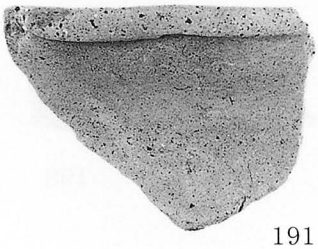

177


179

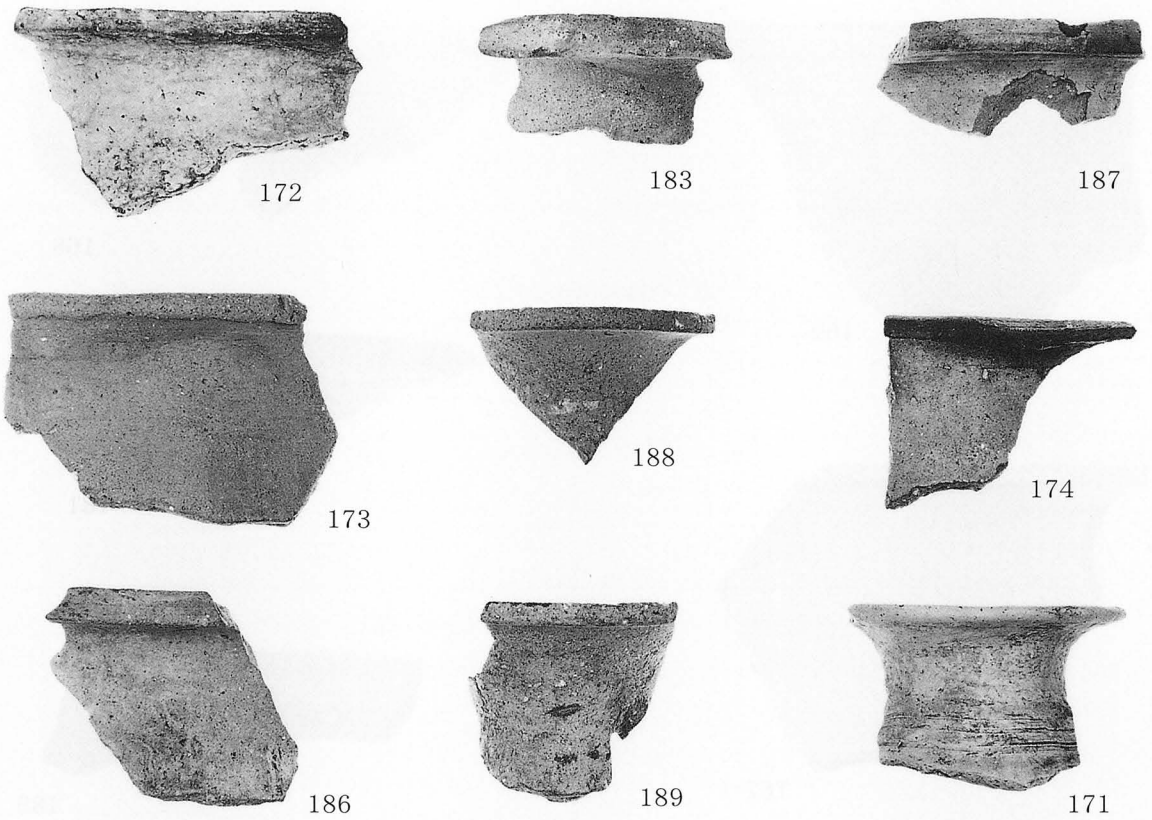

175


166

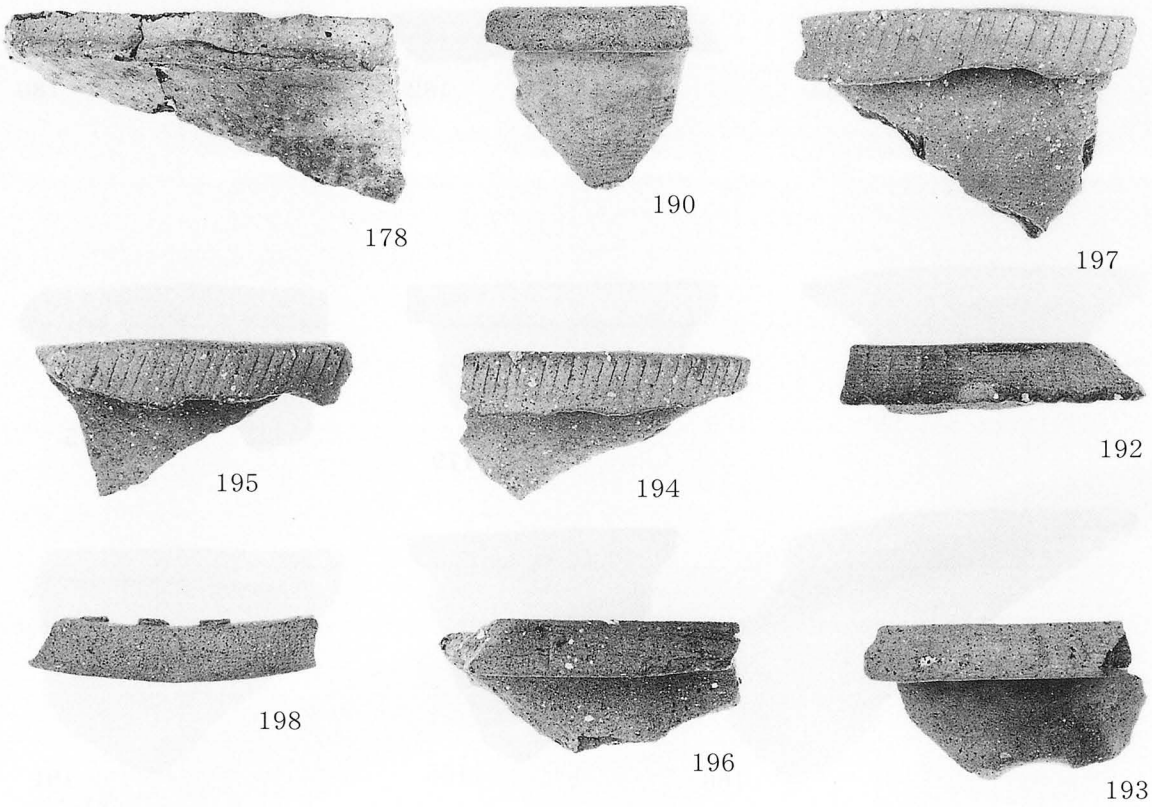

165


191

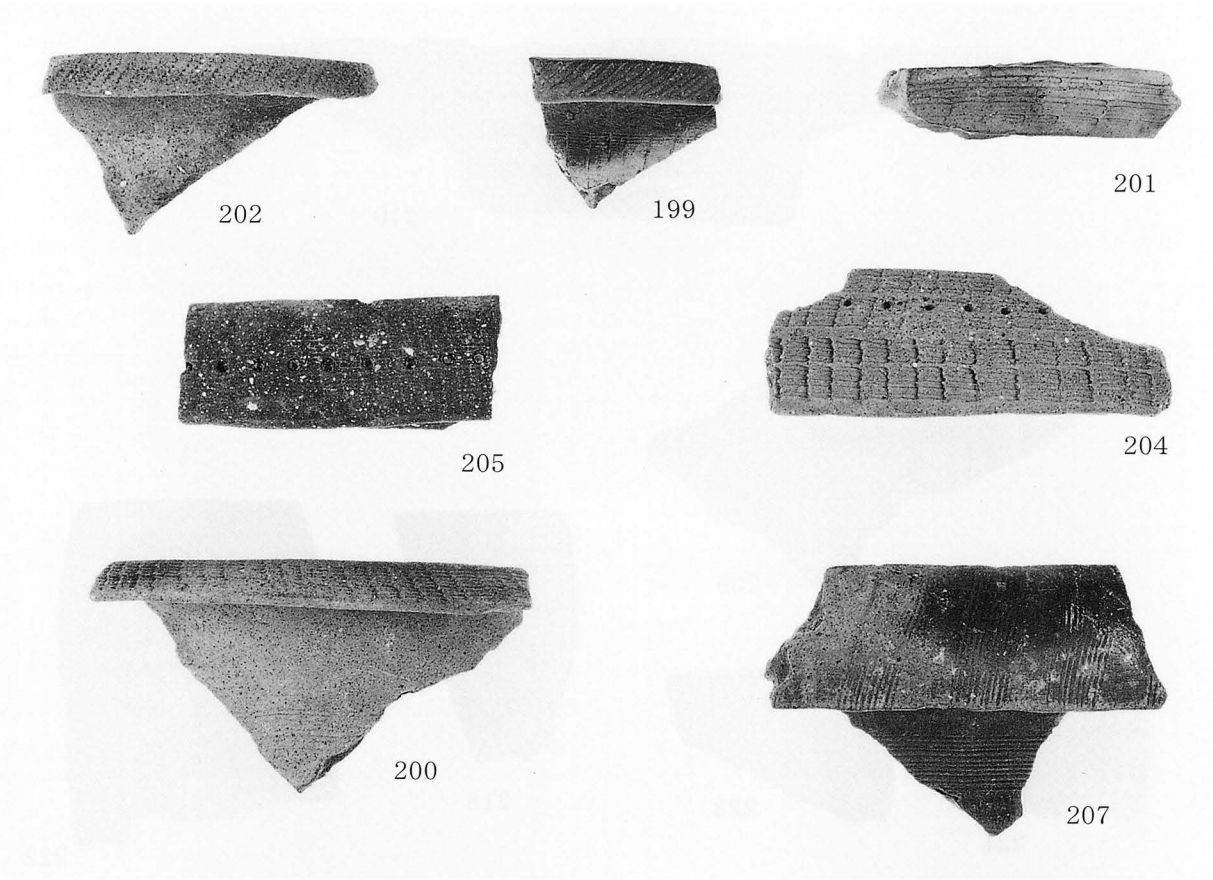
2. 第13層出土弥生土器　壷



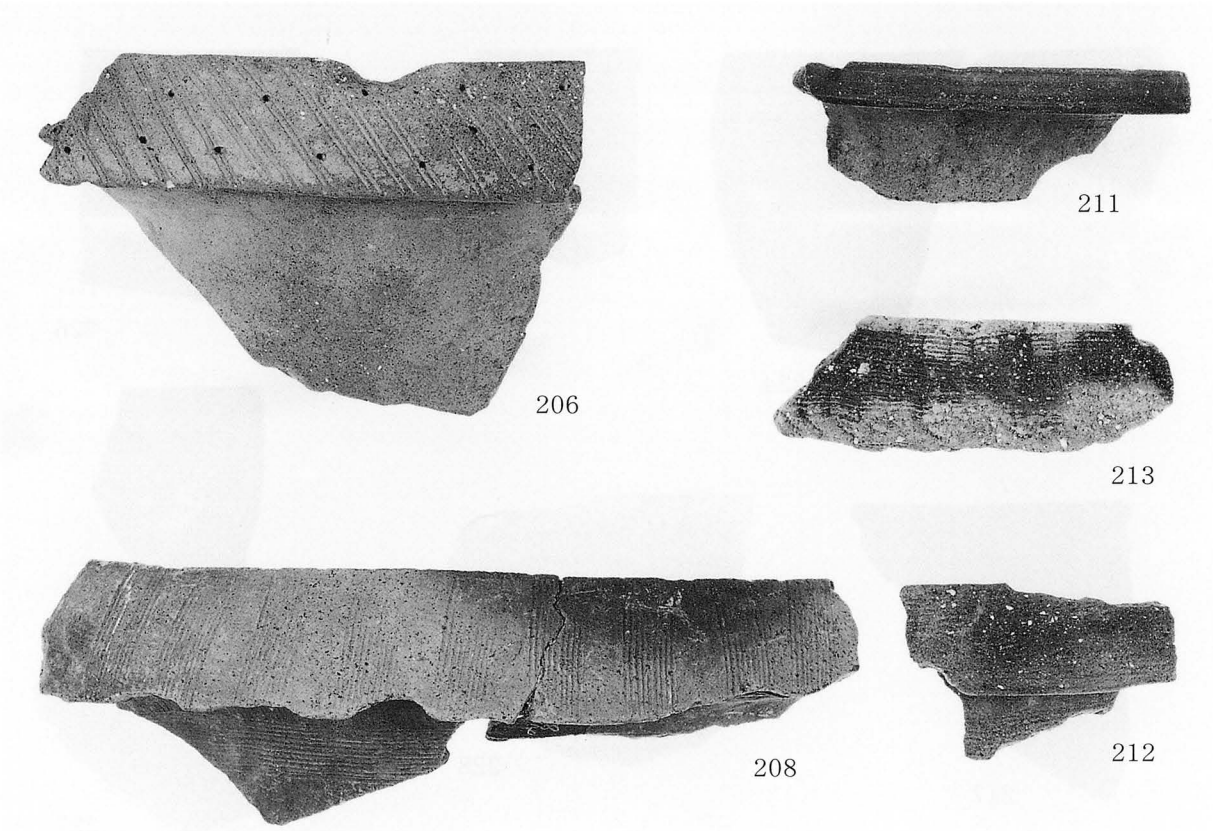
1. 第13層出土弥生土器　壷



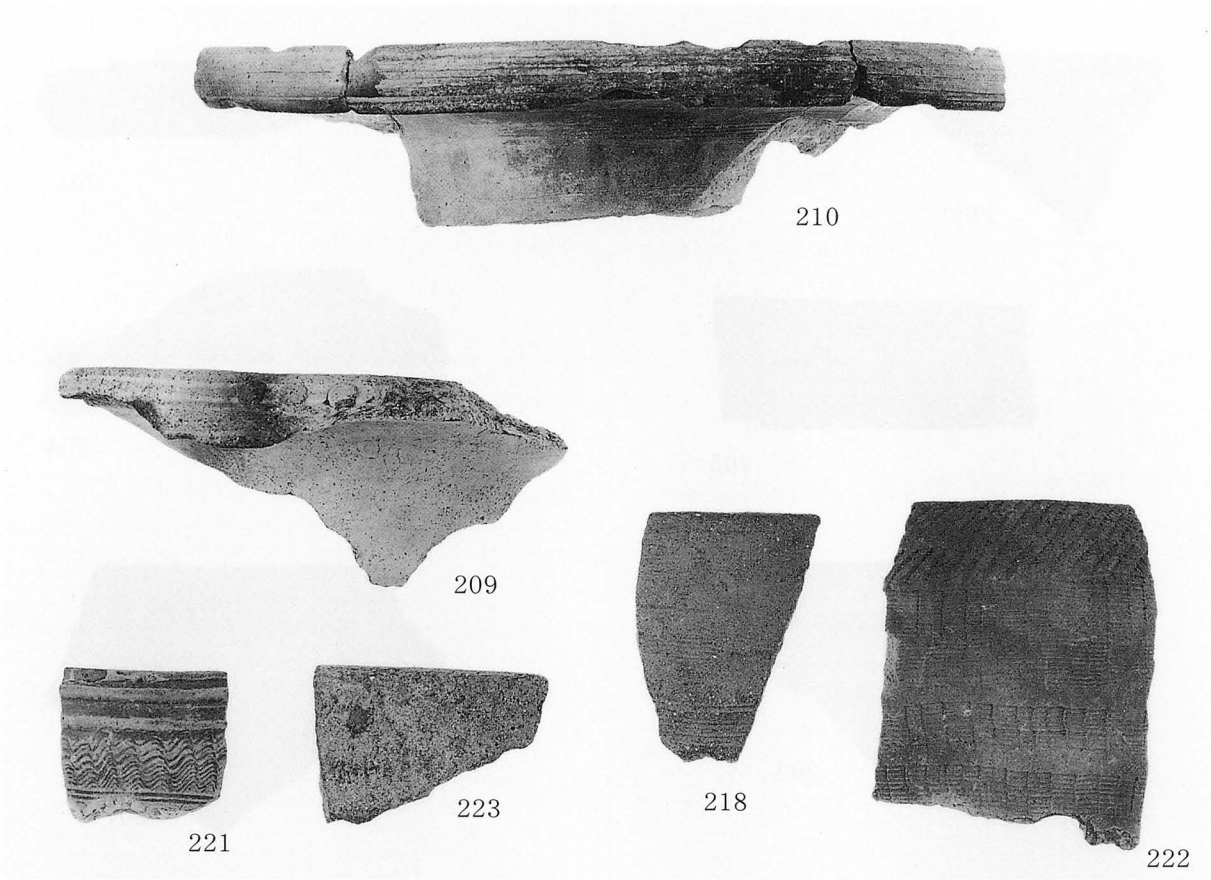
2. 第13層出土弥生土器　壷



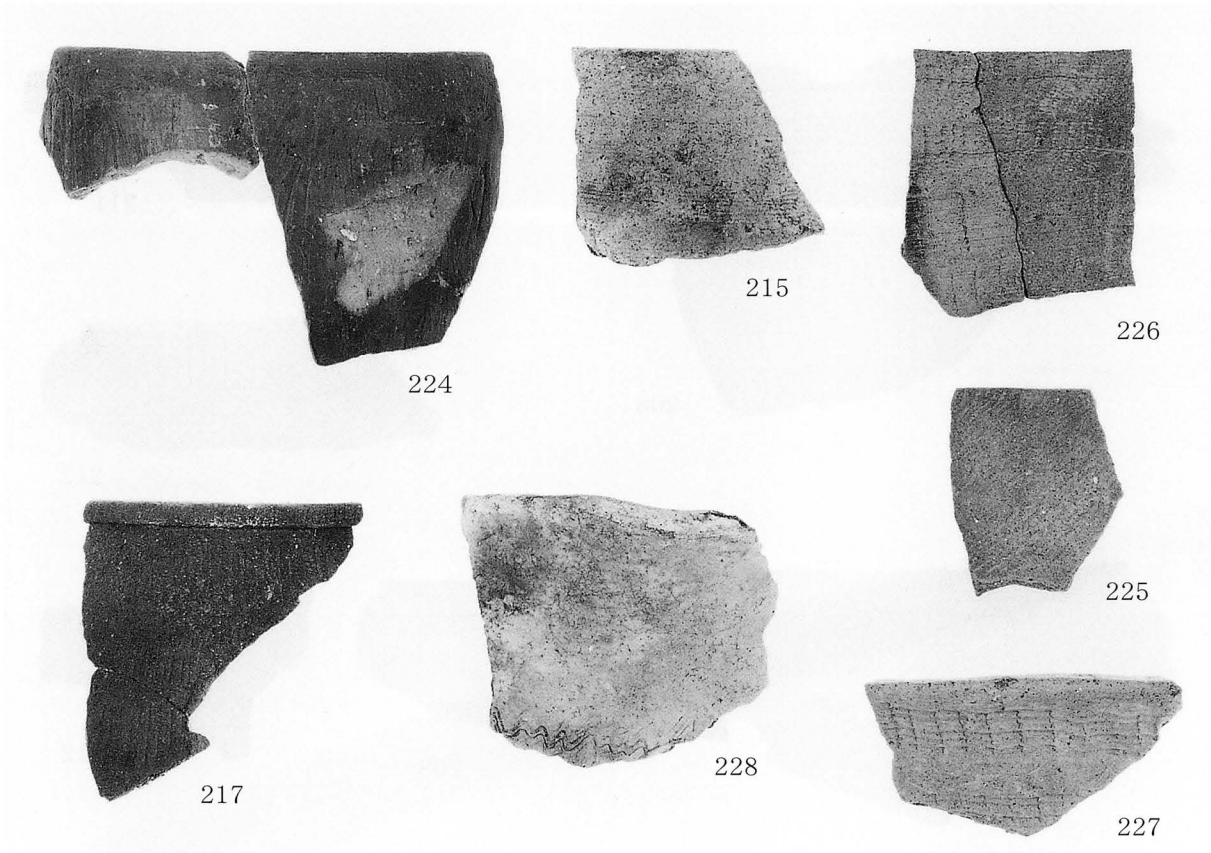
1. 第13層出土弥生土器　壷



2. 第13層出土弥生土器　壷

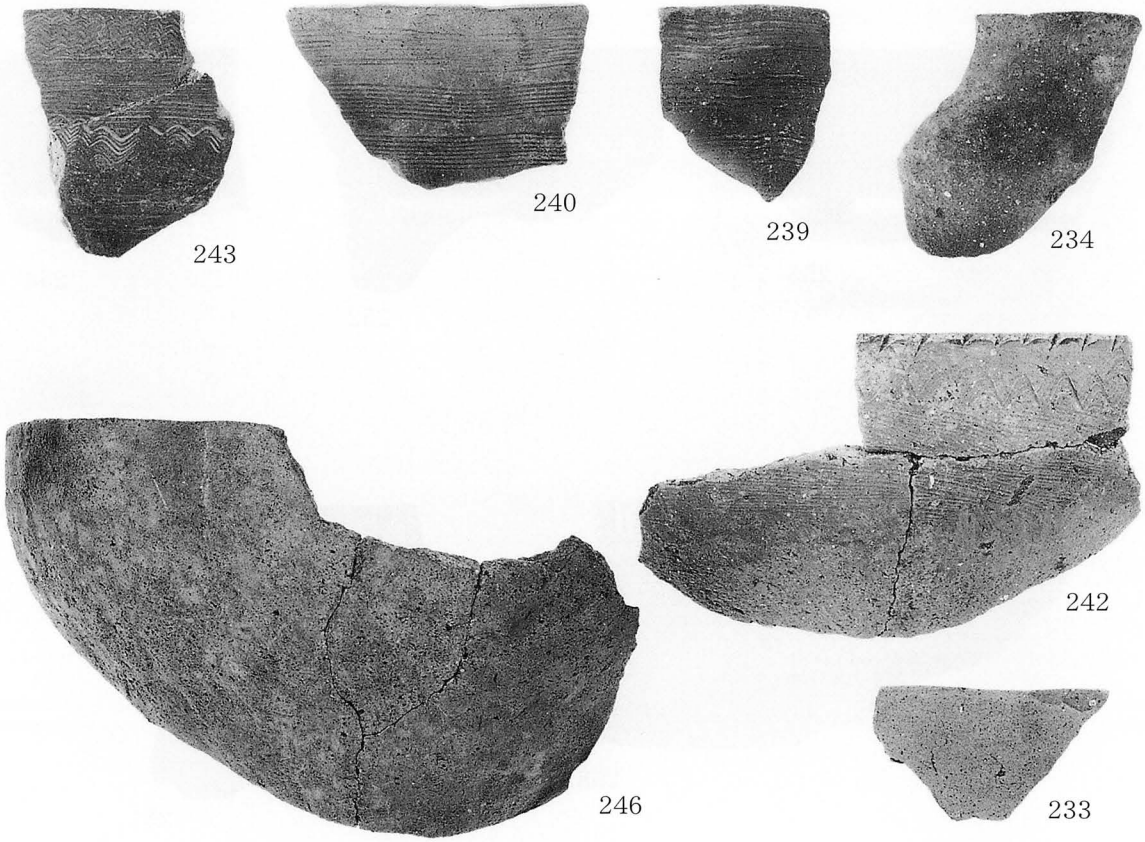


1. 第13層出土弥生土器　壷・細頸壷

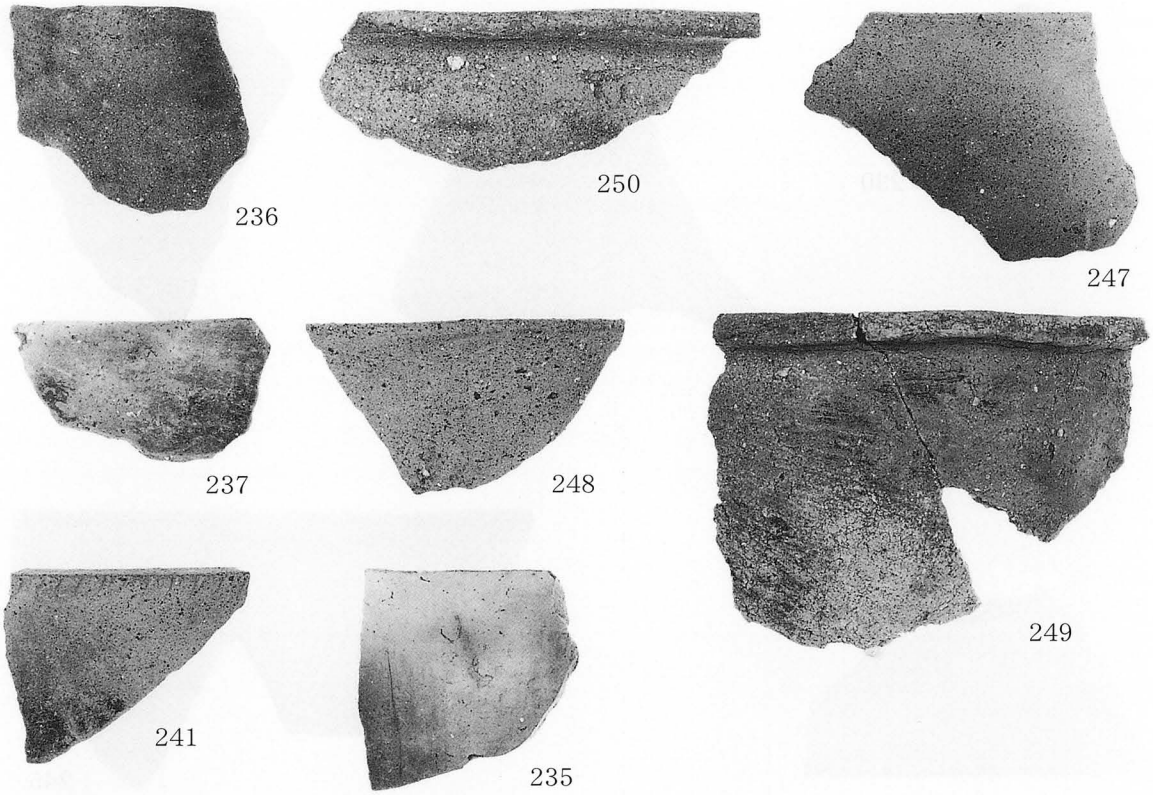


2. 第13層出土弥生土器　細頸壷・水差形土器

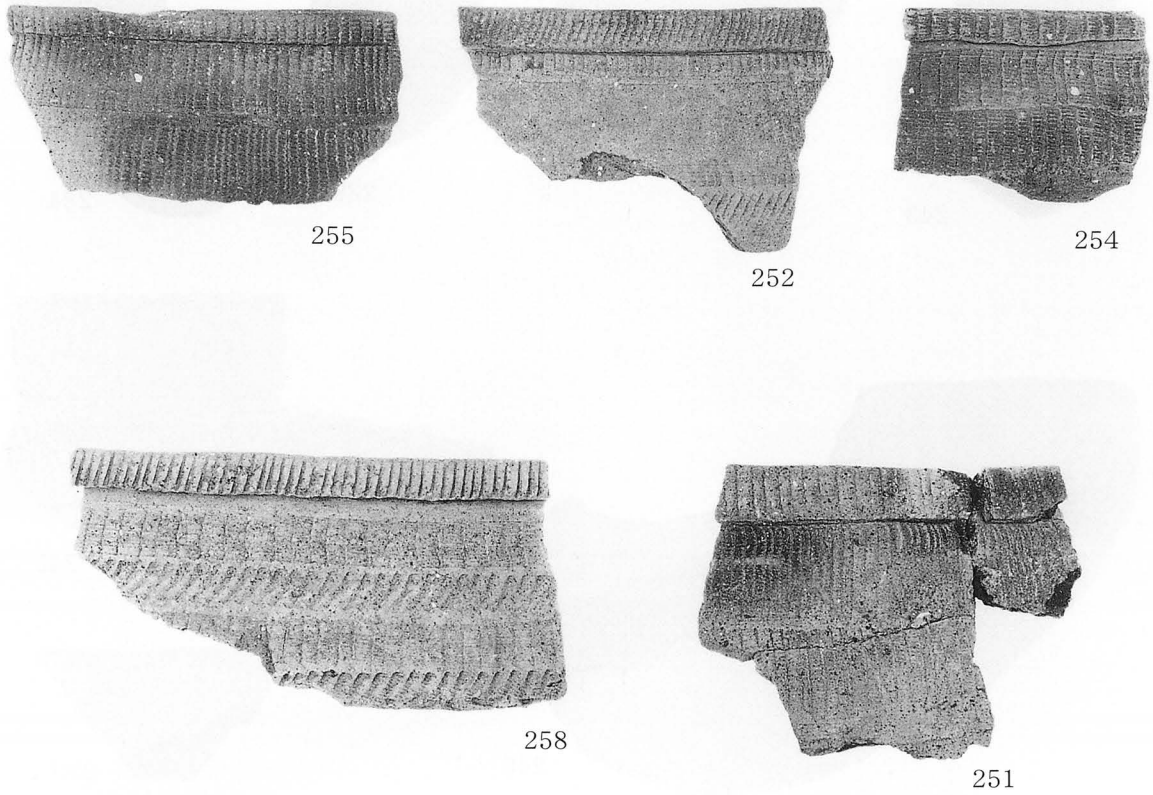
1. 第13層出土弥生土器　甕蓋・台付無頸壷・鉢



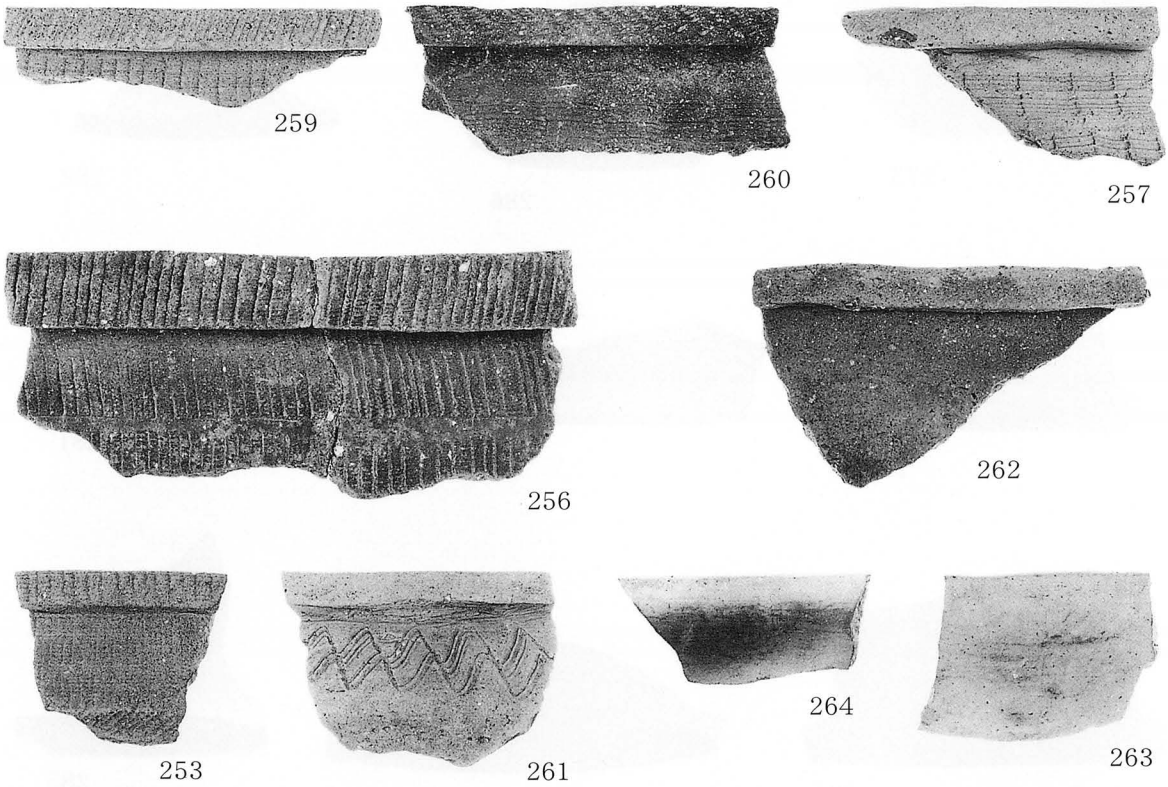
2. 第13層出土弥生土器　鉢



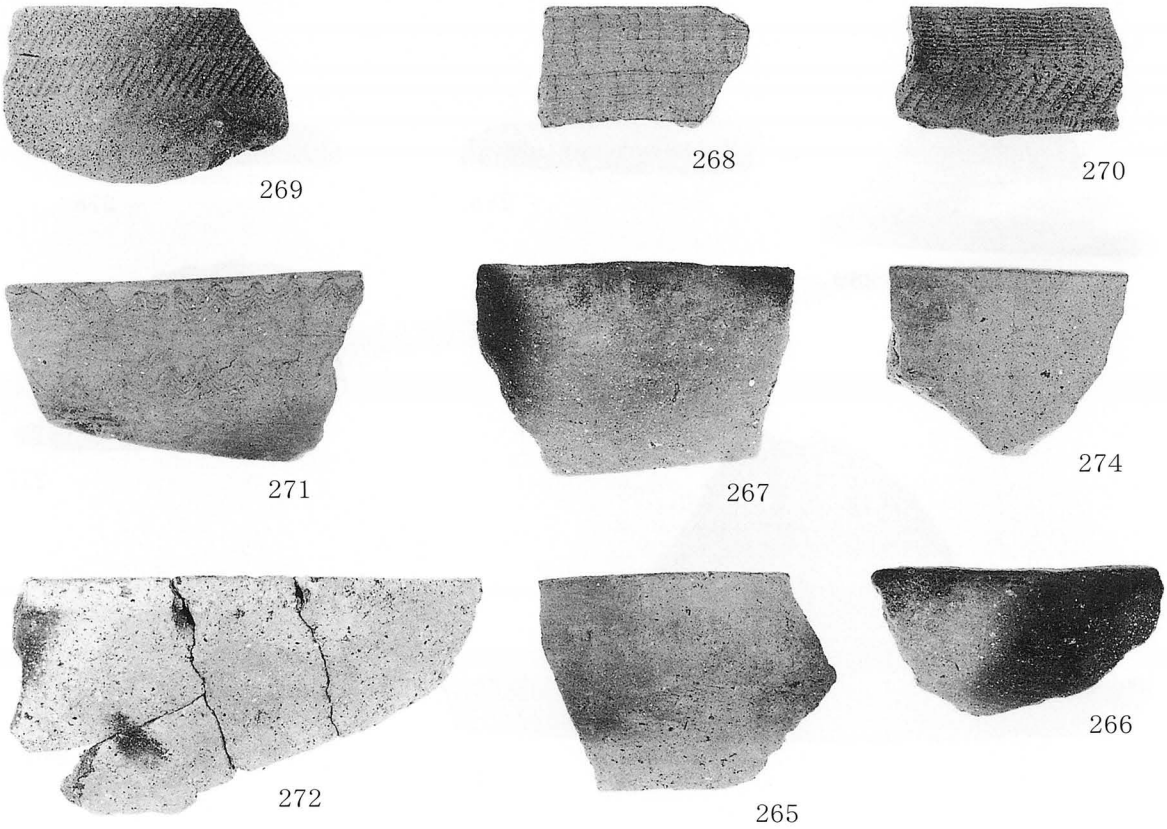
1. 第13層出土弥生土器　鉢



2. 第13層出土弥生土器　鉢

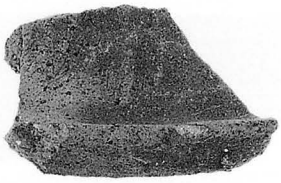


1. 第13層出土弥生土器　鉢・高坏

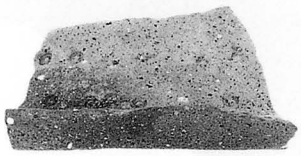


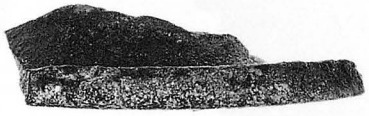
2. 第13層出土弥生土器　高坏

275

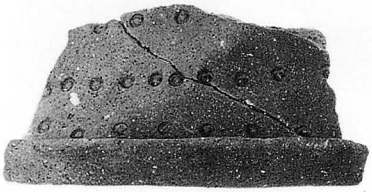

286

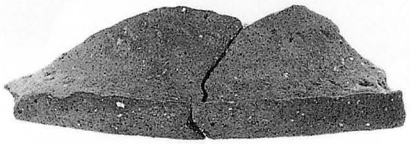
282

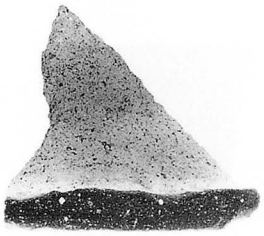

296


283

281


295


294

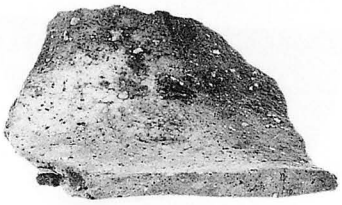

285

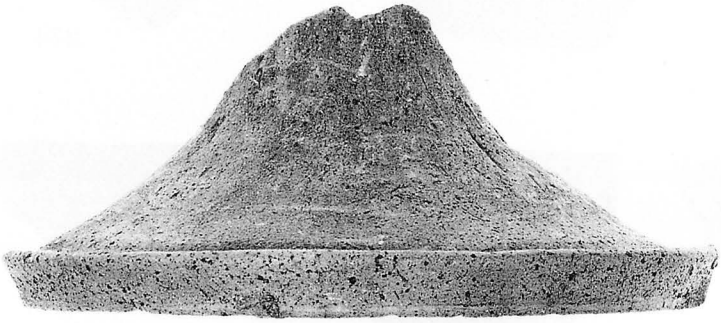
1. 第13層出土弥生土器　高坏

289

288

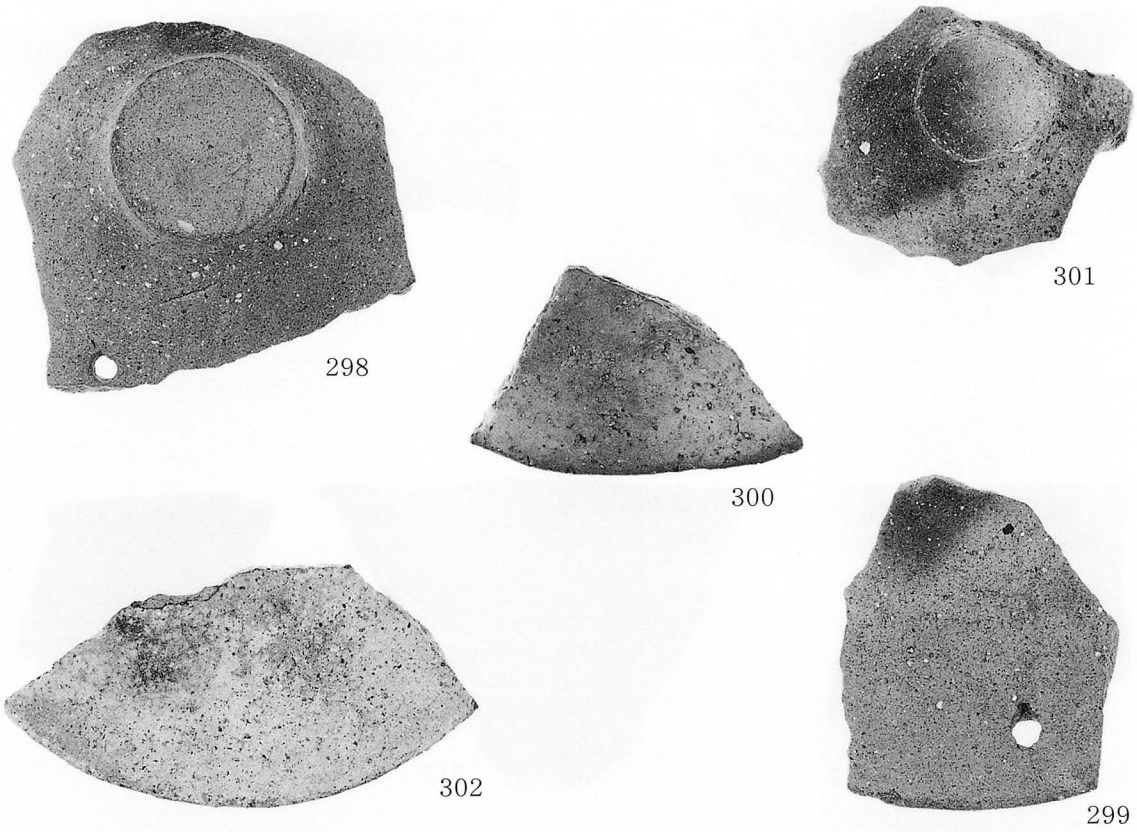
278


277

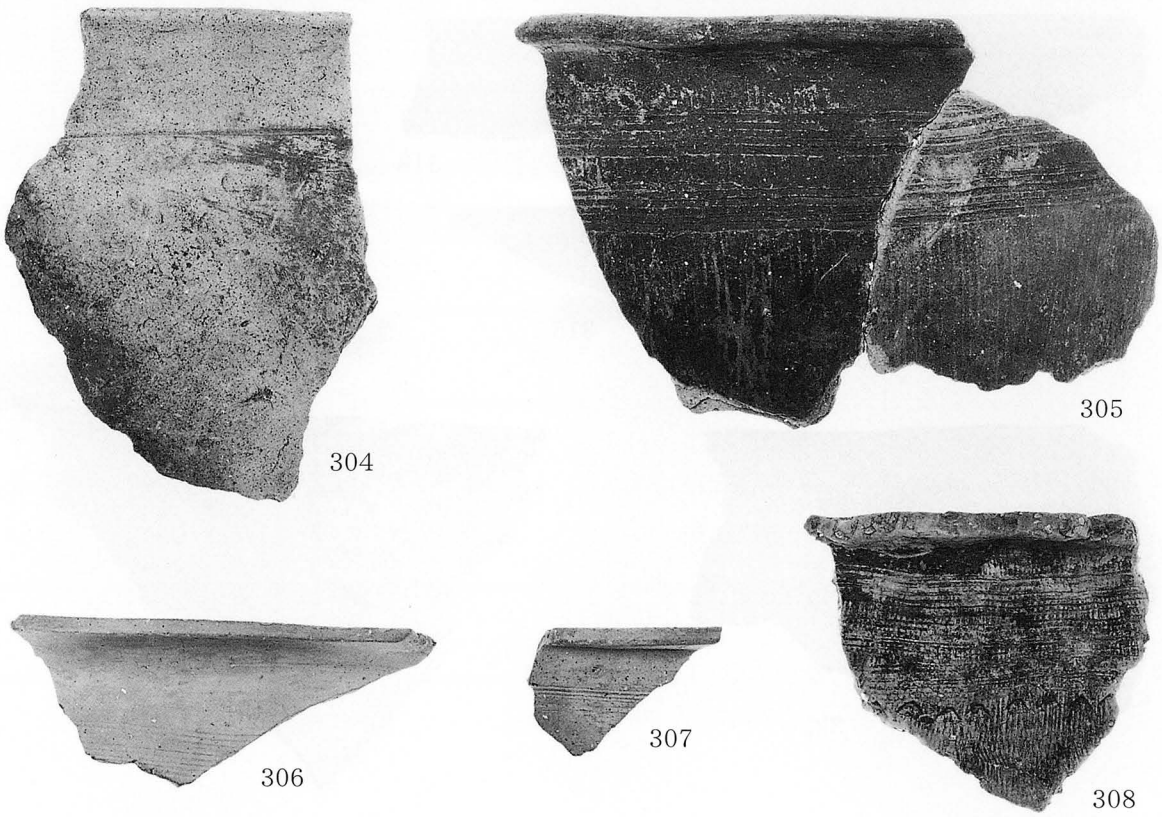

287

280

2. 第13層出土弥生土器　高坏

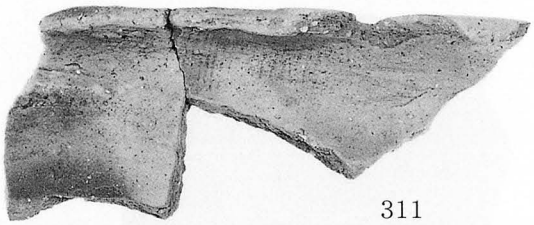


1. 第13層出土弥生土器　壷蓋



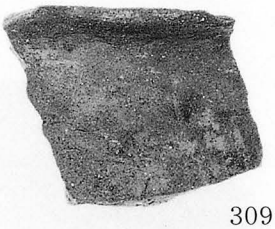
2. 第13層出土弥生土器　甕

310

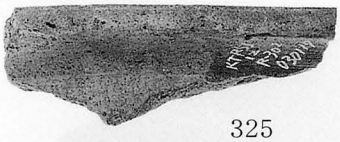

311

312

313


309

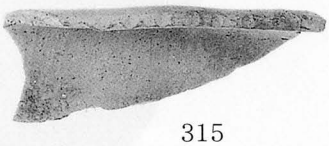
1. 第13層出土弥生土器　甕

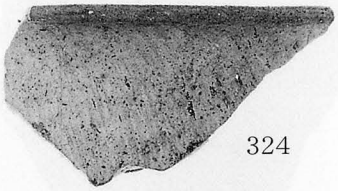

325

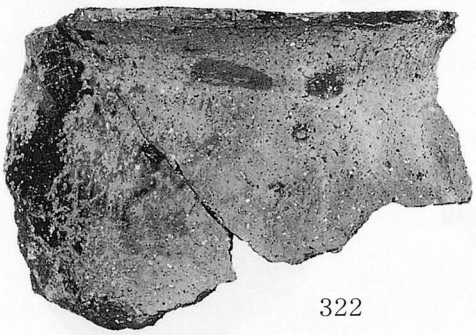
318

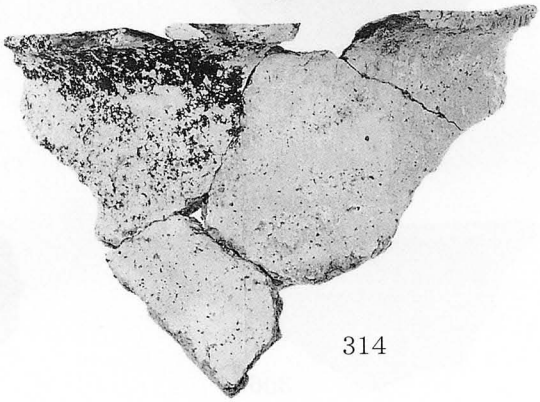
319

316


315


324

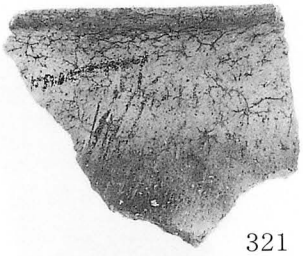

322

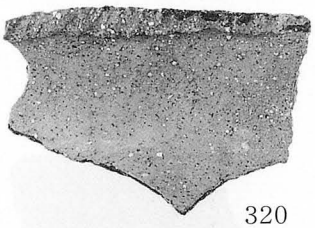

314

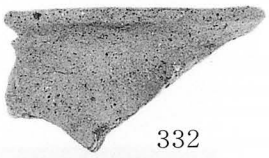
2. 第13層出土弥生土器　甕

317

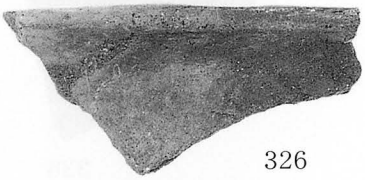
323

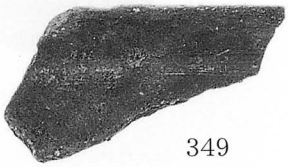

321

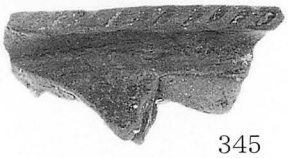

320


332

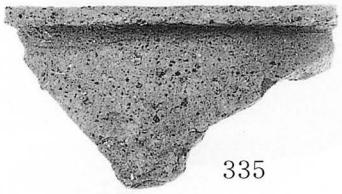
329

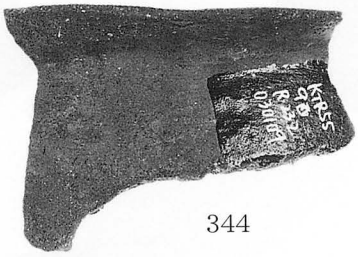

326


349


345

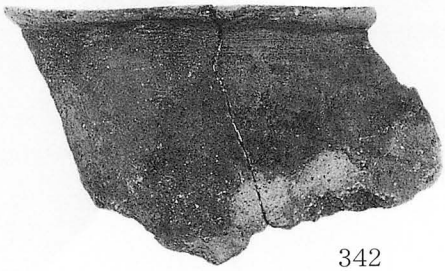
1. 第13層出土弥生土器　甕


335


344

338

340

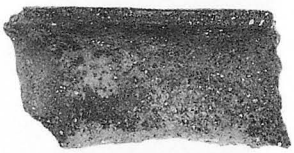

342

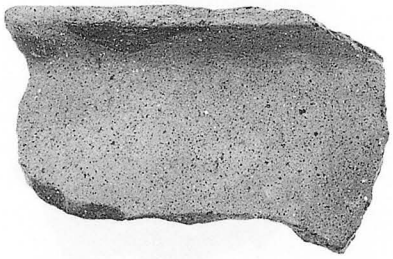
341

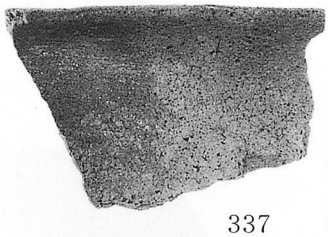
2. 第13層出土弥生土器　甕

328

333

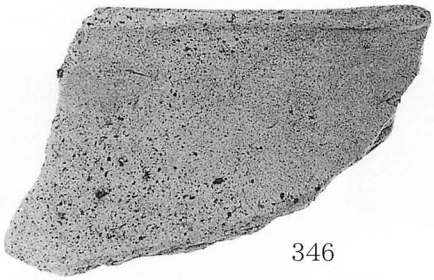

334

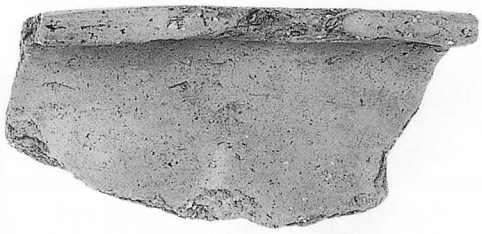

327

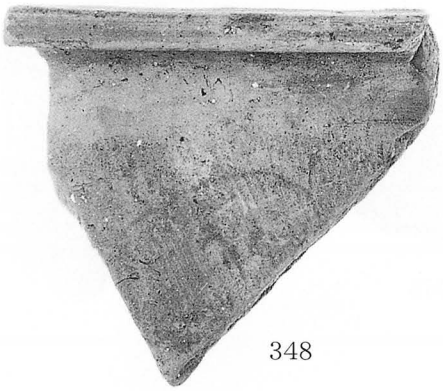

337

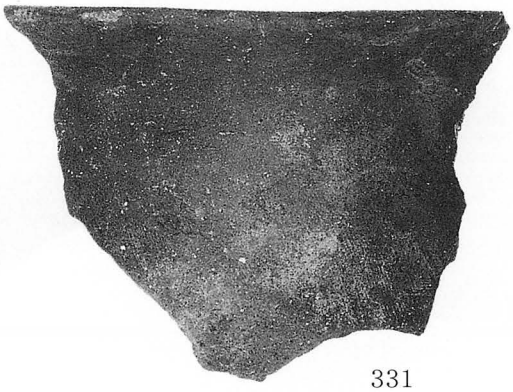
336

1. 第13層出土弥生土器　甕

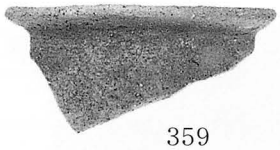

346

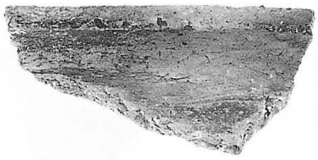

347

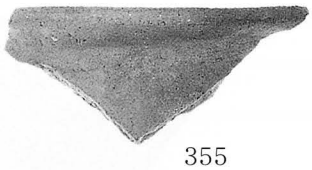

348

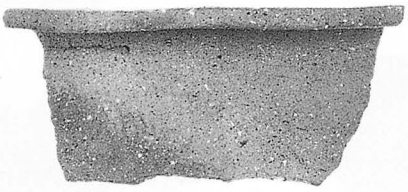

331

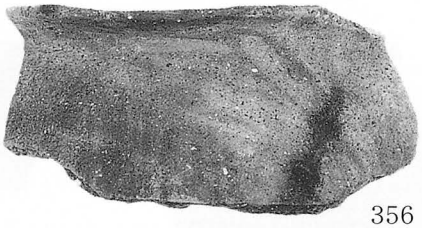
2. 第13層出土弥生土器　甕

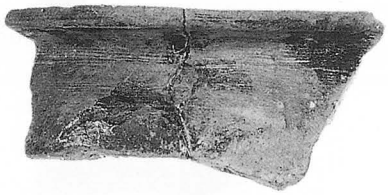

359


374


355


373

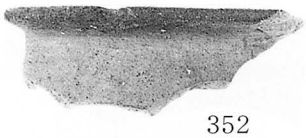

356

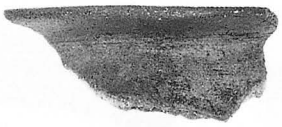

358

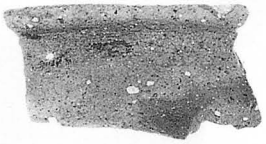
353

362

1. 第13層出土弥生土器　甕

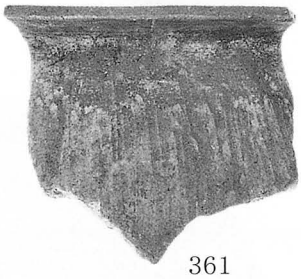

352


354

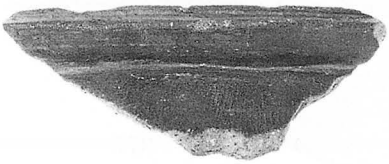

351

363

364

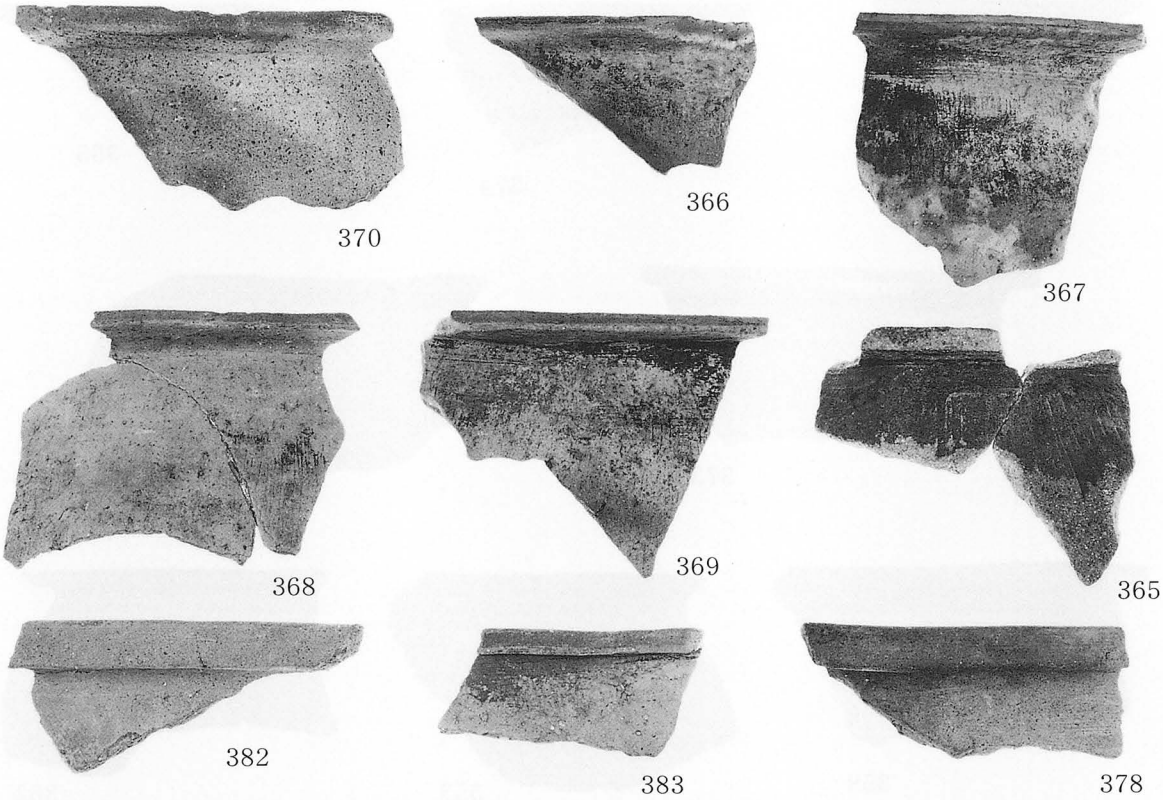

361

357

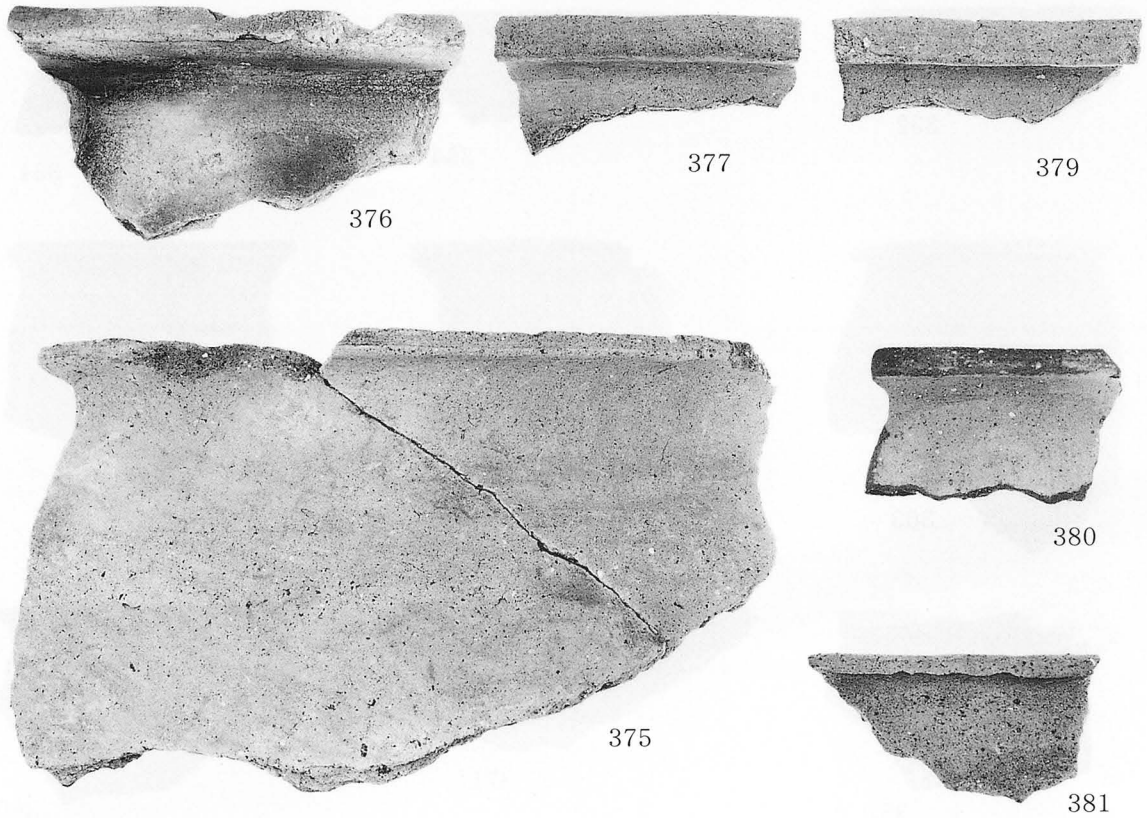

371

360

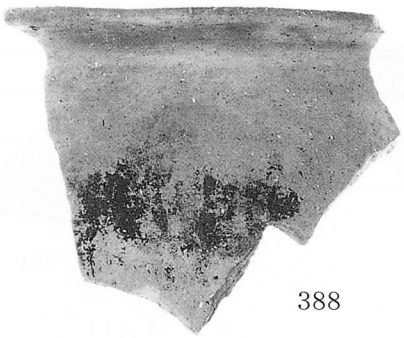
2. 第13層出土弥生土器　甕

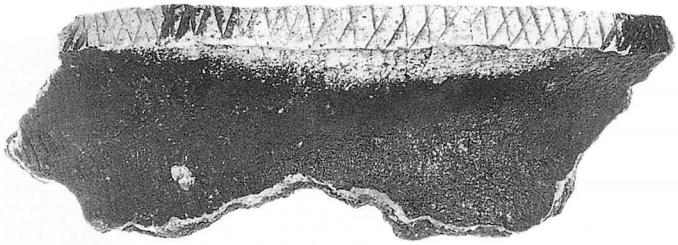


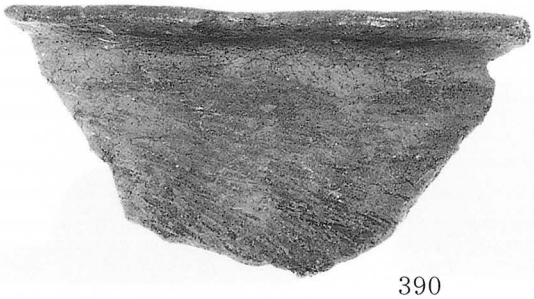
1. 第13層出土弥生土器　甕

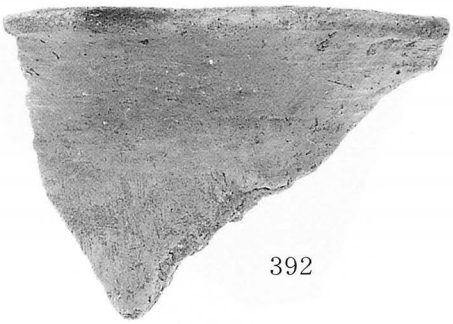


2. 第13層出土弥生土器　甕

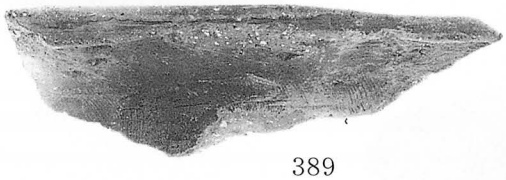

388


391

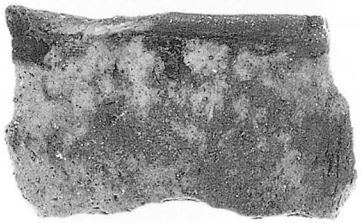

390

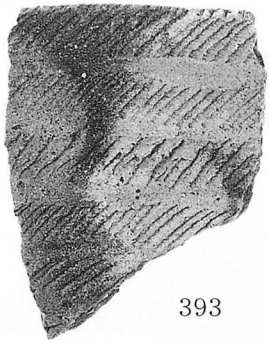

392

1. 第14層出土弥生土器　壷・甕


389

385

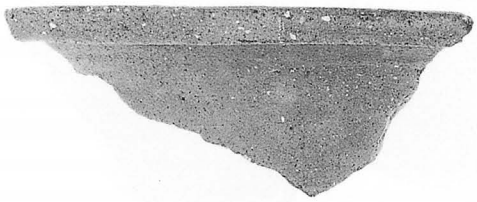

384

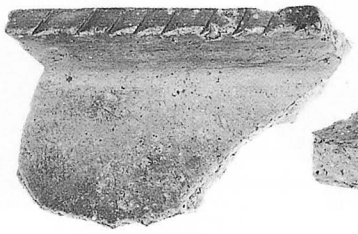

393

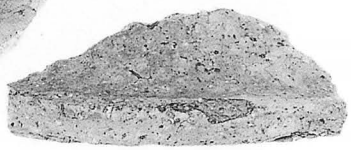
387

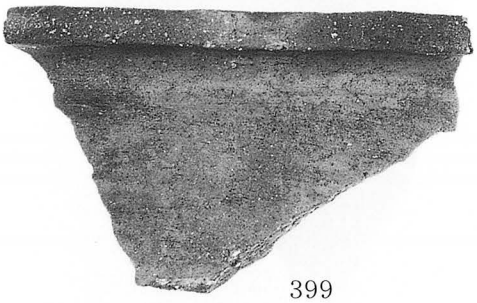
386

2. 第14層出土弥生土器　壷・高坏・甕


394


398


396


399

401

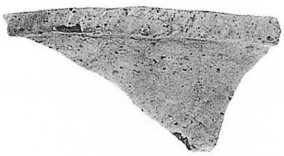
397

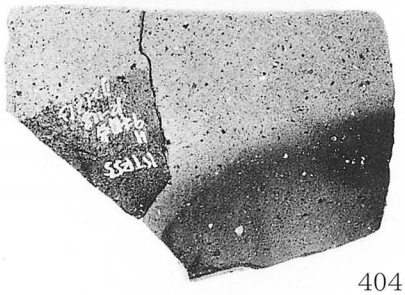
1. 第14層出土弥生土器　壷・甕・高坏・甕蓋

402

405

408


403

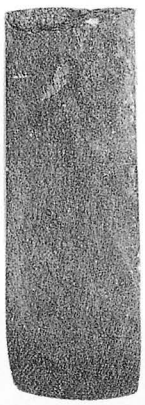

404

409

2. 第９層出土弥生土器　壷・鉢、須恵器　坏・蓋坏、土師器　高坏

425

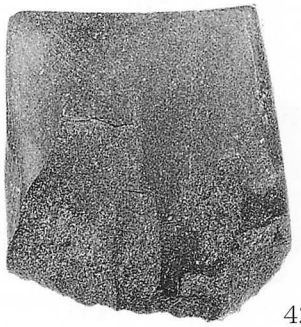
426


427

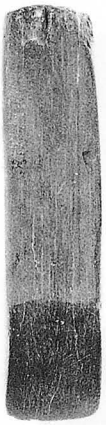
431

428

430


429

1. 石器（表）


425′

426′

427′

431′

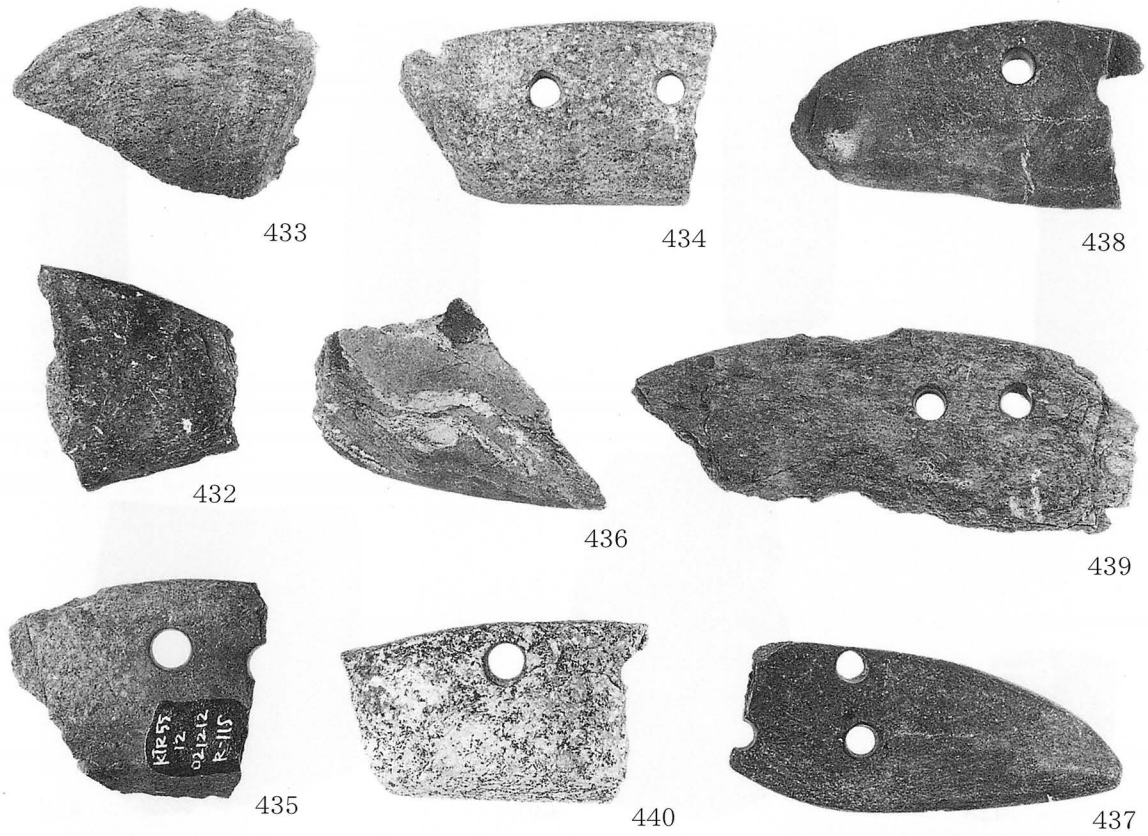
428′

430′

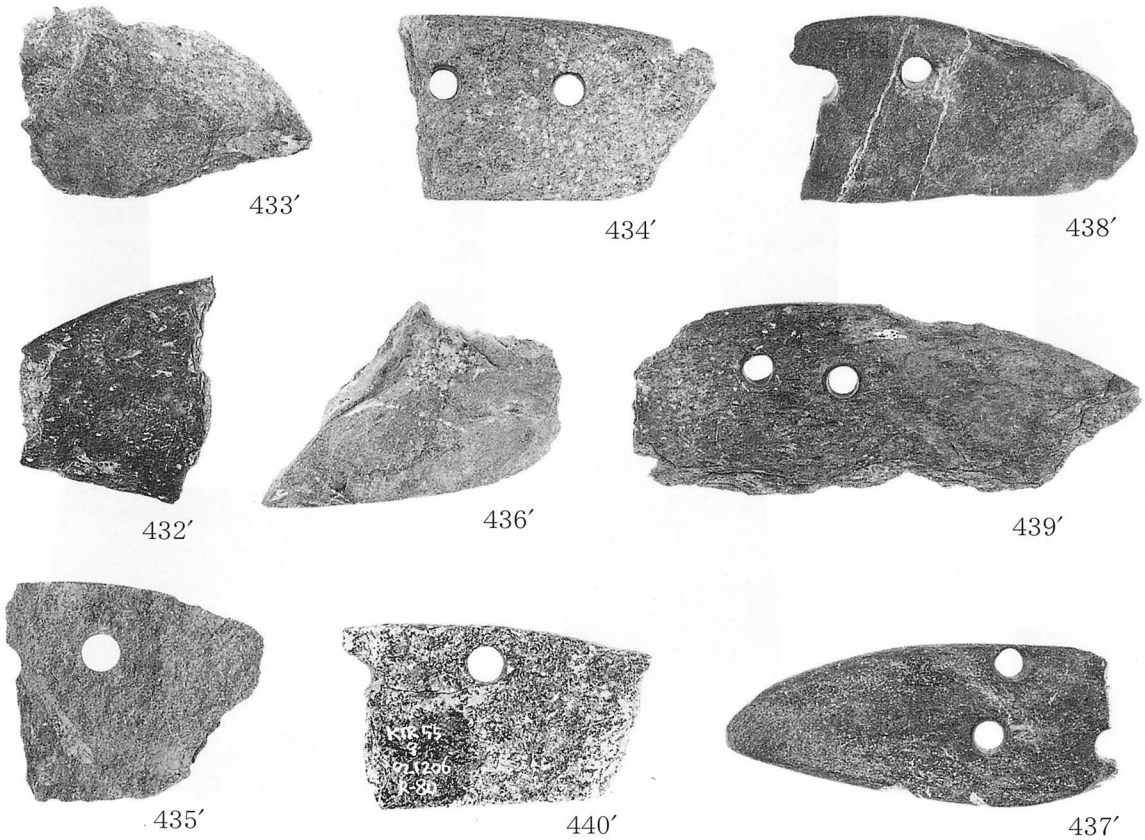
429′

2. 同上（裏）

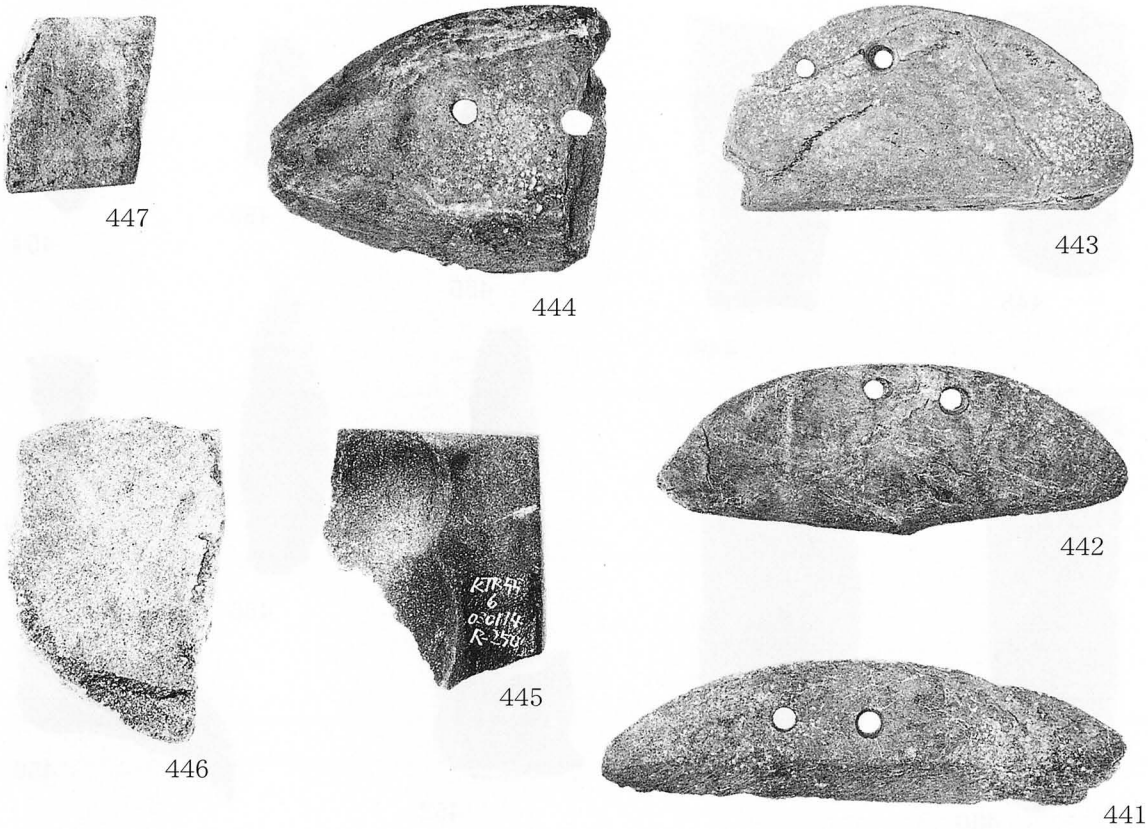
図版50　遺物



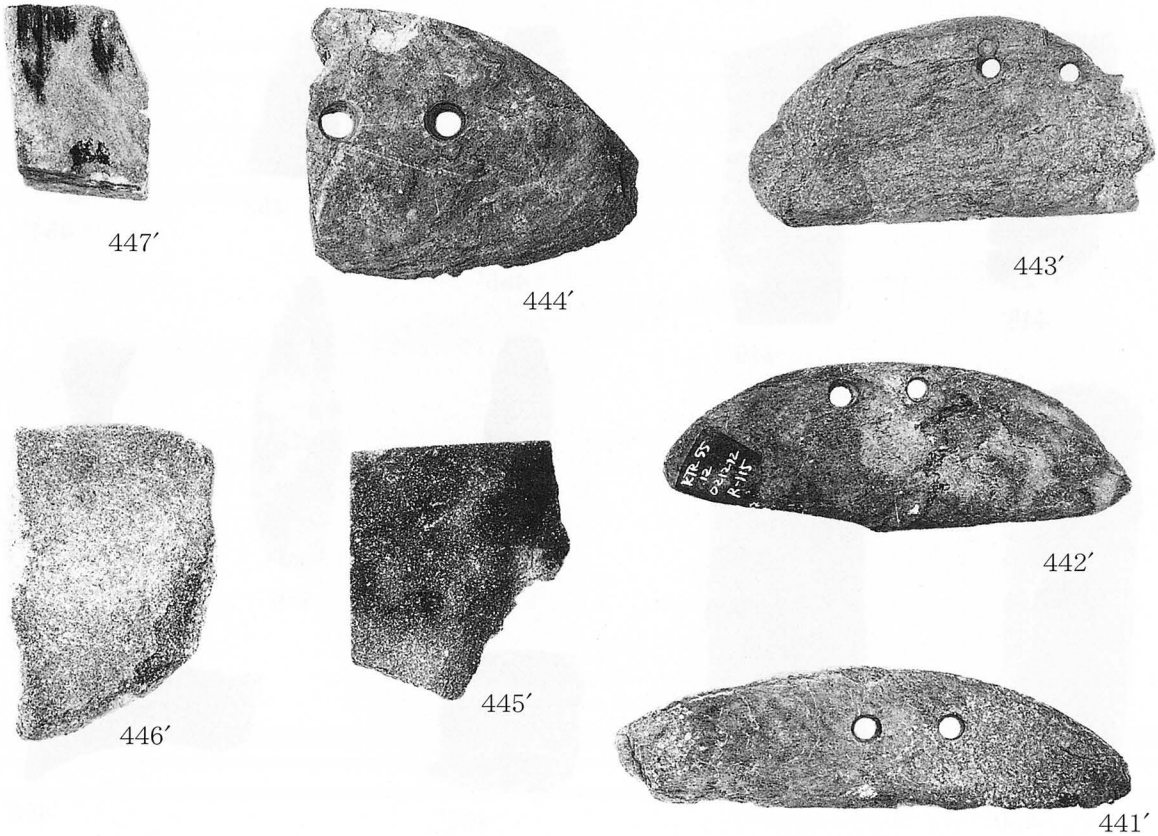
1. 石器（表）



2. 同上（裏）



1. 石器（表）



2. 同上（裏）

448

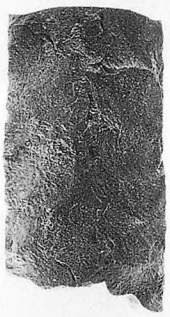
449

455

453

454

450

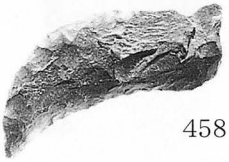

451

457

456

459

452


458

1. 石器（表）

448′

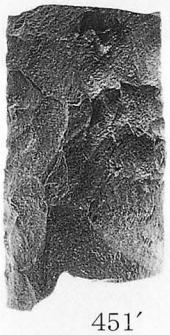
449′

455′

453′

454′

450′


451′

457′

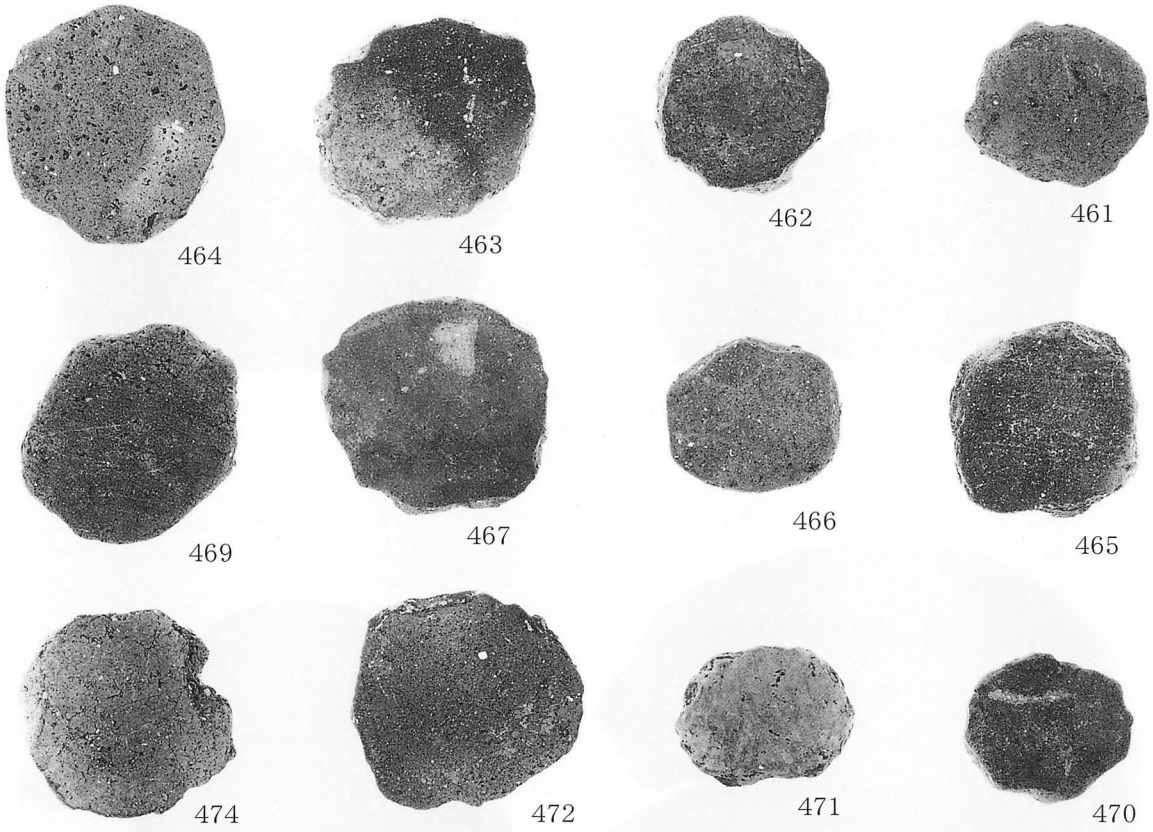
456′

459′

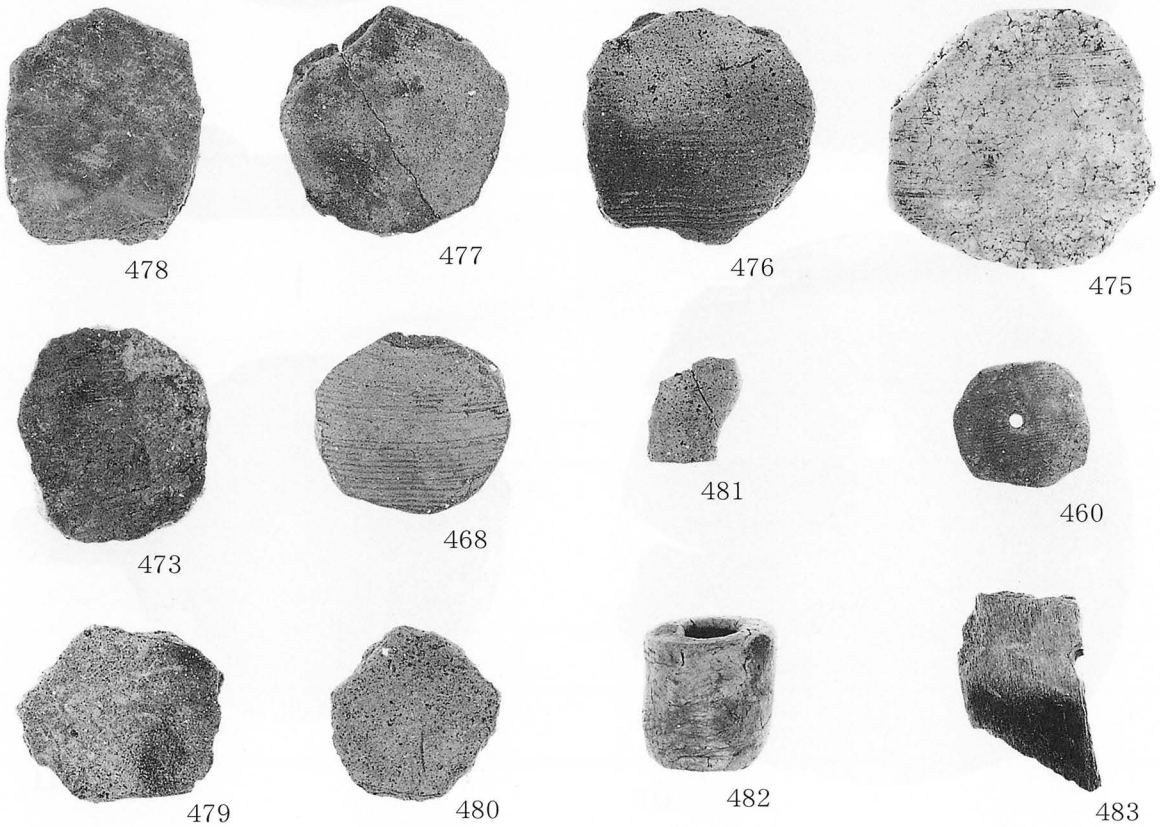
452′

458′

2. 同上（裏）

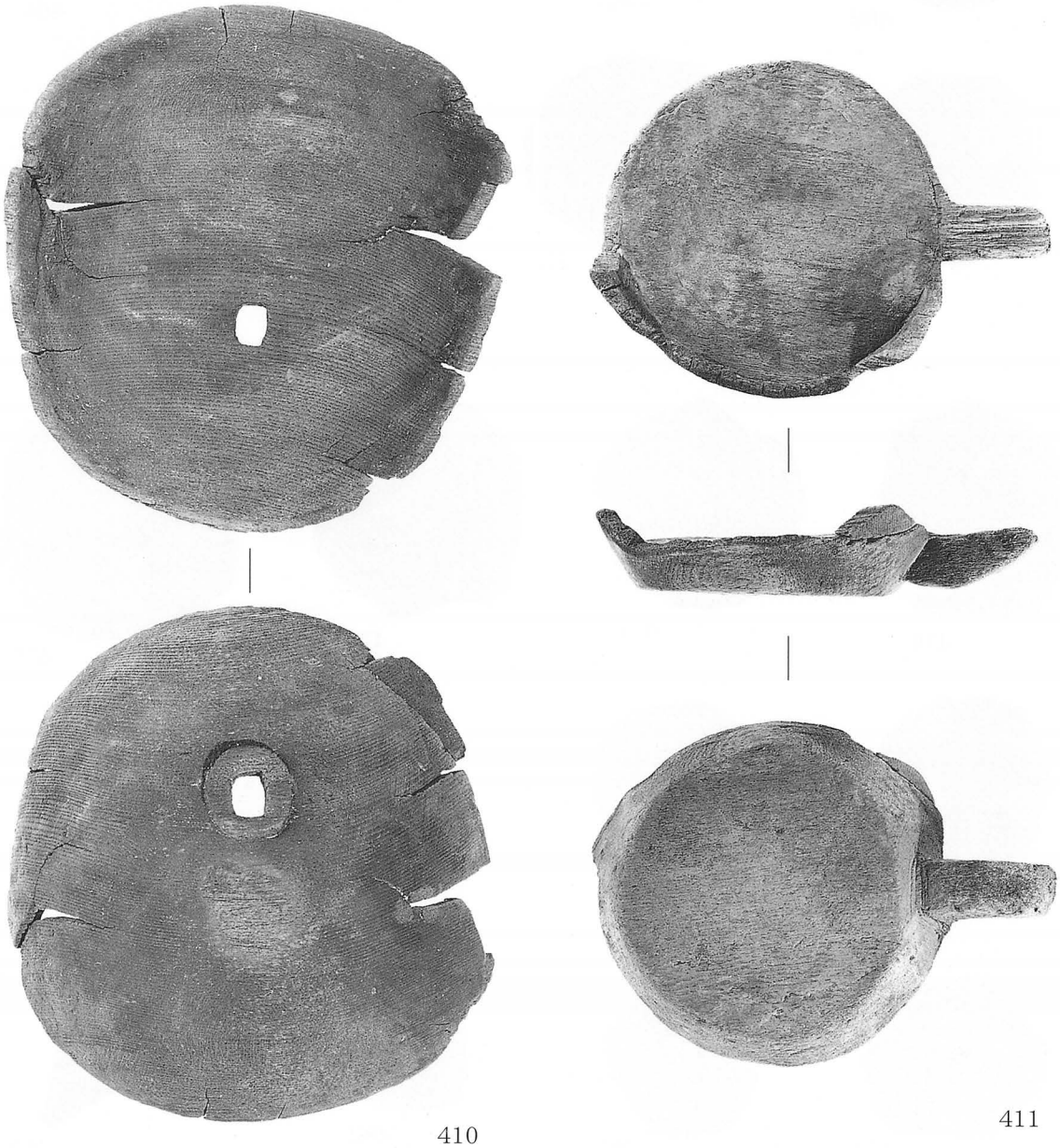


1. 土製品



2. 土製品・骨製品

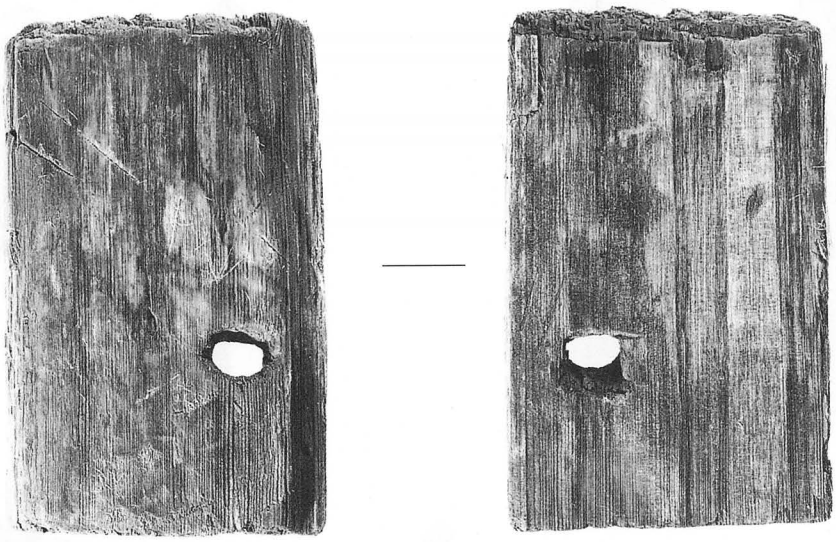
412



410

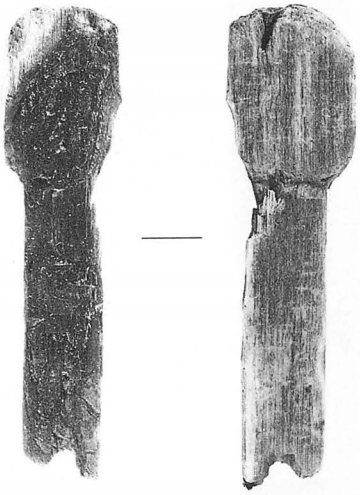
411

木製品

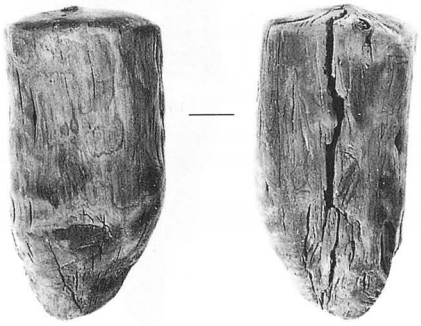


416

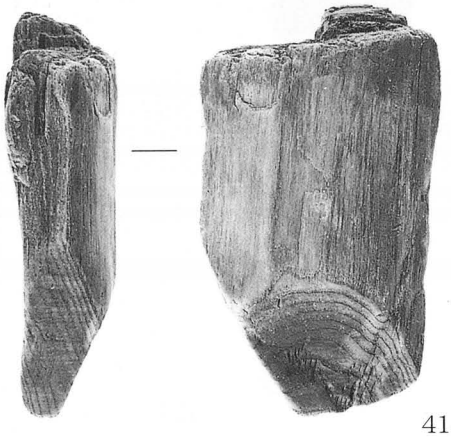
413



417

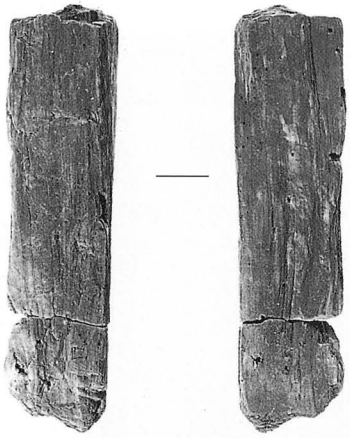


415

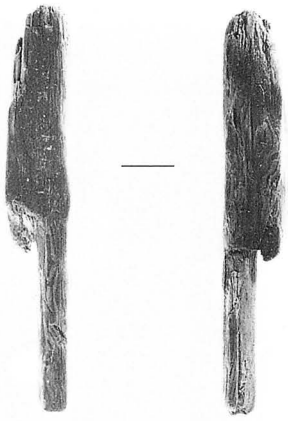


414

木製品



418



421

424

419

420

422

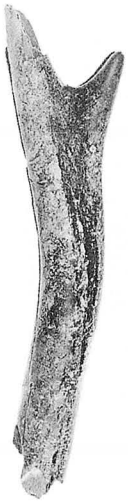
423

木製品

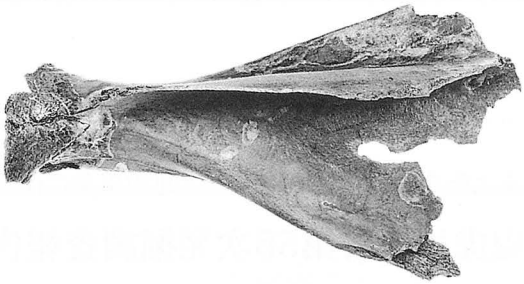
資5

資3

資2



資22



資21

資7

資2・3・5　イノシシ、資7　ウシ、資21・22　シカ（=1/2）　　資=資料番号　動物遺体

報告書抄録

ふりがな	きとらがわいせきだい55じはっくつちょうさほうこく
書名	鬼虎川遺跡第55次発掘調査報告
副書名	
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	若松博恵・才原金弘・安部みき子
編集機関	東大阪市教育委員会
所在地	〒577－8521　大阪府東大阪市荒本北50番地の４
発行機関	東大阪市教育委員会
発行年月日	平成16年３月31日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	市町村 コード	遺跡番号	調査期間	調査面積	調査原因
きとらがわいせき 鬼虎川遺跡	おおさかふ 大阪府 ひがしおおさかし 東大阪市 やよいちょう 弥生町 17番地	27227	46	平成14年 10月９日 ～ 平成15年 ２月13日	292㎡	給食センター建設

種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
集落跡	弥生時代 中世～近代	溝・ピット 井戸・土坑 自然流路	弥生土器 土師器 須恵器 瓦器 陶磁器 石製品 木製品 動物遺体	

東大阪市立弥生給食センター建設事業に伴う

鬼虎川遺跡第55次発掘調査報告

平成16年３月31日

発行所　東大阪市教育委員会

印刷所　グランド印刷株式会社